コンバイン

取扱説明書

VS38



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはコンバインをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は，機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れのしかた，また，守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。（保管場所は 5 ページ参照）
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象になりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，**安全作業のために**からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

● **安全な作業をするための注意事項は？** **安全作業のために** 安全作業説明編

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

● **使用前に知っておかなければならないことは？** **ご使用まえに** 1

機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。

● **各部のはたらきを知るには？** **各部のはたらき** 5

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

● **コンバインを動かすには？** **運転のしかた** 30

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた等を説明しています。

● **収穫作業を行うには？** **作業のしかた** 38

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。

● **自動装置を使用して作業するには？** **自動装置について** 66

各自動装置の取扱いについて説明しています。

● **キャビン仕様機の取扱いは？** **キャビンについて** 76

各装置の取扱いについて説明しています。

● **機械を長もちさせるには？** **手入れのしかた** 83

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

● **機械を3ケ月以上格納するときは？** **長期格納のしかた** 159

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

● **故障かなと思ったら？** **不調時の処置** 162

作業中のトラブルや不調，異常を感じた時はすぐ原因を調べ処置してください。

● **諸元・関連部品？** **付　　表** 174

機械に係る諸元表・消耗部品等を一覧表で説明し，また，取扱説明書にでてくる専門用語を解説しています。

もくじ

安全作業のために……(安-1)～(安-22)
(安全作業説明編)

ご使用まえに……1
1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 3
4．小型特殊自動車について…… 4
1．小型特殊自動車の届出…… 4
2．公道走行するために…… 4

各部のはたらき……5
1．各部の名称…… 5
1．キャビン無し仕様…… 5
2．キャビン仕様 ……6
2．運転装置の取扱い…… 7
1．スイッチ・計器関係…… 7
2．ペダル・レバー関係……17
3．電装関係……26

運転のしかた……30
1．運転まえの点検……30
2．エンジンの始動と停止……32
1．エンジン始動のしかた……32
2．エンジン停止のしかた……32
3．走行・停車のしかた……33
1．走行のしかた……33
2．停車のしかた……35
4．自動車への積込み・積降ろし……35
1．自動車・アユミについて……36
2．機械の積込み要領……37
5．ほ場への出入り……37
1．ほ場への出入りのしかた……37

作業のしかた……38
1．作業まえの準備……38
1．作物の条件について……38
2．ほ場の条件について……38
3．ほ場の準備……39
4．機械の準備……39
2．刈取り作業のしかた……44
1．刈取り操作の手順……44
2．作業速度の選びかた……47
3．刈取り手順……48
4．こく粒の排出操作方法……51
5．グレンタンク補助樋口の取扱い……54
6．ツインハーモニー……54
7．リフトシャットの取扱い……55
8．夜間作業 ……56
9．トルクリミッタと取扱い……57
10．エンジン自動停止の取扱い……58
11．手こぎ作業……59
12．エンジン停止スイッチの取扱い……60
13．刈取り作業終了後の取扱い……61
14．警報装置について……62
3．ワラ処理部の取扱い……63
1．カッタ作業……63
2．排ワラ作業……64
4．麦刈り作業時の調整のしかた……65
1．選別ダイヤルの調節……65
2．こぎ胴回転数のセット……65
5．刈刃の高さ調節のしかた……65

自動装置について……66
1．こぎ深さ自動制御……66
1．運転装置……66
2．こぎ深さセンサの調整……67
3．こぎ深さ自動制御が使えない条件……67
2．方向自動制御［A仕様］ ……67
1．運転装置……67
2．作業のしかた……68
3．方向自動制御の使えない条件……68
3．刈高さポジションコントロール……69
1．運転装置……69
2．自動での作業のしかた……69
3．手動での作業のしかた……70
4．水平自動制御……70
1．運転装置……70
2．作業のしかた……71

5．選別自動制御……72
1．運転装置……72
6．排出オーガ自動制御……73
1．運転装置……73
7．マイコン（マイクロコンピュータ）……74

キャビンについて［キャビン仕様］…76
1．各部の取扱い……76
1．ドア・ウインドウの開閉のしかた……76
2．スイッチ類の取扱い ……78
3．室内装備の取扱い ……79
4．エアコン ……80
5．格納のしかた ……82

手入れのしかた……83
1．定期点検整備……83
「定期点検整備表」……83
2．給油・注油・給水のしかた……87
「給油・注油・給水表」……88
1．燃料の補給……89
2．エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換…89
3．ラジエータ冷却水の点検・交換……91
4．トランスミッションケースのオイル点検・交換…92
5．油圧作動油の点検・交換および油圧オイル
フィルタ・HST（走行・搬送）オイルフィルタの交換…93
6．こぎ深さギヤケース……94
7．トルクリミッタケース右・左（刈取部）…95
8．脱こくギヤケースのオイル点検・交換…95
9．こぎ胴ギヤケース……96
10．搬送HSTギヤケース ……96
11．グレン入力ギヤケースのオイル点検･交換 …97
12．集中注油タンク……97
13．給脂個所……97
14．ウォッシャタンク［キャビン仕様］……98
15．各部の注油……98
16．集中注油装置の使い方……99
3．各部の点検と掃除のしかた…… 100
1．ラジエータ吸気部の掃除…… 100
2．エアクリーナの掃除…… 100
3．燃料フィルタの掃除・交換…… 101
4．燃料のエア抜きのしかた…… 101
5．ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除 … 102
6．電気配線の点検と掃除…… 103
7．バッテリの点検と充電…… 103
8．グレンタンクの回動のしかた…… 108
9．こぎ胴部の開閉のしかた ……109
10．脱こく内部の掃除…… 111
11．脱こくファンケースの取外し・取付け…… 115
12．揺動流板の掃除…… 116
13．グレンタンク部の掃除…… 121
14．カッタオープンのしかた…… 122
15．刈取部の開閉のしかた…… 123
4．各部の点検と部品交換のしかた…… 129
1．カッタ刃組品の取外しと分解…… 129
2．爪の交換のしかた…… 138
3．ホース類の点検と交換…… 138
4．ワラ切カマの手入れ…… 139
5．こぎ歯の点検と交換…… 141
5．各部の点検と調整のしかた…… 142
「レバー・ペダルの点検・調整」
1．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ… 142
2．作業機クラッチレバー…… 143
3．刈取クラッチレバー …… 143
4．カッタ・排ワラ切替レバー…… 144
「ベルトの点検・調整」
5．エンジンファンベルト…… 145
6．走行ベルト…… 145
7．かき込みベルト（刈取部）…… 146
8．脱こく入力ベルト…… 146
9．こぎ胴伝動ベルト…… 146
10．こぎ胴ベルト…… 147
11．選別ベルト…… 147
12．１番ラセン駆動ベルト…… 148
13．排ワラ駆動ベルト…… 148
14．カッタベルト…… 149
15．グレン入力ベルト…… 149
16．横ラセン駆動ベルト…… 150
17．コンプレッサ［キャビン仕様］…… 150
「チェンの点検・調整」
18．株元搬送チェン（左）…… 151

19. 株元搬送チェン（右）…… 151
20. こぎ深さ搬送チェン…… 152
21. 穂先搬送チェン…… 152
22. かき込み搬送チェン…… 153
23. 脱こくフィードチェン…… 154
24. 穂先排ワラチェン…… 154
25. 排ワラチェン…… 155
「クローラの点検・調整」
26. クローラ…… 156
「刈刃の調節」
27. 刈刃…… 157

長期格納のしかた ……159
1．機械の掃除と洗浄…… 159
2．錆止めと注油…… 159
3．エンジンの手入れ…… 159
4．点検・整備…… 159
5．格納…… 160
6．再使用にあたって…… 161

不調時の処置 ……162
1．エンジン部…… 162
2．走行・運転操作部…… 164
3．電気・自動制御部…… 166
4．刈取部 …… 167
5．脱こく部…… 168
6．ワラ処理部…… 171
7．グレンタンク部…… 172
8．キャビン部［キャビン仕様］ …… 173

付　　表 ……174
1．主要諸元…… 174
2．電気配線図…… 175
3．ベルト一覧表…… 177
4．主な消耗部品…… 178
1．爪関係…… 178
2．カッタ関係…… 179
3．ヒューズ…… 179
4．刈刃・カマ関係…… 180
5．付属工具一覧表…… 181
6．アタッチメント（別売り） …… 181
7．潤滑油について…… 182
1．エンジンオイル…… 182
2．油圧作動油…… 182
3．ギヤオイル…… 182
4．三菱農機(純正油)マルチオイル…… 183
8．コンバイン関連商品…… 184
9．用語解説…… 185

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備及び掃除をするときは……（安-5）

⚠エンジンを始動するときは……（安-9）

⚠路上走行をするときは……（安-10）

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……（安-12）

⚠ほ場で作業をするときは……（安-13）

⚠１日の作業が終わったら……（安-16）

⚠長期格納するときは……（安-17）

2．表示ラベルについて……（安-18）
（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）

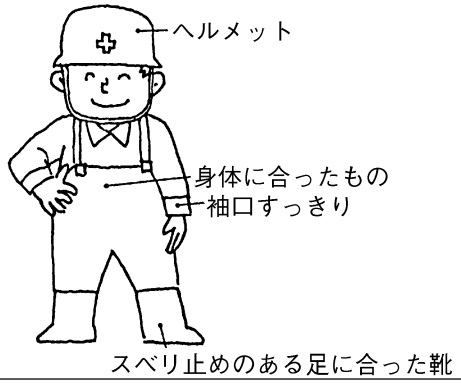
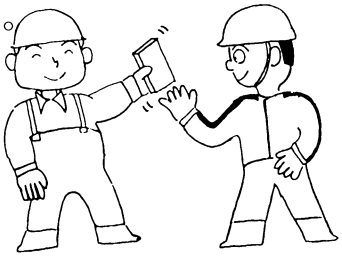
安全作業のために

1．安全作業のしかた

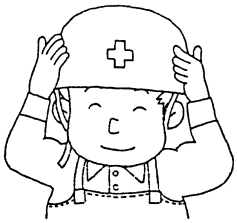
・安全上の重要な事項を，危険 ⚠警告 ⚠注意の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し，安全作業に努めてください。

・なお，この項の安全作業の説明は，**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は，運転しないでください。 ●酒気を帯びた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は，健康に気をつけて適当な睡眠と休憩をとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  	このような服装は，衣服が回転部に巻込まれたり，足を滑らせたりして，思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は，取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

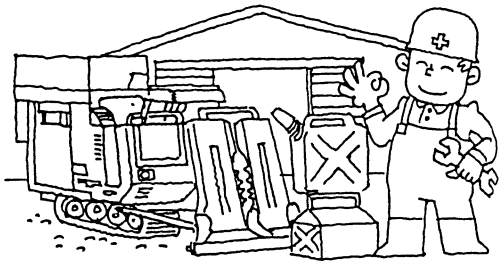
⚠安全作業のポイント



- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする。

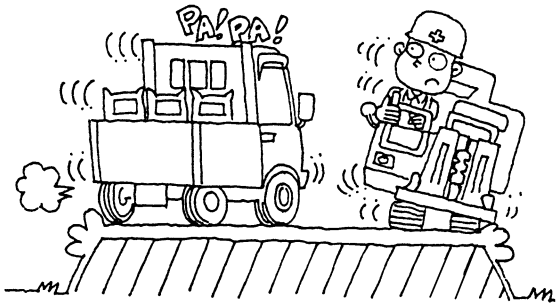
始業・点検　準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら，新しいラベルに貼り替える。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する。
- 集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない。
- 給油，冷却水の点検は，エンジンが冷えているときに行う。
- 燃料補給時は，エンジンを停止し，火気を近づけない。
- 方向指示器などの保安部品の作動を確認する。
- 刈取部を上げて掃除や点検をするときは，油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く。
- 機械は改造しない。
- 機械の制御系に影響を与える可能性がありますので，業務用無線やアマチュア無線等の無線機器を設置しない。



エンジン始動

- 始動前にすべてのカバーを取付ける。
- 駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《N》《中立》または《切》にする。
- 屋内で始動するときは，窓や戸を開けて換気をする。
- 機械の周囲から人を遠ざける。
- エンジンの始動は，座席に座って行う。
- 始動のときは，周囲の人に「合図」をする。



走行・運転

- 刈取部先端部にバンパを取付ける。
- ナローガイド，排出オーガを収納する。
- 機械に子供など，人や物を乗せない。
- 走行する前に，グレンタンク内のこく粒をすべて排出する。
- 発進時は，周囲を確かめる。
- 走行時の旋回は，低速で行う。
- 後進時は，後方を確認する。
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない。
- わき見運転や手放し運転をしない。
- 作業機クラッチ，刈取クラッチを《切》にする。
- 運転中は，子供など，人を機械に近づけない。

道路（公道）走行

- ナンバープレートの交付を受ける。
- 運転免許証を携帯し，交通法規を守る。
- 取扱説明書で指定された作業機以外は取外す。
- 前後左右を確認し，低速車線を走る。
- 夜間走行は，前照灯をつける。（作業灯は消す）
- 走行中に飛び乗り，飛び降りはしない。

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

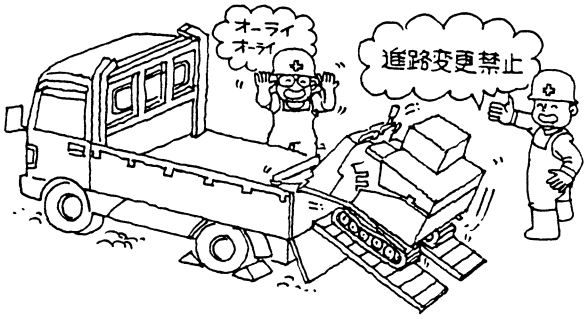
- 速度を落として走行する。
- 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。
- 急な坂道でのギヤ変速操作はしない。
- 下り坂では，速度を下げて走行する。
- 急傾斜地は，走行しない。
- 坂道での旋回は，低速で行う。

停車・駐車

- 平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
- 副変速は，［倒伏］に入れておく。
- 傾斜地では，駐車しない。
  （やむを得ず駐車するときは，歯止めをする）
- 機械を離れるときは，始動キーを抜取る。

自動車への積込み・積降ろし

- アユミはじゅうぶんな強度，長さ（荷台の高さの４倍以上），幅（クローラが外れない幅）すべり止め，フック付きを使用する。
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する。
- 周囲を確認し，機械の周囲には人を近づけない。
- 作業機，刈取クラッチは《切》にする。
- 積込みは前進，積降ろしは，後進で低速で行う。
- アユミの上では，進路変更や変速操作をしない。
- キャビン仕様以外は機械から降りて行う。



ほ場作業　ほ場の出入り

- グレンタンク内のこく粒を排出して行う。
- 変速は，低速であぜに対して直角に行う。
- あぜ，溝，急傾斜を越すときは，アユミを使用し，機械から降りて行う。
- あぜが崩れないことを確認しゆっくり行う。

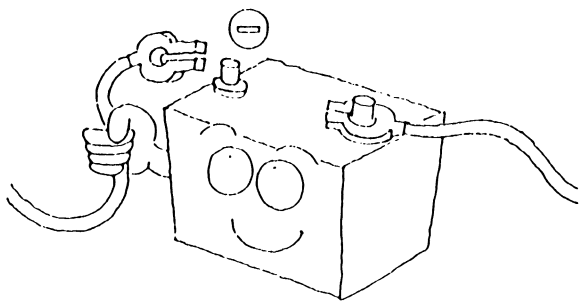


ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には，周囲を確認する。
- 刈取り作業は，機械の周囲に子供など，人を近づけない。
- 旋回時は，周囲の状況を確認し，低速で行う。
- 排出オーガの排出口内に手を入れない。
- 排出オーガの操作は，運転席から周囲の安全をよく確認してから行う。
- 運転走行中の乗り降りはしない。
- 過労にならぬよう余裕をもって，作業の間に休憩を入れる。
- あぜぎわでの旋回時は，周囲を確認する。
- ノッタの結束紐を交換するときは，エンジンを停止する。［ノッタ仕様］
- ノッタのそばに，手や身体を近づけない。［ノッタ仕様］

手こぎ作業

- 刈取クラッチを《切》にして，走行を停止して行う。
- 手袋は，使用しない。
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない。
- カッタの切ワラが溜まったら，手こぎを中断して移動する。
- ワラクズの近くに，機械を停止しない。



作業中途の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する。
- 詰まりなどの異常時には，エンジンを停止して行う。
- こぎ胴部を開いたらストッパをかける。
- カッタやグレンタンクをオープンしたときは，ストッパをかける。
- 取外したカバー類は，すべて取付けて作業を始める。

終業・格納　１日の作業が終わったら

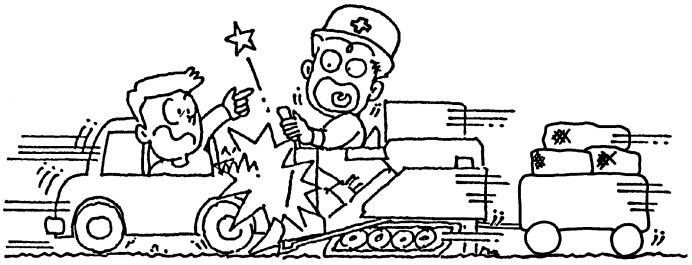
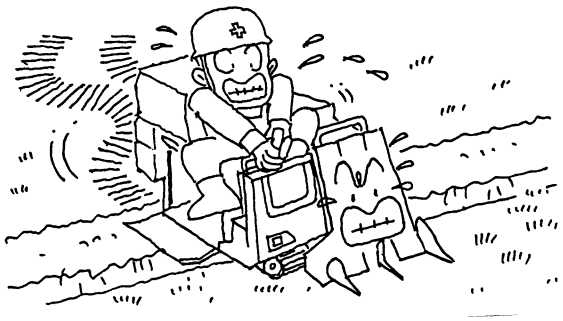
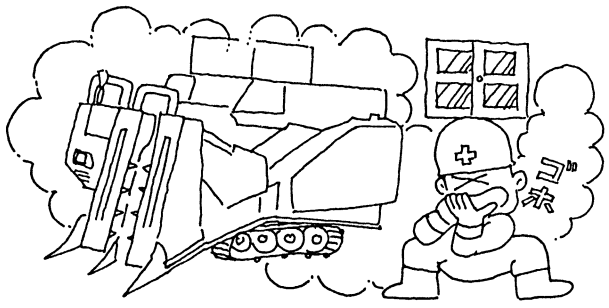
- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて歯止めをする。
- 始動キーを抜取っておく。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- マフラやラジエータなどは，冷えるまで直接触れない。
- シートカバーは，エンジンが冷えてからかける。

長期格納

- １シーズンごとに定期点検をする。
- 燃料コックを閉じる。（ガソリン車は燃料を抜取る）
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す。
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに歯止めをする。

⚠作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には，使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。 
⚠警告 ◆機械は，改造しないでください。	機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆毎日の運転まえには,「運転まえの点検表」の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆１年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行なってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆屋内での始動は，窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害を起こしたり，死亡することがあります。 

⚠点検・整備及び掃除をするときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠危険

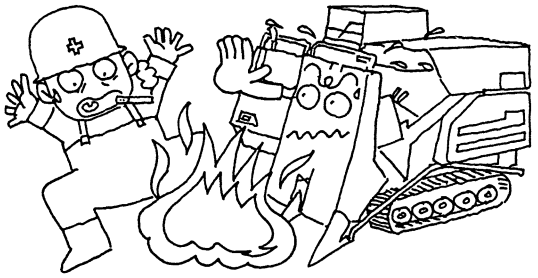
◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。

- 燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいに拭き取る。
- エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしない。

◆燃料ホースの破損や燃料漏れがないか，点検してください。

- 燃料ホースは 2 年ごとに交換する。

燃料などに引火し，火傷や火災の原因となることがあります。



⚠警告

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，各部の回転が止まってから行なってください。

機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。

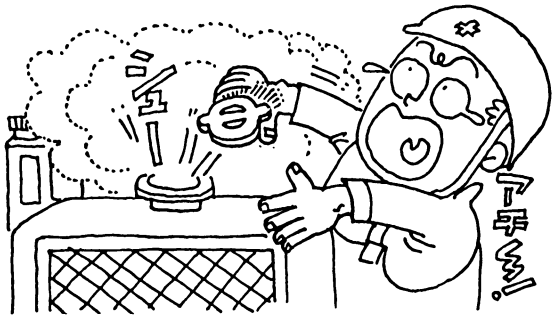


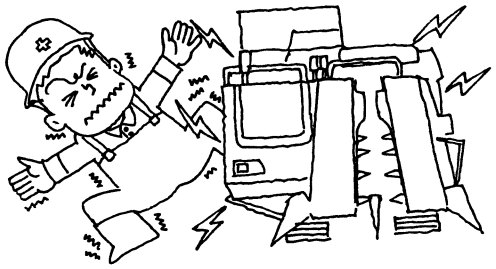
⚠警告

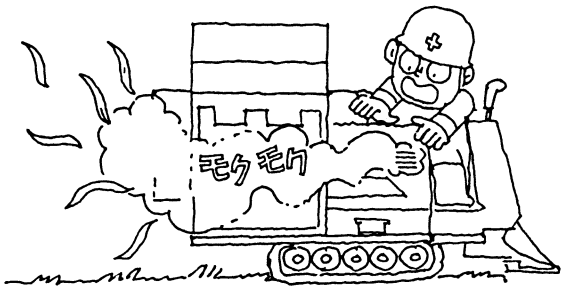
◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。

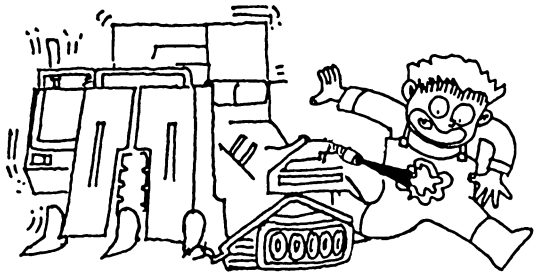
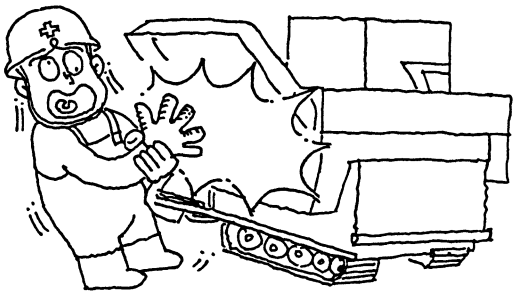
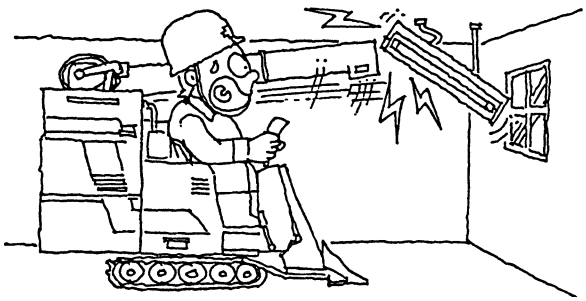
- ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。
- 冷却水の点検は，補助タンクで行う。

熱湯が吹きだし，火傷することがあります。



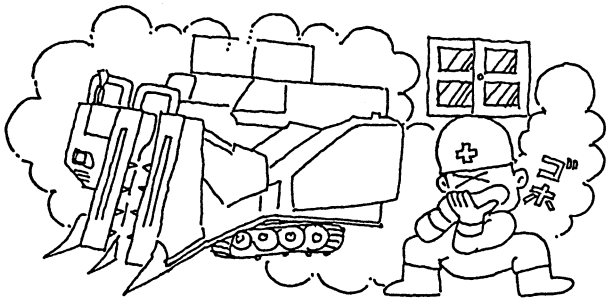
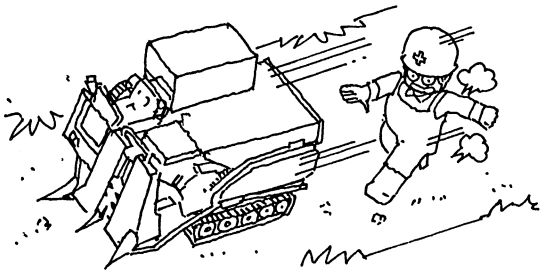
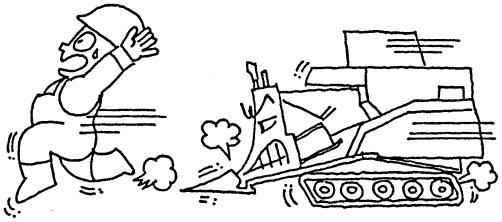
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（タバコ・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して，傷害事故を引起こすことがあります。
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮膚，衣服，物に付いたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときは，すぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは，医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明や火傷をすることがあります。
⚠警告 ◆バッテリ端子からコードを取外すときは，㊀側を先に取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ●バッテリは，指定されたバッテリを使用する。 ●㊉，㊀を逆に接続しない。	ショートして，火傷や火災の原因となります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，剥れや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●クランプや固定金具のゆるみがないか点検する。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して，付着していれば取除いてください。 ●ベルトカバー内のワラクズを取除く。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は，機械を動かす前に行なってください。	交通事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆マルチステアリングレバーの効き具合や，片効きなどがないか点検し，異常であれば「お買いあげ先」で整備を受けてください。	正常な走行ができず，事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をいっぱい下げた状態にして，残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は，皮膚に浸透し傷害の原因になります。 油が皮膚に浸入した場合，取除かないと壊疽（えそ）になる恐れがあります。 
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 
⚠注意 ◆排出オーガの作動確認は，周囲にゆとりのある広い場所で行なってください。 ●屋外では，電線などに引掛けない。	屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引掛けて，損害事故を起こすことがあります。 

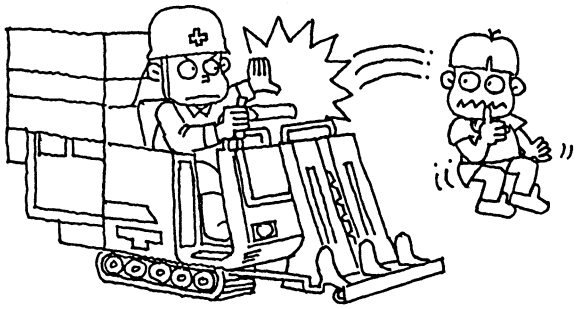
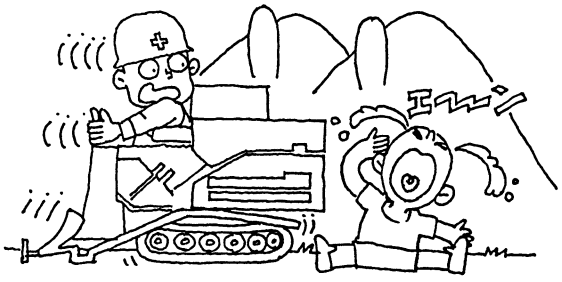
⚠エンジンを始動するときは……

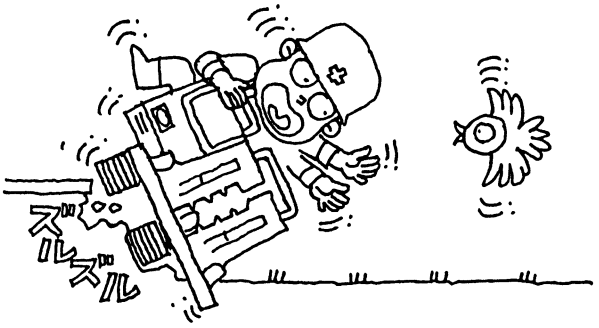
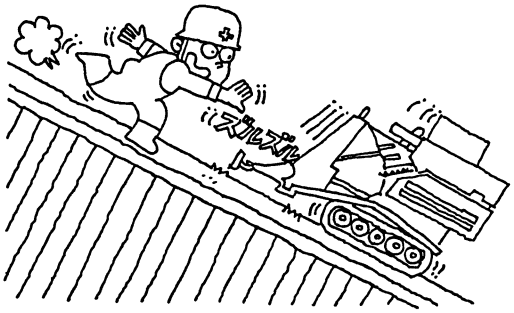
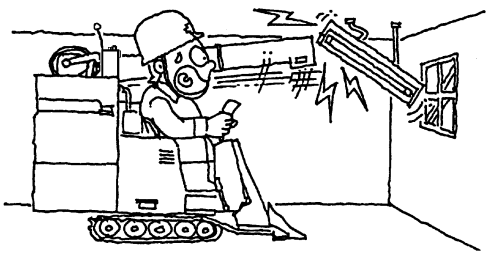
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆屋内での始動は，窓や戸を開けて換気をしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害を起こしたり，死亡することがあります。 
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆変速を《N》《中立》にしてください。 ◆作業機クラッチ・刈取クラッチを《切》にしてください。 ◆取外したカバーなどは，すべて取付けてください。 ●変速レバーが《N》《中立》になっているか手で動かして確認する。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆始動は，運転席の座席に座って行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，主変速，副変速を《N》《中立》，作業機・刈取クラッチを《切》にして行なってください。	急に発進したりして，思わぬ事故の原因となります。 

⚠路上走行をするときは……

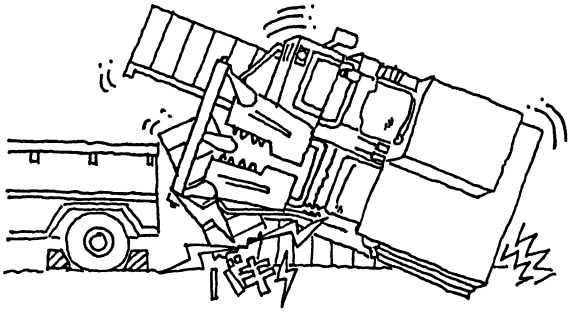
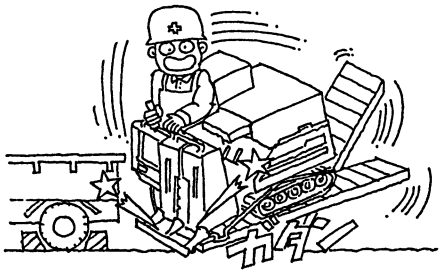
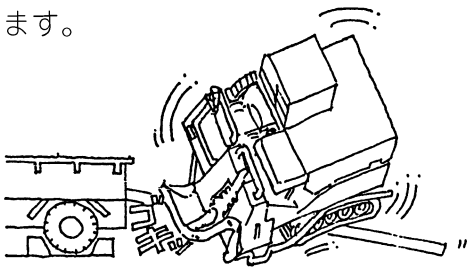
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆路上走行時は，交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●夜間の走行は，前照灯をつけ，作業灯は消す。	思わぬ傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆子供など，人や物を機械に乗せないでください。 ●荷物は，別の自動車（運搬車）などで運ぶ。 ◆走行時は，サイドステップ，ナローガイド，排出オーガを収納してください。 ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけて，低速で発進してください。 ◆作業機・刈取クラッチが《切》になっていることを確認してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回しない。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしない。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠注意 ◆路上走行するときは，刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は，取外してください。 ●刈取部先端を50cm程度上げます。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には，寄りすぎないようにしてください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。 ●雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。 ●凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行する。	路肩が崩れ，横転事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道の途中で，走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前で一旦停止して，変速を《低速》に入れ変えてから，登り降りする。 ●坂道での旋回は，低速で行う。 ●急傾斜地を走行しない。	エンジンブレーキが効かず思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道では，駐車しない。やむを得ず坂道の途中で駐車するときは，駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで歯止めをしてください。 ●刈取部は，下げておく。 ●機械から離れるときは，始動キーを抜取る。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆業務用無線やアマチュア無線等の無線機器は機械の制御系に影響を与える可能性がありますので機械に設置しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 

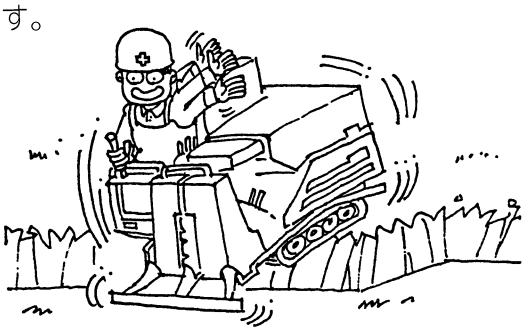
⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……

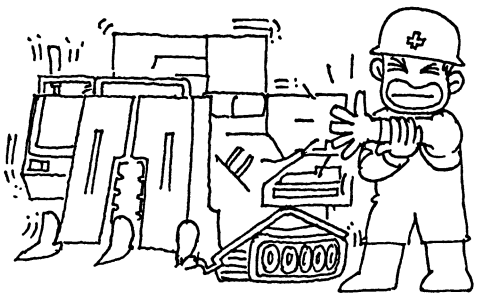
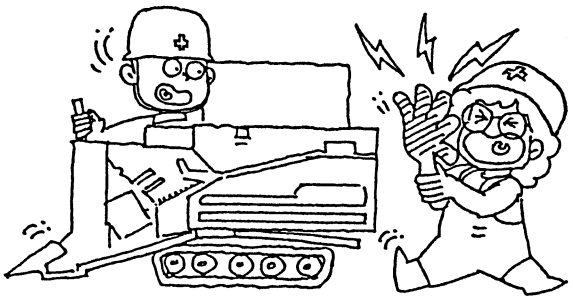
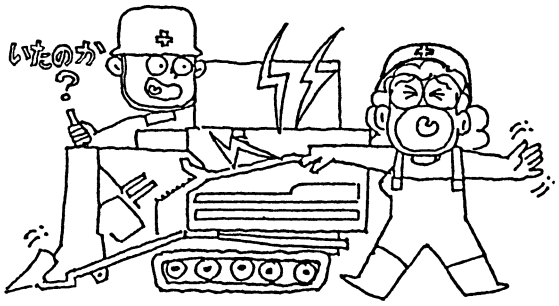
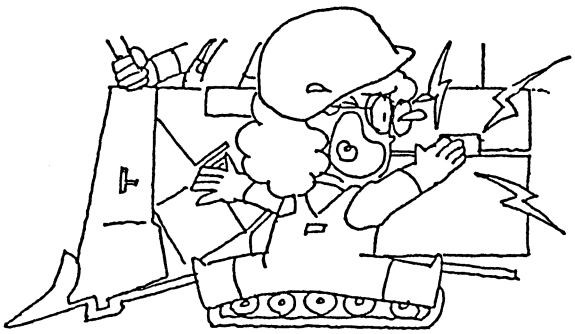
必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

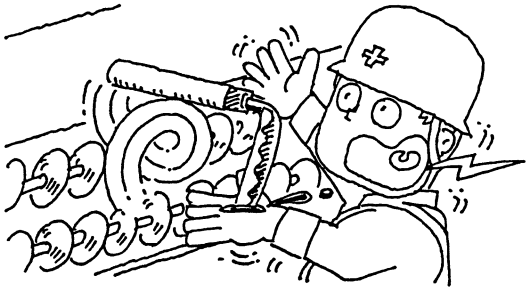
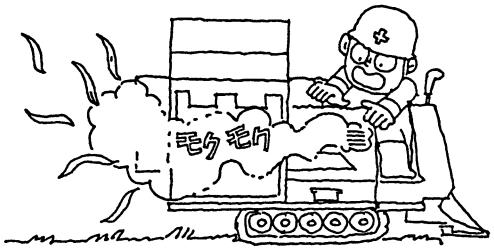
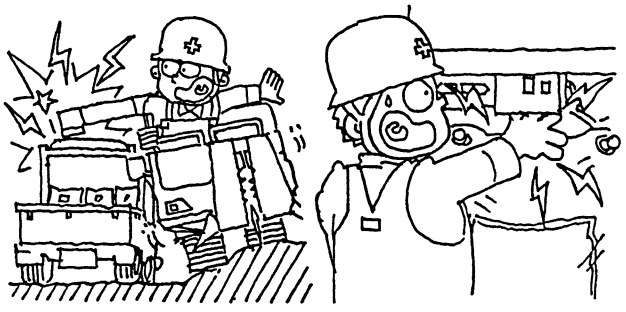
⚠警告 ◆自動車は，最大積載量を超えない車で，荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。 ●自動車は，駐車ブレーキをかけエンジンを停止し，変速を１速か後進に入れ，タイヤに歯止めをする。 ◆アユミは，じゅうぶんな強度，長さ，幅のある基準に合ったすべり止め，フック付きを使用してください。 ●アユミの幅は，クローラ幅に合ったものを使う。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行に真直ぐにかけてください。 ●荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認する。	
⚠警告 ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ◆積込みは前進，積降ろしは後進で，変速は低速で行なってください。 ●補助者立合誘導のもとに行う。機械の周囲に子供など，人を近づけない。 ◆キャビン仕様以外の積込み･積降ろしは，機械から降りて行なってください。 ◆［**Ｌ仕様**］水平自動スイッチを「切」にして，機体を一番下げた状態で行なってください。 ◆［**Ａ仕様**］は，自動スイッチを「切」にして行なってください。	万一のときに逃げることができなくなり，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆アユミの上では，進路変更や変速操作をしないでください。 ●機械をアユミに対して真直ぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，アユミの途中で機械を止める必要がないようにする。	急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。 

⚠ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

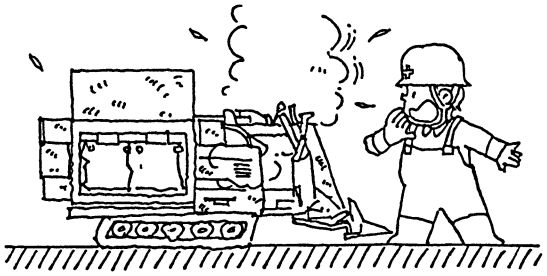
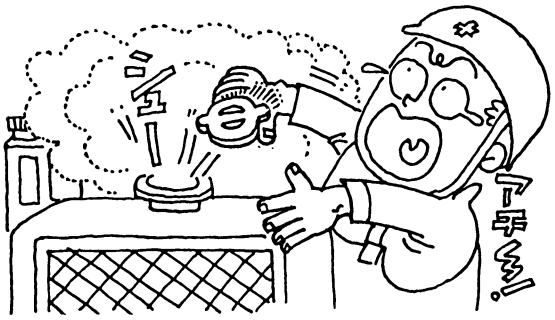
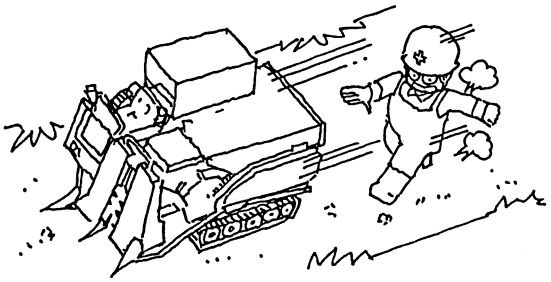
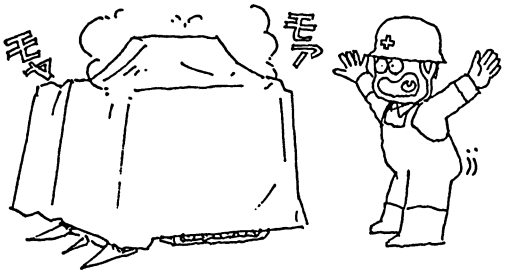
⚠警告 ◆10cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使ってください。 ●グレンタンク内のこく粒を排出して行う。 ●キャビン仕様以外は機械から降りて行う。 ●アユミ上では，進路変更しない。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆あぜ越えは，変速を《低速》にして，あぜに直角に横切るようにしてください。 ●キャビン仕様以外は機械から降りて行う。 ●あぜが崩れないことを確認して行う。	転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ●エンジン始動や発進するとき，作業機・刈取クラッチを入れるときは，ホーンで合図する。 ◆作業時の旋回は，低速で行なってください。 ●旋回するときは，周囲を確認し，低速で行う。 ●機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆手こぎ作業のときは，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。 ●手袋は，使用しない。 ●供給口が見えなくなるほど，多量の作物を供給しない。 ●カッタ切ワラが溜まったら，手こぎ作業を中断して移動する。 ●手こぎ作業は，走行を停止して刈取クラッチを《切》にして行う。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こします。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆詰まり等の除去や，ノッタのひも交換（ノッタ仕様）をする時は，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。 ●脱こく部やカッタの詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。 ●エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行う。 ●こぎ胴部を開いたときは,ストッパをかける。	傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆補助者は，作業中にワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。 ◆補助者は，機械に近づく時運転者に合図をして，確認を取ってください。 ◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，作業機クラッチ操作をしてください。 ●カッタでの事故が一番多く発生していることを，作業者は認識しておく。 ●エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけない。 ●補助者に，機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておく。 ●作業中は，機械に人を近づけない。 ●運転者は，常に補助者の状態を確認しながら作業をする。 ●特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には，作業中は近づかない。 ●ワラなどの巻付き・詰まりなどが発生しても，作動中は手を出さない。 ●運転者と補助者は，常に「合図」し合いながら作業する。	傷害事故を引起こすことがあります。   

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業中にカマなどを使って，脱こく部やカッタの掃除をしないでください。 ●カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしない。カッタのカバーを開閉するときは，エンジンを停止する。 ●カッタをオープンしたときは，ストッパをかける。		カマなどが跳ね飛ばされて，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆ワラクズの近くには，機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに機械を止める。 ●手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めて作業をしない。		マフラの排気で火災になることがあります。 
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズが溜まった場合は，エンジンを停止して掃除をしてください。		火災の原因となることがあります。 
⚠注意 ◆排出オーガの排出口内には，手を入れないでください。 ◆排出オーガの操作は，運転席から周囲の安全を確認してから行なってください。 ●走行の前に，排出オーガがオーガ受けに収納され，固定されているか確認する。		ラセンに巻込まれたりして，負傷することがあります。排出オーガが周囲の人に当り，負傷したりすることがあります。 

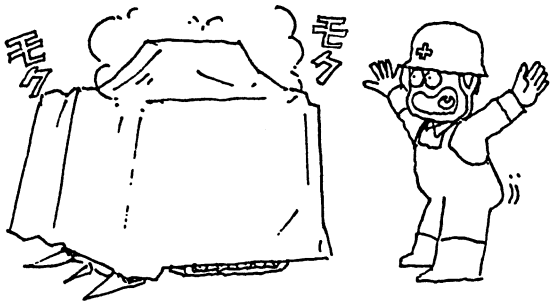
⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●高温部が冷えてから，エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除する。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 
⚠警告 ◆保管は，平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけてください。 ●副変速レバーを《倒伏》に入れ，駐車ブレーキをかける。 ●スタータスイッチ（始動キー）を抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆エンジンが熱いときは，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。 

⚠長期格納するときは……

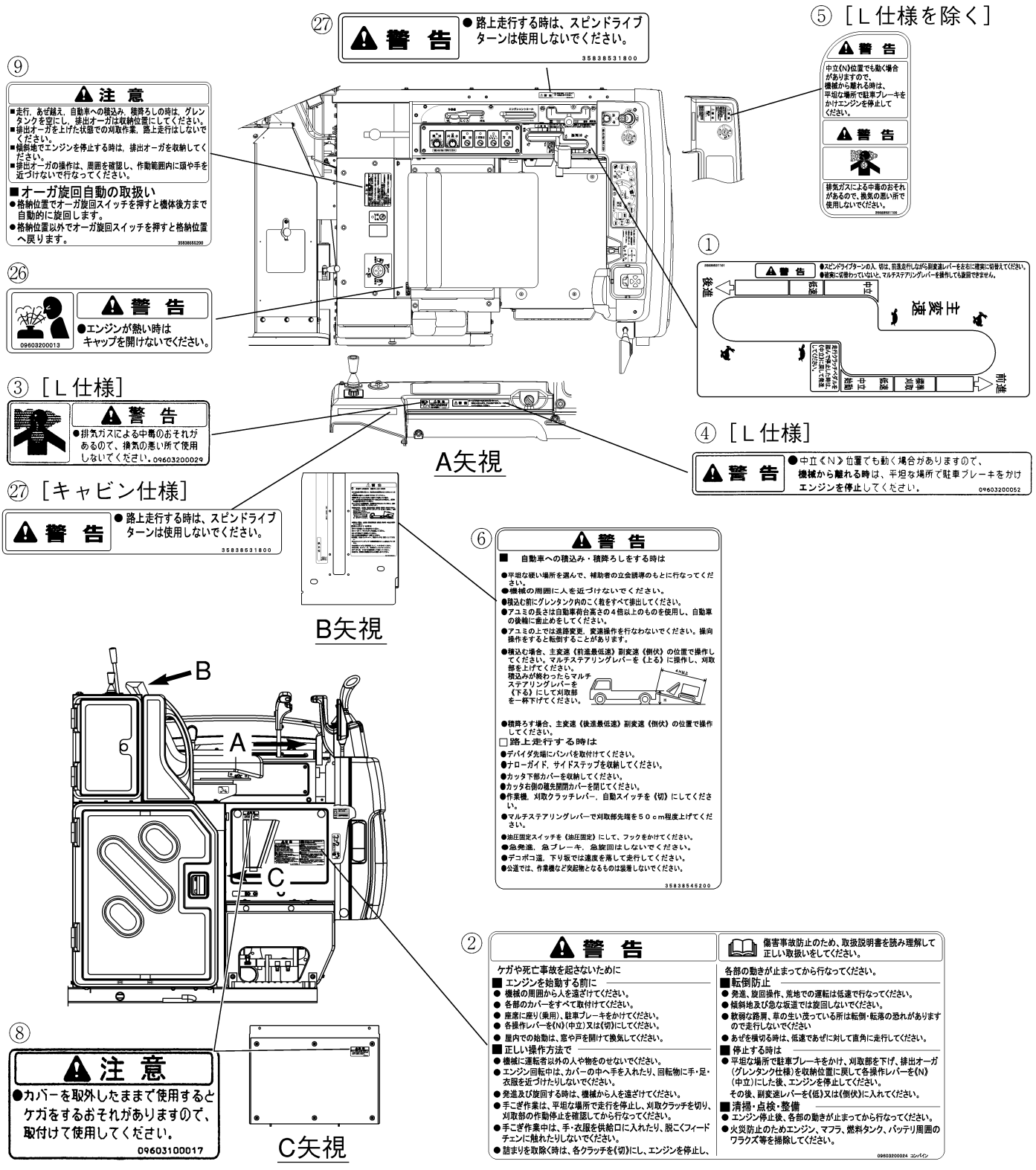
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

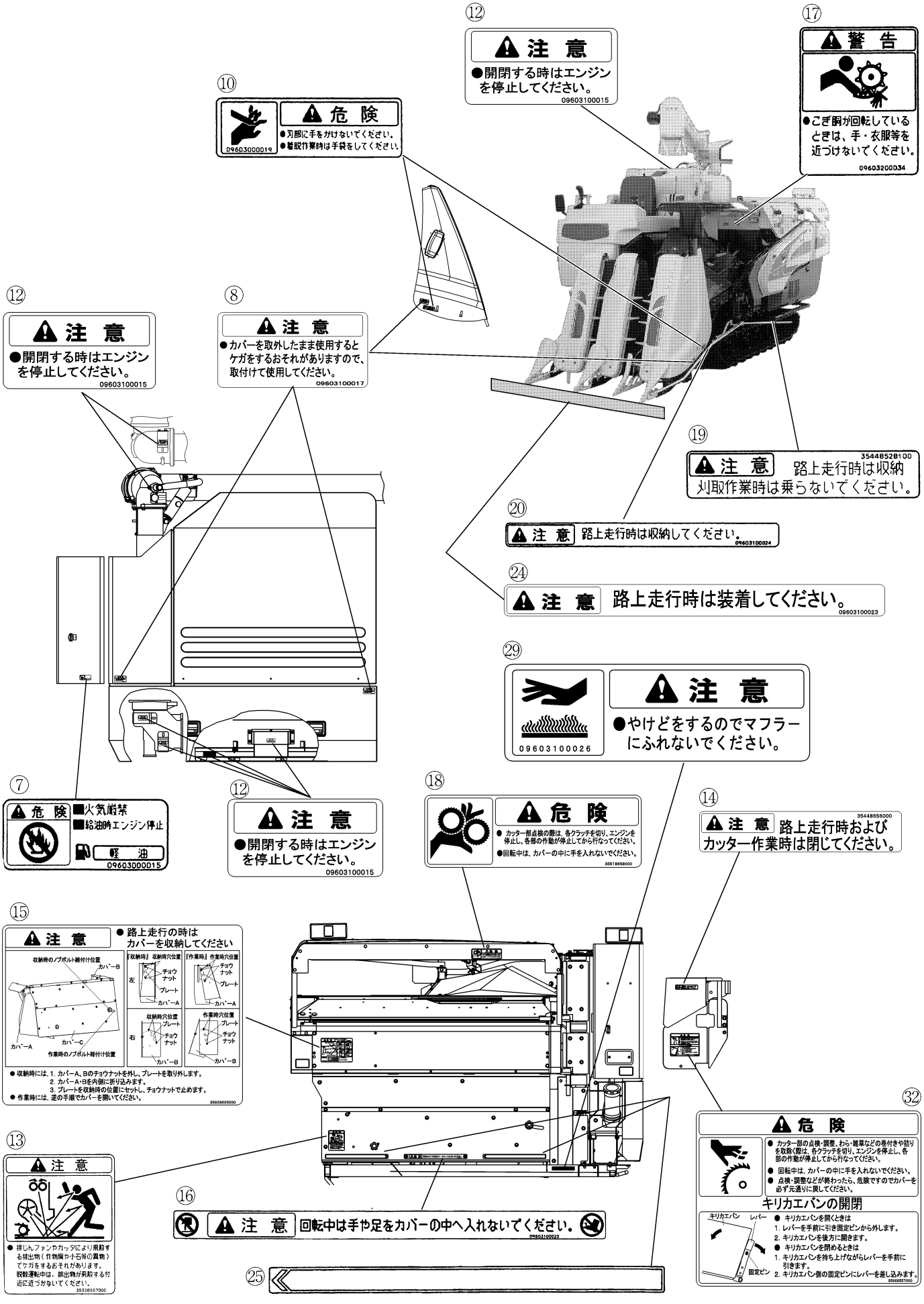
⚠警告 ◆バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外してください。 ● 1ケ月に1回程度補充電をする。 ◆燃料コックを閉じてください。	思わぬ火災事故を起こす場合があります。 
⚠警告 ◆平坦な場所に置き，刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて歯止めをしてください。 ●副変速を《倒伏》に入れ，クローラに歯止めをする。 ●始動キーを抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シーズン終了後には，定期点検を受けてください。 ● 1年ごとに定期点検・整備を**「お買いあげ先」**で，純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。 	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。

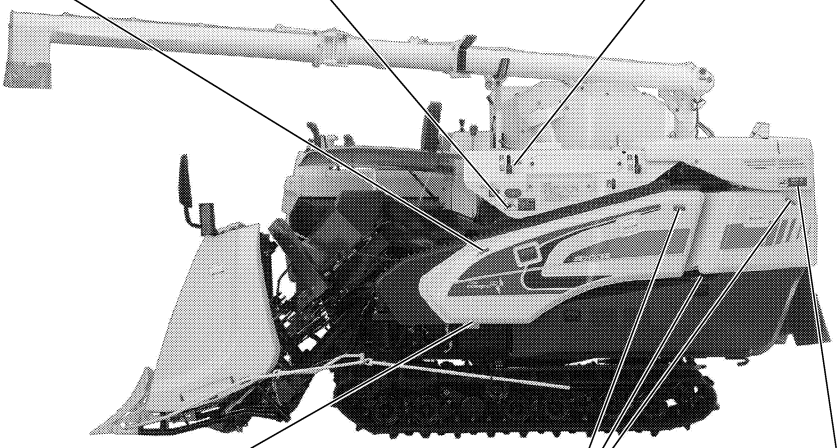
2．表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。




⑫
注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015
⑰
警 告
●こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。
09603200034
⑩
危 険
●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。
09603000019
⑫
注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015
⑧
注 意
●カバーを取外したまま使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017
⑲
注 意 路上走行時は収納
刈取作業時は乗らないでください。
35448528100
⑳
注 意 路上走行時は収納してください。
09603100024
㉔
注 意 路上走行時は装着してください。
09603100023
㉙
注 意
●やけどをするのでマフラーにふれないでください。
09603100026
⑦
危 険 ■火気厳禁 ■給油時エンジン停止
軽 油
09603000015
⑫
注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015
⑱
危 険
● カッター部点検の際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は、カバーの中に手を入れないでください。
⑭
注 意 路上走行時およびカッター作業時は閉じてください。
35448656000
⑮
注 意
● 路上走行の時はカバーを収納してください
収納時のノブボルト締付け位置
作業時のノブボルト締付け位置
カバーA
カバーB
カバーC
『収納時』 収納時穴位置
『作業時』 作業時穴位置
チョウナット
プレート
● 収納時には、1. カバーA、Bのチョウナットを外し、プレートを取り外します。
2. カバーA・Bを内側に折り込みます。
3. プレートを収納時の位置にセットし、チョウナットで止めます。
● 作業時には、逆の手順でカバーを開いてください。
35628626000
⑬
注 意
● 排じんファンやカッタにより飛散する排出物（作物屑や小石等の異物）でケガをするおそれがあります。
脱穀運転中は、排出物が飛散する付近に近づかないでください。
35328557000
⑯
注 意 回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。
09603100020
㉕
㉜
危 険
● カッター部の点検・調整、わら・雑草などの巻付きや詰りを取除く際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
● 回転中は、カバーの中に手を入れないでください。
● 点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを必ず元通りに戻してください。
キリカエバンの開閉
キリカエバン
レバー
固定ピン
● キリカエバンを開くときは
1. レバーを手前に引き固定ピンから外します。
2. キリカエバンを後方に開きます。
● キリカエバンを閉めるときは
1. キリカエバンを持ち上げながらレバーを手前に引きます。
2. キリカエバン側の固定ピンにレバーを差し込みます。
35328557000



⑫
⚠注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015

⑧
⚠注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

⑪
火気厳禁メガネ着用こども禁止 硫酸注意説明書熟読爆発注意
⚠危険
● 水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
● 充電は風通しのよいところで行う。(充電時火気厳禁)
ショートやスパークをさせない。
● バッテリー液(硫酸)で失明ややけどの恐れあり
液がついたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける。
● バッテリー液注入済(横倒し厳禁 液漏れ注意)
● 急速充電厳禁 ● 開封厳禁(密封タイプ)
09603000020
密封タイプ

⑱
⚠危 険
● カッター部点検の際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は、カバーの中に手を入れないでください。
35518658000

㉒
⚠警 告
■手こぎ作業をする時は
● 走行を停止して、刈取クラッチを切り、作動が止まってから行なってください。
● 手、衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。
3551853310002

㉚
⚠警 告
● 手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。
09603200042

㉑
⚠警 告
●回転中はファンに手・足及び身体を近づけないでください。
09603200041

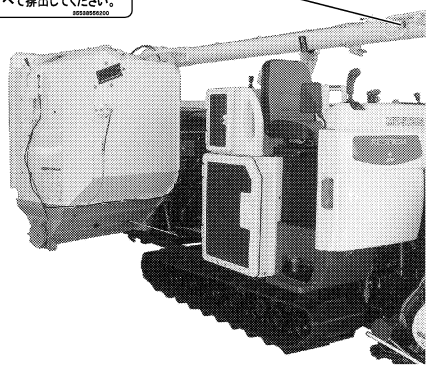
㉘
⚠注 意 乗らないでください
35598523500

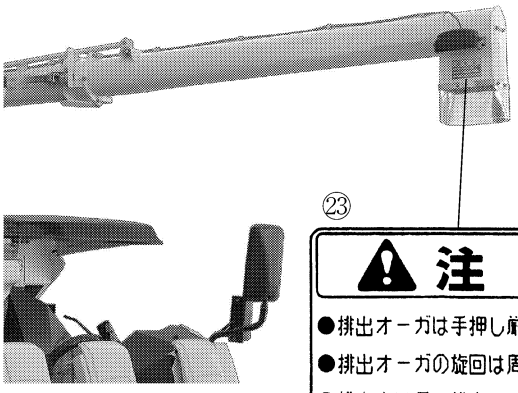
㉛

注 意

●巻込まれてケガをするおそれがあります。
折りたたみ時、開口部に手を近づけないでください。

取扱のポイント　折りたたむ時は、排出オーガ内のこく粒をすべて排出してください。



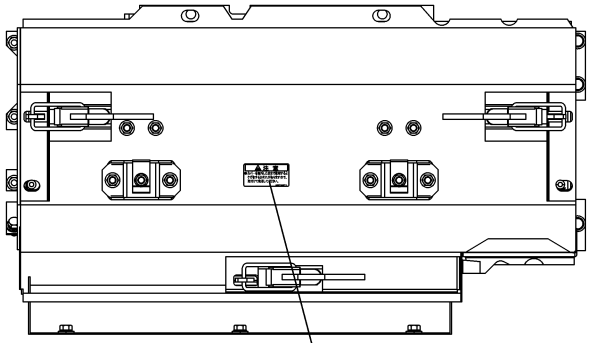


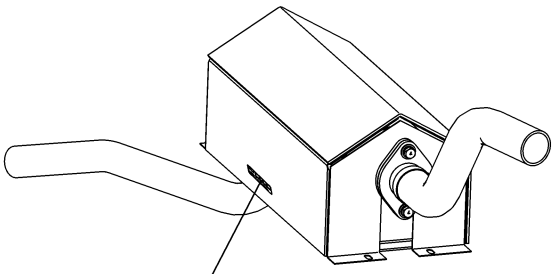
㉓

注 意

●排出オーガは手押し厳禁
●排出オーガの旋回は周囲を確認
●排出中は手を排出口に近づけない

3544B538300





㉙

09603100026

注 意

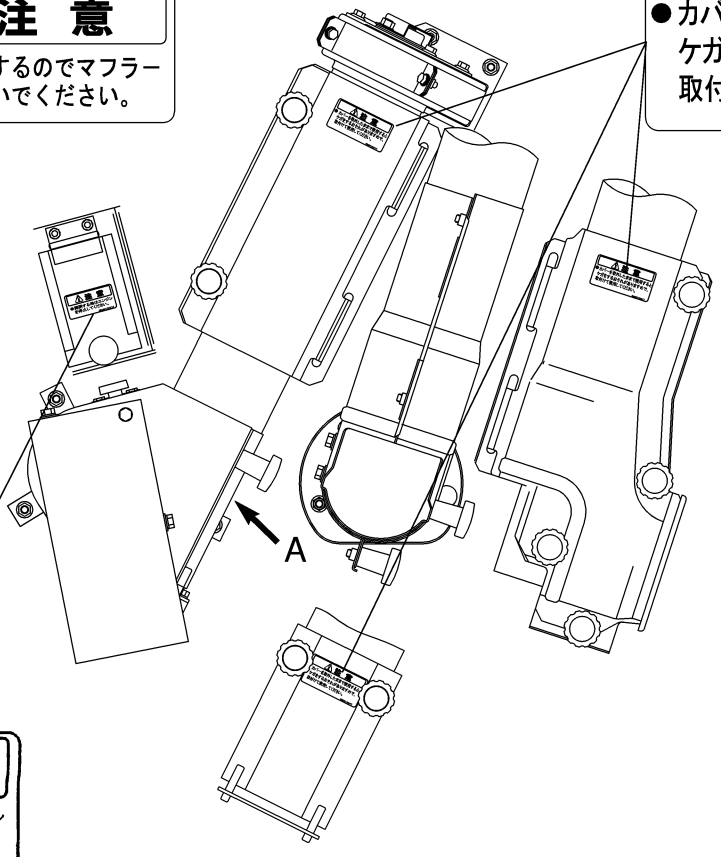
●やけどをするのでマフラーにふれないでください。

㉘

注 意

●カバーを取外したまま使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017



⑫

注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015

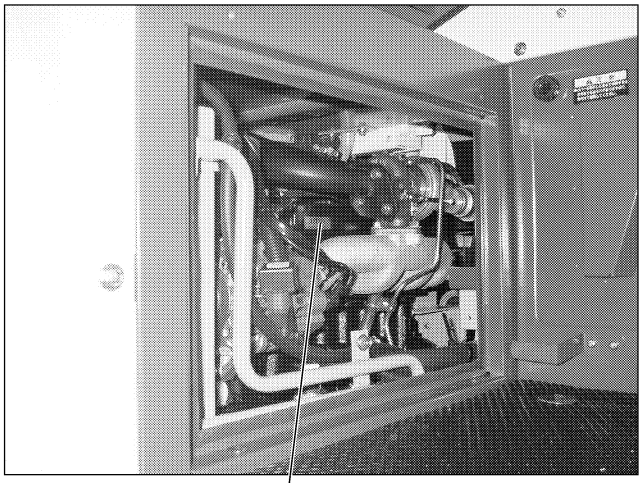
A矢視

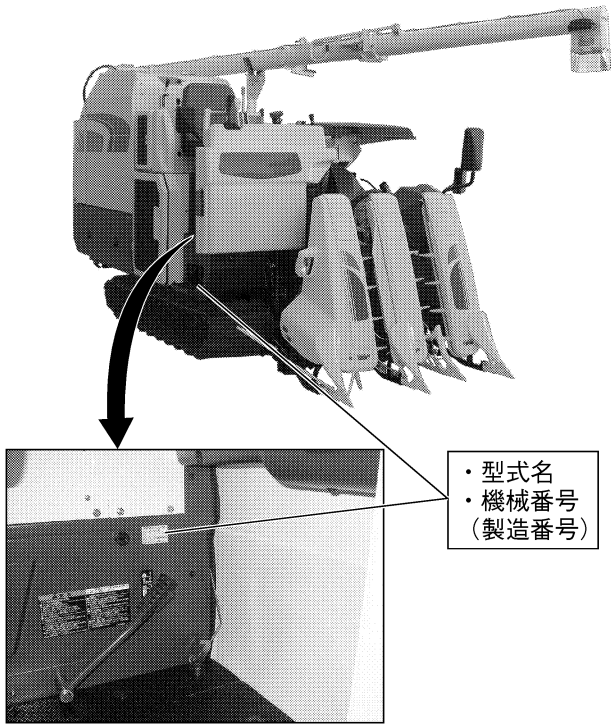
No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
①	トリアツカイマーク	3583 8531 101	
②	ケイコクラベル・コンバイン	0960 3200 024	
③	ケイコクラベル・ハイキ	0960 3200 029	［L仕様］
④	ケイコクラベル	0960 3200 052	［L仕様］
⑤	ケイコクラベル	3592 8531 100	［L仕様を除く］
⑥	ケイコクラベル	3583 8545 200	
⑦	キケンラベル・ケイユ	0960 3000 015	
⑧	チュウイラベル・カバー	0960 3100 017	
⑨	トリアツカイマーク	3583 8555 200	
⑩	キケンラベル・カリハ	0960 3000 019	
⑪	キケンラベル・バッテリ	0960 3000 020	
⑫	チュウイラベル・カイヘイ	0960 3100 015	
⑬	チュウイラベル・ハイジン	3532 8557 000	
⑭	チュウイマーク	3544 8656 000	
⑮	チュウイマーク	3592 8626 000	
⑯	チュウイラベル・カッタカバー	0960 3100 020	
⑰	ケイコクラベル・コギドウ	0960 3200 034	
⑱	キケンラベル・カッタ	3551 8658 000	
⑲	チュウイマーク	3554 8528 100	
⑳	チュウイラベルシュウノウ	0960 3100 024	
㉑	ケイコクラベル・ファン	0960 3200 024	
㉒	ケイコクラベル・チェン	3551 8533 100	
㉓	チュウイマーク	3544 8538 300	
㉔	チュウイラベル・バンパ	0960 3100 023	
㉕	チュウイラベルゾーンL	0960 3100 019	
㉖	ケイコクラベル・ラジエータ	0960 3100 013	
㉗	ケイコクラベル	3583 8531 800	
㉘	チュウイラベル	3559 8523 500	
㉙	チュウイラベル・マフラ	0960 3100 026	
㉚	ケイコクラベル・チェン	0960 3200 042	
㉛	チュウイラベル	3553 8556 200	
㉜	キケンラベルカッタ	3592 8557 000	

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には，保証書が添付されていますので，ご使用前によくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや，部品などのご用命のときは，「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。





・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。
但し，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・この機械は，**稲・麦の収穫作業**以外には使用しないでください。
・この機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告

◆機械を使用目的以外の作業に，使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると，本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2．仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は，次のようになっています。
仕様の異なる型式の場合は，都度［○○**仕様**］表示で型式を示し追加説明していますので，お買いあげの機械の型式をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。
・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを，次の表でお確かめください。

型式名	仕様（装備）／区分	エンジン		クローラ				HST＋副変速3段	電動集中注油	防じんカバー	緊急エンジン停止スイッチ	フルモードターン	可動転輪	マルチステアリング	負荷モニタ	モミ充てんモニタ	ニューコンポアップ	ハーモニシステム	リフトシャット	畦際刈取・倒伏スイッチ	刈高ポジション	増速ツインこぎ胴	刈取部サイドオープン	揺動スライドオープン	グレンタンクサイドオープン	オーガ右旋回式	2段折れオーガ	ジャストディレクタ	自動化機構						グレンタンク	カッタ		自動スライドノッタ	キャビン
		型式	出力（参考）	ハイラグ 400mm	皿形 470mm	ハイラグ 400mm＋延長	皿形 470mm＋延長																						方向自動	こぎ深さ自動	選別自動	オーガ自動旋回・収納	フィードチェン同調	水平自動		マルチカッタ 60／180mm	マルチカッタ 40／160mm		
三菱VS38	M	S4L2—T11C	39(PS)	○				○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○			
	AM			○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			
	AMB			○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○		
	AMN			○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	
	UM				○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○			
	UAM				○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			
	LM					○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			
	LAM					○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	LAMB					○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		
	LAMN					○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	LUM						○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			
	LUAM						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	CLM					○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			○
	CLAM					○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
	CLAMB					○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
	CLAMN					○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	CLUM						○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			○
	CLUAM						○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○

・型式記号の説明

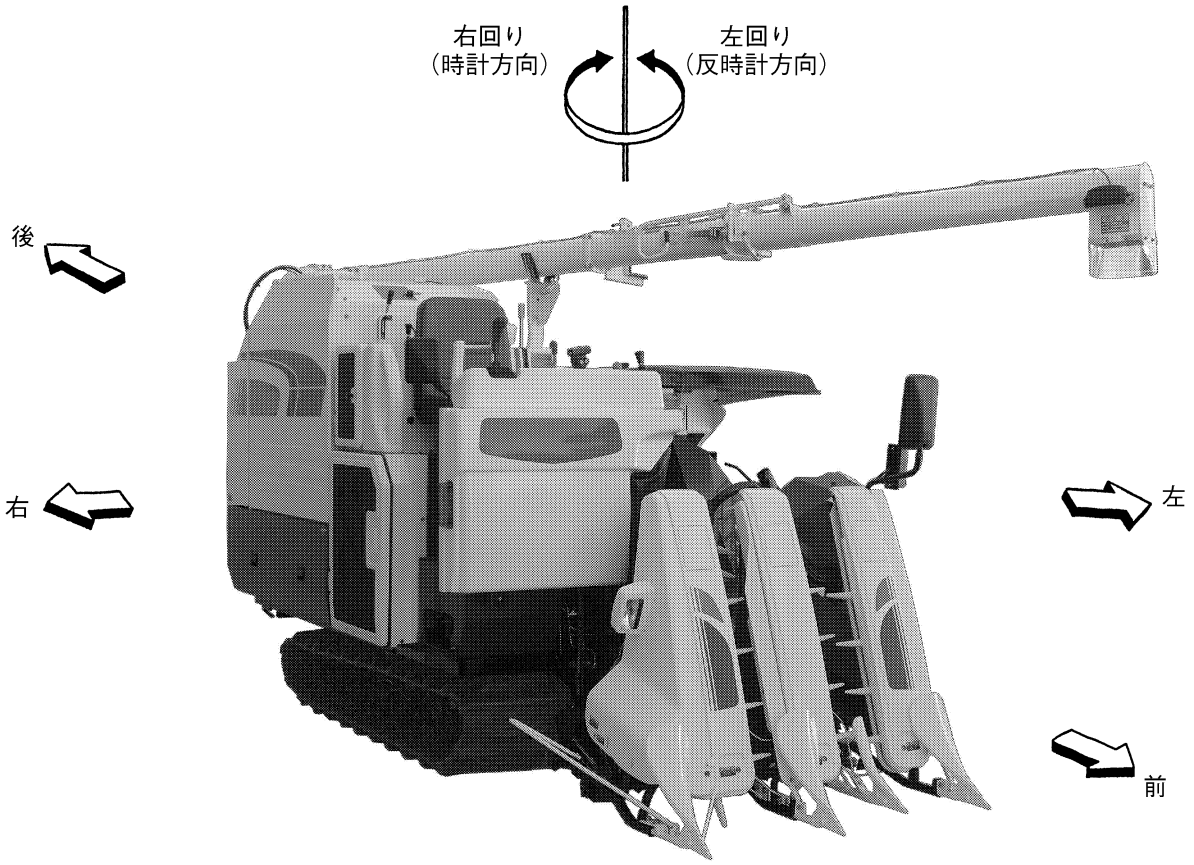
A＝方向自動・防じんカバー
C＝キャビン
MB＝スーパーマルチカッタ（切断長40／160㎜）
U＝皿形クローラ（湿田仕様）
L＝水平制御
M＝マルチカッタ（切断長60／180㎜）
N＝ノッタ

取扱いのポイント

- **これらの機械は工場から出荷のときは，「稲作業セット」に調整してあります。**
  麦作業のときは，「取扱説明書」の65ページ「麦刈り作業時の調整のしかた」の項を参考に調整しご使用ください。

3．用語について

(1) この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は，図示のとおりです。



(2) **型式表示**

・この取扱説明書は，VS38型LAM仕様を基本に説明しています。

・区分により仕様（装備）が異なるため，取扱い方法が変わる点は，そのつど［**A仕様**］などで表示し，追加説明しています。

(3) **マークの説明**

この取扱説明書では，その都度守っていただきたい事柄を，次のマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を，3段階に分けて説明していますので,必ず読んでください。

・**取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと，故障の原因になることがあります。

4．小型特殊自動車について

このコンバインは，「**小型特殊自動車**」に該当し，道路運転車両法に適合していますので公道走行が行えます。

1．小型特殊自動車の届出

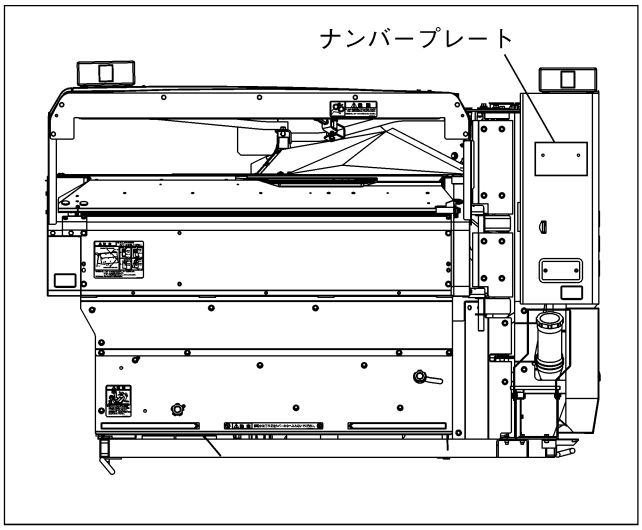
❶　小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方，または所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（「**お買いあげ先**」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2．公道走行するためには

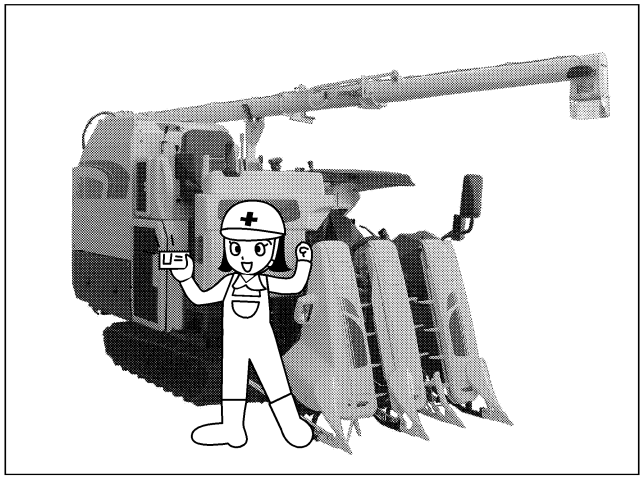
❶　運転免許

「**小型特殊自動車**」の運転免許で運転できる自動車の基準。

車体の大きさ	全　長	4.7m以下
	全　幅	1.7m以下
	全　高	2.0m以下 （注１）
最高速度		15km／時以下
原動機の総排気量		制限なし

（注１）ただしキャビンを除いた部分の高さが2.0m以下のものは2.8m以下

このコンバインは上記の基準を越えますので，公道を走行するときは，「**大型特殊自動車**」の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。



❷　指定の作業機（カッタ）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

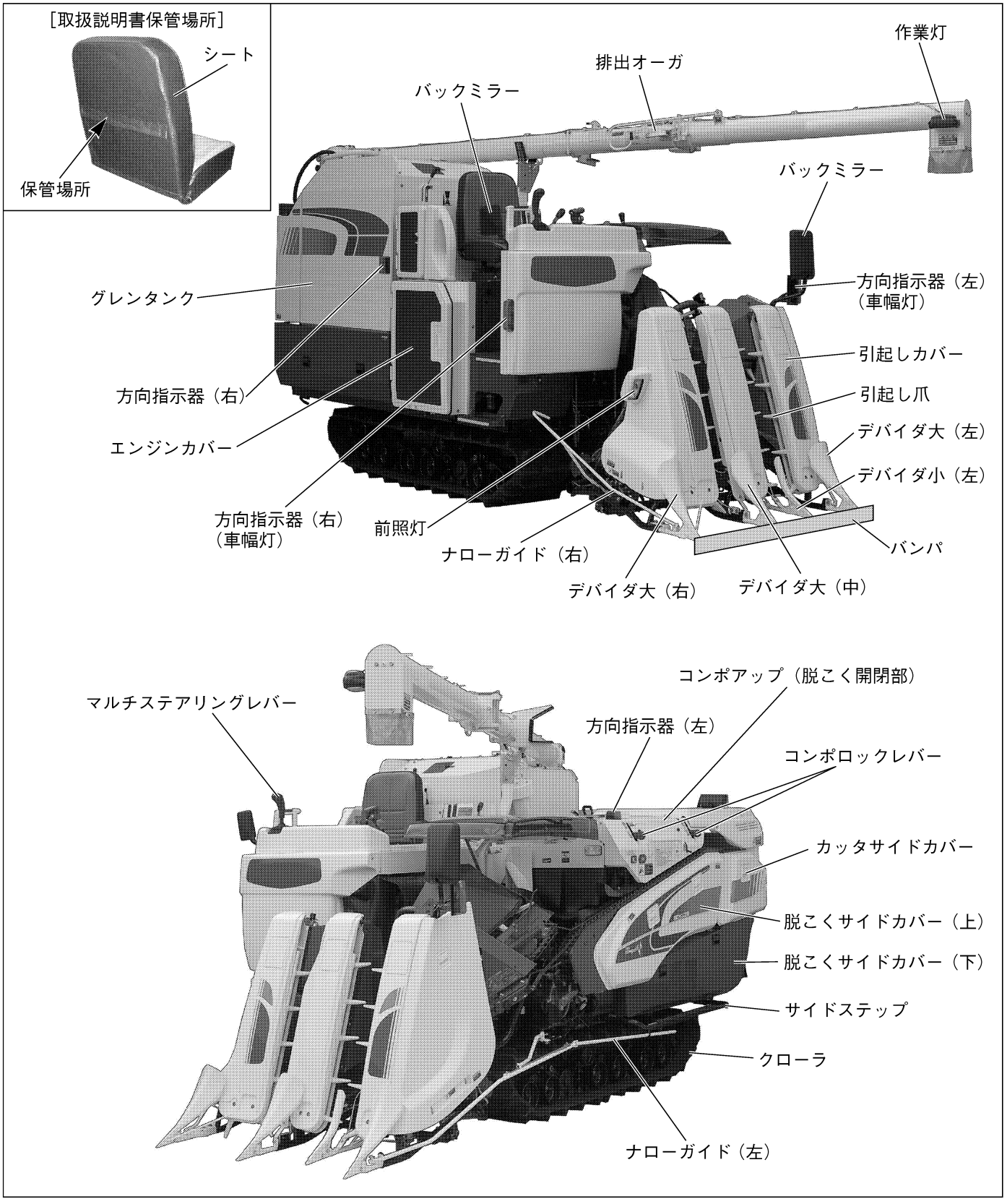
❸　任意保険のお勧め

万一の交通事故にそなえ，任意自動車保険に加入されるようお勧めします。

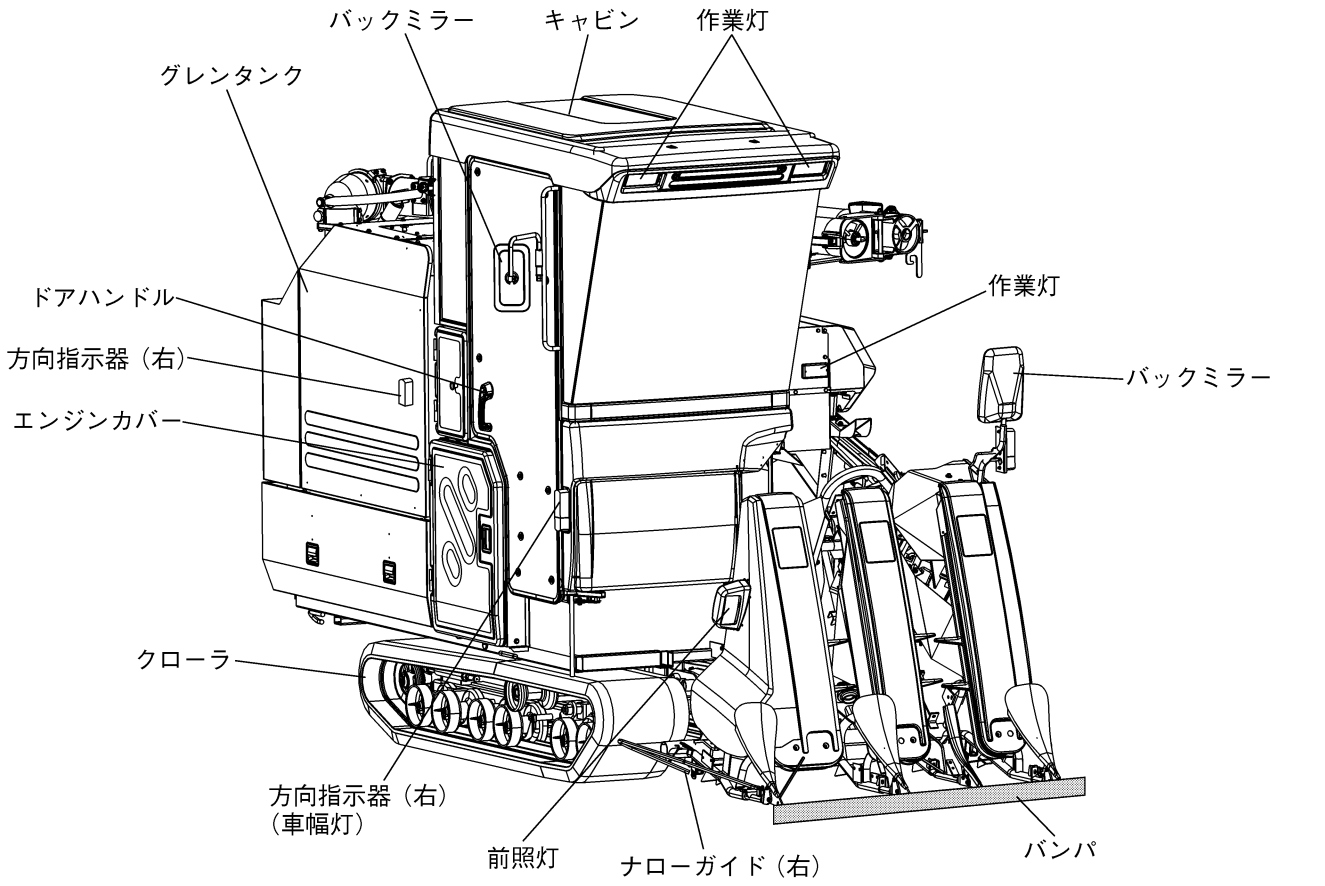
各部のはたらき

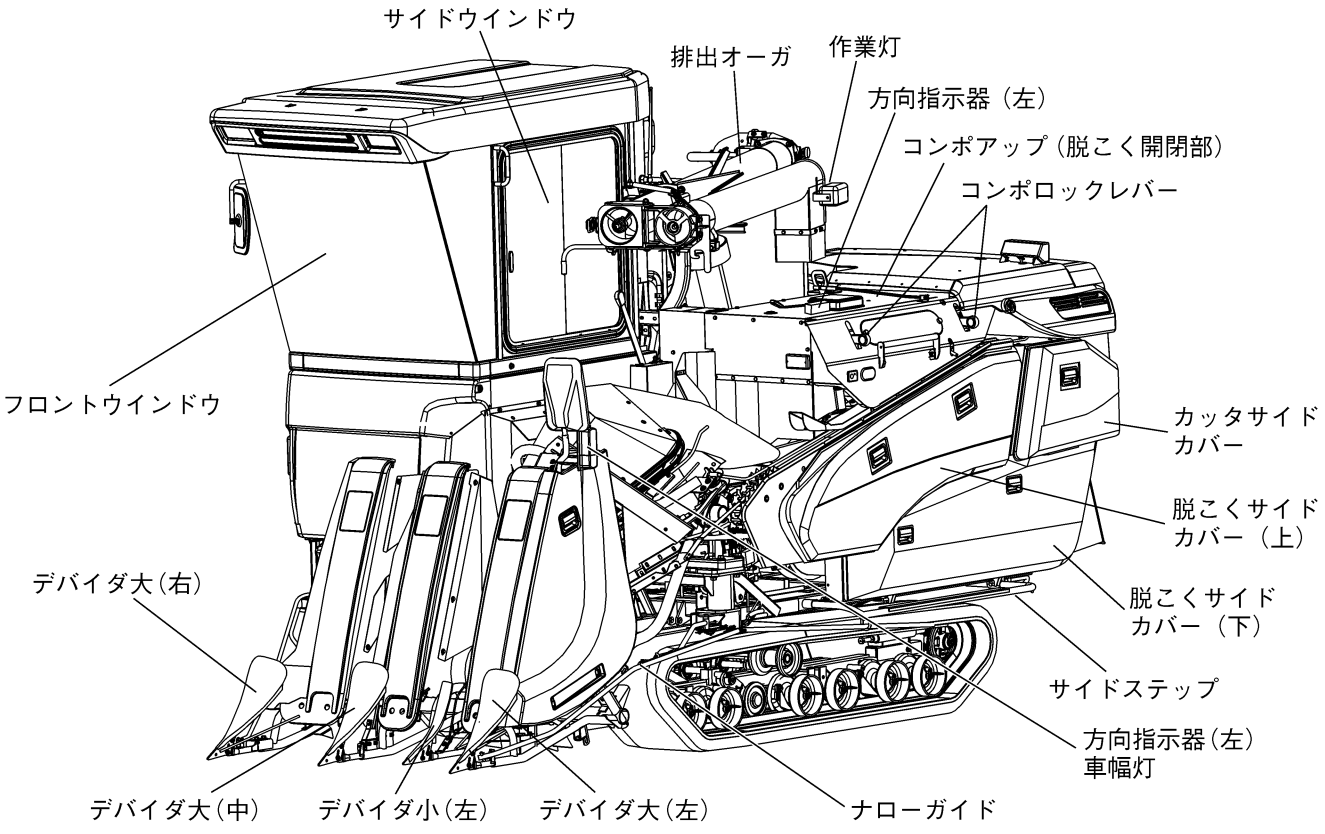
1．各部の名称

1．キャビン無し仕様



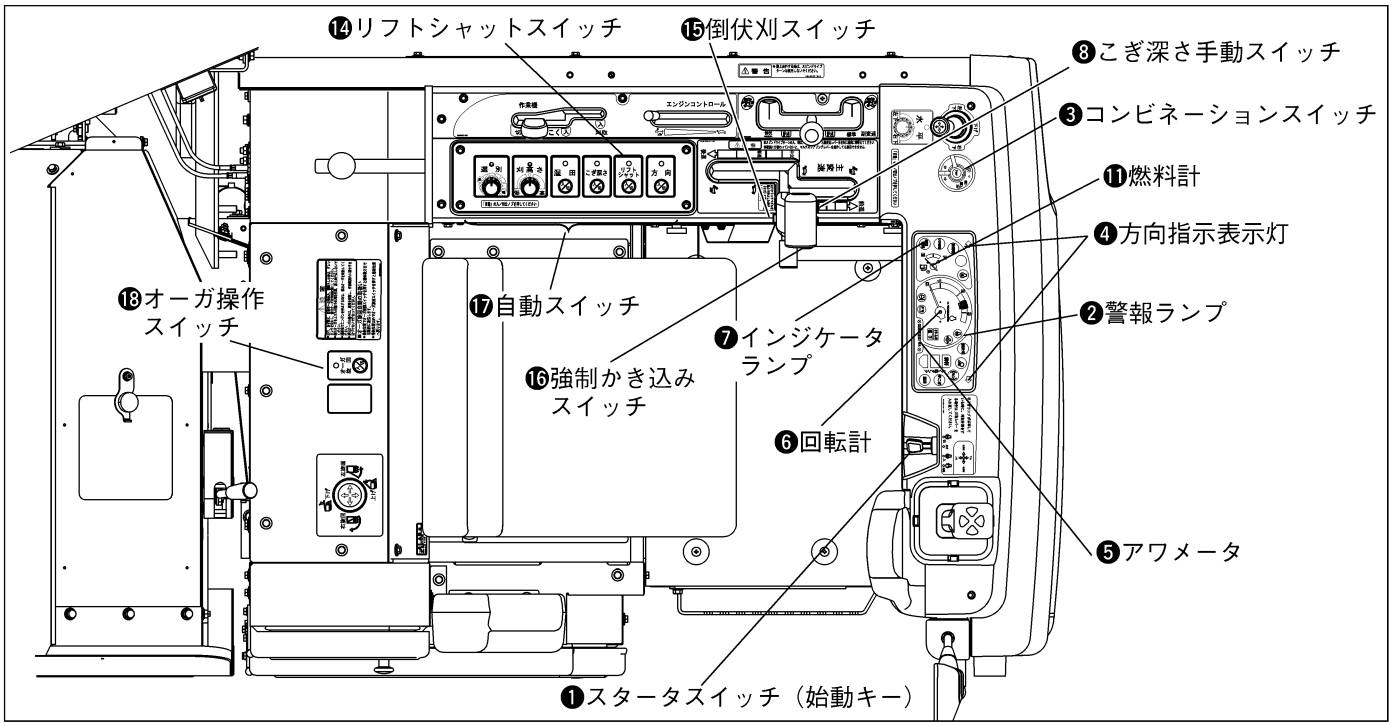
2．キャビン仕様


バックミラー
キャビン
作業灯
グレンタンク
ドアハンドル
作業灯
方向指示器（右）
バックミラー
エンジンカバー
クローラ
方向指示器（右）
（車幅灯）
前照灯
ナローガイド（右）
バンパ


サイドウインドウ
排出オーガ
作業灯
方向指示器（左）
コンポアップ（脱こく開閉部）
コンポロックレバー
フロントウインドウ
カッタサイド
カバー
脱こくサイド
カバー（上）
デバイダ大（右）
脱こくサイド
カバー（下）
サイドステップ
方向指示器（左）
車幅灯
デバイダ大（中）
デバイダ小（左）
デバイダ大（左）
ナローガイド

2．運転装置の取扱い

1．スイッチ・計器関係



❶　スタータスイッチ（始動キー）

《 **切**》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを《 **切**》にするとエンジンが停止します。

《ＡＣＣ》……アクセサリ

カーステレオとシガライターが使用できます。

《 **入**》……電源入（運転中・予熱）

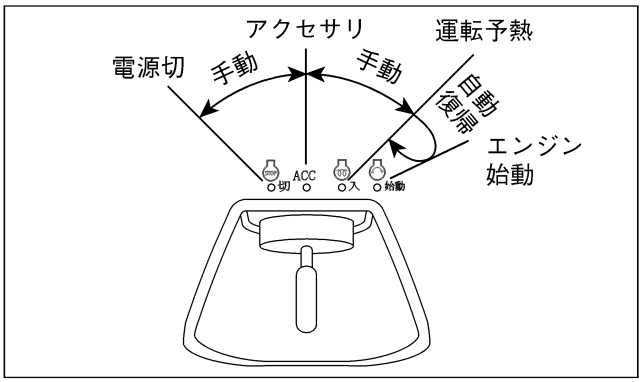
スタータスイッチを《 **入**》にすると，メータ内の予熱ランプが点灯し，エンジンを予熱します。

約 6 秒後に消灯して，予熱が完了します。

《 **始動**》……エンジン始動

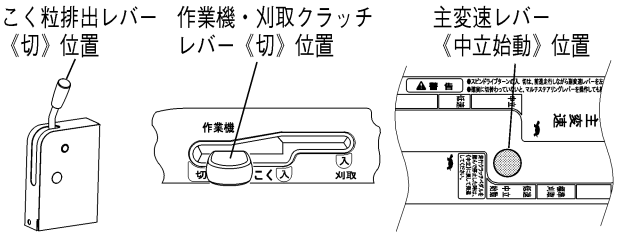
スタータスイッチを《 **始動**》位置に回すと，エンジンが始動します。

手を放せば，自動的に《 **入**》位置に戻ります。



取扱いのポイント

●主変速レバーを《中立始動》（前進側中立）位置にし，作業機・刈取クラッチレバー［キャビン仕様以外］は更にこく粒排出レバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。

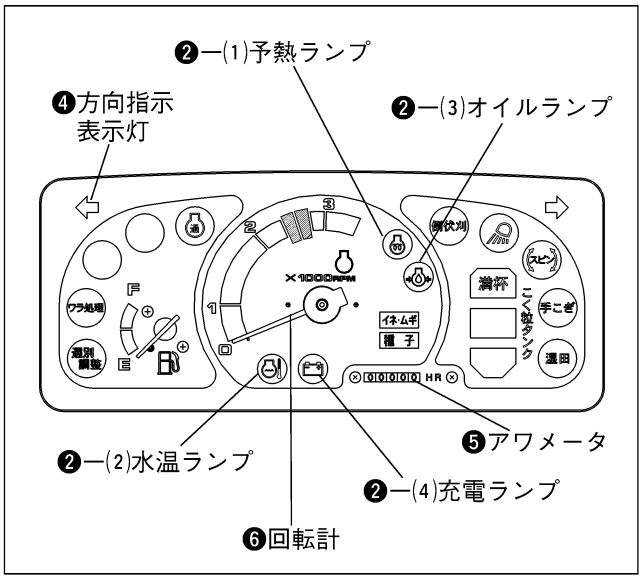


❷ 警報ランプ

(1) 予熱ランプ



スタータスイッチを《 入》位置にすると，点灯してエンジンの予熱の状態を示します。約6秒後に消灯し予熱が完了します。



(2) 水温ランプ



エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）すると，「点灯」し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- 運転中にランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。(警報ブザーは連続音から断続音になります)
- 冷却水温度が下がり，ランプが消灯したら，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンカバー，ラジエータフィン，オイルクーラフィン等のラジエータ吸気部のゴミ付着（100ページ参照）・エンジンファンベルトの張り（145ページ参照），および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。

(3) オイルランプ



エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば「点灯」します。

正常なときは，スタータスイッチを《 入》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- 運転中に点灯したときは，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。（89〜90ページ参照）
  オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

(4) 充電ランプ



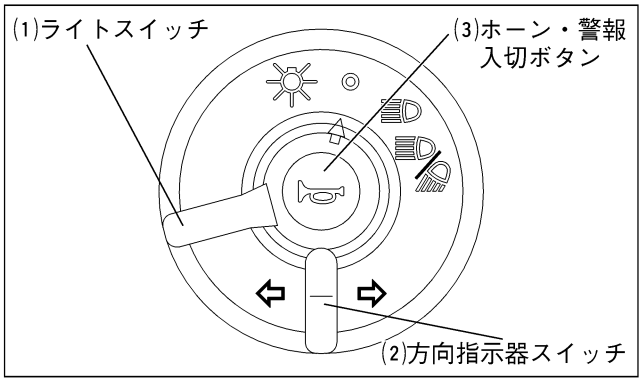
エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

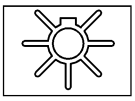
正常なときは，スタータスイッチを《 入》位置にすると「点灯」し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，エンジンファンベルトの張りを点検し，調整してください。(145ページ参照)
- エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。直ちに「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

❸ コンビネーションスイッチ



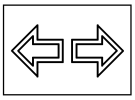


(1) **ライトスイッチ**

《 ◎ 》……消灯

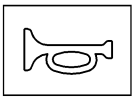
《 ≡D 》……回転計の照明・前照灯が点灯します。

《 ≡D/D 》……回転計の照明が点灯し，前照灯およびすべての作業灯が点灯します。



(2) **方向指示器スイッチ**

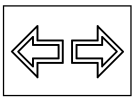
右折，左折のときに使用します。



(3) **ホーン・警報入切ボタン**

・スタータスイッチを《 **入** 》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

・こく粒タンクランプの点灯（タンク満杯），および警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴り止みます。



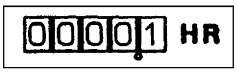
❹ 方向指示表示灯

方向指示器が点滅すると同時に点滅します。

取扱いのポイント

●つぎの場合は，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。右記の方法で警報を解除してください。

警報機能	解除方法
・水温ランプ点灯（オーバーヒート）	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」し，スタータスイッチ（始動キー）を《 STOP 切》位置にする。
・ワラ処理ランプ点灯 （排ワラ詰まり，脱こく搬送詰まり，排ワラ切替カバー後方オープン） ランプ点滅 （ノッタひも切れ）	作業機クラッチレバーを《切》位置にする。
・エンジン回転負荷ランプ点滅 （10ページ参照）	走行速度を下げる。
・倒伏刈ランプ点滅	刈取部または脱こくフィードチェン搬送部の前部の詰まりを取除きます。



❺ アワメータ

機械の運転の積算時間（スタータスイッチ《**入**》時間）を示します。

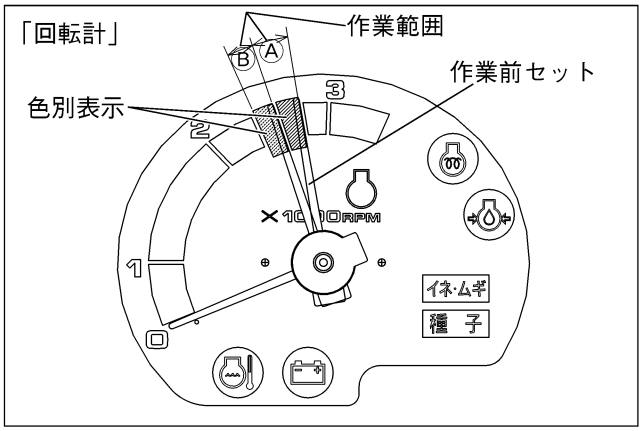
積算時間を目安に定期点検整備を行います。

❻ 回転計

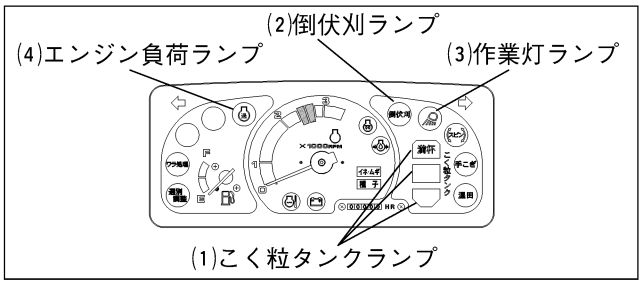
１分間のエンジン回転数を示します。

回転数は，イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦），種子など，刈取る作物によって変えます。

・イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦）の場合……Ⓐの範囲（黄色）
・種子の場合……Ⓑの範囲（緑色）



❼　インジケータランプ



(1)　こく粒タンクランプ

グレンタンク内のこく粒量を表示するランプで，こく粒量が増していくと，ランプも □ → □ → 満杯 の順に点灯します。

□ ランプが点灯した後，しばらく刈取作業を続けると，方向指示器全てが点滅します。

満杯時には，ランプの点灯と警報ブザーの断続音で知らせます。

そのまま作業を続けると，グレンタンク上側からオーバーフローし，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **最初の警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止し，グレンタンク内のこく粒を排出してください。**
- **最初の警報ブザーは，警報入切ボタンを押すと鳴り止みます。**
- **グレンタンクからモミがオーバーフローし，エンジンが停止した場合は，主変速レバーを《中立始動》位置にし，作業機・刈取クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。その後，こく粒を排出してください。**

(2)　倒伏刈ランプ　倒伏刈

主変速グリップの倒伏刈スイッチを押して《入》にすると，倒伏刈ランプが点灯し，刈取部の搬送速度が通常より速くなります。

刈取部の搬送部または脱こくフィードチェン搬送部の前部に詰まりが発生すると，ランプが点滅し，警報ブザーの断続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **通常の刈取りで刈取部の搬送速度が最高速に達しているときは倒伏刈スイッチを《入》としても，それ以上は速くなりません。**
- **搬送部に詰まりが発生した場合は，スタータスイッチを《 STOP 切》位置にし，詰まりを取除いてください。**
- **主変速レバーを《中立始動》位置にし，作業機・刈取クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。**

(3)　作業灯ランプ

スタータスイッチを《 入》位置にし，コンビネーションスイッチを２段回すと作業灯表示ランプが点灯し，作業灯が点灯します。

・路上走行時は，作業灯を消灯します。

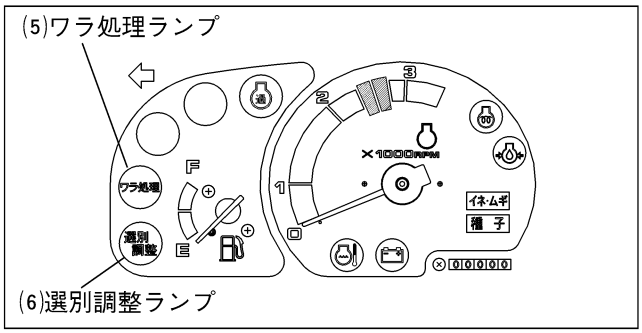
(4)　エンジン負荷ランプ　過

エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がると，モニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅し警報ブザーの断続音が鳴ったら，主変速レバーで走行速度を下げます。

取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を下げて，エンジンの負荷を軽くすると，ブザーは鳴り止みます。**

(5) ワラ処理ランプ



脱こくフィードチェン終端部または排ワラチェン終端部の詰まり発生や排ワラ切替カバーが後方オープンしていると，ワラ処理ランプが点灯し，警報ブザーの連続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **エンジンが停止したら，スタータスイッチを《STOP 切》位置にし，詰まりを取除いてください。**
- **主変速レバーを《中立始動》位置にし，作業機・刈取クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。**

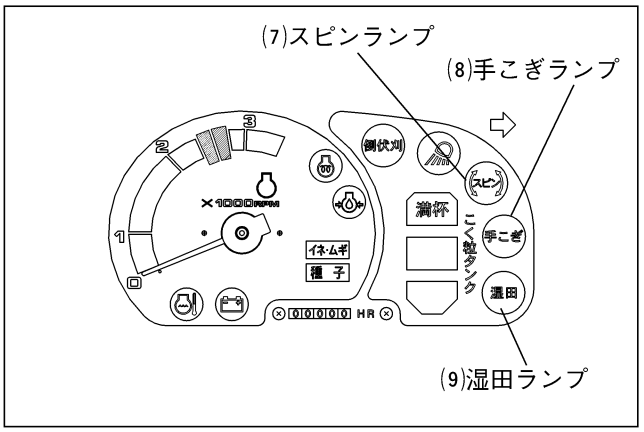
(6) 選別調整ランプ

選別部に処理能力以上のこく粒等がある時に点滅します。作業速度を下げるか，選別ダイヤルを「**開**」側に回します。

取扱いのポイント

- **処理後もランプが点滅する時は，「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

(7) スピンランプ



副変速レバーをスピン位置にするとランプが点灯し，マルチステアリングレバーを左，右にいっぱいに倒した状態にするとスピンターンが作動します。

(8) 手こぎランプ

脱こく部入口にある手こぎスイッチを押すと，手こぎモードになり，フィードチェンが回転を始めると，ランプが点滅し手こぎ作業ができます。

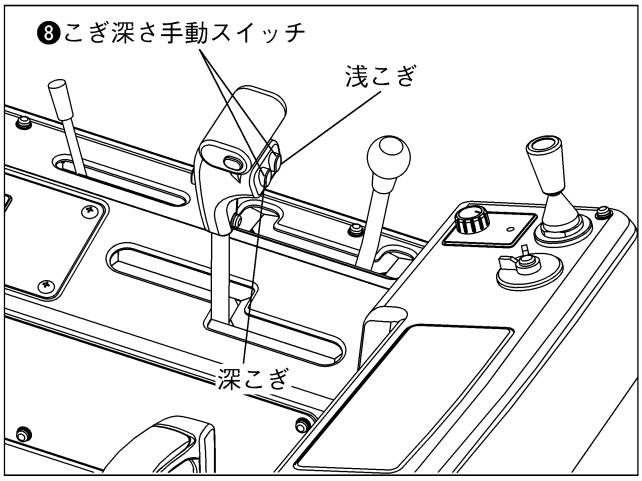
(9) 湿田ランプ

湿田スイッチを《**入**》にすると点灯します。

湿田などでの緩旋回時に旋回側クローラが停止するようなときに使用します。

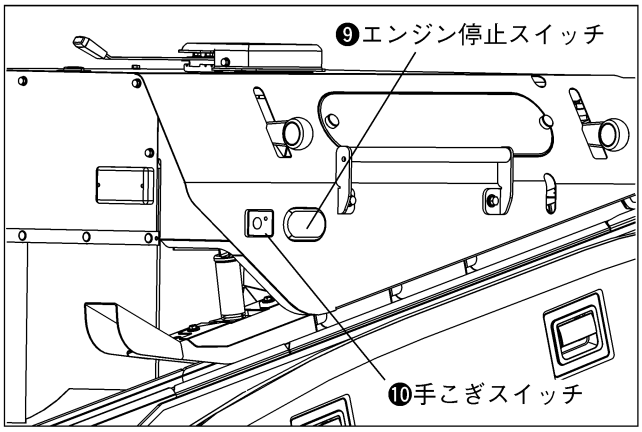
❽　こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さに合わせて，脱こく部へ供給される作物の穂の位置を，手動で調整するスイッチです。



❾　エンジン停止スイッチ

手こぎ作業時などのトラブル発生時に，このスイッチを押すと，エンジンが停止します。



取扱いのポイント

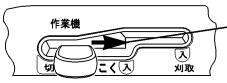
- **エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《 STOP 切》位置にしてください。そのまま放置すると，バッテリが上がります。**

❿　手こぎスイッチ

作業機・刈取クラッチレバーが刈取《**入**》位置で刈取搬送，脱こくフィードチェン搬送が停止している時，手こぎスイッチを押すと，脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となり，手こぎ作業ができます。再度手こぎスイッチを押すとフィードチェン搬送が停止します。

取扱いのポイント

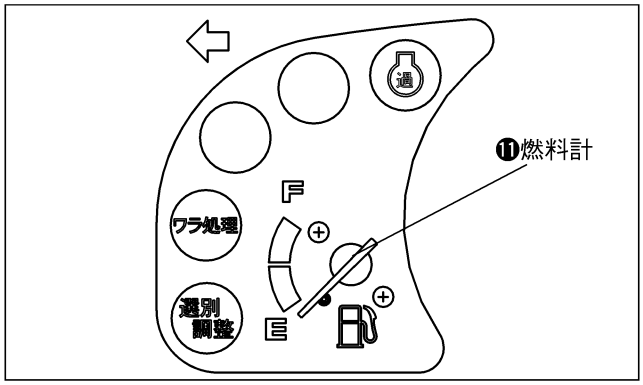
- **手こぎ作業をするときは，作業機・刈取クラッチレバーを脱こく《入》位置で行なってください。**



⓫　燃料計



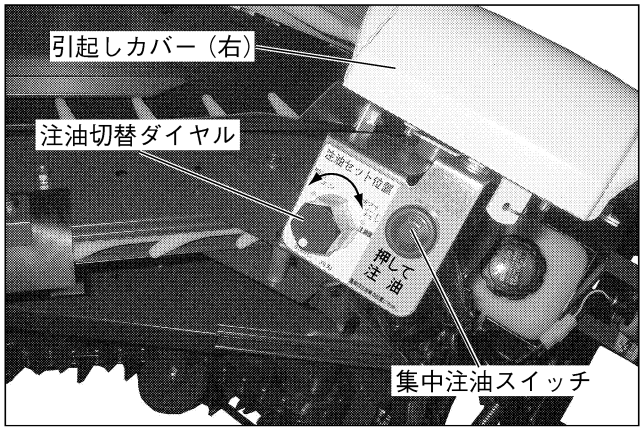
スタータスイッチが《 入》位置のとき作動し，タンク内の燃料の量を示します。《**F**》は満量（約42L），《**E**》（ラベル下限）では約５～６Ｌの油量を示します。



取扱いのポイント

- **燃料計が《Ｅ》近くになったら早目に燃料を補給してください。**

⓬　集中注油スイッチ（注油切替ダイヤル）



- 集中注油スイッチを押している間だけモータが作動し、刈刃やチェン類に注油します。
- 注油切替ダイヤルを回し，注油個所（搬送チェン，引起しチェン，刈刃，排ワラフィードチェン，注油後）の切換えを行います。（詳細は，99ページ参照）

⓭　油圧固定スイッチ

⚠警告　傷害事故防止のために

◆刈取部を上げて，その下で整備等するときは，エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，フックをかけてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚などをおいて作業してください。

◆油圧固定スイッチを《下る》の位置にすると，マルチステアリングレバーの操作に関係なく,刈取部は下がります。通常はスイッチを《下る》の位置にしないでください。

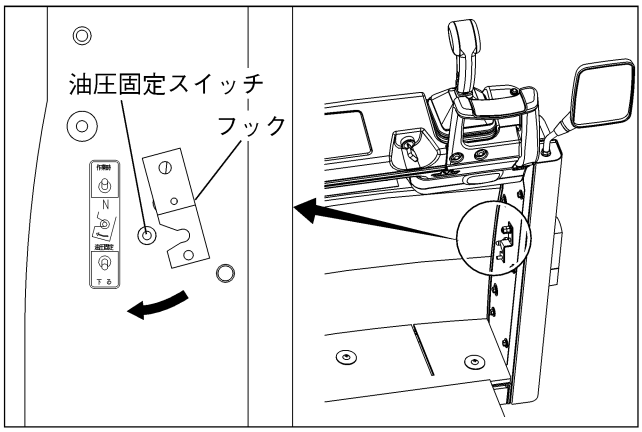
◆油圧固定スイッチを操作するときは，刈取部付近に人がいないことを確認してください。

刈取部の「**上げ**」・「**下げ**」を固定します。

・《**油圧固定**》位置にすると，マルチステアリングレバーを操作しても作動しません。《**油圧固定**》位置にしたときはフックをかけてください。路上を走行するときは,《**油圧固定**》位置で使用します。

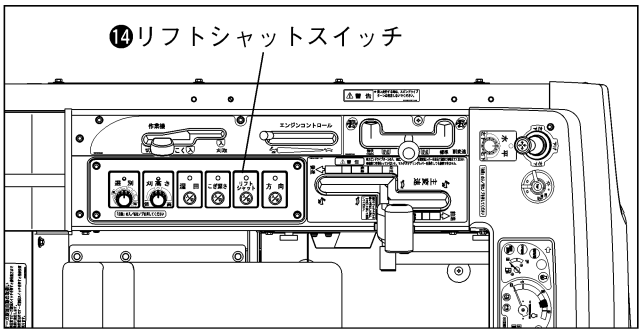
・作業時には，油圧固定スイッチを《**作業時**》の位置で使用します。

・刈取部をオープンするときは，油圧固定スイッチを《**下る**》の位置で使用します。



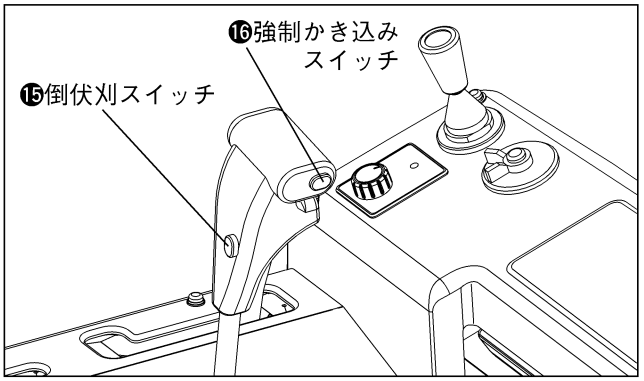
⓮　リフトシャットスイッチ

刈取部を上げると刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構がリフトシャットです。リフトシャットスイッチの《**入**》《**切**》操作でリフトシャットの《**入**》《**切**》の切替を行います。



取扱いのポイント

- **あぜぎわや枕地刈りのときは，リフトシャットを《切》にして行なってください。**
- **刈取り作業をする前に，リフトシャットの作動を確認してから，作業を始めてください。**



⓯　倒伏刈スイッチ

倒伏刈取作業などで，刈取部の搬送速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押してください。音が鳴ると同時に前パネルの倒伏刈ランプが点灯します。再度倒伏刈スイッチを押すと，音が鳴り倒伏刈ランプが消灯し通常の搬送速度になります。

取扱いのポイント

- **副変速《倒伏》は刈取部・搬送の速度が増速されますので，通常は，倒伏刈スイッチを使用する必要はありません。**
- **倒伏刈スイッチは，主変速《標準刈取》範囲で使用すると搬送姿勢が安定した刈取作業ができます。**

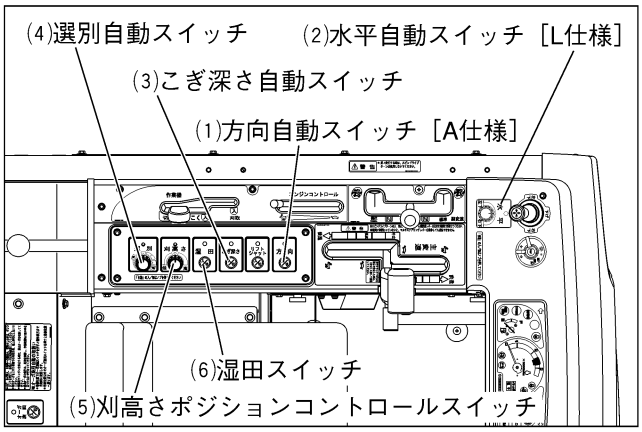
⑯ 強制かき込みスイッチ

走行停止状態または後進時に刈取搬送および脱こくフィードチェンを作動させたいときは，強制かき込みスイッチを押してください。押している間作動します。

取扱いのポイント

- **刈取走行中は強制かき込みスイッチを操作しないでください。搬送部の詰まりなどの原因になることがあります。**

⑰ 自動スイッチ



(1) 方向自動スイッチ［A仕様］

方向自動を使用するときは，スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。（詳細は，67～68ページ参照）

(2) 水平自動スイッチ［L仕様］

水平自動を使用するときは，スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。

水平自動スイッチを「**切**」（ランプ消灯）にしたら，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。（詳細は，70～71ページ参照）

(3) こぎ深さ自動スイッチ

スタータスイッチを《 **入**》位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。
（詳細は，66～67ページ参照）

(4) 選別自動スイッチ

スタータスイッチを《 **入**》位置にすると，ランプが点灯し，選別自動が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。
（詳細は，72ページ参照）

(5) 刈高さポジションコントロールスイッチ

刈高さポジションコントロールを使用する時はスイッチを押してランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，刈高さポジションコントロールは働きません。

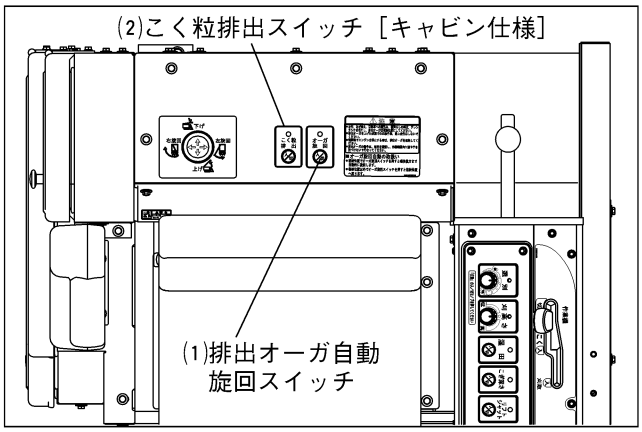
・刈高さポジションコントロールは刈取部を機体に対して一定の高さに保つ機能です。

(6) 湿田スイッチ

湿田スイッチを使用するときは，スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，標準旋回となります。

・湿田スイッチは湿田などでの緩旋回時に旋回側クローラが停止するようなときに使用します。スイッチを「**入**」にすると，減速ターン領域での旋回側の駆動力がアップして，確実な減速ターンができます。

⑱ オーガ操作スイッチ



(1) **排出オーガ自動旋回スイッチ**

・排出オーガ収納位置で，自動スイッチを押すと，排出オーガが機体後方まで，自動的に旋回します。

・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。

・排出オーガ自動旋回中，または自動収納途中で旋回停止を行う場合は，再度，自動スイッチを押すと停止します。

取扱いのポイント

- **スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れがないか，確認してください。**
- **自動旋回および収納が故障のときは，排出オーガ操作レバー（詳細は，24ページ参照）によって，手動で操作してください。**

(2) **こく粒排出スイッチ［キャビン仕様］**

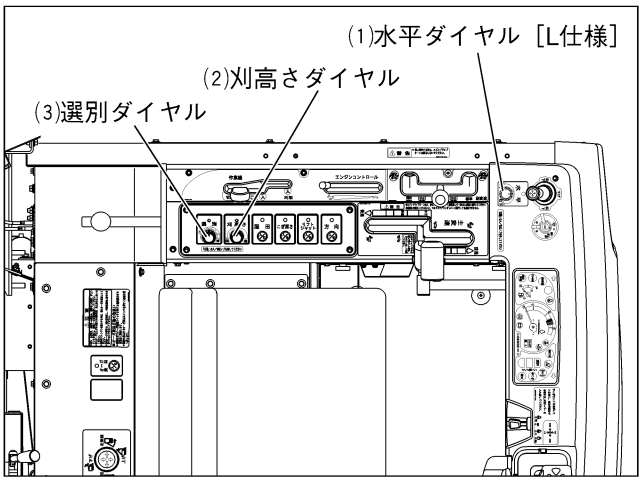
スイッチを押すとランプが点灯し，グレンタンク内のこく粒を排出します。再度スイッチを押すとランプが消灯し，排出を停止します。

取扱いのポイント

- **こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「色別表示」に合わせて行なってください。回転が低いと，詰まりの原因となります。**

⑲ 自動調整ダイヤル（スイッチ一体型）

各自動制御の調整ダイヤルが，装備されています。



(1) **水平ダイヤル［L仕様］**

水平自動「**入**」の時，水平ダイヤルの操作によって，機体を一定の角度に傾斜させた状態に，制御をすることができます。

・ダイヤルを《**右下り**》の方向に回すと，機体は右下がりになります。

・ダイヤルを《**左下り**》の方向に回すと，機体は左下がりになります。

(2) **刈高さダイヤル**

・刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，希望する「**刈高さ位置**」を設定することができます。

・刈高さダイヤルは，通常《**標準**》（●マーク）位置で使用します。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールを使用しないときは，スイッチを押して《切》で使用します。（モニタランプを消灯してください）**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションコントロールが設定できないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

⑶ 選別ダイヤル

刈取る作物に合わせて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。

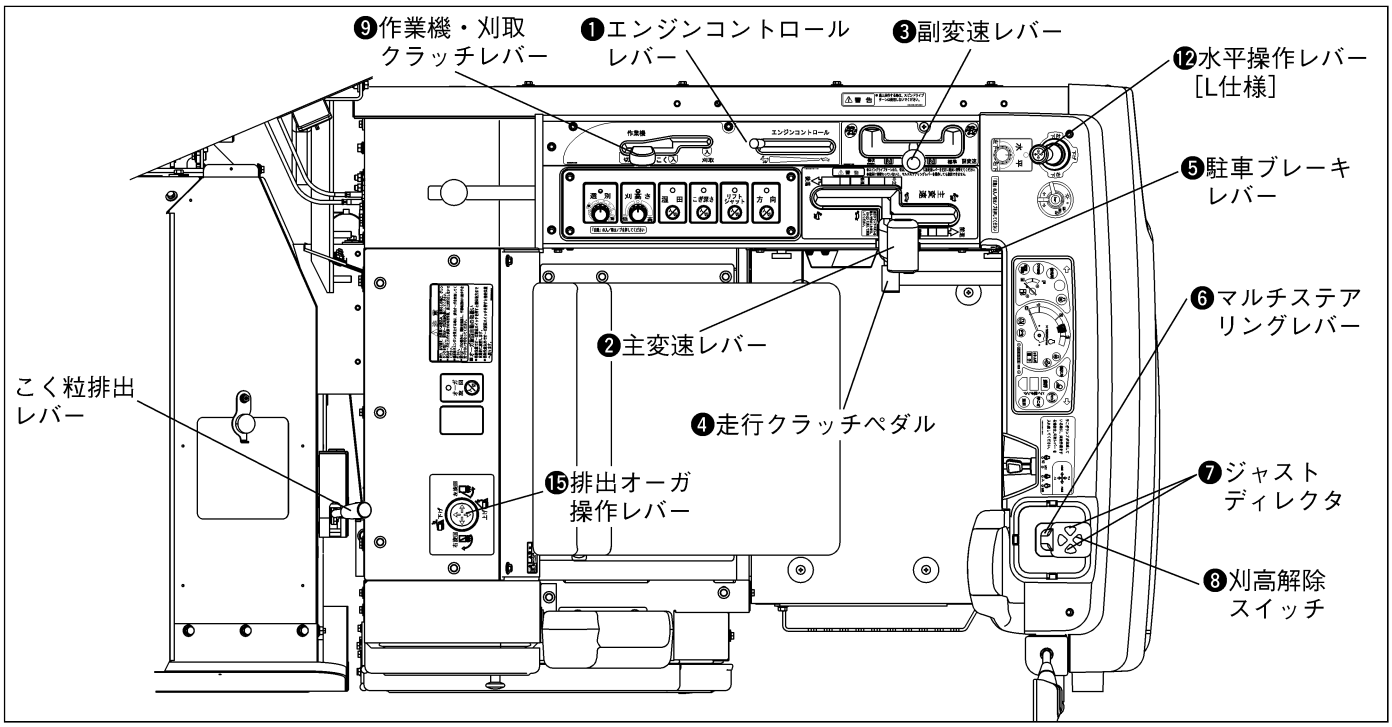
《麦》－通常のムギ刈り作業は，この位置で行います。

《稲》－通常のイネ刈り作業は，この位置で行います。

取扱いのポイント

- 選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。
- 選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。
- 選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。
- スタータスイッチを《 入》にして，選別自動スイッチのランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。
- ⓱，⓲，⓳の詳細は，自動装置についての項（66～75ページ）を参照してください。
- ダイヤル付自動スイッチはダイヤルノブを押すことにより自動の「入」・「切」ができます。

2．ペダル・レバー関係



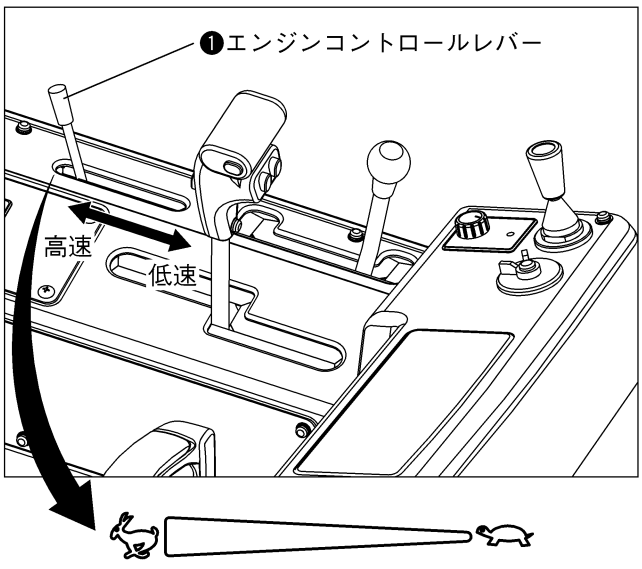
❶　エンジンコントロールレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。

・「**始動**」のときは……エンジンコントロールレバーを手前に引き，《🐇》（**高速**）の位置にしてエンジンを始動します。

・「**作業**」のときは……適正回転数になるよう回転計の指針を合わせます。

・「**停止**」のときは……《🐢》（**低速**）の位置にしてエンジンを停止します。

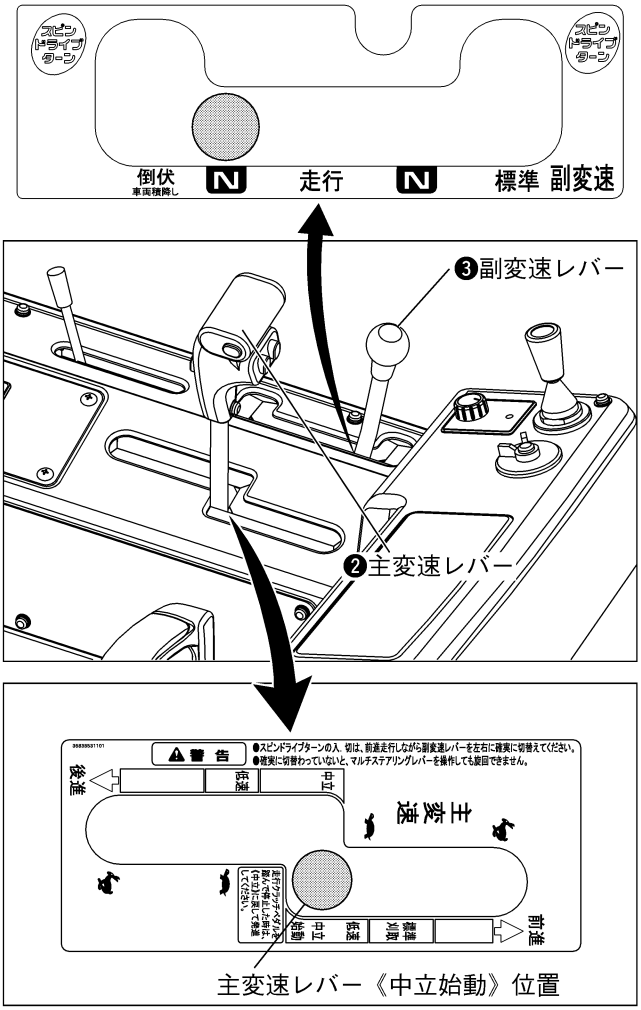


❷　主変速レバー

> ⚠警告　傷害事故防止のために
>
> ◆走行中，主変速レバーを急激に増速・減速の操作をしないでください。
>
> ◆前後進の切替えは，機械が停止してから行なってください。
>
> ◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。前進・後進いずれも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

エンジンの始動は，主変速レバーを《**中立始動**》（**前進側中立**）位置にし，作業機・刈取クラッチレバー（［**キャビン仕様以外**］は更にこく粒排出レバー）を《**切**》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとできません。



作業内容	副変速	主変速
積込み, あぜ越え	車両積降し 倒伏	[中立]から[前進・低速]
積降ろし		[中立]から[後進・低速]
路上, ほ場走行(前進)	倒伏 標準 走行	[中立]から発進し, その場の状況に応じ順次速度を上げる。
路上, ほ場走行(後進)	倒伏 標準	
刈取時の後進		
標準刈取り	標準	[中立]から[標準刈取]
倒状刈取り	倒伏 標準	[中立]から[低速]または[標準刈取]
集中注油	N［中立］	[中立]から[標準刈取]

取扱いのポイント

- **副変速レバー《走行》で急旋回すると，主変速レバーが戻ることがありますので,《走行》では急旋回しないでください。**

❸ 副変速レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆スピンドライブターンの「入，切」は，ゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください。確実に切替わっていないと，マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません。

◆路上走行する時はスピンドライブターンは使用しないでください。

作業目的や刈取り条件により《**倒伏・車両積降し**》(**低速**),《**標準**》(**中速**),《**走行**》(**高速**) の 3 段に変速ができます。

- 副変速レバー操作は,主変速レバーを《**中立**》にして，走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。
- 自動車への積込み・積降ろし，ほ場への出入りは《**倒伏・車両積降し**》位置で行います。
- 刈取り作業は《**倒伏・車両積降し**》，または《**標準**》位置で行います。《**走行**》位置での刈取り作業はできません。
- 見通しが良く平坦な道路では《**走行**》位置で走行します。狭い道路や凹凸のある道路は《**倒伏・車両積降し**》または《**標準**》で走行します。
- 「**スピンドライブターン**」とは，左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。《**スピンドライブターン**》への切替えは，《**倒伏**》又は,《**標準**》位置で，走行クラッチペダルを踏まずにゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左に確実に切替えます。

❹ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。

◆走行クラッチペダルを踏んで停止したときは，主変速レバーを《中立》に戻してください。戻さないで発進すると，急発進することがあります。

走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）をいっぱい踏込むと，トランスミッションへの動力が断たれ，ブレーキがかかる構造になっています。

つぎの操作を行うときには，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで行います。

・エンジンを始動するとき。

（主変速レバーを《**中立始動**》（**前進側中立**）位置にし，作業機・刈取クラッチレバーを（［**キャビン仕様以外**］は更にこく粒排出レバー）《**切**》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないと，エンジンは始動しません。）

・副変速レバーを操作するとき。

取扱いのポイント

- **主変速レバーは走行クラッチペダルを踏まなくても操作できます。**
- **走行クラッチペダルを半クラッチ状態で使用すると，走行ベルトが焼損する恐れがあります。**

❺ 駐車ブレーキレバー

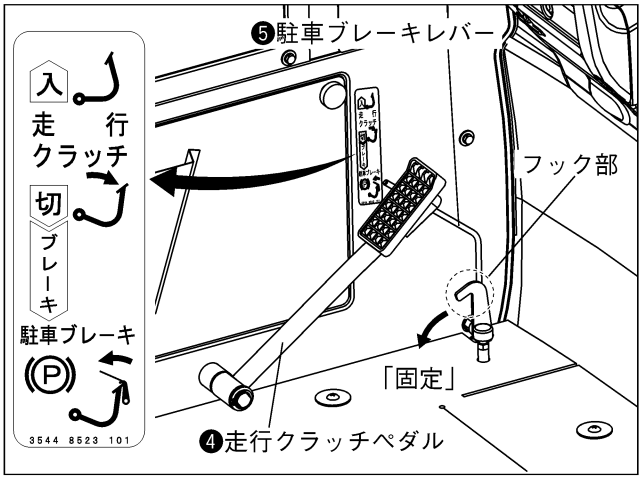
⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では，駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「歯止め」をします。

◆駐車ブレーキは，自動車への積込み，積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。機械がずり落ちることがあります。

駐車するときに使用します。走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，レバーを操作してペダルに駐車ブレーキレバーのフック部をかけます。

解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，自動的に駐車ブレーキレバーのフックが外れます。



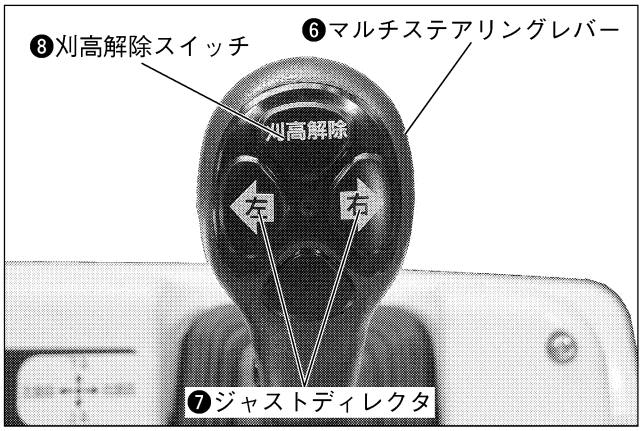
取扱いのポイント

- **機械を駐車するときは走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで駐車ブレーキレバーを「固定」方向に倒してフックを掛けてください。**

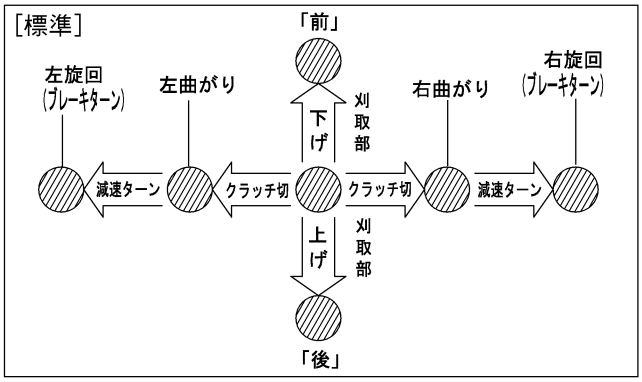
❻ マルチステアリングレバー

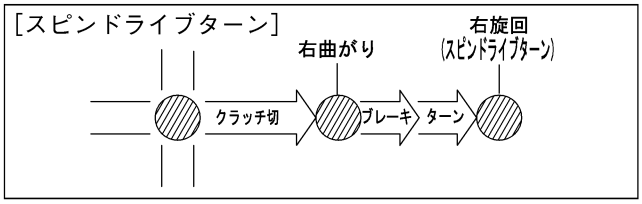
⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回するときは，主変速レバーで速度を落として行なってください。
◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



・レバーの左右操作で「**旋回**」，前後操作で刈取部の「**上げ**」「**下げ**」ができます。





・マルチステアリングレバーを浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。

取扱いのポイント

- **マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。**

❼ ジャストディレクタ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。ジャストディレクタを操作すると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。

マルチステアリングレバーに内装されています。

・ジャストディレクタの《**左**》を押すと左方向に，《**右**》を押すと右方向に機械の進行方向を修正します。
・刈始めの条合わせや，刈取り中の微調整に使用します。

取扱いのポイント

- **ジャストディレクタと，マルチステアリングレバーとの併用はできません。マルチステアリングレバー操作が優先します。**
- **ジャストディレクタは旋回力が小さいので，旋回には使用しないでください。**

❽ 刈高解除スイッチ

刈高さポジションコントロールで設定された刈高さを，解除するスイッチです。

刈高解除スイッチを押しながら，マルチステアリングレバーを《**下げ**》にすると，刈取部は刈高さポジションコントロール位置に関係なく，通常のマルチステアリングレバー操作の「**下げ**」となります。

取扱いのポイント

- **レバーの刈高解除スイッチの操作については，「刈高さポジションコントロール」(69〜70ページ）を参考にしてください。**

❾ 作業機・刈取クラッチレバー

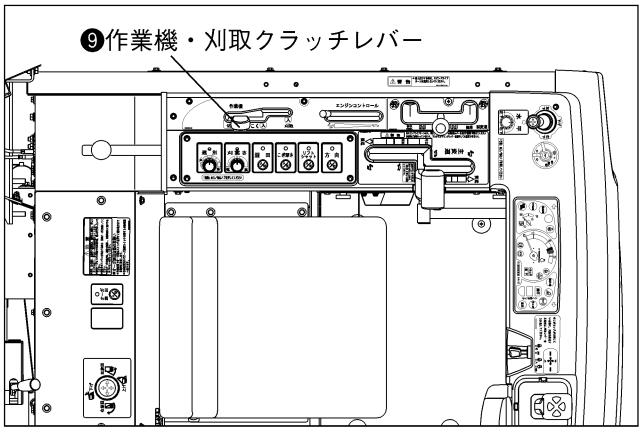
⚠警告 傷害事故防止のために

◆作業機・刈取クラッチレバーを《入》に操作するときは，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。

◆エンジンを始動する場合は，作業機・刈取クラッチレバーを《切》にしてください。

・作業機・刈取クラッチレバーを脱こく《**入**》位置にすると脱こく部が作動します。

・作業機・刈取クラッチレバーを刈取《**入**》位置にすると，脱こく部に連動して刈取部が作動します。また作業機・刈取クラッチレバーを《**切**》にすると，刈取部と脱こく部が停止します。

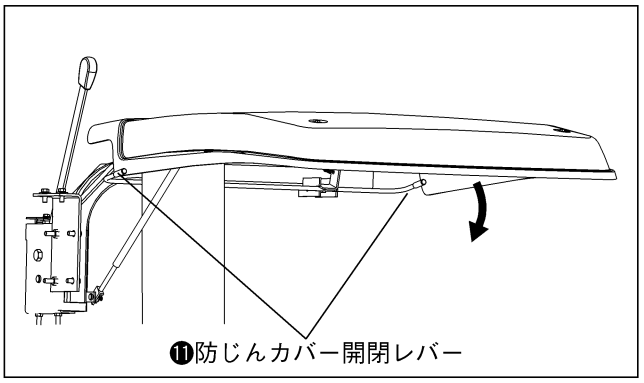


取扱いのポイント

●刈取り作業を行うとき，回転計のそれぞれの「色別表示」（作業範囲）以下では《入》位置にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。

❿ 防じんカバー開閉レバー［C仕様を除くA仕様］

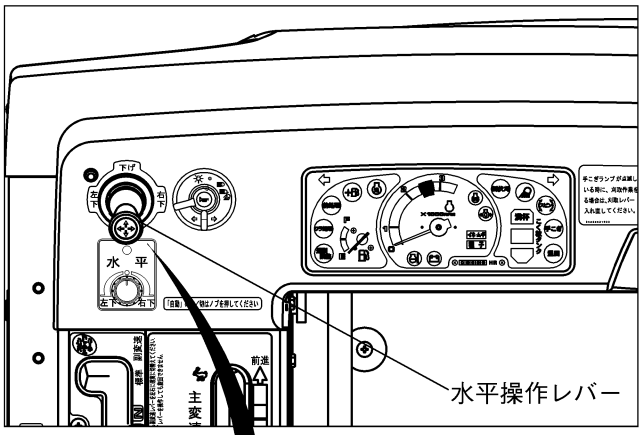
防じんカバーを上げる時に使用します。このレバーは運転席側と機体左側（下図）で操作できます。下げる時はカバー上部を持って押し下げます。

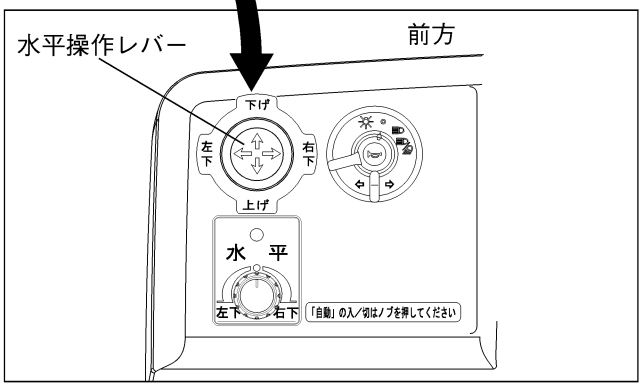


⑫　水平操作レバー［L 仕様］

機体の「**上げ**」「**下げ**」「**右下げ**」「**左下げ**」をします。

・レバーを《**上げ**》の方向に倒すと，機体が上がります。
・レバーを《**下げ**》の方向に倒すと，機体が下がります。
・レバーを《**右下**》の方向に倒すと，機体が右傾斜します。
・レバーを《**左下**》の方向に倒すと，機体が左傾斜します。

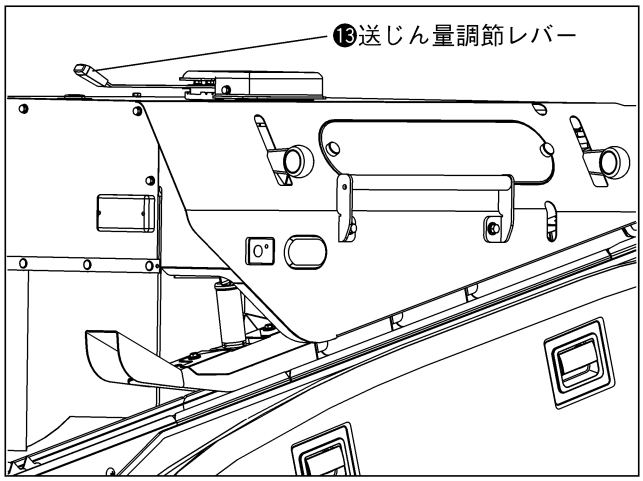


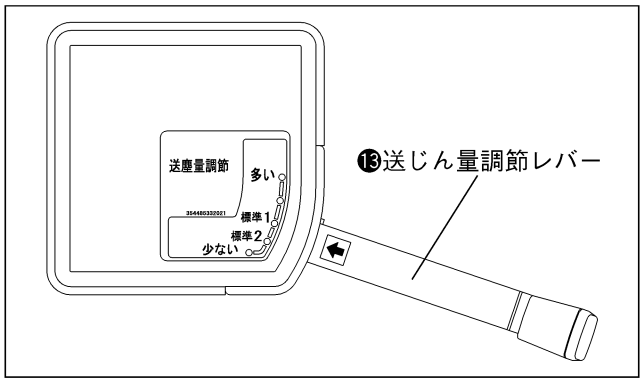


取扱いのポイント

●**刈取り作業時以外は，水平操作レバーで機体を一番下まで下げて使用してください。**

⑬　送じん量調節レバー





こぎ室の送じん量を調節します。

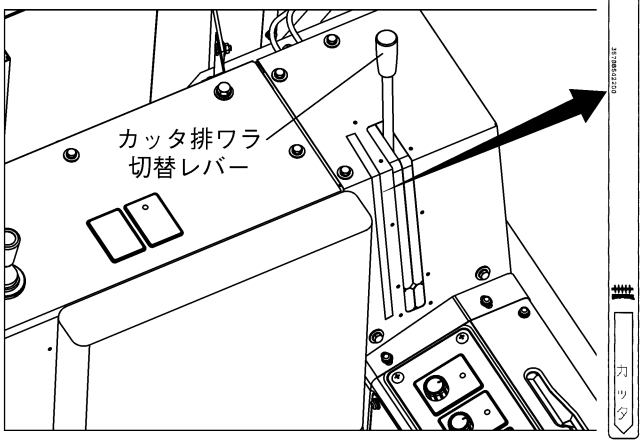
《**標準 1**》位置で作業を始め，作業の状態に合わせて調節します。

・モミに枝梗付着があるときは，《**標準 2**》位置で使用します。
・モミに枝梗付着が多いときは，《**少ない**》側で使用します。
・こぎ室内でゴトゴト音がして送じんがスムーズでないときは，レバーを《**多い**》側で使用します。（倒伏時など）

⓮ カッタ排ワラ切替レバー

カッタ作業または排ワラ作業の切替えをするレバーです。

・切替え操作は作物が搬送途中にないことを確認してから行います。



《**カッタ**》……ワラをカッタで切断します。

《**排ワラ**》……ドロッパ作業，ワラをそのまま排出する作業。

⓯ 排出オーガの延長折りたたみ操作レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガの延長操作をする時は，平坦な場所に駐車しエンジンを停止して，排出オーガが固定されていることを確認してください。

◆排出オーガを延長する時は，連結部に手を入れないでください。

◆路上走行する時は，排出オーガを折りたたんで固定し走行してください。

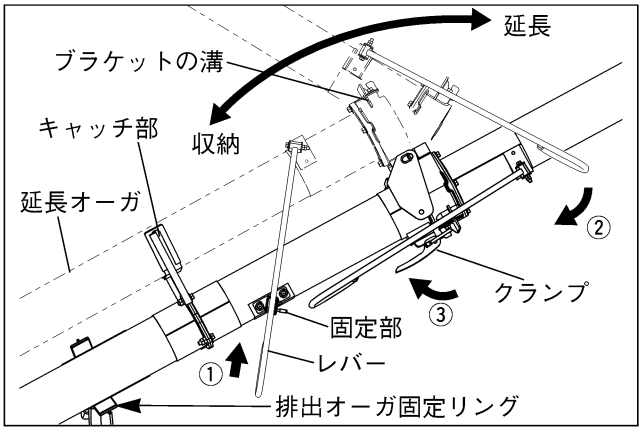
［キャビン無し仕様］

「延長のしかた」

① レバーを固定部より外し，延長オーガを押し出します。

② レバーをブラケットの溝に差込み，オーガを右に回します。

③ 「**延長状態**」でクランプを掛け「**固定**」します。



「折りたたみかた」

・排出オーガを最上位まで上昇させて低回転で排出クラッチを《**入**》にし，残留こく粒を下降させた後，排出オーガを収納して排出オーガ固定リングで固定して,「**延長と逆順**」に行います。

① クランプを「**解除**」し，レバーを押出して延長オーガを左に回します。

② レバーをブラケットの溝より外して手前に引いて，延長オーガをキャッチ部に入れ「**収納状態**」を確認します。

③ レバーを固定部に掛けて固定します。

［キャビン仕様］

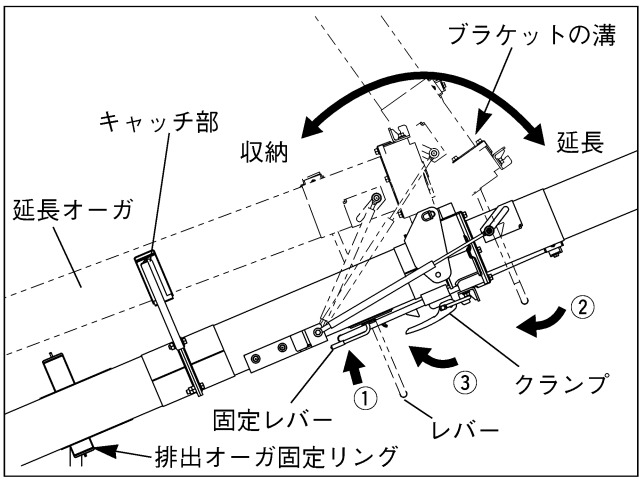
「延長のしかた」

・キャビンのスライドウインドウ（左）の前側を開けて行います。

① 固定レバーを解除してレバーを押出します。

② レバーをブラケットの溝に差込んで延長オーガを右に回します。

③ 「**延長状態**」でクランプを掛けオーガを「**固定**」した後、レバーを固定レバーで固定します。



「折たたみかた」

・排出オーガを最上位まで上昇させて低回転で排出クラッチを《**入**》にし，残留こく粒を降下させた後，排出オーガを収納し排出オーガ固定リングで固定して,「**延長と逆順**」に行います。

① 固定レバーを解除し，クランプを「**解除**」した後，レバーを押出して延長オーガを左に回します。

② レバーを手前に引き，延長オーガをキャッチ部に入れ,「**収納状態**」を確認します。

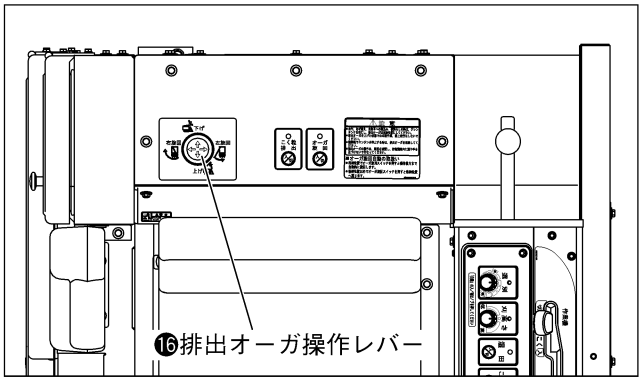
③ レバーを固定部に入れて固定レバーで固定します。

⑯ 排出オーガ操作レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガを上げたままでの路上走行や，ほ場の移動はしないでください。上げたままで走行しますと，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。

排出オーガを《**上げ**》,《**下げ**》および《**左**》旋回,《**右**》旋回させるレバーです。

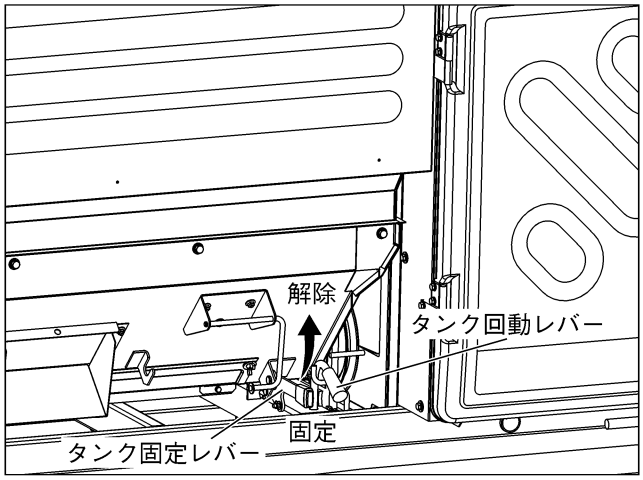


・排出オーガを旋回するときは，排出オーガを上限まで《**上げ**》てから行います。

⑰ タンク固定レバー・タンク回動レバー

グレンタンクを定位置に固定するためのレバーです。

グレンタンクを回動（オープン）するときは，タンク回動レバーを持上げると同時にタンク固定レバーのロックを解除します。



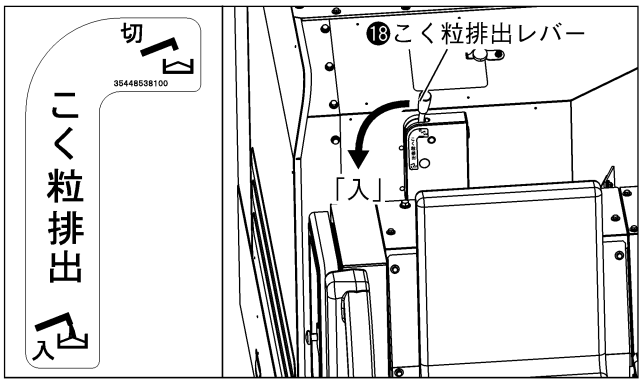
タンクを収納しタンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るとタンク固定レバーは固定状態になります。

取扱いのポイント

● **タンク固定レバーを先に外すとタンク回動レバーが外れにくくなりますので必ずタンク回動レバーを先に外してください。**

⑱　こく粒排出レバー［キャビン無し仕様］

グレンタンク内のこく粒を排出するレバーです。



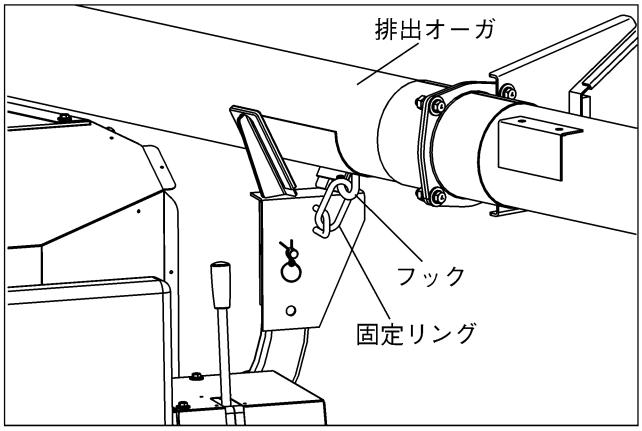
取扱いのポイント

- **こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「色別表示」に合わせて行なってください。回転が低いと詰まりの原因になります。**
- **こく粒排出レバーが《入》位置ではエンジンを始動できません。始動時には《切》位置にしてください。**

⑲　排出オーガ固定リング

排出オーガを収納状態で固定するリングです。

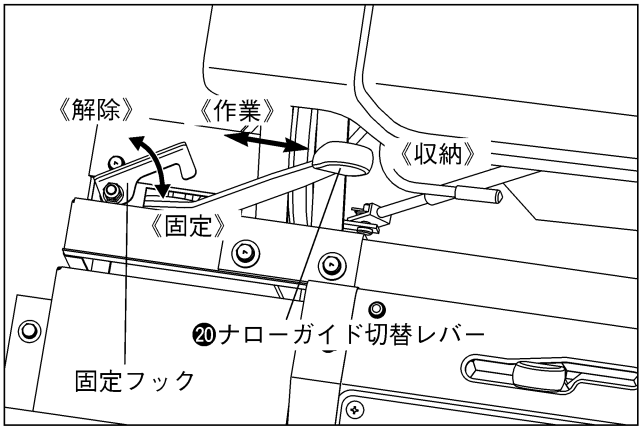
排出オーガを操作する前に，固定リングをフックより外します。排出オーガ収納時は，固定リングをフックにかけておきます。

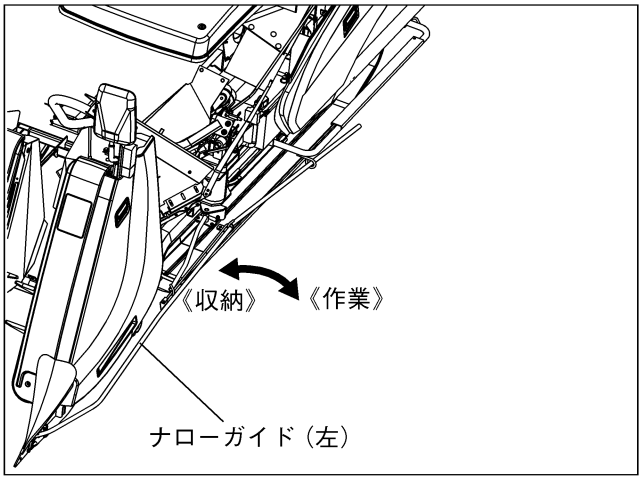


⑳　ナローガイド切替レバー

ナローガイド（左）を運転席に座ったまま操作するレバーです。

- ナローガイド切替レバーを《**作業**》にすると，ナローガイド（左）が引出され作業状態になります。
- 通常固定フックは《**解除**》の位置で作業します。
- 作業時，レバーが戻る場合は固定フックで《**固定**》にしてください。
- 通常走行は《**収納**》位置にします。





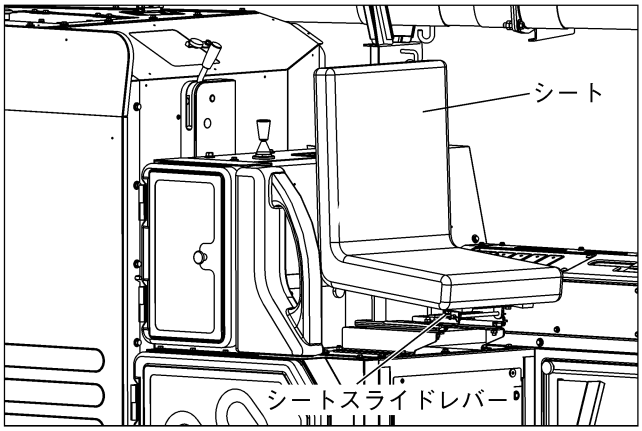
㉑ シートスライドレバー

運転者の体格に合わせ着座位置を前後にスライドさせます。

(1) レバーを上方に回動します。この状態で固定が外れます。

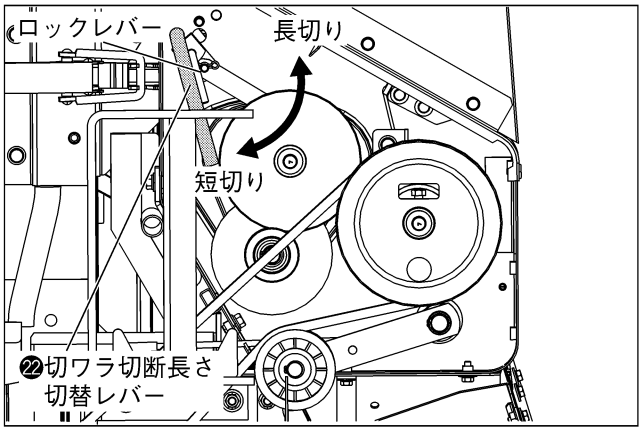
(2) シートを前後にスライドさせ，最適位置でレバーから手をはなします。

(3) その位置で固定されます。



㉒ 切ワラ切断長さ切替えレバー

ロックレバーを手前に引きながら解除し切ワラ切断長さ切替レバーの位置を変えることにより「**短切り**」,「**長切り**」に切替操作ができます。



3．電装関係

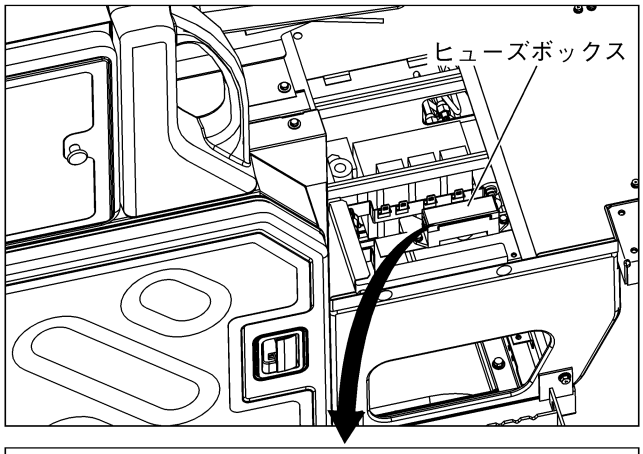
⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと,同じ容量のヒューズを使用してください。針金，銀紙などを使用すると，配線の過熱焼損の原因になります。

配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するために，ヒューズが設けてあります。

運転中,電気系統の異常を確認したときは,ヒューズの状態をチェックします。

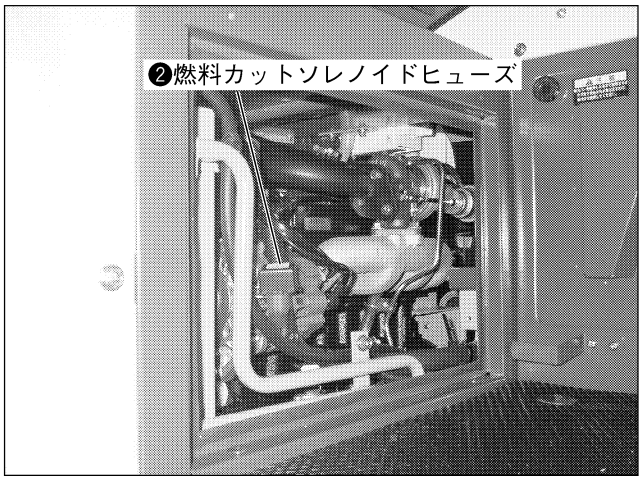
❶ ヒューズボックス内の各種ヒューズ



予備 10A	排出クラッチ オーガ 20A	こぎ深さ制御 20A	非常時電源 10A	クラッチ駆動 30A	オーガモータ 30A	搬送 20A	マイコン コイル 10A	ランプ・計器 制動灯 15A	キー切り 10A	スタータ 10A	ヒューズ抜き
予備 15A											
予備 20A	水平制御 10A	リフト 操向 10A	選別制御 20A	エアコン ワイパ 15A	アタッチ 30A	シガライター カーステ 20A	エアコン ファン 20A	作業灯 20A	フラッシャ 前照灯20A	室内灯 時計 10A	
予備 30A											3592853410001

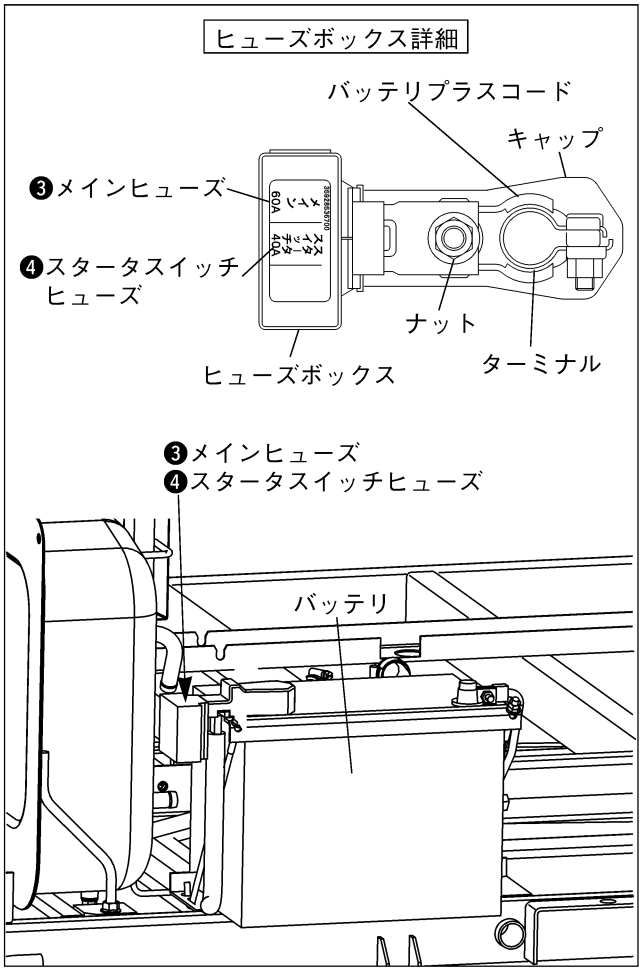
❷　燃料カットソレノイドヒューズ（50 A）

始動時に燃料供給をするためのソレノイド起動用ヒューズです。このヒューズが切れるとエンジン始動ができなくなります。



❸　メインヒューズ（60 A）

全ての電気回路の保護ヒューズです。このヒューズが切れると全ての電気回路が使用できなくなります。



❹　スタータスイッチヒューズ（40 A）

エンジン始動回路の保護ヒューズです。

このヒューズが切れると全ての電気回路が使用できなくなります。

❺　ヒューズの交換

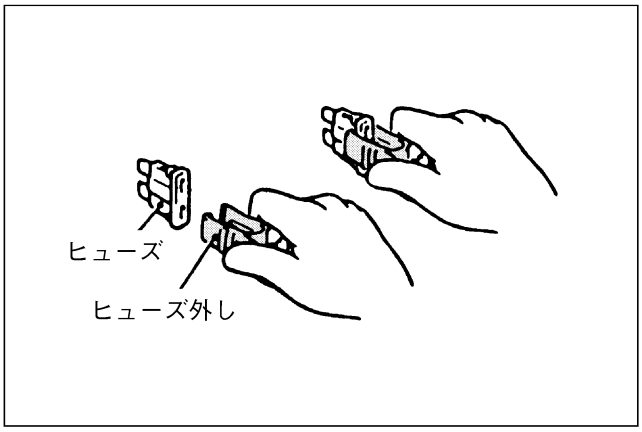
⑴　ブレード（板）ヒューズの交換

❶ヒューズボックス内の各種ヒューズは，ブレードヒューズを使用しています。

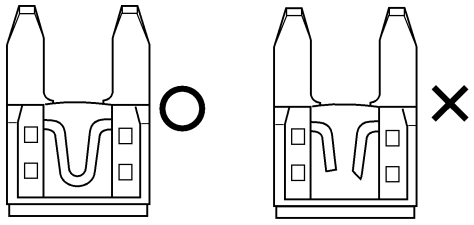
各ヒューズの該当する装置が作動しないときは，次のように処置してください。

①　スタータスイッチを《**切**》位置にします。

②　ヒューズボックスの蓋を開き，ヒューズ外しを使って，ヒューズを引抜きます。（ヒューズ外しは，ヒューズボックスの中に入っています）



③　ヒューズが切れていれば，スペアのヒューズと交換してください。



⑵ ヒューズ（大電流用）の交換

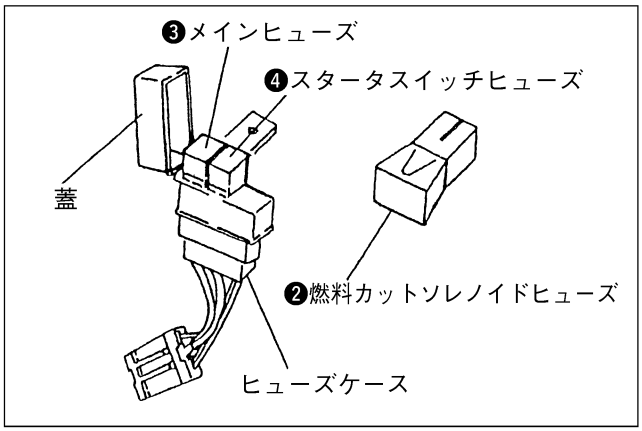
・大電流用ヒューズが切れたときは,「**お買いあげ先**」で点検を受けてください。

❸メインヒューズ，❹スタータスイッチヒューズは，大電流用ヒューズを使用しています。

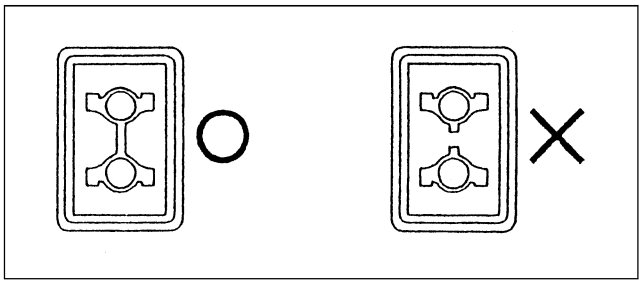
① バッテリ（－）端子を外します。

② ❷燃料カットソレノイドヒューズはテープをはがして配線から外し，ヒューズケースの蓋を開きます。

③ ❸メインヒューズ，❹スタータスイッチヒューズは，ヒューズケースの蓋を開きます。



④ ヒューズ（大電流用）が下図右側（×印）のようであれば,ヒューズ切れです。指定のヒューズ（大電流用）と交換します。



❻ ヒューズの機能

・ヒューズが溶断した場合，下記の機能が作動不能となります。　　×：作動不能

No	影響の出る機能 / ヒューズの種類［A］		1 エンジン始動	2 エンジン停止	3 燃料の供給	4 予熱	5 計器類のモニタランプ	6 前照灯	7 作業灯	8 制動灯	9 尾灯	10 車幅灯	11 方向指示器	12 ホーン	13 バック警報	14 マルチステアリングレバー	15 ジャストディレクタ	16 方向制御	17 こぎ深さ制御	18 選別制御	19 水平制御	20 刈高さ制御	21 刈取・フィードチェン駆動	22 排出オーガ旋回	23 排出オーガ上下	24 こく粒排出	25 警報装置	26 集中注油	27 エアコン	28 カーステレオ	29 室内灯・時計（カーステレオ内装）	30 ワイパ・ウォッシャ	31 シガライタ	32 結束位置自動モータ
No	オプション設定																	OP			OP							OP	OP	OP	OP	OP	OP
1	アタッチ	30																															×
2	水平制御	10																			×												
3	キー切り	10	×																														
4	エアコン・ワイパ［キャビン仕様］	15																										×			×		
5	リフト・操向	10													×	×	×			×	×			×									
6	作業灯	20							×																								
7	スタータ	10	×																														
8	シガライター・カーステ［キャビン仕様］	20																											×			×	
9	室内灯・時計［キャビン仕様］	10																												×			
10	エアコン・ファン［キャビン仕様］	20																										×					
11	排出クラッチ・オーガ	20																						×	×								
12	こぎ深さ制御・注油	20																×									×						
13	フラッシャ・前照灯	20						×			×	×	×																				
14	選別制御	20																	×														
15	クラッチ駆動	30																				×											
16	搬送	20																				×											
17	ランプ・計器・制動灯	15	×		×	×	×	×	×	×	×	×		×	×																			
18	マイコン・コイル	10											×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×						
19	非常時電源	10																															
20	オーガモータ	30																					×										
21	メイン	60	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
22	スタータスイッチ	40	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
23	燃料カットソレノイド	50	×																														

（OP……オプション）

取扱いのポイント

●取換えしてもヒューズが切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために，毎日の運転前に「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠危険 火傷や火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給したときは燃料キャップを締め，こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの老化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば交換してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止してから行なってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行なってください。

「運転まえの点検表」

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エンジンカバー および ラジエータフィン オイルクーラフィン ｸｰﾗｺﾝﾃﾞﾝｻﾌｨﾝ［ｷｬﾋﾞﾝ仕様］	・エンジンカバーの吸気面にワラ・クズの付着はありませんか。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィン，コンデンサフィンの目詰まりはありませんか。	・やわらかいブラシなどで，掃除をする。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィン，クーラコンデンサフィンは，コンプレッサでエアを吹き付ける。	100
マフラやエンジン回り，サイドカバー（上）(下)	・ワラクズが溜まっていませんか。	・掃除をする。	―
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・ボルトのゆるみを締付ける。 ・損傷したものは交換してください。	―
油漏れ	・各給油個所に油漏れがありませんか。	・給油，排油，検油栓のゆるみを締付ける。 ・直らないときは，点検を受けてください。	89～98
燃料ホース	・損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ）や燃料漏れがありませんか。	・ホースを交換してください。 ・継ぎ部をしっかり締付ける。	138
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理してください。 ・電気配線回りのワラクズなどを取除く。	103

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを軽くたたくか，コンプレッサで内側からエアを吹きつける。	100
エンジンオイル (エンジンクランクケース)	・オイルがレベルゲージの上・下限の間にありますか。	・エンジンオイルを適量補給する。	89〜90
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。 （給水レベルの上・下限の間にあること。）	・清水を補助タンクに適量補給する。	91〜92
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受けてください。	—
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・ディーゼル軽油を補給する。 タンク容量：42L	89
ホーン	・ホーンボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	26〜29
方向指示器などの保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	26〜29
バックブザー（ホーン）	・主変速レバーを「**後進**」位置にしたとき，バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	26〜29
インジケータランプ	・オイル，充電，予熱ランプは消灯しますか。（エンジン始動後）	・異常個所を調べ，処置する。 ・エンジンオイルを補給する。 ・バッテリを充電する。	89〜90 103〜107
回転計	・正常に作動しますか。（エンジン始動で）	・点検を受けてください。	—
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作したとき，正常に旋回，刈取部が上下しますか。	・副変速レバーのスピンドライブターン変速を確実に切替る。 ・異常個所を調べ，処置する。	— 20
走行クラッチペダル （ブレーキ兼用）	・ゆっくり走行してペダル操作したとき，正常に機械が停止しますか。	・走行クラッチペダルの調整をしてください。	142
チェン，ベルト，ワイヤ，クローラ	・たるみ，損傷はありませんか。	・正常に調整するか交換をしてください。	145〜156

2．エンジンの始動と停止

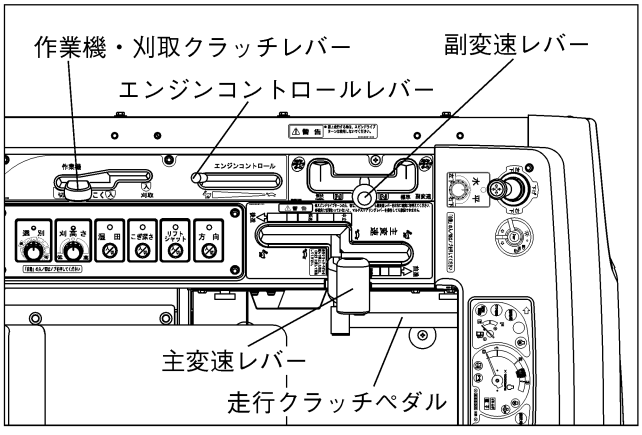
⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。
◆変速レバーが《N》《中立》，作業機・刈取クラッチレバーが《切》，こく粒排出レバーが《切》位置であることを確認してください。
●機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆始動は座席に座って行なってください。
◆屋内での始動は，窓や戸を開け換気をしてください。
◆暖機運転は主変速レバー，副変速レバー《N》《中立》にして，作業機・刈取クラッチレバー《切》で駐車ブレーキをかけて行なってください。
●運転者はエンジンをかけた状態で機械の周囲から離れないでください。
●外気温が「0℃以下」の時は暖機運転を10分間以上行ってください。行わないと油圧装置が正常に作動しなくなり，方向変換ができないことがあります。
◆空運転するときは，こぎ胴部およびカッタ部を開かないでください。

1．エンジン始動のしかた

❶ 体格に合わせ着座位置を調節します。(26ページ参照)

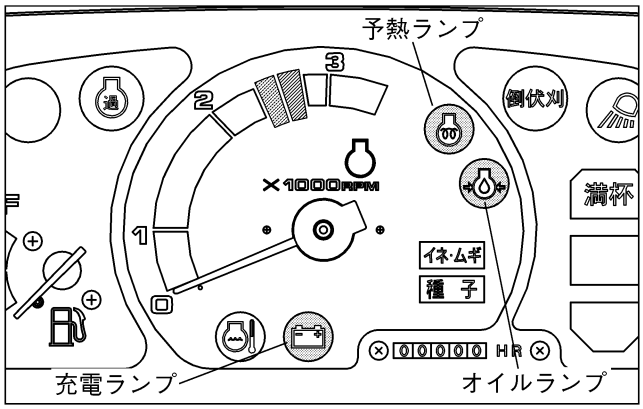
❷ 主変速レバーを《**中立始動**》(**前進側中立位置**)，副変速レバーを《**N**》(**中立**) にします。



❸ 作業機・刈取クラッチレバーが《**切**》位置にあることを確認します。

❹ エンジンコントロールレバーを《 》(**高速**) 位置にセットします。

❺ スタータスイッチを《 **入**》位置にし，「**オイル**」「**充電**」「**予熱**」のランプが点灯することを確認します。



❻ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，スタータスイッチを《 **始動**》位置に回し，エンジンを始動します。

❼ 始動後，駐車ブレーキをかけ，エンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

●**主変速レバーを《中立始動》(前進側中立位置) にし，作業機・刈取クラッチレバー ([キャビン仕様以外]は更にこく粒排出レバー) を《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。**
●**作業機・刈取クラッチ (モータ作動部) が「入状態」のときはブザーが断続音を発します。ブザーが停止するまで待ち (《 入》位置) 再度スタータスイッチを《 始動》位置に回し，エンジンを始動します。**
●**エンジン始動後，「オイル」「充電」のランプが消灯することを確認してください。**
●**スタータスイッチは，5秒以上の連続使用はしないでください。**
セルモータは短時間に大きな電力を消費します。5秒以上の連続使用は，バッテリ故障の原因となりますので避けてください。

2．エンジン停止のしかた

❶ エンジンコントロールレバーを《 》(**低速**) にします。

❷ スタータスイッチを《 **切**》位置にすると，エンジンが停止します。

3．走行・停車のしかた

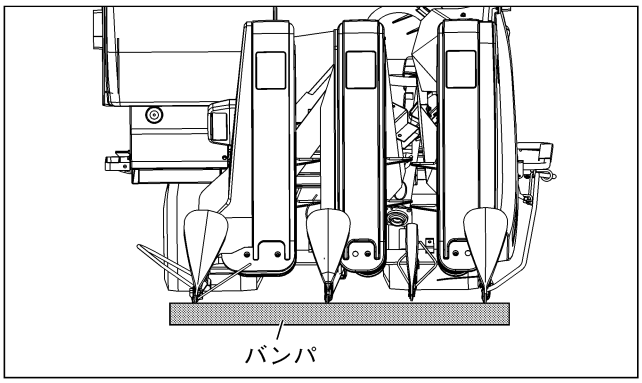
1．走行のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

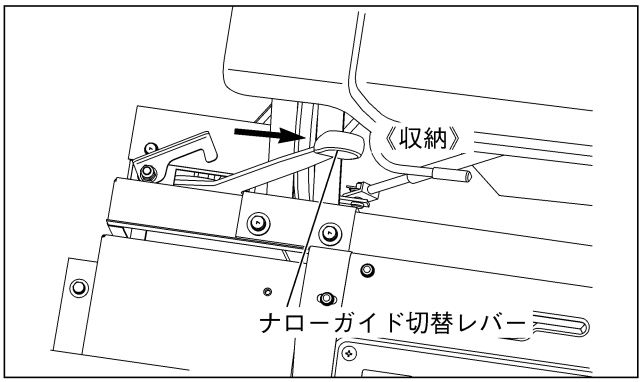
◆公道走行は，交通法規を守って運転してください。
●カッタ以外のアタッチメントを取外します。
●排出オーガ受を「下セット」にし排出オーガを収納ます。（キャビン無し仕様）
◆走行する前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
◆ヘルメットをかぶってください。
◆発進，停止および旋回するときは，周囲を確認し速度を落としてください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし時には，水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。［L 仕様］
◆方向自動スイッチを「切」にしてください。［A 仕様］
◆路上走行するときは，作業灯は消灯してください。
◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は，走行しないでください。
◆運転者の他に子供など，人や物を機械に乗せないでください。
◆走行中に走行クラッチペダルを踏んで停止したときは，主変速レバーを《中立》に戻し，発進するときは，低速から徐々に速度を上げてください。
◆路上走行時には排出オーガ先端部を折りたたんでください。
◆スピンドライブターンは急旋回しますので路上走行する時は使用しないでください。

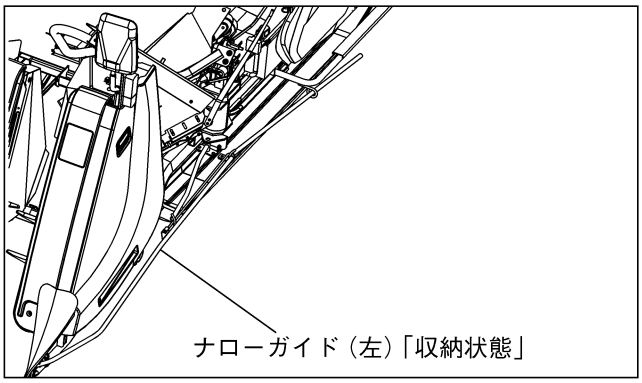
次のことを守り，運転をします。

❶　デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けます。



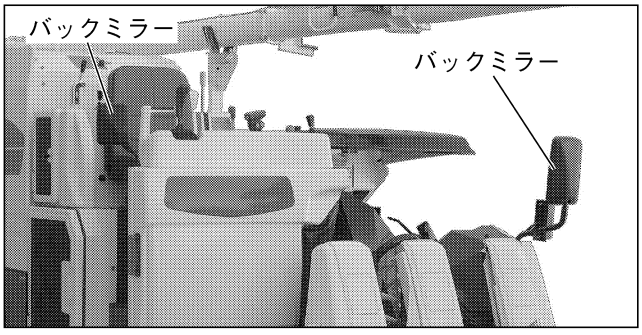
❷　ナローガイド切替レバーを《**収納**》位置にします。



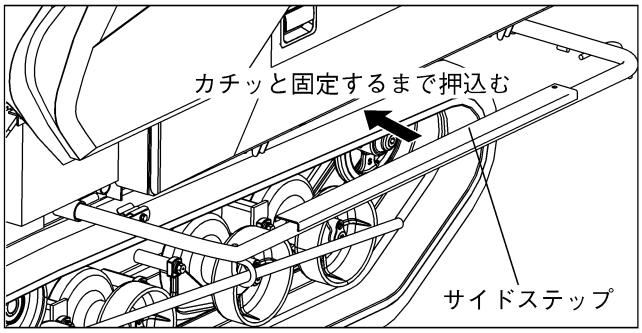


❸　バックミラーの調整

バックミラーは上下，左右に角度調整ができますので運転席に座って見やすい位置に調節してください。

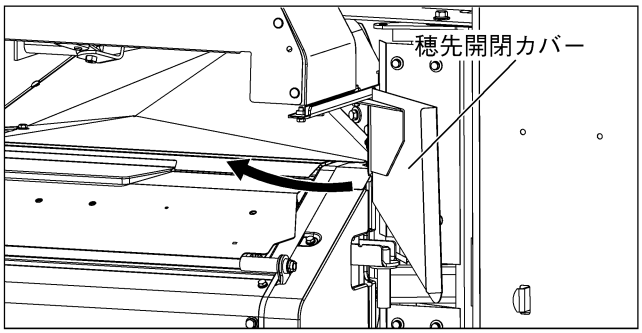


❹ 「**サイドステップ**」を収納します。(点検，整備時のみ，サイドステップを引出して使用します。)

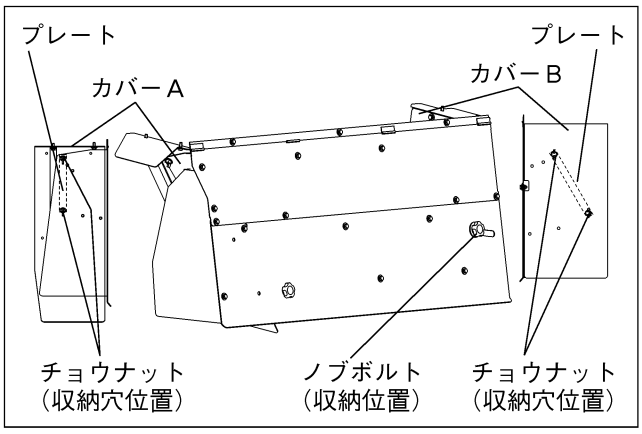


❺ 公道を走行するときは，カッタ以外のアタッチメント（ノッタ等）を取外します。

・カッタ右側の穂先開閉カバーを閉じます。

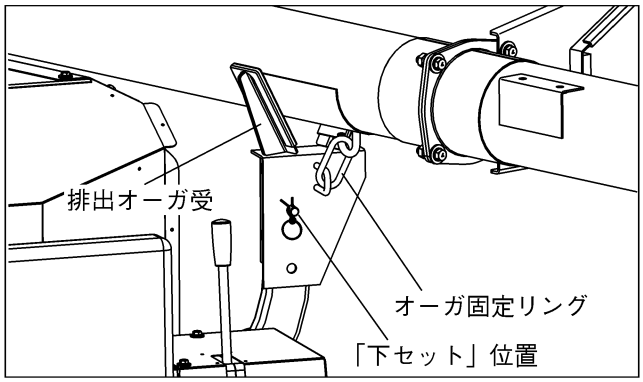


・カッタをオープンします。
・ノブボルトをゆるめてカバーＢを収納しノブボルトで固定します。
・カバーＡ・Ｂのチョウナットを外してプレートを取外します。
・カバーＡ・Ｂ収納時の位置にし，プレートとチョウナットで固定します。
・作業後カッタを閉じます。



❻ グレンタンク内のこく粒をすべて排出します。

❼ 排出オーガ受を「**下セット**」にします。(41ページ参照) 排出オーガの「**固定リング**」がかかっていることを確認します。

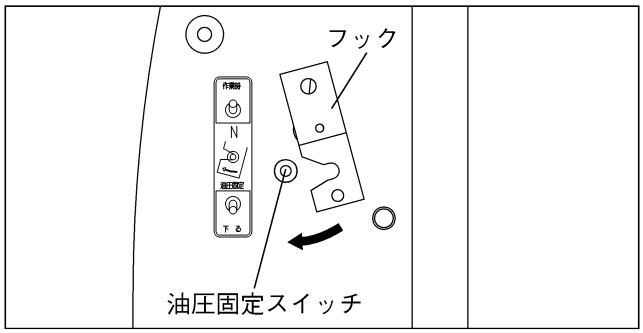


❽ 作業機・刈取クラッチレバーを《**切**》にし，自動スイッチをすべて「**切**」にします。

❾ エンジンを始動し，エンジン回転を「**2000回転**」以上にセットします。

❿ マルチステアリングレバーで刈取部先端を「**50cm**」程度上げます。

⓫ 油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，フックをかけ刈取部を固定します。



⓬ 水平自動スイッチを「**切**」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。[Ｌ仕様]

⓭ 副変速レバーを走行する条件に合った位置にします。

⓮ 主変速レバーをゆっくり操作し，適正な走行速度にします。

⓯ 路上走行で方向を変えるときは，方向指示器を点灯し合図をします。

取扱いのポイント

- **副変速レバーを動かすときは，必ずクラッチペダルを踏んでクラッチを切った状態で行なってください**

⑯　発進するときや作業開始の合図は，ホーンボタンを押して，ホーンで行います。

⑰　路上走行時，作業灯は消灯します。

2．停車のしかた

⚠警告　火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げ，排出オーガを収納位置に戻して，各操作レバーを《N》《中立》に入れてください。エンジン停止後，副変速レバーを《倒伏》に入れてください。

◆機械を燃えやすいものの近くに，止めないでください。

◆機械から離れる時は平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ってください。

●［キャビン仕様］はドアの施錠をしてください。

❶　主変速レバーを《**中立**》，副変速レバーを《**N**》（**中立**）にします。

❷　駐車ブレーキをかけます。

❸　エンジンコントロールレバーを《🐢》(**低速**)の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**倒伏**》に入れて停止します。

❹　副変速レバーが《**倒伏**》に入っていることと，駐車ブレーキレバーがかかっていることを確認します。

取扱いのポイント

●**駐車ブレーキを解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで駐車ブレーキレバーを離してください。**

●**走行クラッチペダルは，半クラッチでは使用しないでください。走行ベルトが焼損する恐れがあります。**

4．自動車への積込み･積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，周囲に障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して，次のことを守り慎重に行います。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆自動車を停車し，アユミを自動車にセットするときは，アユミが傾いたりしない平坦で固い場所を選び，自動車は駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに歯止めをしてください。

●アユミは，機械の質量に耐える強度，長さ（荷台高さの４倍以上），幅（クローラが外れない幅）のあるすべり止め・フック付きのものを使用します。

●アユミのフックは段差のないように，また外れないように荷台に平行にかけます。

◆機械は積込む前に，グレンタンク内のこく粒はすべて排出してください。

●［L 仕様］は，水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

●［A 仕様］は，方向自動スイッチを「切」にします。

◆積込み・積降ろしは，補助者立会誘導のもとに行なってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。

●アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央に真直ぐにセットします。

◆自動車への積込み・積降ろし中は，次の操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。

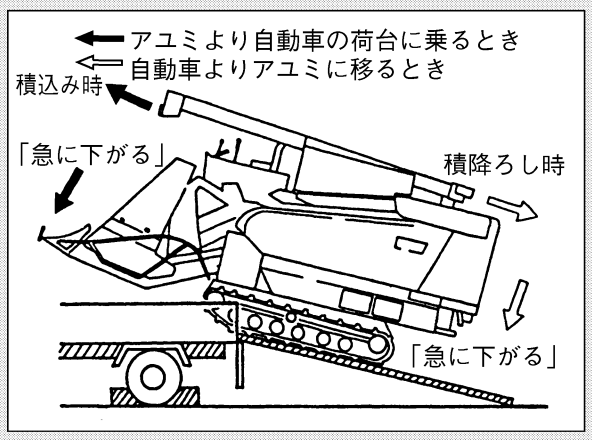
・主変速レバー
・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・走行クラッチペダル
・駐車ブレーキレバー
・ジャストディレクタ

は，アユミの上では操作しないこと。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，低速で行なってください。

◆［キャビン仕様］以外は機械に乗らないでください。また，機械の直前・直後には立たないでください。

◆機械が自動車に乗る直前や降りる直後では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗って（降りて）から近づいてください。



◆各カバーの固定が確実か確認してください。

◆防じんカバーが開いていると，風圧で防じんカバーが破損・脱落の恐れがありますので，閉じてロープなどで浮上がりを防いでください。［A仕様］

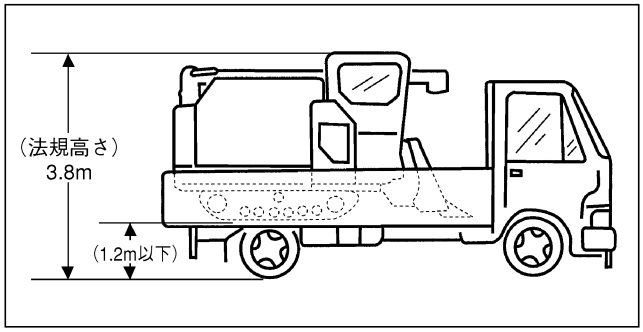
◆積込みが終わったら機械のフレームの４隅のフックに，ロープまたはワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは，他の物のけん引には使用しないでください。

1．自動車・アユミについて

❶ 最大積載量3,000kg以上の自動車で荷台から機械がはみ出さない車を使用します。

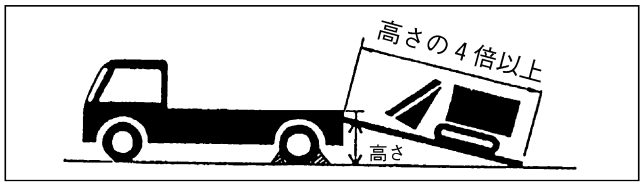
・トラックに積んだ場合，「**車両制限令**」により地上からの高さが3.8m以下に規制されています。3.8mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。

・［**キャビン仕様**］の場合は，荷台高さが1.2m以下の自動車を使用します。



❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに「**歯止め**」をします。

❸ アユミは，機械の質量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。



アユミの基準

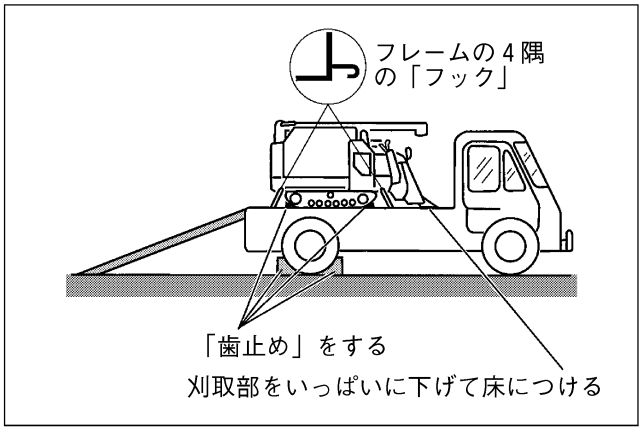
長さ	自動車の荷台の高さの４倍以上
幅	50㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が1,500kg以上の重量に耐えるもの

❹ アユミは，機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に「**段差**」のないようにかけ，「**横ずれ**」したり，「**外れ**」たりしないようにセットします。

❺ 機械輸送時の自動車の運転で，急発進・急停止・急ハンドルなどの操作は行わないでください。荷くずれや自動車の転倒事故につながります。

2．機械の積込み要領

❶ ナローガイドを収納します。
グレンタンク，排出オーガの固定を確認します。
❷ エンジンを始動して，エンジンコントロールレバーでエンジン回転を「**2000回転**」程度にします。
❸ 刈取部をいっぱい上げます。
❹ 積込みは，主変速レバー《**前進・低速**》，副変速《**倒伏・車両積降ろし**》で行います。
❺ 積降ろすときは，主変速レバー《**後進・低速**》，副変速《**倒伏・車両積降ろし**》で行います。
❻ ［**キャビン仕様**］以外の積込み・積降ろしは，機械からおりて行います。
❼ 積込み・積降ろしの途中では，進路変更，走行クラッチ操作，変速操作はしない。
❽ 補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。
❾ 自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに「**歯止め**」をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４隅のフックにロープ，またはワイヤをかけて固定します。
❿ 刈取部は完全に下げて床につけます。こぎ深さは，深こぎ側へいっぱいに下げておきます。



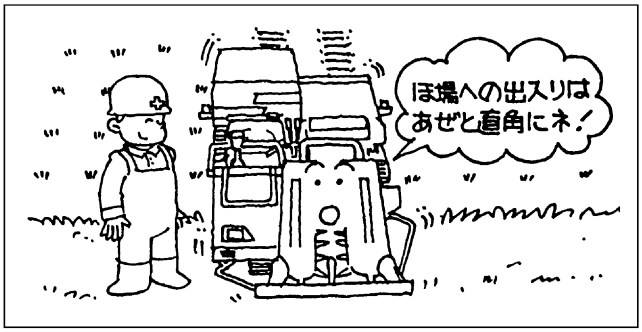
⓫ ［**キャビン仕様**］を輸送する時はドアと窓を閉めて，ロックしておきます。

5．ほ場への出入り

⚠警告 傷害事故防止のために

◆10cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行なってください。
◆ほ場への出入りをする前に，グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
◆［L仕様］は，水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。
◆［A仕様］は，方向自動スイッチを「切」にしてください。
◆あぜが崩れないことを確認してから，ゆっくり行なってください。

1．ほ場への出入りのしかた



❶ 刈取部を上げ，エンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，副変速を《**倒伏・車両積降ろし**》，主変速を《**低速**》または《**後進・低速**》にしてあぜに直角に走行します。
❷ アユミを使用するときは，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下する恐れがあります。次の条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

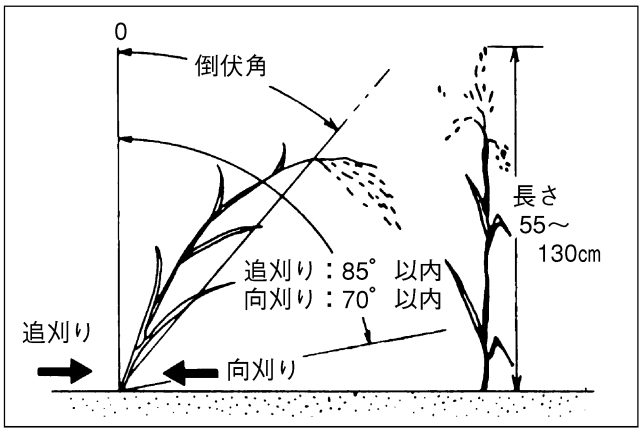
❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…55～130㎝まで刈取りできます。

・倒れ（倒伏角）

…追刈り：85°以内まで刈取りできます。

向刈り：70°以内まで刈取りできます。



❷ 作物の濡れ

・濡れた作物(雨あがり・朝露)の刈取りは，次のようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。

・能率があがらない

・選別不良

・詰まりやすい

・乾燥処理時間の増加

❸ 病害虫に侵された作物

病害虫に侵された作物の刈取りは，次のようなことがありますので，刈取り作業の速度を遅くするか，またはできるだけその部分は「**手刈り**」をしておきます。

・こく稈が折れやすい

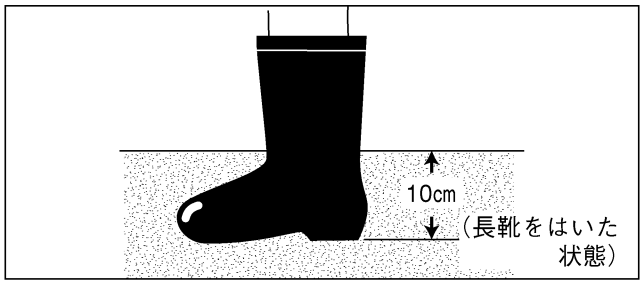
・刈取り・搬送部の詰まり

・脱こく部の詰まり

2．ほ場の条件について

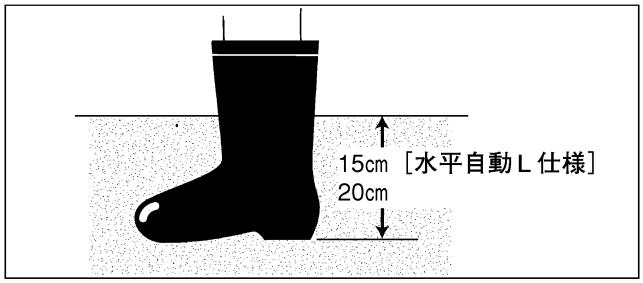
❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が「**10㎝**」までは作業ができます。



［オプション仕様］

・仕様によっては下記沈下量までは作業ができます。

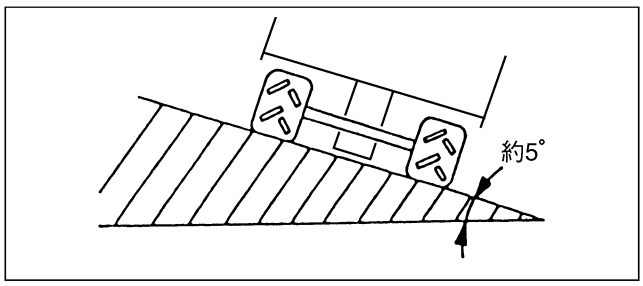


取扱いのポイント

●一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。

❷ 機械の傾斜

機械の傾斜角度５°以上では，刈取り作業はできません。



取扱いのポイント

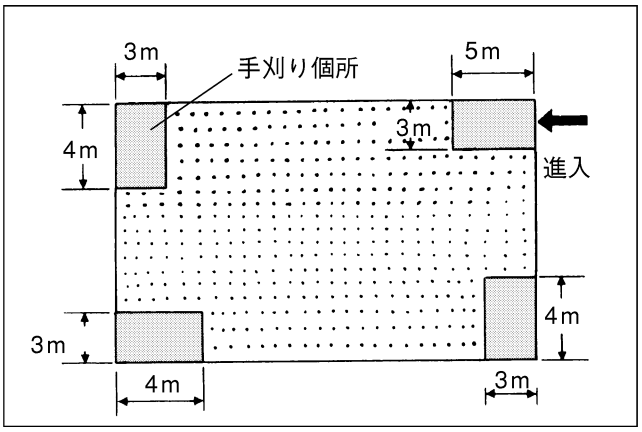
●適応範囲をこえての作業はできません。行わないでください。

●ほ場内に雑草が多いと，刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

3．ほ場の準備

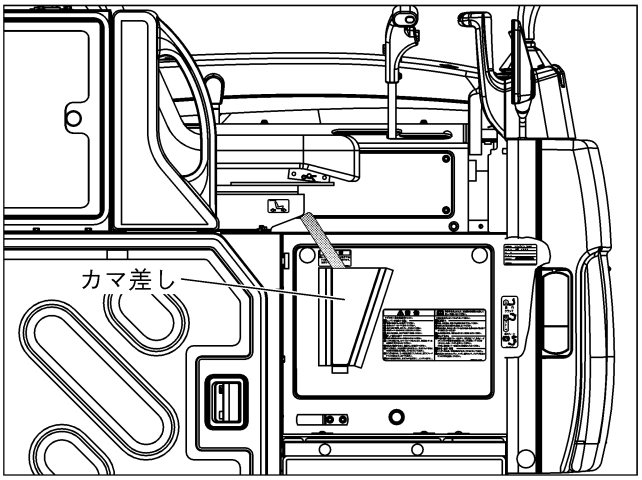
手刈り

・機械をほ場に入れる前に，あらかじめ四隅を**「旋回できる程度」**手刈りします。



取扱いのポイント

- **ほ場の周囲がコンクリートあぜ，または高あぜで，あぜぎわいっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。**
- **カマ差しは，運転席左側下部にあります。**



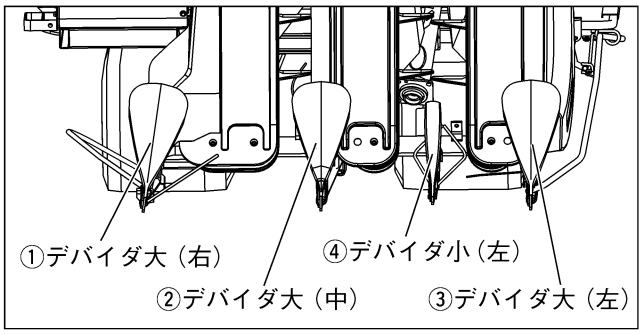
4．機械の準備

❶ デバイダの上下調整

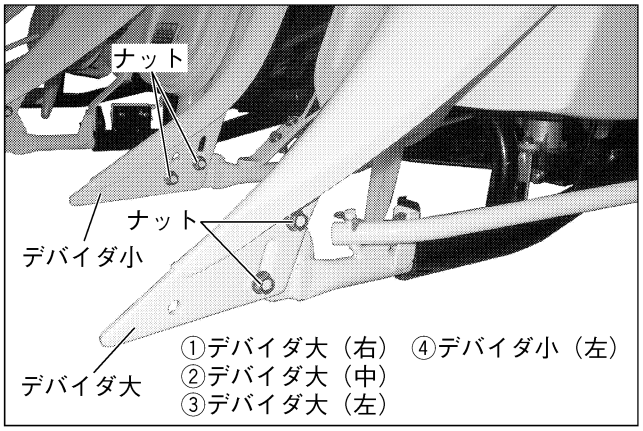
次のような場合は，デバイダを**「下側」**にセットします。

・刈取部を下げたときに，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合。

・刈取部をいっぱいに下げても，デバイダが地面より離れている場合。



デバイダ取付のナットをゆるめて，デバイダが適正な高さとなるように調整し，締付けて固定します。

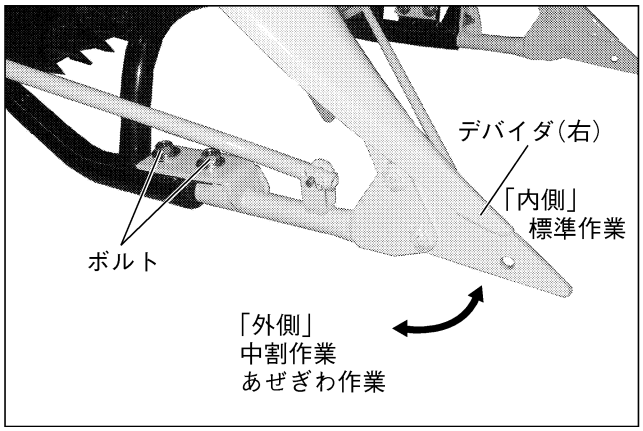


取扱いのポイント

- **デバイダは，すべて同じ高さになるようにセットしてください。**

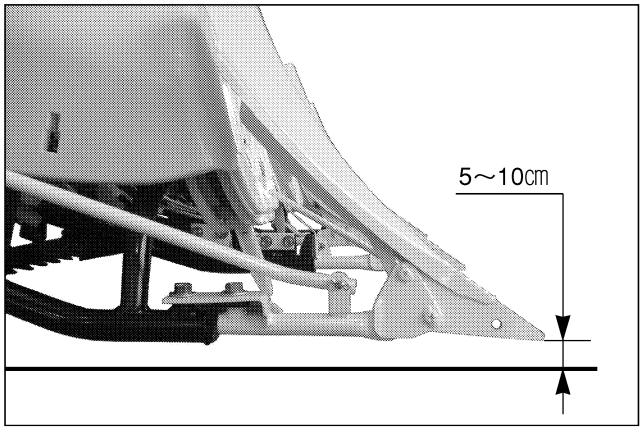
❷ デバイダ（右）の調整

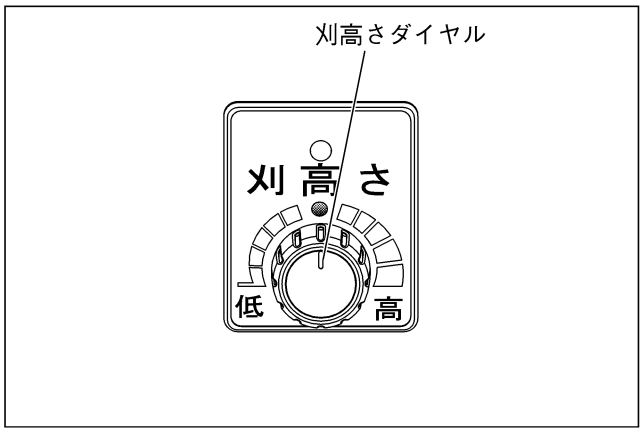
・デバイダ（右）は「**内側**」位置が標準です。
・中割作業やあぜぎわ作業をするときは，２本のボルトをゆるめて「**外側**」の位置にいっぱい広げ，締付けて固定します。



❸ 刈取り高さの調整

刈取部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から「５～10㎝」になるように刈高さダイヤルで調整します。

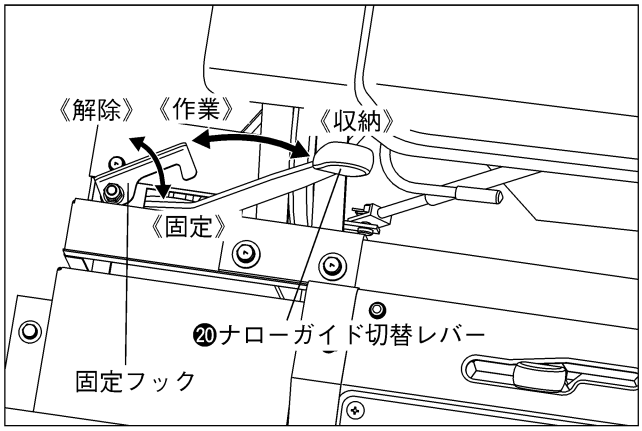




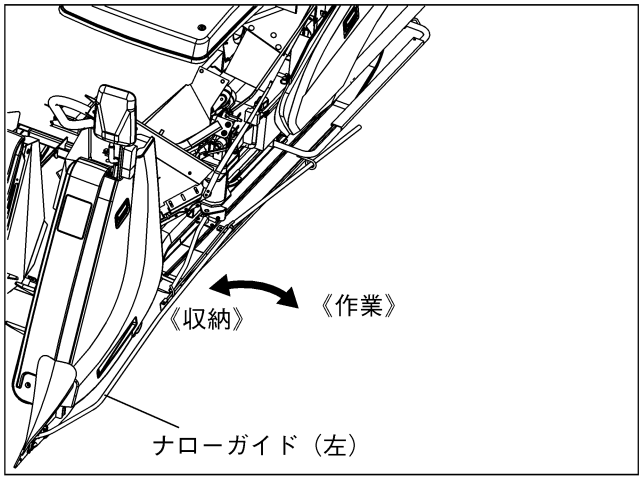
・倒伏および短い作物の場合は，デバイダ先端を地面すれすれに調節します。

❹ ナローガイドの調節

・ナローガイド切替レバーを《**作業**》にすると，ナローガイド（左）が引出され，作業状態になります。
・通常固定フックは《**解除**》の位置で作業します。
・作業時，レバーが戻る場合は固定フックで《**固定**》してください。

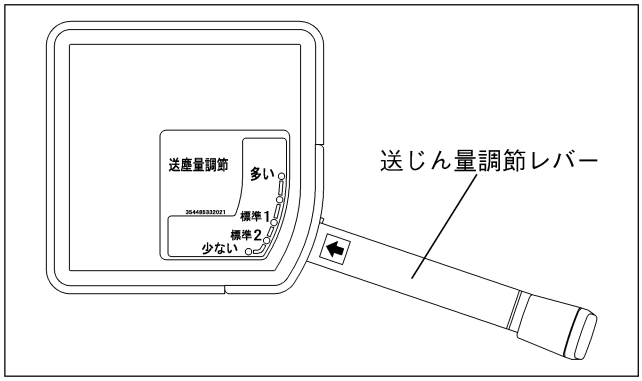


・右まわり，あぜぎわ刈取など，障害物があるときは，収納してください。



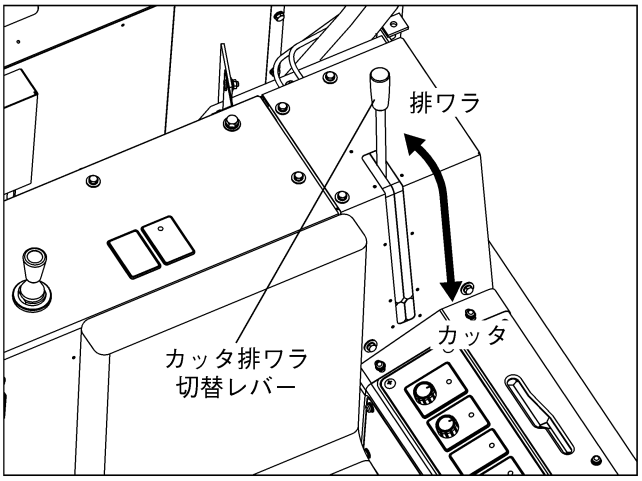
❺ 送じん量調節レバーの調整

送じん量調節レバーを《**標準１**》位置にします。

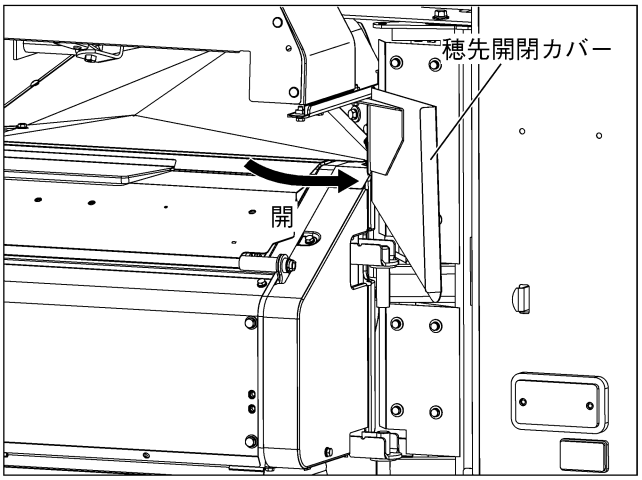


❻ カッタ・排ワラ切替レバーの調節

⑴ 作業内容に合わせて，切替レバーで《**カッタ**》・《**排ワラ**》の切替えを行います。



⑵ 排ワラ作業の場合は，穂先開閉カバーを開きます。



❼ 排出オーガ受のセット（キャビン無し仕様）

⚠注意

◆こく粒排出作業時以外は，排出オーガを固定リングで，固定してください。

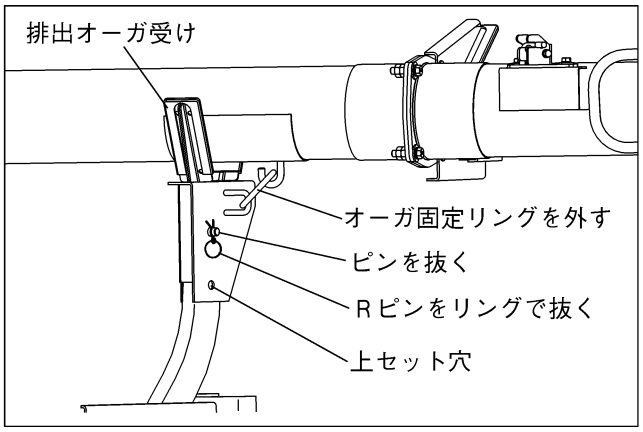
◆路上走行時は，排出オーガ受を「下セット」にしてください。

工場出荷時に排出オーガ受は，「**下セット**」で出荷されています。

⑴ オーガ固定リングを外し，排出オーガを《**上げ**》ます。

⑵ 排出オーガ受を止めているピンのＲピンをリングで抜き，ピンをブラケットから抜きます。

「**出荷状態（下セット）**」

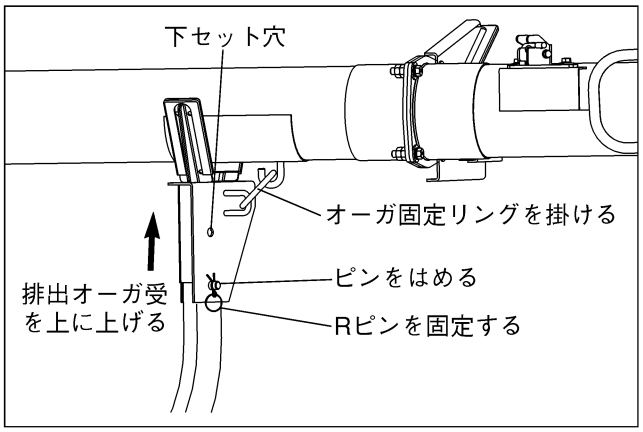


⑶ 排出オーガ受「**上位置**」のセット穴と，ブラケットの穴を合わせます。

⑷ ピンを差込んで，Ｒピンで止めます。

⑸ 排出オーガを《**下げ**》フックにオーガ固定リングを掛けます。

「**上位置セット**」



❽ 排出オーガの延長

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガの延長操作をする時は，平坦な場所に駐車しエンジンを停止して，排出オーガが固定されていることを確認してください。

◆排出オーガを延長する時は，連結部に手を入れないでください。

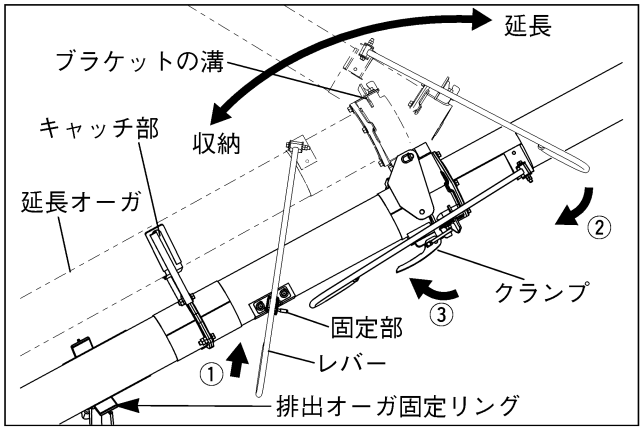
［キャビン無し仕様］

「延長のしかた」

① レバーを固定部より外し，延長オーガを押し出します。

② レバーをブラケットの溝に差込み，オーガを右に回します。

③「**延長状態**」でクランプを掛け「**固定**」します。



「折りたたみかた」

・排出オーガを最上位まで上昇させて低回転で排出クラッチを《**入**》にし，残留こく粒を下降させた後，排出オーガを収納して排出オーガ固定リングで固定して，「**延長と逆順**」に行います。

① クランプを「**解除**」し，レバーを押出して延長オーガを左に回します。

② レバーをブラケットの溝より外して手前に引いて，延長オーガをキャッチ部に入れ「**収納状態**」を確認します。

③ レバーを固定部に掛けて固定します。

［キャビン仕様］

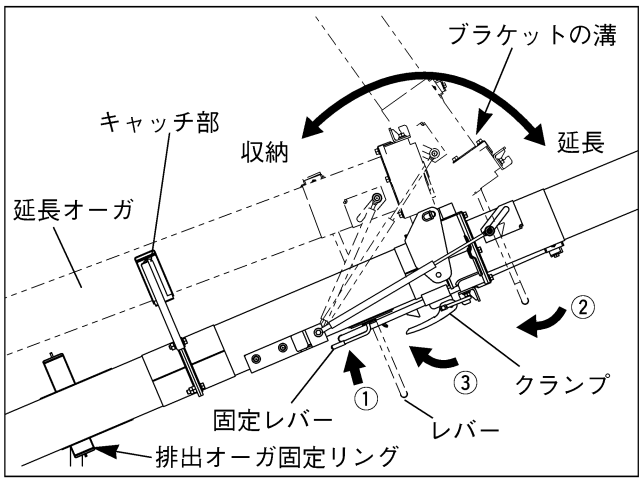
「延長のしかた」

・キャビンのスライドウインドウ（左）の前側を開けて行います。

① 固定レバーを解除してレバーを押出します。

② レバーをブラケットの溝に差込んで延長オーガを右に回します。

③ 「**延長状態**」でクランプを掛けオーガを「**固定**」した後、レバーを固定レバーで固定します。



「折たたみかた」

・排出オーガを最上位まで上昇させて低回転で排出クラッチを《**入**》にし，残留こく粒を降下させた後，排出オーガを収納し排出オーガ固定リングで固定して，「**延長と逆順**」に行います。

① 固定レバーを解除し，クランプを「**解除**」した後，レバーを押出して延長オーガを左に回します。

② レバーを手前に引き，延長オーガをキャッチ部に入れ，「**収納状態**」を確認します。

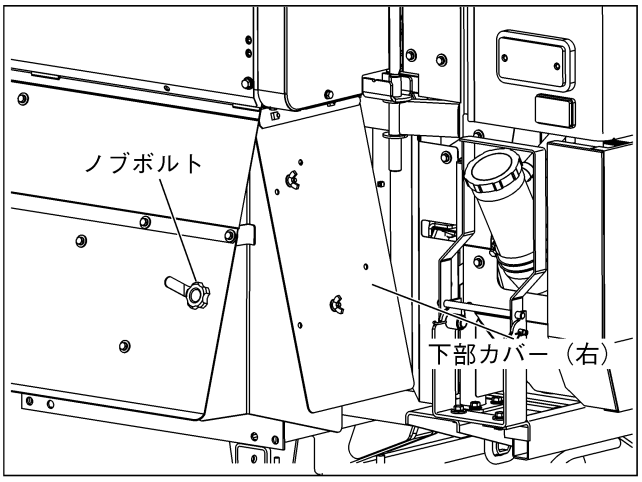
③ レバーを固定部に入れて固定レバーで固定します。

❾ カッター下部カバーの調整

(1) カッター下部カバー（右）のノブボルトをゆるめカバーを開閉します。

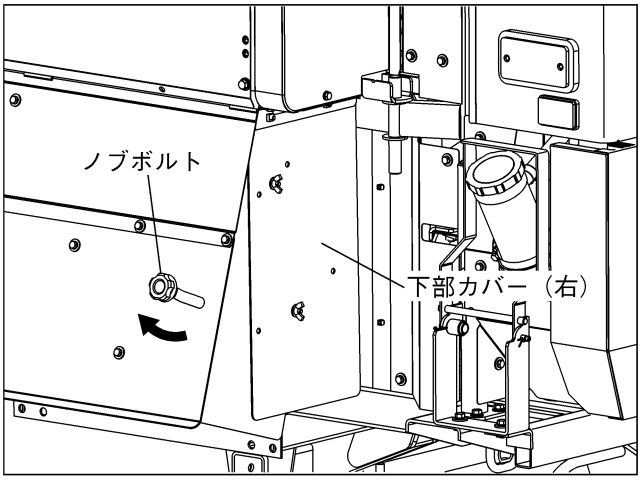
［下部カバー（右）通常作業状態］

・通常の作業時はこの位置にセットします。



［下部カバー（右）ワラよせ状態１］

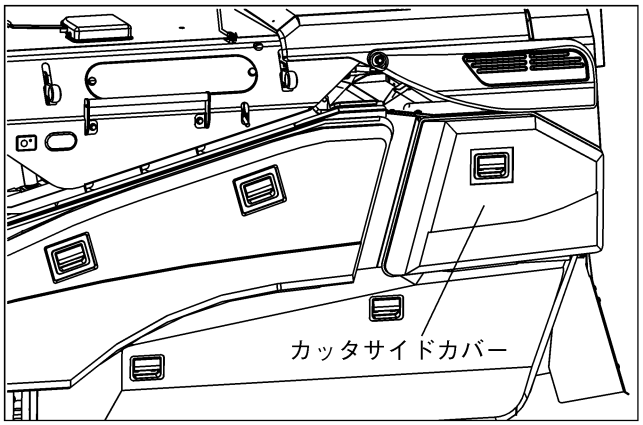
・ワラを少し左側によせたい時にこの位置にセットします。

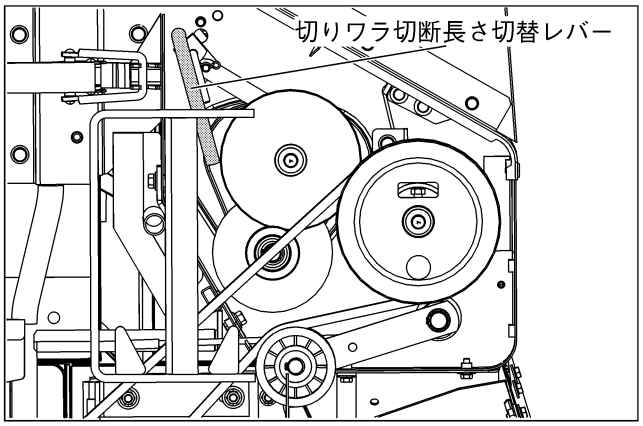


❿ ワラ切断長さの調節

「**カッタ**」作業の場合は「**切ワラ長さ**」を切ワラ切断長さ切替レバーで「**長切り**」「**短切り**」に好みに応じて調節します。(63ページ参照)

・カッタサイドカバーを外すと,レバーが見えます。





切替後はカッタサイドカバーを取付けます。

⓫ 旋回方式の選択

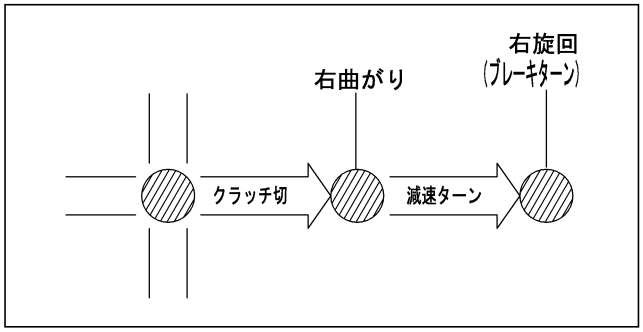
⚠警告 傷害事故防止のために

◆スピンドライブターンは急旋回しますので路上走行する時は使用しないでください。

作業条件に応じて次の旋回方式が選択できます。

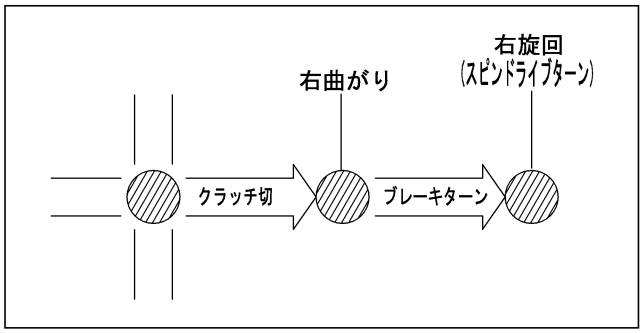
《減速ターン・ブレーキターン》

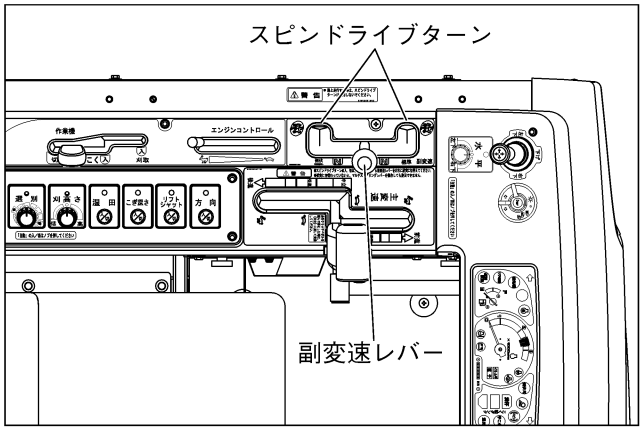
ステアリングレバーを倒すとサイドクラッチが切れ，さらに倒すと片側のクローラが減速し，減速ターンとなります。ほ場の荒れを少なくして作業する場合に使用します。さらに倒すと旋回側のドライブシャフトをブレーキで停止させて旋回します。(ブレーキターン)



《スピンドライブターン》

副変速レバーがスピンドライブターン位置のときステアリングレバーをいっぱい倒すと左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。





2．刈取り作業のしかた

麦刈り作業時の調整のしかたは65ページを参照してください。

各自動装置の取扱いは **自動装置について** の項を参照します。

1．刈取り操作の手順

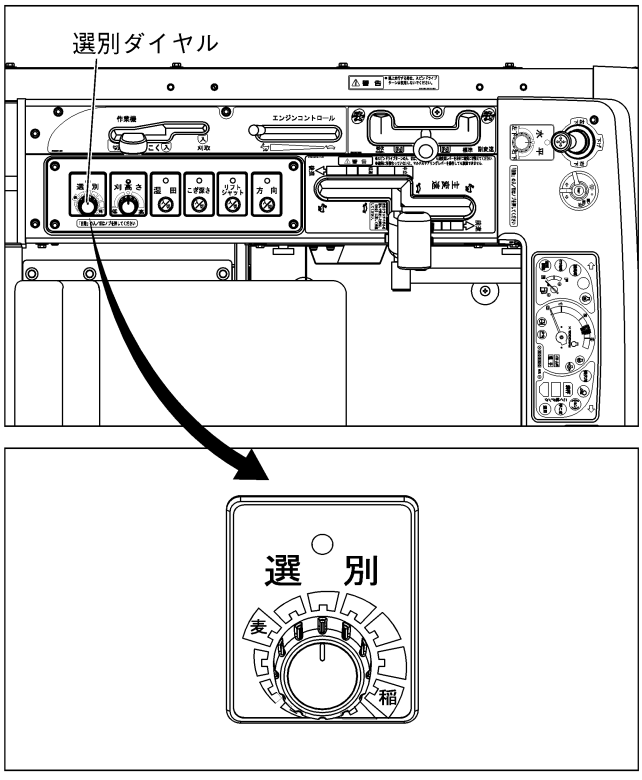
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

◆作業中に走行クラッチペダルを踏んで停止したときは，主変速レバーを《中立》に戻してください。発進するときは低速から順次に速度を上げてください。

❶ エンジンを始動し，各自動スイッチが点灯していることを確認します。使用したい自動スイッチが消灯している場合は，スイッチを押して点灯させます。

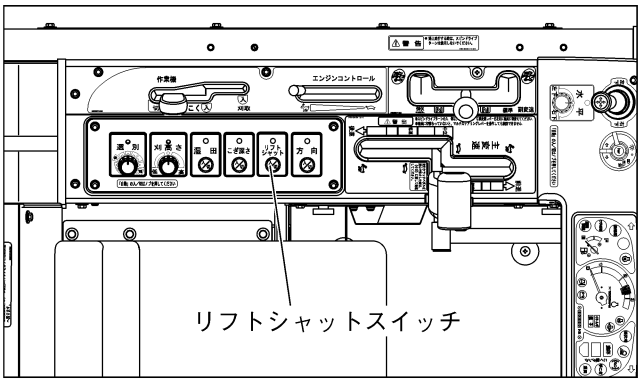
❷ 選別ダイヤルを刈取る作物に合った位置にセットします。



・選別ダイヤルのセット方法は,「**選別自動制御の取扱い**」の項72ページを参照。

各自動装置の取扱いは66～75ページを参照します。

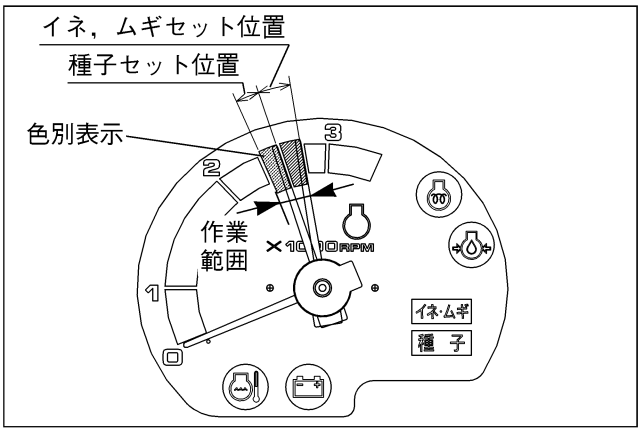
❸　リフトシャットスイッチを《**入**》にします。(取扱い方法は55ページ参照)



❹　刈取り条件に合わせ副変速レバーをセットします。(47ページ参照)

❺　エンジン回転を調整します。

作業機・刈取クラッチレバーを刈取《**入**》位置に入れ，回転計の指針が「**色別表示の上限**」になるように，エンジンコントロールレバーで調整します。



取扱いのポイント

- **刈取り作業中は,「色別表示」の範囲内に常時指針があるように，主変速レバーとエンジンコントロールレバーで作業速度を調整してください。**
- **規定の回転より低いと，こぎ残しが多くなったり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。**
  また，回転が高すぎると，こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。
- **作業機・刈取クラッチレバーを《切》→脱こく《入》としますと，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。**
- **作業機・刈取クラッチレバーを刈取《入》にしますと，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。走行停止状態では刈取搬送および脱こくフィードチェン搬送は停止します。**

❻　最初は低速で発進し，刈取り条件に合わせ，主変速レバーで適正な速度を選びます。(作業速度の選びかた47ページ参照)

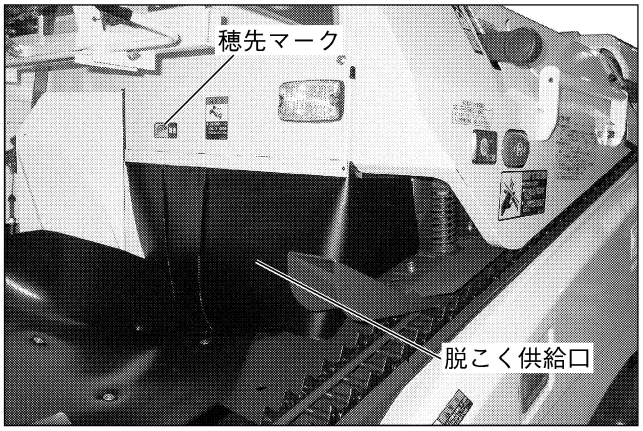
❼　方向修正は，マルチステアリングレバーまたはジャストディレクタを操作して行います。

[A仕様]

・方向自動制御を使用する場合は,「**方向自動制御の取扱い**」の項67～68ページを参照。

❽　**適正こぎ深さの調整**

作物が脱こく供給口に搬送され始めたら，作物の穂先が「**穂先マーク**」の位置になるように，こぎ深さ手動スイッチで調整します。



取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動制御は,「こぎ深さ自動制御の取扱い」の項66～67ページを参考にし，適正こぎ深さになるよう調整してください。**

❾ 作業中は，回転計の指針が，**「色別表示の範囲内」**に位置するように，主変速レバーで適正な速度に調整します。

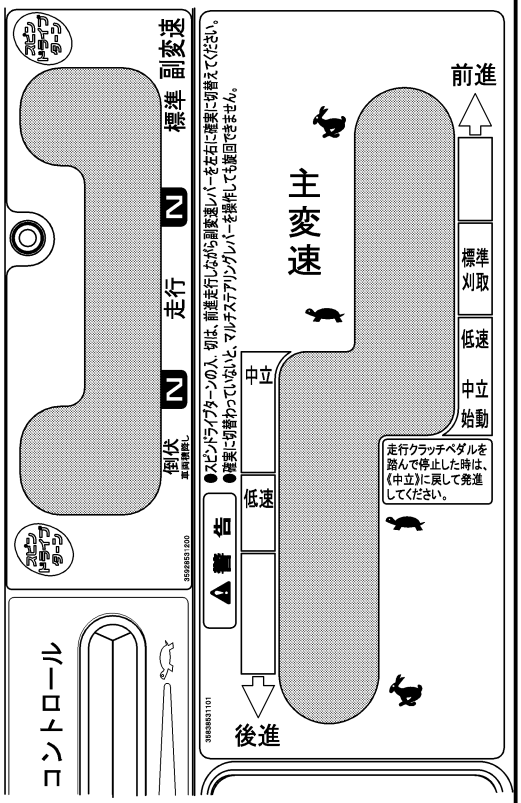
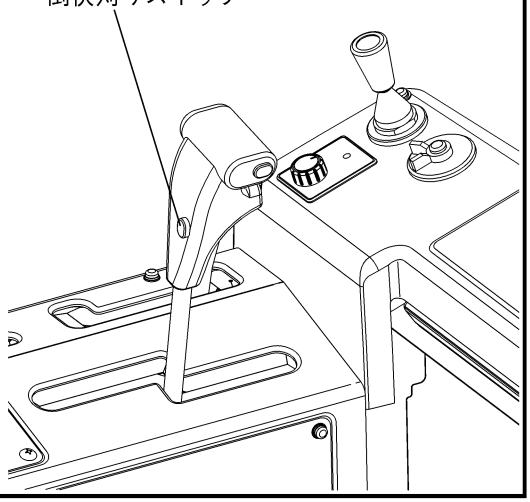
刈取り作業中，エンジン回転が下がると，エンジン回転負荷ランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速レバーで走行速度を下げ，適正負荷レベルにして作業を行います。
（17～18ページ参照）

取扱いのポイント

- **規定の回転より低いと，こぎ残しが多くなったり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。また，回転が高すぎると，こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。**
- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。**
  走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くすると，ブザーは鳴り止みます。

2．作業速度の選びかた

・作物の状態など，作業内容に合わせて，副変速・主変速レバーの速度を選び，最適の状態で作業してください。

No.	使用条件（作物の状態）	変速レバー位置			
		副変速	倒伏スイッチ	主変速	各レバー略図
①	1. 直立。 2. 半倒伏の場合。	標準	OFF	「**中立**」位置から発進してください。 刈取作業を行い，稈の搬送状態，及びエンジンの馬力の余裕に応じて順次速度を上げてください。	
②	1. 倒伏追い刈りなどで穂先が極端に遅れている場合。または整然と搬送されない場合。	倒伏	OFF		
		標準	ON		
③	1. 全倒伏の場合。 2. 周囲刈りで，低速作業をする場合。 3. 稈のボリュームが多く，脱こく部が頻繁にゴトゴト音を発する場合。	倒伏	OFF		
④	1. 脱粒しやすい品種を刈取る場合。 2. 倒伏向刈りなどで株抜けや，稈の浮き上がりが目立つ場合。 3. 根腐れや根付きが悪く，株抜けが発生する場合。	標準	OFF		
⑤	1. ④の２，３の場合で穂先の遅れや稈のボリュームが多く，脱こく部がゴトゴト音を発する場合。	標準	ON		倒伏刈りスイッチ 
		倒伏	OFF		
⑥	1. 路上走行 2. 長距離の走行	走行	OFF		
⑦	1. 積込み，積降ろし 2. あぜ越え	倒伏	OFF	「**中立**」から低速，エンジン2000回転程度。	
⑧	1. 集中注油	N（中立）	OFF	「**中立**」から「**標準刈取**」	

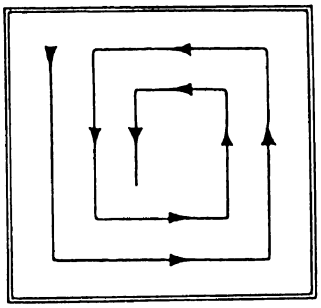
3．刈取り手順

❶ 回り刈り（左回り）

・このコンバインでの刈取りは,「**左回り刈り**」が基本です。

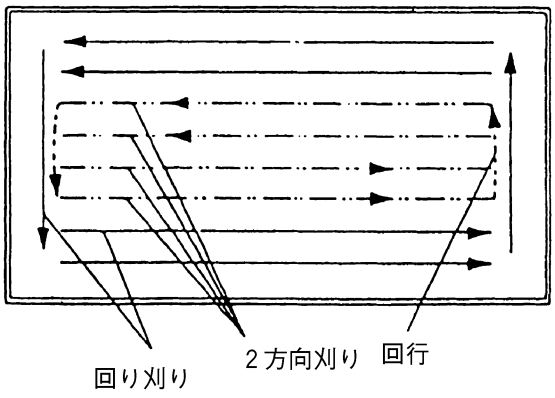
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

⑴ 正方形に近いほ場



⑵ 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

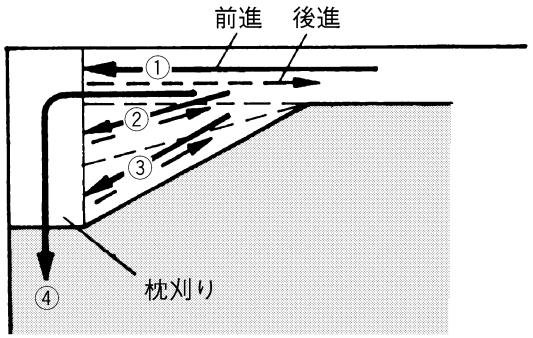


⑶ あぜぎわ刈り

あぜの草等により，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

⑷ コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは，下図のようにします。

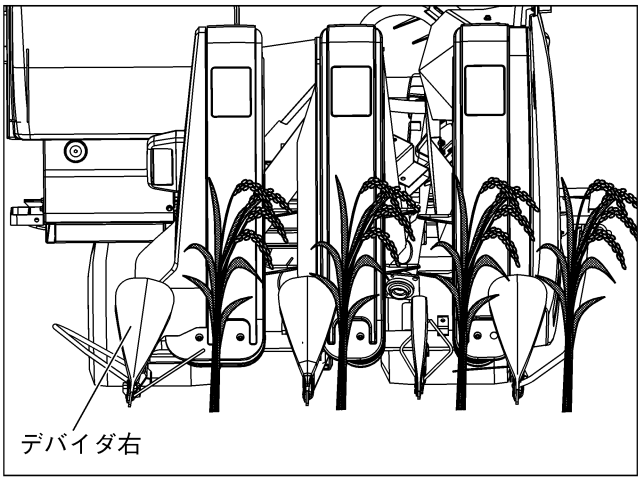


取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになりこぎ残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**

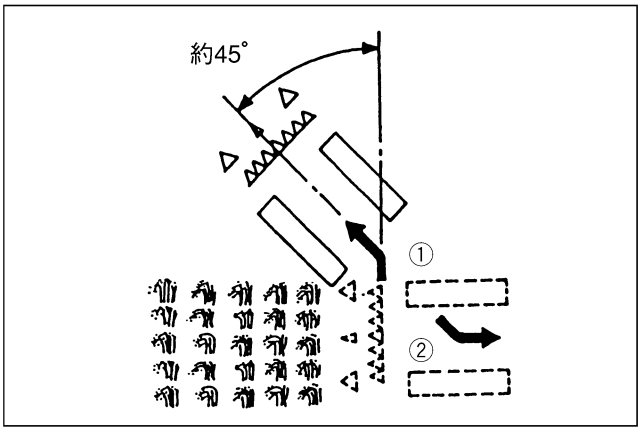
⑸ 条合わせ刈り

・デバイダ（右）を基準に「**左回り**」で刈残しのないように刈取りします。



(6) 旋回のしかた（左回り刈り）

・刈り終わったら，刈取部を40㎝程度上げます。
　作業機クラッチレバーを《**切**》にしないで，エンジン回転はそのまま，連続作業の状態で旋回します。(湿田では，大きく旋回します。)
・左に「**約45°**」向きを変えて停止します。
・後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械が真直ぐになるように「**条合わせ**」をします。

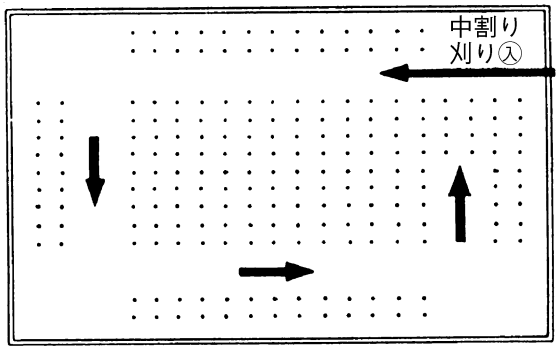


取扱いのポイント

●旋回のときには，エンジン回転を下げたり，作業機クラッチレバーを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。

❷ 中割り刈り

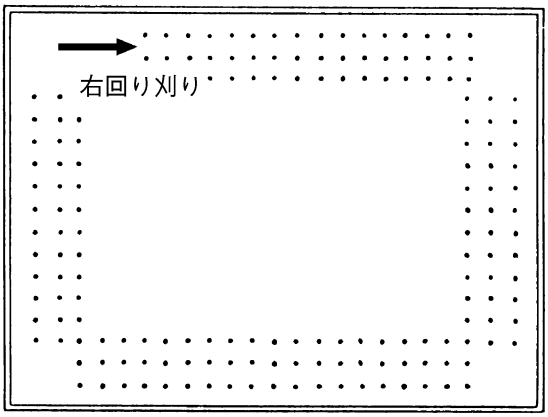
・あぜぎわ刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「**中割り刈り**」をします。
・中割り刈りは，《**標準刈取**》よりやや「**低速**」で行います。



　デバイダ（右）を刈取りする株元の右側に合わせ，刈取ります。

❸ 右回り刈り

(1) 回りのあぜが高く，あぜぎわまで植付けされているときは，あぜぎわ4条を残し「**中割り・左回り**」で刈取りをします。
(2) 残した4条を最後に「**右回り**」で刈取ります。
(3) あぜぎわを「**右回り刈り**」するときは，「**ナローガイド（左）**」を収納し，「**デバイダ（左）**」をあぜに突込まないようにします。

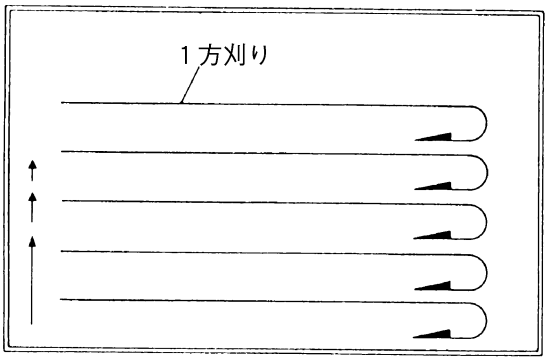


取扱いのポイント

●ほ場の状態によっては，最初にあぜぎわを「右回り」で刈取り，次から正常な「左回り」で刈取りするのが良い場合もあります。

❹ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて「**一方刈り**」を行います。



(1) 刈取り方向

・倒伏した作物の刈取りは，下と右の図表を参考にして行います。

1．中倒伏の場合は副変速《**標準**》で，倒伏している場所でのみ倒伏刈スイッチを《**ON**》にして刈取作業を行ってください。

2．倒伏の場合は副変速《**倒伏**》で，倒伏刈スイッチは《**OFF**》で刈取作業を行ってください。中倒伏および倒伏共，主変速レバーは,《**標準刈取**》の範囲で使用してください。搬送姿勢が安定した刈取作業ができます。

3．②右倒伏刈りが困難なときは，「**④左倒伏刈り・③追刈り**」となるように「**一方刈り**」をします。

「方向自動を使用しないとき」

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
①②③④	①向い刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	△	○	○
	④左倒伏刈り	△	○	○

○刈取り可能
×刈取り不可能
△走行速度を落として刈取り可能

「方向自動で刈取りするとき」

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
①②③④	①向い刈り	×	×	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	×	○	○
	④左倒伏刈り	×	○	○

○刈取り可能
×刈取り不可能（倒伏刈取りできません）

(2) スーパーデバイダ（別売り）

スーパーデバイダは稲の倒伏方向が一定でないとき（右倒伏・向い倒伏刈りとなるとき），倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。

取扱いのポイント

- **倒伏した作物を刈取るときは，引起し爪が最も下がった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。**
- **デバイダは全て同じ高さになるようにセットしないと刈残しの原因になります。**
- **デバイダ先端が土に突込まないようにしてください。**
  土に突っ込むと株の引抜きが発生し，詰まりの原因となります。
- **倒伏した作物の，中割り刈りは避けてください。**
- **クローラで穂先を踏まないようにしてください。脱こく部の詰まりなどの原因になることがあります。**
- **倒伏した作物を刈取る際，刈取部の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押し，ランプ点灯状態で作業をしてください。**

4．こく粒の排出操作方法

⚠警告 傷害事故防止のために

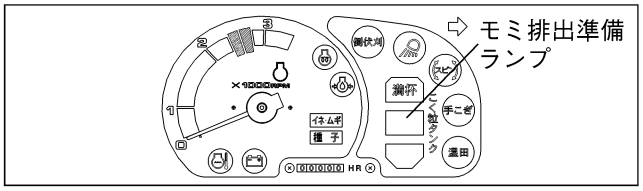
◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲の安全を確認してから行なってください。
◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。
◆こく粒の排出作業をするときは,駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを「切」にしエンジンを停止してください。
◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，自動スイッチを使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで固定してから行なってください。
◆水平自動スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。[L 仕様]

⚠注意

◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。

❶ モミ排出準備ランプ

・モミ排出準備ランプが点灯した後，刈取作業をしばらく続けると，方向指示器全てが点滅し補助者にモミ排出準備をしらせます。



❷ グレンタンクのモミ警報

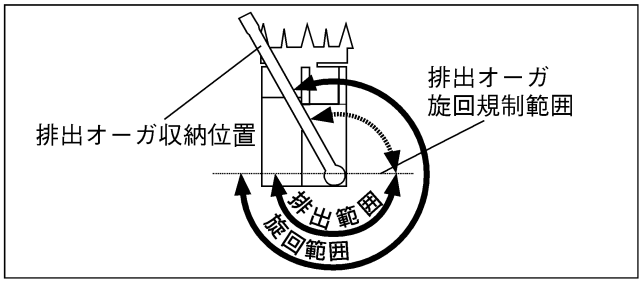
・グレンタンクにこく粒が充満すると，こく粒タンクランプの「**点灯**」と警報ブザーの「**断続音**」で知らせます。刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。
・警報ブザーは，警報入切ボタンを押すと止まります。

取扱いのポイント

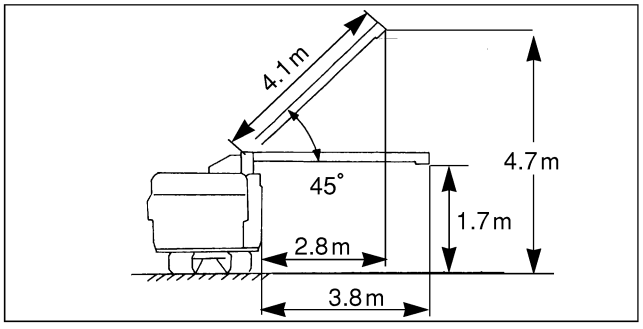
●警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けると，グレンタンク上部よりオーバーフローし，警報ブザーの連続音が鳴り，自動的にエンジンが停止します。作業機・刈取クラッチレバーを《切》にしないと，エンジンの再始動はできません。

❸ こく粒排出範囲（排出オーガ旋回範囲）

こく粒排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速レバーを《**中立**》にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。

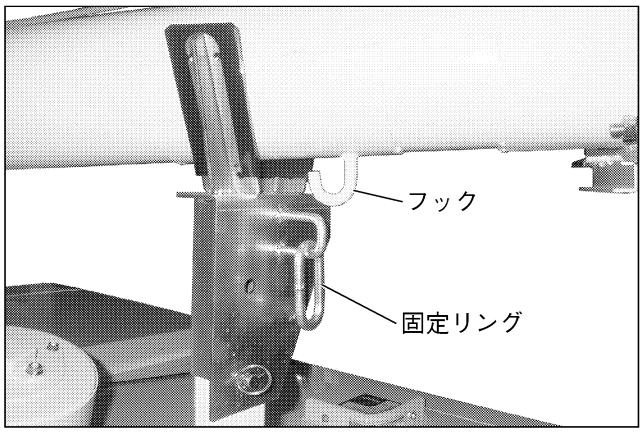


「排出オーガ高さと距離」



❹ こく粒排出操作手順

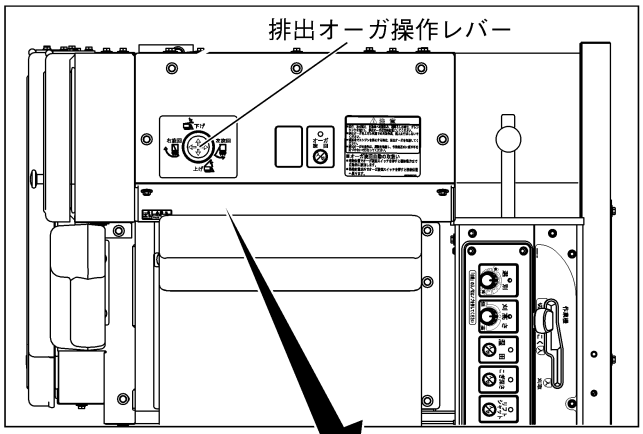
① 排出オーガ固定用リングをフック部より外す。

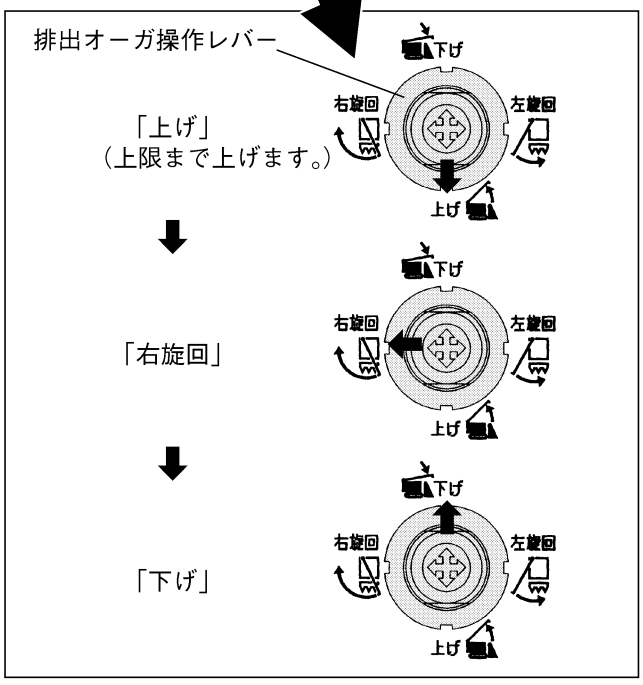


② こく粒排出オーガの先端部を排出位置にセットする。

位置セットする場合，「手動」と「自動」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき



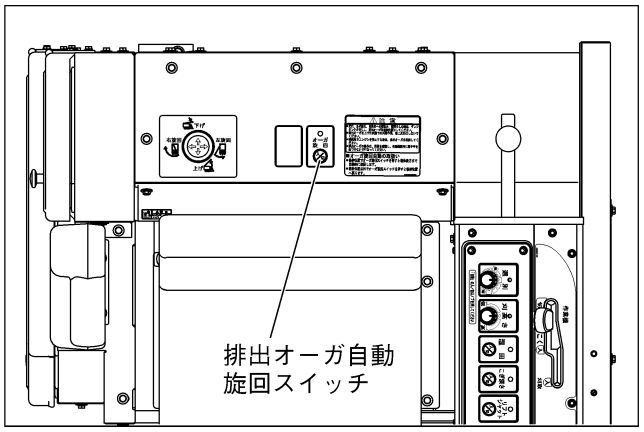


自動操作のとき ［排出時］

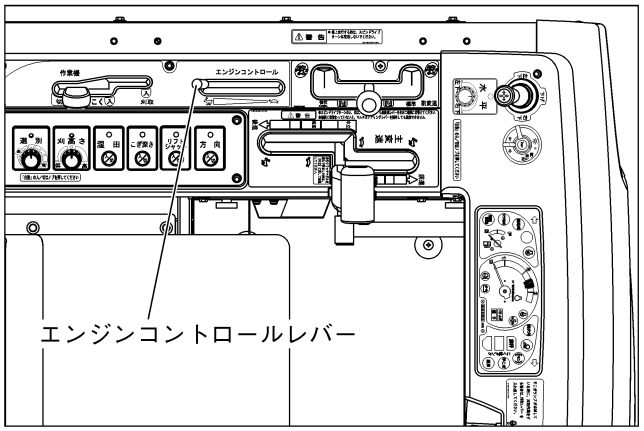
・排出オーガ自動旋回スイッチを「押」す。

……自動旋回開始

→ 真後で停止→手動で高さを合わせる

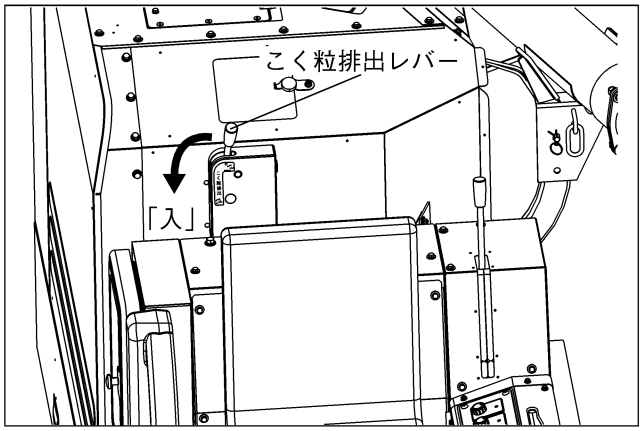


③ こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「色別表示」に合わせて行なってください。



④ こく粒排出レバーを「入」にする。

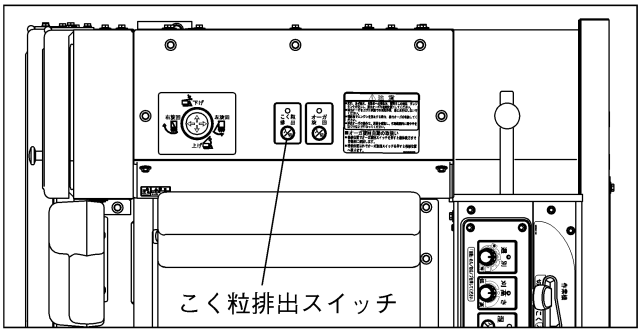
……こく粒排出開始



キャビン仕様のとき

こく粒排出スイッチを「入」にする。

……こく粒排出開始



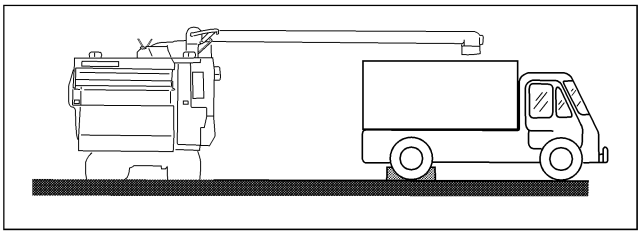
⑤　こく粒排出レバーを「切」にする。

……こく粒排出終了

キャビン仕様のとき

こく粒排出スイッチを「切」にする。

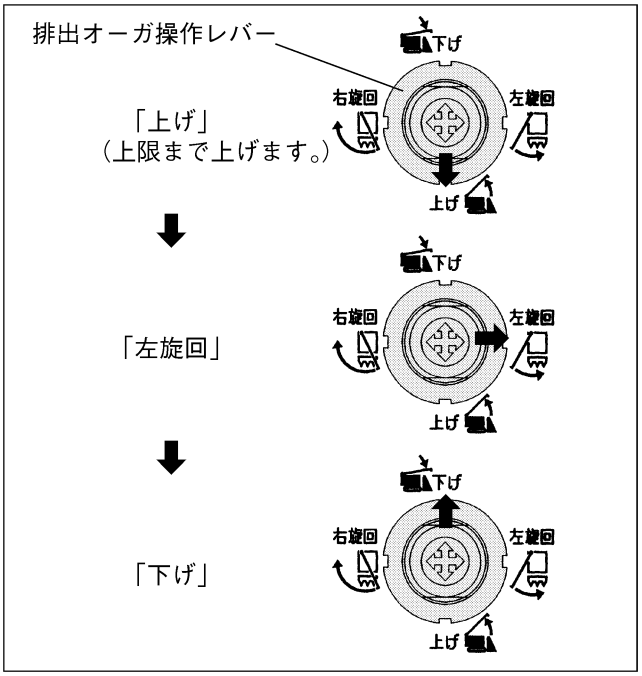
……こく粒排出終了



⑥　こく粒排出オーガを収納する。

収納する場合，「手動」「自動」の二通りの操作が可能です。

手動操作による方法



自動操作による方法　［収納時］

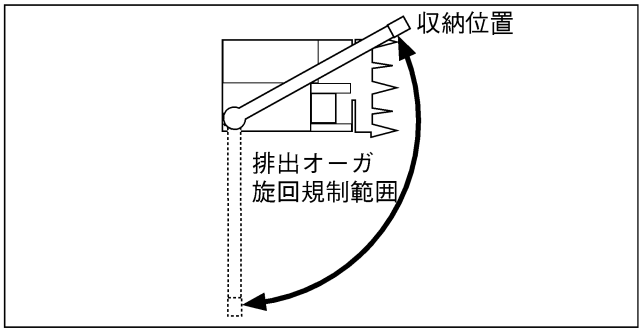
・排出オーガ自動旋回スイッチを押し，「自動」にする。……自動収納開始

→収納位置で停止→自動収納終了

⑦　排出オーガ固定用リングをフック部にかける。

取扱いのポイント

- こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒で塞がないようにして，排出位置を変えながら行なってください。
- 排出位置の変更は，機械を止めた状態で，排出オーガを少しずつ回動させて行なってください。
- 機械が傾いた状態では，オーガの旋回が遅くなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）します，又，自動収納時，排出オーガ受けに納まらない場所がありますので旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- 排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。
- 排出オーガ旋回は排出オーガをいっぱい上げてから行なってください。
- 排出オーガ旋回規制範囲内では，排出オーガを最上げ状態にしなければ旋回できません。また，この範囲内では，排出オーガの下降はできません。



5．グレンタンク補助樋口の取扱い

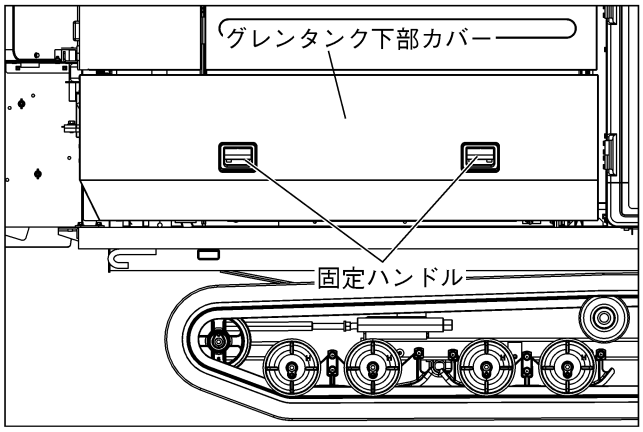
故障などにより，グレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すと，その内側にあります。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆補助樋口からこく粒を取り出すときは，エンジンを停止してください。

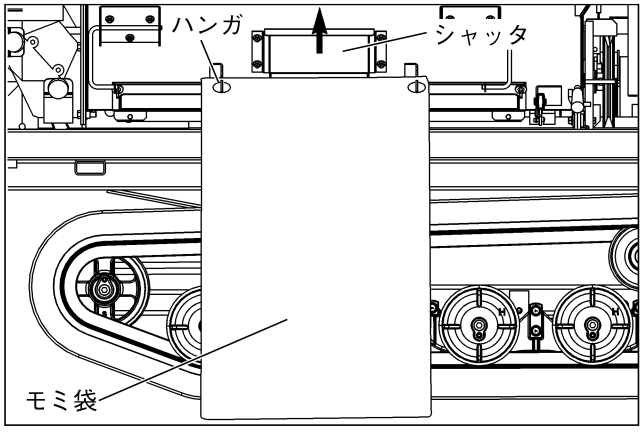
◆カバーを取外したままで使用すると，ケガをする恐れがありますので，取付けて使用してください。

❶ グレンタンク下部カバーの固定ハンドルを引いて，カバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。

❸ シャッタを引き上げ，タンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ こく粒の取出しが終了したら，シャッタを締め，グレンタンク下部カバーを取付けます。

6．ツインハーモニー

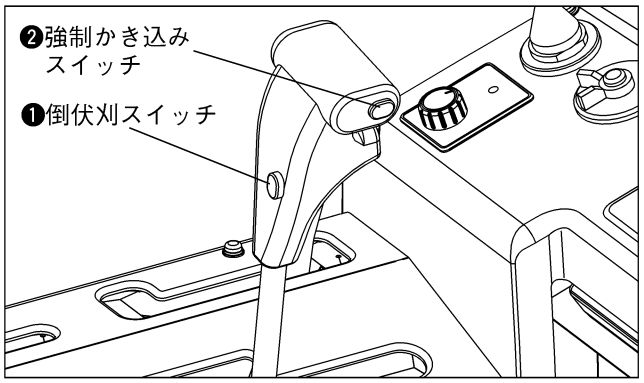
⚠警告 傷害事故防止のために

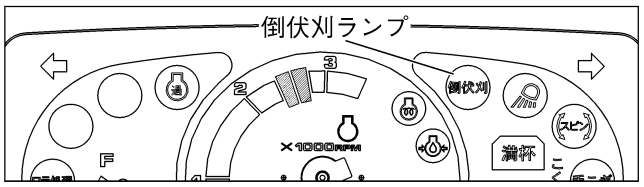
◆詰まりなどの異常が発生したときに，詰まったワラクズなどを取除く場合や，搬送部の点検をする場合には，刈取搬送，脱こくフィードチェンが突然回転する恐れがあります。作業機・刈取クラッチレバーを《切》位置にしてから平坦な場所でエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆強制かき込みスイッチの操作は，周囲の安全を確かめてから行なってください。

・刈取速度に応じて，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度を同調制御します。

・手こぎ作業時および，強制かき込み作動中は刈取搬送，脱こくフィードチェンは一定速で回転します。





❶　倒伏刈スイッチ

「入」……押すと倒伏刈ランプが点灯し，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度が通常より速くなります。

❷　強制かき込みスイッチ

走行停止状態または後進時に押している間，刈取搬送，脱こくフィードチェンが作動します。

取扱いのポイント

- **作業機・刈取クラッチレバーを《切》→脱こく《入》としますと，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。**
- **作業機・刈取クラッチレバーを刈取《入》位置にしますと，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。走行停止状態では刈取搬送および脱こくフィードチェン搬送は停止します。**
- **刈取走行中は強制かき込みスイッチを操作しないでください。搬送部の詰まりなどの原因になることがあります。**

7．リフトシャットの取扱い

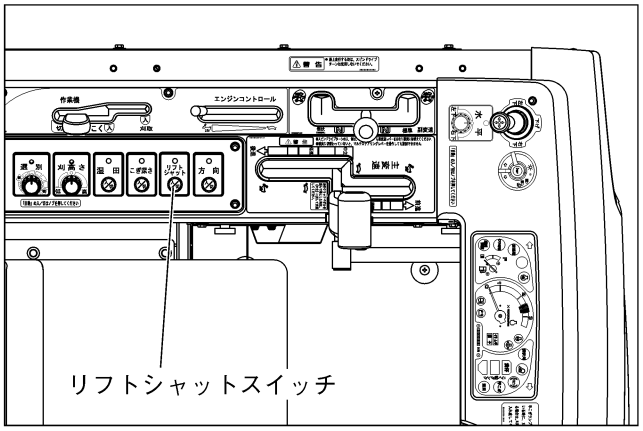
⚠警告　傷害事故防止のために

◆リフトシャットスイッチを《入》にして作業機・刈取クラッチが入っていると，刈取部を下げたときは，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。刈取部，脱こく部に近づかないでください。

◆リフトシャットが作動し，刈取部，脱こくフィードチェンが停止していても，強制かき込みスイッチを押せば，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。強制かき込みスイッチを押す時は，周囲に人がいない事を確認してください。

リフトシャットとは,リフトシャットスイッチを《**入**》にして刈取部を上げると，作業機・刈取クラッチが入った状態で自動的に刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構です。刈取部を下げると自動的に回り始めます。

・リフトシャットスイッチを《**切**》にすると，リフトシャットは機能せず，前処理の上下位置に関係なく，刈取部・脱こく部は回転します。



次の場合は，リフトシャット《**切**》位置で使用します。

- **手刈りのしてないほ場の回り刈り作業**
- **あぜ越え直後からの刈取り作業**
- **あぜぎわなどを高刈りする場合**
- **湿田などで刈取部を上げた状態で作業する場合**

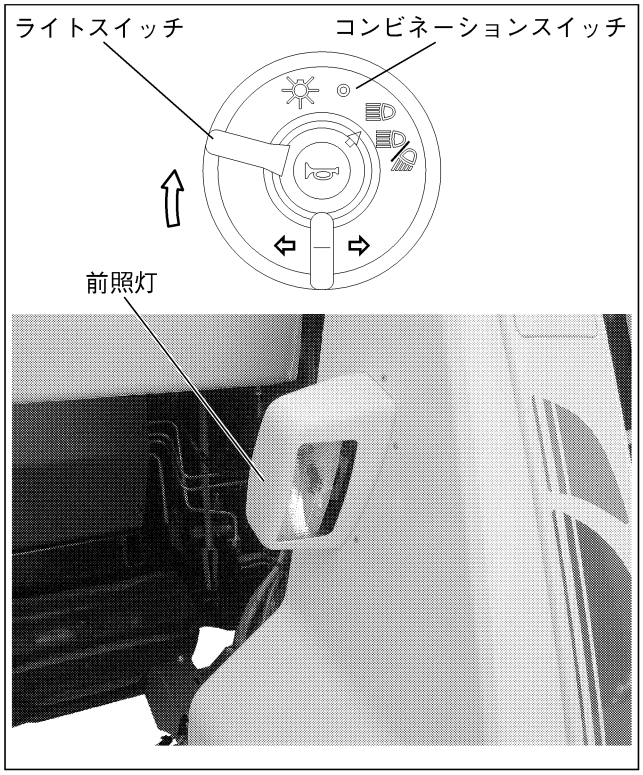
8．夜間作業

⚠警告　傷害事故防止のために

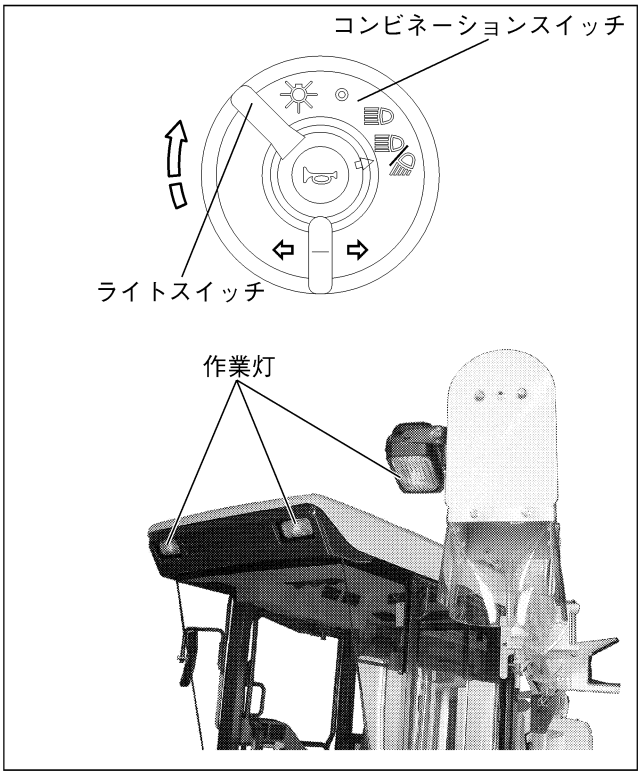
◆夜間作業をするときは，前照灯，作業灯を点灯してください。
◆作業灯電源を他の電源に使用しないでください。
◆路上走行するときは，作業灯を消灯してください。

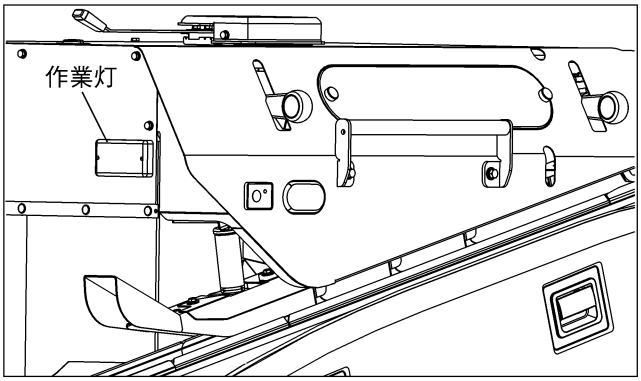
コンビネーションスイッチのライトスイッチと各作業灯スイッチの操作で，前照灯と作業灯を点灯または消灯します。

❶　ライトスイッチを１段回すと前照灯が点灯します。



❷　各作業灯スイッチを《**入**》にして，ライトスイッチを２段回すと，前照灯および全ての作業灯が点灯します。





9．トルクリミッタの取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まり等の異常が発生したときに詰まったワラクズ等を取除く場合や搬送部の点検をする場合には，平坦な場所でエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

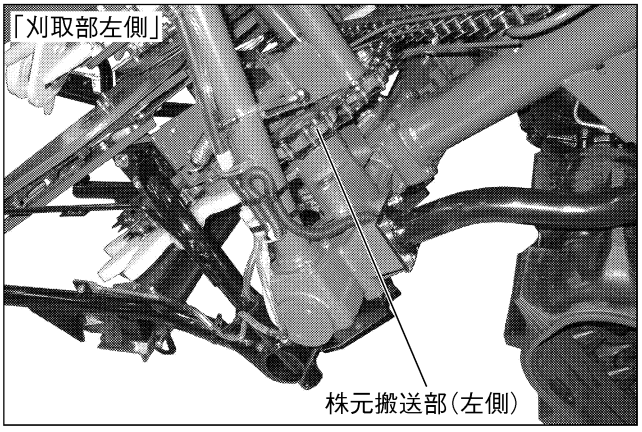
◆刈取部を上げて掃除・点検をする場合は刈取部が下がらないように油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にしてフックをかけ，さらに刈取部の下に「固定脚」等をかませて作業してください。

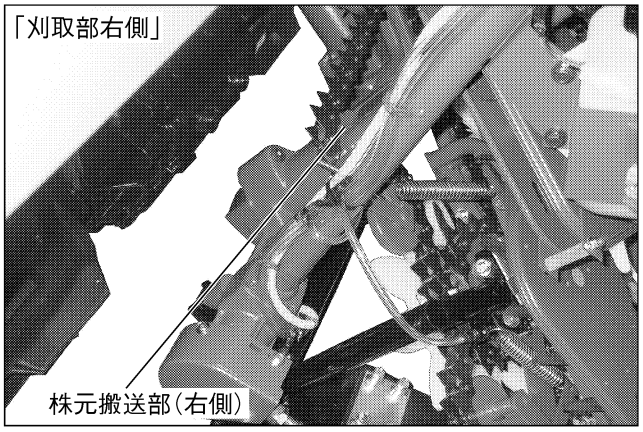
⚠注意

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まり等）が発生したとき，機械の破損を未然に防ぐためつぎの個所に「**トルクリミッタ**」が設けてあります。

使用個所	トルクリミッタが作動するとき
刈取搬送部 ・株元搬送駆動部 （2個所）	株元搬送で搬送詰まりおよび異常負荷が発生したとき





❶ 刈取搬送部・トルクリミッタ

⑴ 作業中，刈取部への搬送がスムーズに行われず，異常（詰まり等）が発生し「**カタカタ音**」を発しているときは，株元搬送の「**トルクリミッタ**」が作動して搬送が停止します。

⑵ ただちに作業を中止し，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《**切**》位置にし，エンジンを停止します。

⑶ 油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にしてフックをかけ，さらに刈取部の下に「**固定脚**」または，「**安全ブロック**」をかませ，詰まり個所を掃除し，刈取搬送部を点検します。

⑷ 副変速レバーを《**N**》（**中立**）にし，エンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）にし，作業機，刈取クラッチレバーを《**入**》にし，主変速レバーを《**低速**》に操作し正常に回ることを確認してから作業を開始します。

❷ こぎ深さ搬送ガイドの着脱

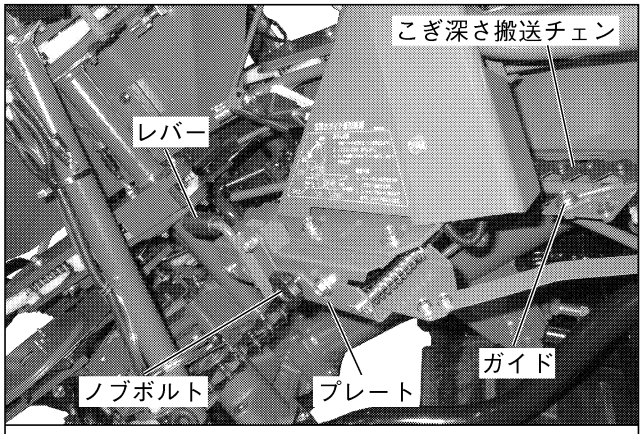
刈取り作業中にこぎ深さ搬送の個所で搬送詰まりが発生したときは，ガイドを外すことにより詰まりを容易に取除くことができます。

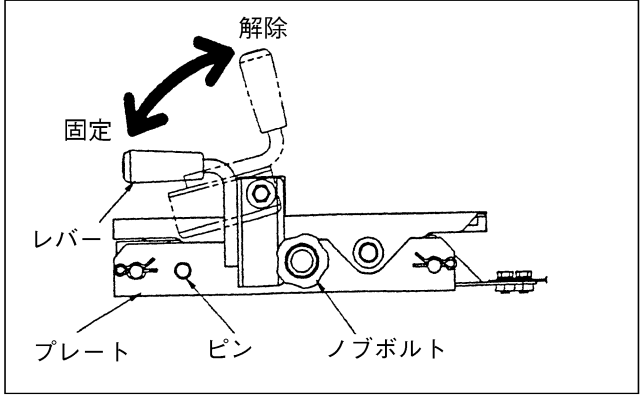
「取外し手順」

⑴ 作業機・刈取クラッチレバーを切り，エンジンを停止します。

⑵ ノブボルトを緩め，取外します。

⑶ レバーを持ち上げ解除にするとプレートが外れ，ガイドが外れます。





「装着手順」

⑴ プレートのピンを穴に合わせノブボルトを締付けます。

⑵ レバーをノブボトルに当たるまで倒すと，ガイドが固定されます。

10．エンジン自動停止の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，スタータスイッチを《STOP 切》位置にして，作業機・刈取クラッチレバーを《切》位置にしてから，詰まりを取除いてください。

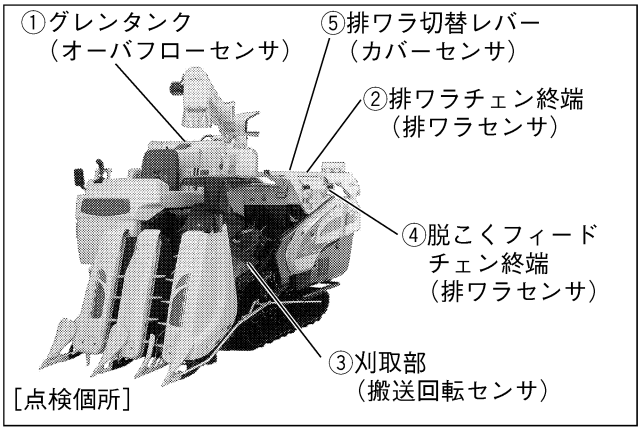
◆脱こくフィードチェンの詰まりの掃除・点検作業は，こぎ胴部を持ち上げ，「カチッ」という音を確認して（こぎ胴部は自動ロックされます），ゆっくり手を離してから行なってください。

◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業は，こぎ胴部やカッタをオープンしてストッパをかけてから行なってください。(109～110,122～123ページ参照)

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に，全てのカバーを取付け，こぎ胴部を閉めて，機械の周囲に人がいないことを確認してから，低速で回転確認を行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まりなど）が発生したときは，機械の破損や変形を未然に防ぐため，次の個所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，ワラ処理ランプ，またはこく粒タンクランプが点灯あるいは，倒伏ランプが点滅してエンジンが自動停止します。

No.	センサ設置部	停止条件	センサ名
①	グレンタンク	オーバーフロー	オーバーフローセンサ
②	排ワラチェン終端	詰まり	排ワラセンサ(排ワラチェン)
③	刈取部	詰まり	搬送回転センサ
④	脱こくフィードチェン終端	詰まり	排ワラセンサ(脱こくフィードチェン)
⑤	排ワラ切替カバー	オープン	カバーセンサ



❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《 STOP **切**》位置にして，作業機・刈取クラッチレバーを《**切**》位置にしてから，詰まりやオーバーフローを取除きます。

❷ 詰まりを取除き，副変速レバーを《**N**》(**中立**)にし,エンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《 》(**低速**)にし，作業機・刈取クラッチレバーを《**入**》位置にして，主変速レバーを《**低速**》に操作し，搬送部が正常に作動することを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

- **こぎ胴部を閉じるときは，脱こくフィードチェン,排ワラチェン部のワラを取除いてから行なってください。**

11．手こぎ作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆手こぎ作業は，手や衣服を脱こく供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。

◆手こぎ作業をするときは，手袋を使用しないでください。

◆機械を走行しながらの手こぎ作業は，しないでください。機械の走行を停止して行なってください。

◆手こぎ作業をするときは，機械をワラクズの近くに止めないでください。(火災予防)

◆手こぎ作業は，作業機・刈取クラッチレバーを脱こく《入》位置にし，刈取部の作動停止を確認してから行なってください。

◆作業機・刈取クラッチレバーは，周囲の人に合図してから脱こく《入》位置にしてください。

⚠注意

◆カッタの切ワラが溜まったら作業を中断し，機械を移動するか，作業機・刈取クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止してから，切ワラを取除いてください。

❶ 主変速レバーを《**中立**》および副変速レバーを《**N**》(**中立**)にし，走行を停止します。

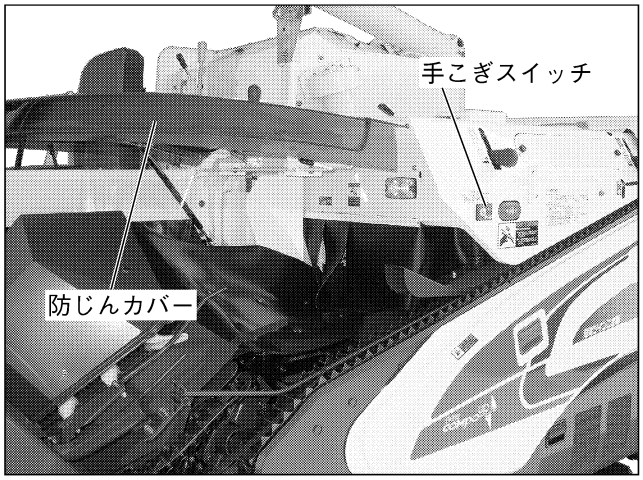
❷ 作業機・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。

❸ 水平自動スイッチを「**切**」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。[**L 仕様**]

❹ 刈取部をいっぱいに「**下げ**」ます。

❺ こぎ深さ搬送体を一杯に下げます。(深こぎ側)

❻ 防じんカバーを上方に開きます。[**C 仕様を除く A 仕様**]



❼　作業機・刈取クラッチレバーを脱こく《**入**》位置，エンジン回転を回転計の「**色別表示の上限**」（刈取る作物の回転数上限）にセットします。

❽　作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ，手こぎ作業をします。

❾　手こぎ作業が終わったら，作業機・刈取クラッチレバーを《**切**》にして，防じんカバーを元の位置に戻し，こぎ深さ搬送体をこぎ深さ手動スイッチで適正位置に調整します。

取扱いのポイント

- **バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。**
- **作業機・刈取クラッチレバーを脱こく《入》位置にしますと，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。**
- **作業機・刈取クラッチレバーを刈取《入》位置にしますと，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となりますが走行停止状態では刈取および脱こくフィードチェン搬送は回転しません。手こぎ作業では，作業機・刈取クラッチレバーを脱こく《入》位置で使用してください。**

［手こぎスイッチの取扱い］

①　作業機・刈取クラッチレバーを刈取《**入**》位置で刈取，脱こくフィードチェン搬送が停止している状態で手こぎ作業をする時は，手こぎスイッチを押してください。脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となり，手こぎ作業が可能となります。この時，手こぎランプが点滅し，手元ブザーが鳴ります。

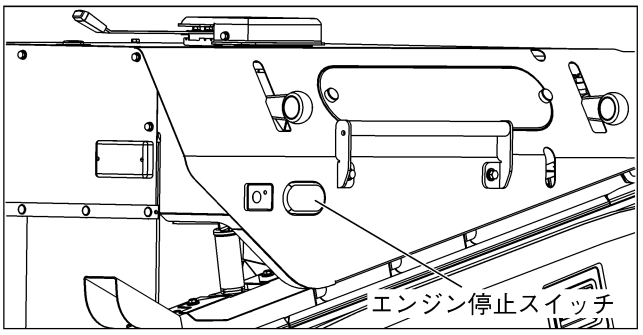
②　手こぎスイッチによる手こぎ作業を終了する時は，再度手こぎスイッチを押すか，作業機・刈取クラッチレバーを《**切**》又は脱こく《**入**》位置にしてください。この時，手こぎランプが消灯し，手元ブザーが鳴り止みます。

取扱いのポイント

- **手こぎスイッチでの手こぎ作業は，通常手こぎ作業と同じ要領で行ってください。**
- **手こぎスイッチでの手こぎ作業から再刈取りするときは，必ず上記②の処置を行なってください。手こぎランプが点滅状態では刈取部が動作しません。**

12．エンジン停止スイッチの取扱い

このスイッチを押すと，エンジンが停止します。手こぎ作業中などに万一トラブルが発生したときは，このエンジン停止スイッチを押して，エンジンを停止します。



取扱いのポイント

- **エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《 STOP 切》にしてください。そのまま放置するとバッテリが放電します。**

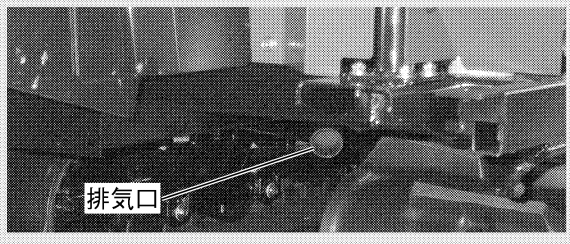
13．刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告　火災防止のために

◆機械をワラクズの溜まった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。

◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズなどを掃除してください。



❶　平坦な場所で主変速レバーを《**中立**》の位置にします。

❷　作業機・刈取クラッチレバーを《**切**》の位置にします。

❸　駐車ブレーキをかけます。

❹　エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**倒伏**》に入れて停止します。

❺　**作業後の手入れ**

・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油をします。

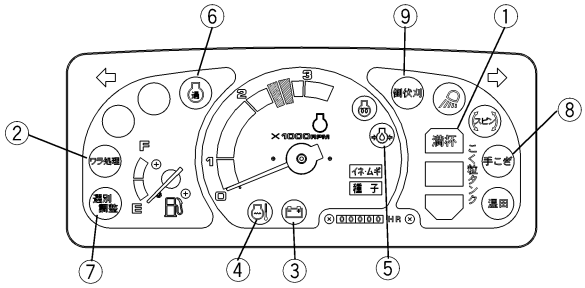
取扱いのポイント

- **作業機・刈取クラッチレバーは，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく《入》にし，空運転してから《切》位置にします。**
- **水洗いするときは，エンジン回り，電気配線部，マイコン装着部，運転パネル部および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。**

14．警報装置について

つぎの個所に異常が発生した場合は，警報点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常個所を確認して，つぎの処置を行います。



No.	名　称	現　　象	警告の方法			解除方法	点　検　と　処　置	参照ページ
			警報ランプ	ブザー	エンジン			
①	モミ処理	満　杯	点灯	断続音の断続	－	警報切入ボタン「**押す**」または作業機・刈取クラッチレバー《**切**》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	**51～54**
		モミオーバーフロー	点滅	断続音の連続	停止	作業機・刈取クラッチレバー《**切**》		
②	ワラ処理	脱こくフィードチェン詰まり	点灯	連続	停止	作業機・刈取クラッチレバー《**切**》	脱こくフィードチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	**63～64**
		排ワラ詰まり					排ワラチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	
		排ワラ切替カバーオープン					排ワラ切替カバーを閉め，作業状態（カッタまたはドロッパ）とします。	**63～64**
		ノッタひも切れ	点滅		－		ひもが切れているか，ひもがなくなっていますので点検します。	**ノッタの取扱説明書**
③	充　電	充電不足	点灯	－	－	スタータスイッチ《 STOP **切**》	・スタータスイッチ《 START **入**》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジンを止め，ファンベルト等を点検します。	**103～107**
④	水　温	オーバーヒート	点灯	連続「**低速運転**」中は断続	－	水温が下がるまでエンジンを「**低速運転**」	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。 ・エンジンを停止し，ラジエータ吸気部，ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	**100～101** **145** **91～92**
⑤	オイル	エンジンオイル量不足	点灯	－	－	スタータスイッチ《 STOP **切**》	・スタータスイッチ《 START **入**》で点灯し，エンジン始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	**89～90**
⑥	エンジン回転負荷モニタ	エンジン回転が下がる	点滅	断続	－	走行速度を下げる	・作業速度を下げてエンジンの過負荷をなくします。 ・こぎ深さ，送じん量調節レバーの調整がよいか確認します。 ・ワラ切りカマが損耗していないか確認します。	**44～46** **22，67** **139～140**
⑦	選別調整	選別部の過負荷	点滅	－	－	－	作業速度を下げるか，選別ダイヤルを「**開**」側に回します。	**11**
⑧	手こぎ	手こぎモード中	点滅	手元ブザー断続	－	－	手こぎスイッチを《切》または，作業機・刈取クラッチレバーを作業機《**入**》位置か《**切**》位置にします。	**11**
⑨	倒伏刈	刈取部詰まり	点滅	断続	停止	－	刈取搬送部の詰まりを取除きます。	**10**
		搬送HST異常					異常を取除きます。	

その他のランプあるいは自動スイッチランプが点滅するときには「**お買いあげ先**」で点検を受けてください。

3．ワラ処理部の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆回転部にワラなどの巻付きが発生し，または異物が混入したときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，カッタをオープンし，ストッパをかけて，ワラなどを取除いてください。

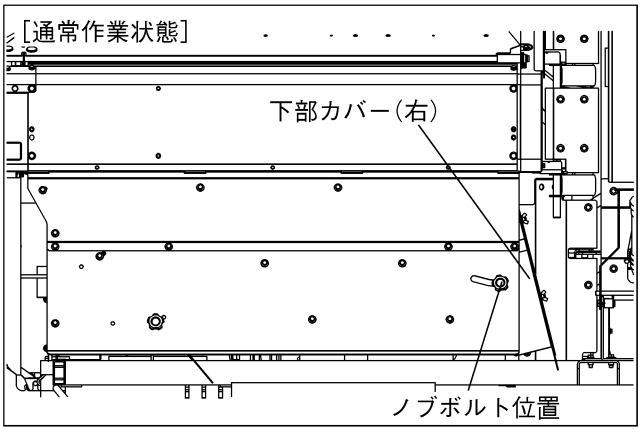
◆巻付きなどを取除くときは，カマなどを使用し，手ではカッタ刃に触れないでください。

取扱いのポイント

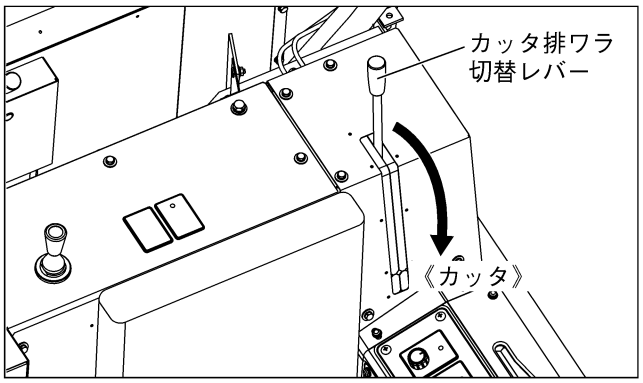
- **カッタ・排ワラ切替レバー操作は，搬送経路のワラを完全に排出してから行います。**
- **脱こく作業中の切替え操作は，しないでください。詰まりの原因となります。**
- **こぎ胴部を開いた状態でカッタ排ワラ切替レバーの切替えは行わないでください。**

1．カッタ作業

❶ 下部カバー（右）を「**通常作業状態**」にセットします。



❷ カッタ排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にします。



❸ カッタサイドカバーを取外し，カッタの切ワラ切断長さをセットします。

・出荷時は切ワラ切断長さのセット位置は《**短切り**》位置にしてあります。

・《**長切り**》位置に切替える場合は，切ワラ切断長さ切替レバーを《**長切り**》位置にセットします。

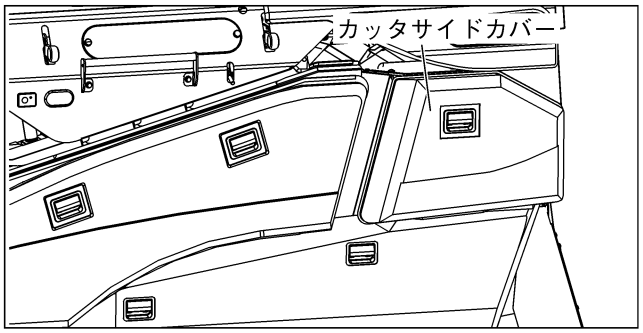
・切断長さ切替レバーはロックレバーを手前に引いた後，回動します。

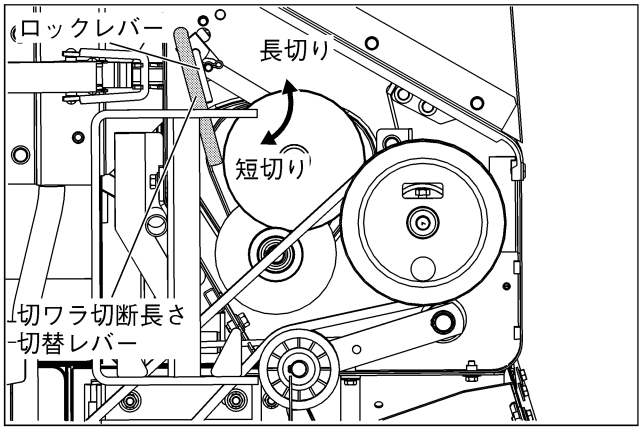
《**短切り**》……切断長さ約60（40）㎜

《**長切り**》……切断長さ約180（160）㎜

（（ ）寸法は［**スーパーマルチカッタ仕様**］の切断長さを示します。）

切替後はカッタサイドカバーを取付けます。





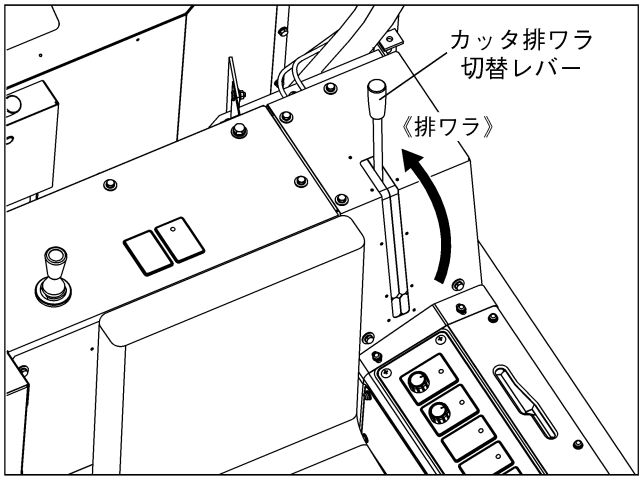
取扱いのポイント

- 刃の切れ味が低下すると，巻付きが発生しやすくなりますので，刃の交換を行なってください。
- 倒伏した作物の刈取り作業を行う場合，ワラがカッタの回転軸に巻付くことがあります。巻付いたまま長時間作業しますと，巻付き防止パイプが変形する恐れがありますので，50 a（アール）作業ごとにエンジンを停止してカッタ内を点検し，巻付いている場合は巻付きを除去してください。
- カッタの点検，掃除はカッターをオープンし，ストッパをかけてから行います。（オープンのしかたは，122〜123ページ参照）

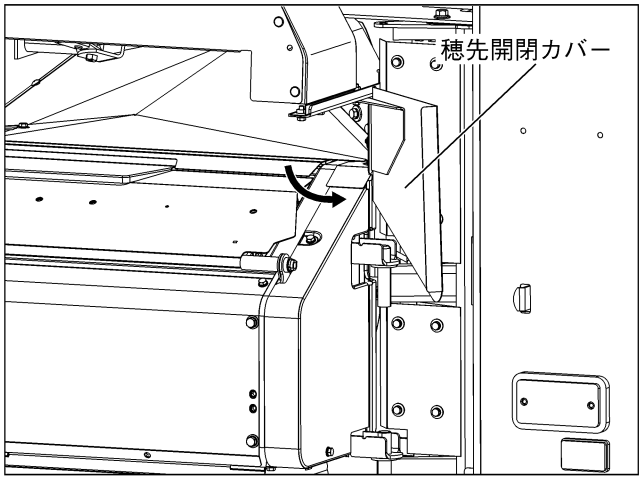
2．排ワラ作業

排ワラ作業には，①脱こくされたワラをそのまま排出する作業，②ドロッパ作業，③ノッタ作業があります。

❶ カッタ排ワラ切替レバーを《排ワラ》位置で使用します。



❷ 穂先開閉カバーを開きます。



取扱いのポイント

- ノッタ及びドロッパは別売りです。取扱いについては，それぞれの「取扱説明書」をお読みください。

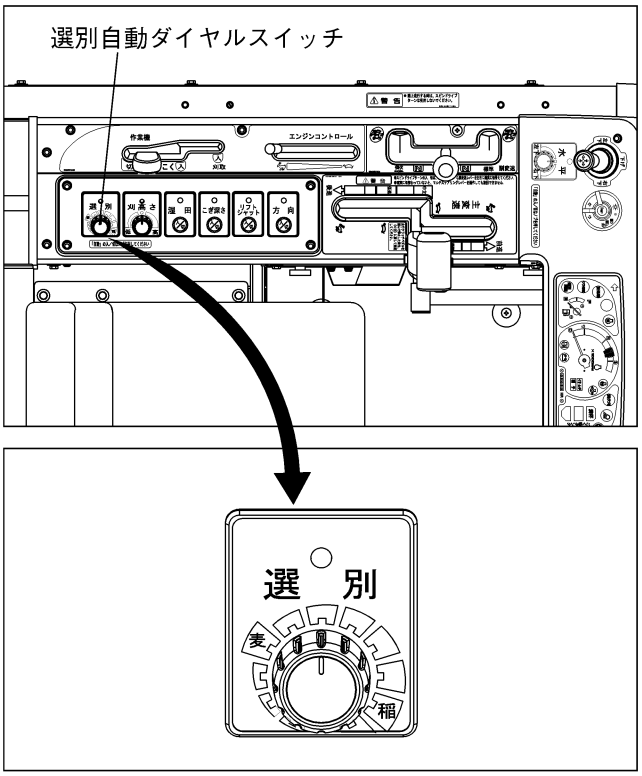
4．麦刈り作業時の調整のしかた

工場から出荷のときは，「**稲作業セット**」にしてあります。

麦刈り作業をするときは，次の個所を「**麦作業セット**」に切替え調整します。

1．選別ダイヤルの調節

麦刈り作業をするときは，ダイヤルを《**ムギ標準**》位置にセットします。なお作業条件により，次のように使いわけてください。



作業内容	選別ダイヤル
通常の麦刈取り作業	《**麦**》
《**麦**》で選別が悪いとき	《**麦**》より《**左**》側にダイヤルを回します。
高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《**麦**》より《**右**》側に回します。

・選別ダイヤルのセット方法は，「**選別自動制御の取扱い**」の項72ページを参照。

2．こぎ胴回転数のセット

こぎ胴回転は，回転計で作業範囲確認しながら主変速レバーとエンジンコントロールレバーで調整します。（9～10，17ページ参照）

5．刈刃の高さ調節のしかた

・出荷のときは，「下セット」になっています。うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は，刈刃のカラーを入れ替えて「上セット」にします。

・セット方法は，157～158ページを参照します。

自動装置について

1．こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して，適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に，手動スイッチで手動操作すると，手動が優先となります。

1．運転装置

こぎ深さ調整は,「**自動制御**」と「**手動**」の二通りの操作が可能です。

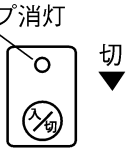
- **自動制御中は，手動スイッチによる調整の必要はありません。**

但し，倒伏角45°以上の倒伏材，および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動するときは，自動制御を解除して，こぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

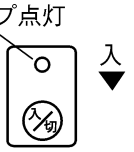
❶　こぎ深さ自動スイッチ

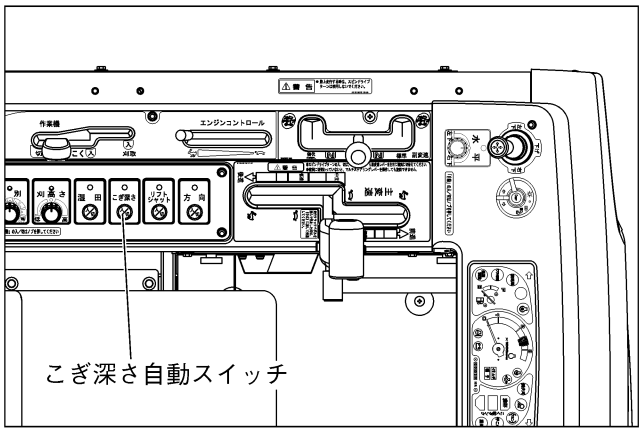
スタータスイッチを《 **入**》位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態になります。

・「**切**」……ランプが点灯しているときに，こぎ深さ自動スイッチを押すと，ランプが消灯し，こぎ深さ自動は作動しません。



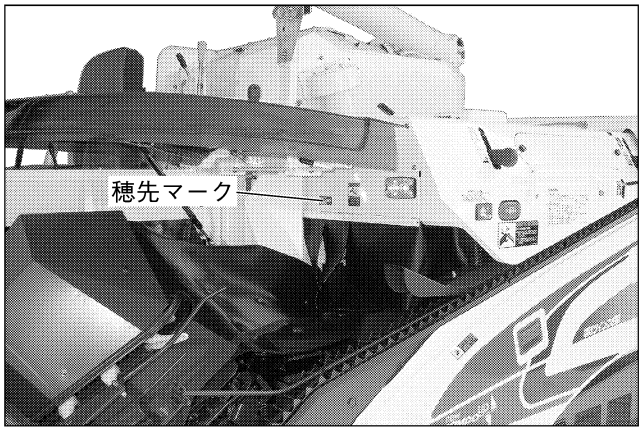
・「**入**」……再度，こぎ深さ自動スイッチを押すと，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態となります。

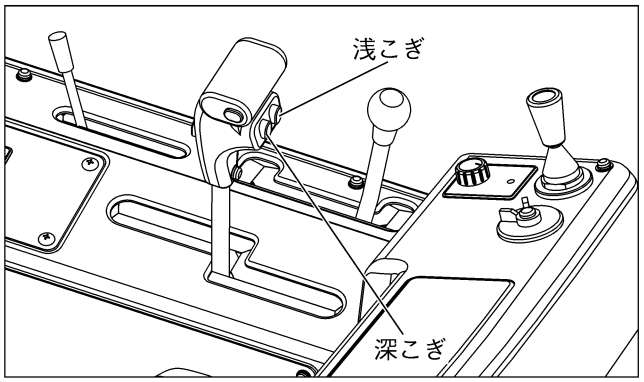




❷　こぎ深さ手動スイッチ

脱こく供給口の「**穂先マーク**」位置に作物の穂先がくるように，こぎ深さ手動スイッチで調整します。





《**深こぎ**》……《**深こぎ**》側を押すと，作物の穂先が深い位置に移動します。

《**浅こぎ**》……《**浅こぎ**》側を押すと，作物の穂先が浅い位置に移動します。

取扱いのポイント

- **自動制御が故障のときは，こぎ深さ手動スイッチによって，手動で操作してください。**

❸ ヒューズ

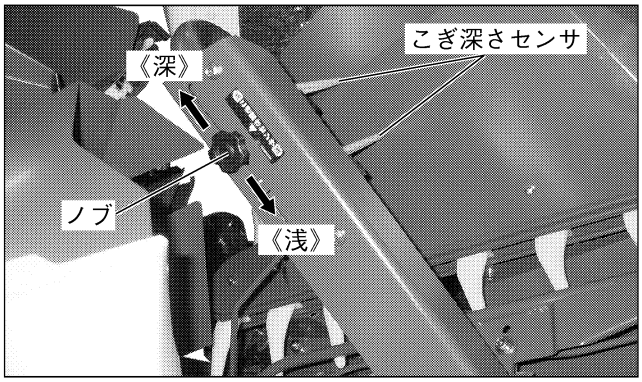
取扱い方は，26～29ページを参照します。

取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動ランプが点灯してもこぎ深さ自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**

2．こぎ深さセンサの調整

こぎ深さセンサは，工場からの出荷のとき，「**標準**」(合わせマークの中央）の位置に調整してあります。



・次のようなときは，ノブをゆるめセット位置を調整します。

こぎ深さを「**深く**」したいときは，センサケースを《**深**》方向へ移動します。

こぎ深さを「**浅く**」したいときは，《**浅**》方向へ移動します。

・調整後は，ノブを確実に締めます。

3．こぎ深さ自動制御が使えない条件

・次の状態では，こぎ深さ自動スイッチを「**切**」（ランプ消灯）にし，手動スイッチでこぎ深さを調整します。

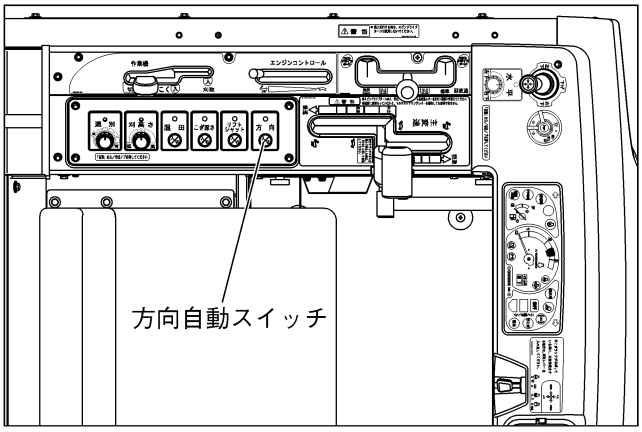
- **○倒伏角45°以上の倒伏作物**
- **○腐れ状態の作物**
- **○雑草が多いとき**
- **○作物の長さが極端に変動するとき**

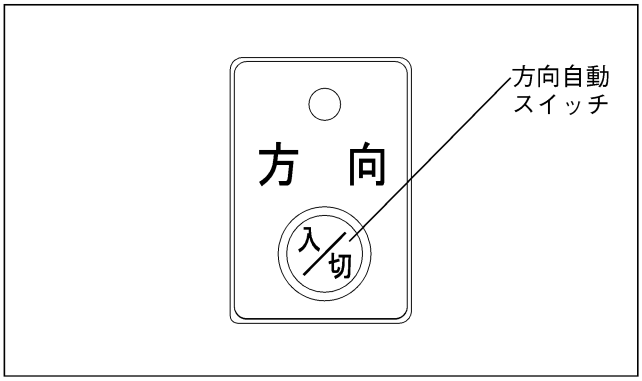
2．方向自動制御［A仕様］

方向自動は，刈取部に取付けた方向センサで条の曲がりを感知し，条列に沿って自動操行します。また，マルチステアリングレバーを操作すると，一旦，方向自動制御は「**解除**」され，手動操作優先となります。

⚠注意 ◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしするときは方向自動スイッチを「切」にしてください。

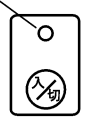
1．運転装置



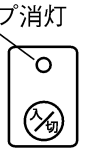


方向自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，方向自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から，再び押すとランプが消え，方向自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

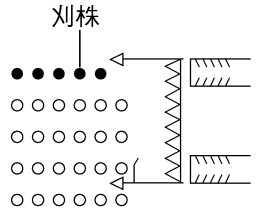
- **方向自動スイッチ内ランプが点灯しても，方向自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。**

2．作業のしかた

❶　スイッチの操作・条合わせのしかた

⑴　方向自動スイッチを「**入**」(ランプ点灯）にします。

⑵　機械が条列に真直ぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

	方向自動スイッチ	条合わせのしかた
条刈り	スイッチのランプを「**点灯**」にする	 左デバイダを条間に合わせる

❷　刈取り作業中の手動操作

方向自動制御中でも，マルチステアリングレバー，ジャストディレクタを手動操作すると，「**手動優先**」で進路を変えることができます。

❸　旋回時の操作

旋回する時は，マルチステアリングレバーで手動操作します。

この時に，方向自動スイッチを「**切**」にする必要はありません。

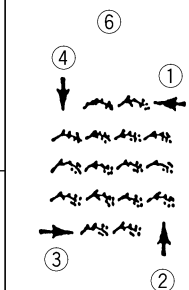
取扱いのポイント

- **条合わせは，機械が条列に真直ぐになるようにしてください。斜めになった時は，条外れすることがあります。**

3．方向自動制御の使えない条件

次の条件では，方向自動スイッチを「**切**」にして，マルチステアリングレバーで手動操作します。

- 横刈り
- 中割り
- 斜め刈り
- あぜぎわ刈り
- 雑草が多いとき
- バラまきほ場
- 湿田
- 条間および株間が極度に乱れているとき
- 稈量が少ないとき
- 欠株が多いとき
- 植付条間が25㎝未満の場合
- 植付条間が33㎝以上
- 植付株間20㎝以上の場合
- 倒伏材は，「**❹倒伏作物の刈取り**」項（50ページ）を参照
- 次のような倒伏材

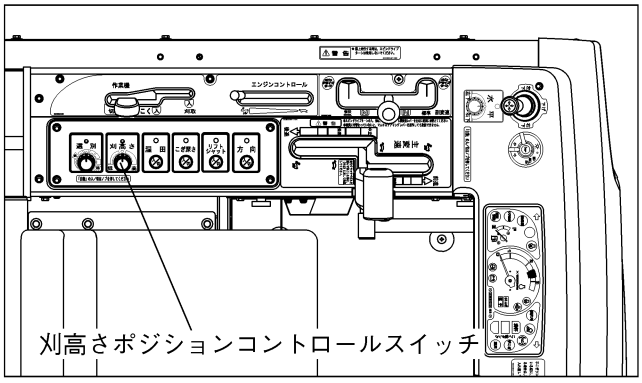
刈取り方向＼倒伏程度			倒伏程度 倒伏	中倒伏	立毛状態
標準刈取り		①向い刈り	×	×	○
		②右倒伏刈り	×	○	○
		③追い刈り	×	○	○
		④左倒伏刈り	×	○	○
中割刈取り		⑤右倒伏刈り	×	×	○
		⑥左倒伏刈り	×	×	○

○刈取り可能
×刈取り不可能（倒伏刈取できません。）

3. 刈高さポジションコントロール

刈高さダイヤルにより，シートに座ったまま手元操作で，刈取部の高さを調節することができます。

1．運転装置

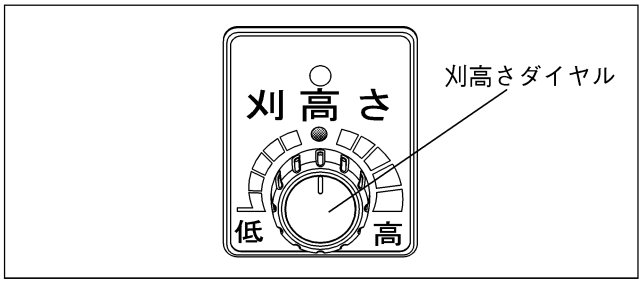


❶ 刈高さポジションコントロールスイッチ

スタータスイッチを《 入》位置にするとランプが点灯し,刈高さポジションの設定ができます。

(1) ランプ点灯時に刈高さダイヤルを押すとランプが消灯し，刈高さポジションを使用できない設定となります。
再度，刈高さダイヤルを押すとランプが点灯し，刈高さポジションを使用できる設定となります。

(2) 刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，お望みの「**刈高さポジション**」を設定することができます。



・刈高さダイヤルは通常,《●》位置で使用します。

❷ ヒューズ

取扱いは，26～29ページを参照します。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールを使用しないときは，スイッチを《切》で使用します。**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションが設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

2．自動での作業のしかた

❶ 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件に合わせて，低く刈取るときは《**低**》の方向に，高く刈取るときは《**高**》の方向にダイヤルをセットします。

(1) 刈高さダイヤルを**標準**《●》位置にセットします。

(2) 作業機・刈取クラッチレバー刈取《**入**》位置でマルチステアリングレバーを《**下げ**》に操作して刈取部を下げます。刈取部が停止した位置が刈高さポジションの設定位置です。

❷ 刈高さが高すぎる場合

(1) 刈高さダイヤルを少し《**低**》側へ回します。

(2) 刈取部が下がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

❸ 刈高さが低すぎる場合

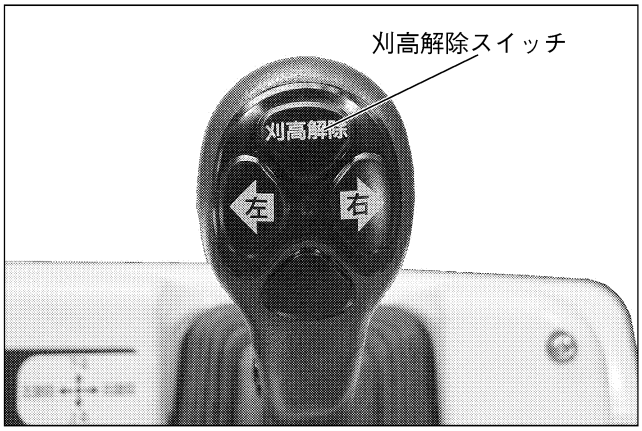
(1) 刈高さダイヤルを少し《**高**》側へ回します。

(2) 刈取部が上がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールランプが点灯しているときは,マルチステアリングレバーを《下げ》操作しても，刈高さセット位置より低くすることはできません。**
- **刈高さポジションコントロール中に，マルチステアリングレバーを《上げ》操作すると，ポジションコントロールが解除されます。**
- **再度ポジションコントロール状態にしたいときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。**

❹ 刈高解除スイッチ



⑴ 刈高さセット位置よりも更に刈取部を下げたいときは，刈高解除スイッチを押しながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。

但し，刈取部の下限ストッパが作用する高さ以下には下がりません。

⑵ 刈高解除スイッチの操作をやめると，約１秒後に元の刈高さポジションコントロール位置に戻ります。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールランプが消灯している時は，上記⑴〜⑵の機能は働きません。**
- **刈高解除スイッチ操作中に元の刈高さポジションコントロール位置より高くした場合には元の高さに戻りません。**
  再度ポジションコントロール状態にしたいときには，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。

３．手動での作業のしかた

刈高さダイヤル《**切**》で，ランプを「**消灯**」状態にすると，刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって，刈取部の高さを任意の位置に合わせることができます。

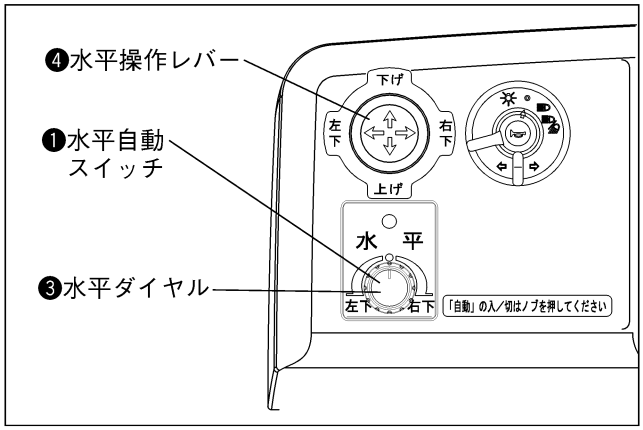
４．水平自動制御［Ｌ仕様］
（ジャストマチック）

・水平自動は湿田などで機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正します。「**水平操作レバー**」で機体全体を持上げることもできます。
・あぜぎわや溝のある麦刈作業時および傾斜地での作業では，ほ場条件に合わせ水平ダイヤルで一定の角度に傾斜させて作業ができます。

⚠警告 傷害事故防止のために

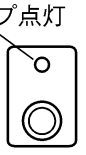
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，こく粒の排出時は，水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げて行なってください。

１．運転装置

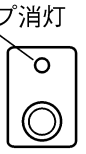


❶ 水平自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，水平自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，水平自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

- **水平自動スイッチランプが点灯しても，水平自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。**

❷ **ヒューズ**

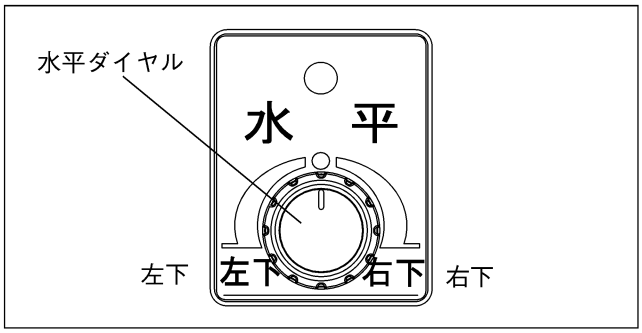
取扱い方は，26～29ページを参照します。

❸ **水平ダイヤル**

水平ダイヤルの操作によって，機体を一定の角度に傾斜させた制御をすることができます。

・ダイヤルを《**右下**》の方向に回すと，機体は右下がりになります。

・ダイヤルを《**左下**》の方向に回すと，機体は左下がりになります。



❹ **水平操作レバー**

取扱い方は，22ページを参照します。

2．作業のしかた

❶ **作業前**

水平ダイヤルで，機体をお望みの角度に調整します。

❷ **刈取り作業**

作業機・刈取クラッチレバー刈取《**入**》位置で，水平自動制御が作動します。

作業機・刈取クラッチレバー《**切**》のときには，水平自動制御は作動しません。

❸ **作業終了時**

作業が終了したら，水平自動スイッチを「**切**」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

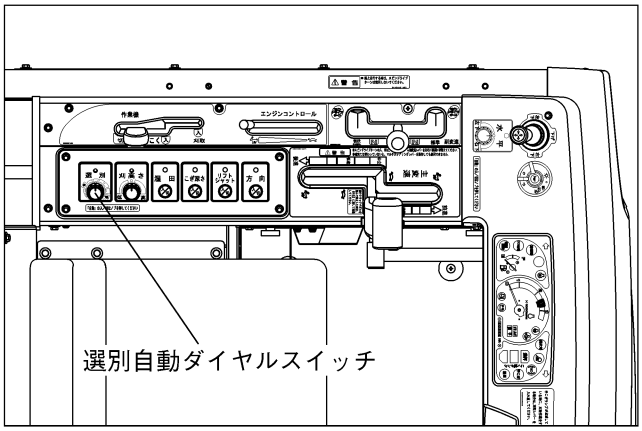
取扱いのポイント

- **水平自動スイッチが「入」でも水平操作レバーを操作すると，「手動優先」で機体の高さ，傾斜角を変えることができます。**
  但し，水平操作レバーを離すと，傾斜角は水平ダイヤル設定位置に戻ります。
- **自動制御中，機体の高さを変えたいときは，水平操作レバーを操作してください。**

5．選別自動制御

選別自動は，脱こくしたこく粒の量に応じて自動的に揺動板を調整し，刈取り条件に合ったきめ細かい選別となるように自動的に調整します。

1．運転装置

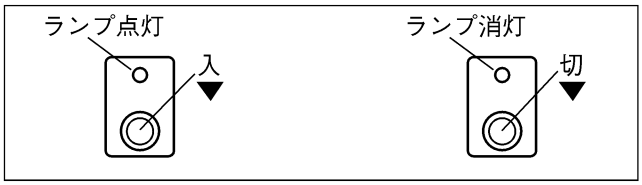


❶　選別自動ダイヤルスイッチ

スタータスイッチを《 入》位置にするとランプが点灯し，選別自動が作動状態になります。

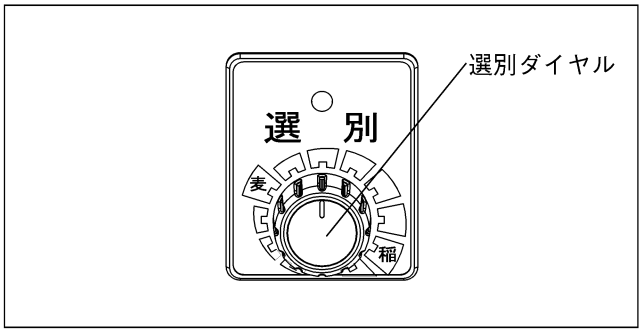
・選別自動スイッチ内ランプが点灯時に選別自動スイッチを押すと，ランプが消灯し，選別自動は作動しません。

・再度，選別自動スイッチを押すと，スイッチ内ランプが点灯し，選別自動が作動状態となります。



❷　選別ダイヤル

刈取る作物に合わせて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。



作業内容		選別ダイヤル
稲刈り作業	通常の刈取り作業	《稲》
	《稲》で選別が悪いとき	《稲》より《左》側にダイヤルを回します。
	高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《稲》より《右》側に回します。
麦刈り作業	通常の刈取り作業	《麦》
	《麦》で選別が悪いとき	《麦》より《左》側にダイヤルを回します。
	高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《麦》より《右》側に回します。

❸　ヒューズ

取扱い方は，26～29ページを参照します。

取扱いのポイント

- **選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部を空運転し，ワラクズなどが排出された後に行なってください。**
- **脱こく内部にワラクズなどが溜まっていると，選別自動がセットできない場合があります。**
- **選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。**
- **選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。**
- **スタータスイッチを《 入》にして，ランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。**

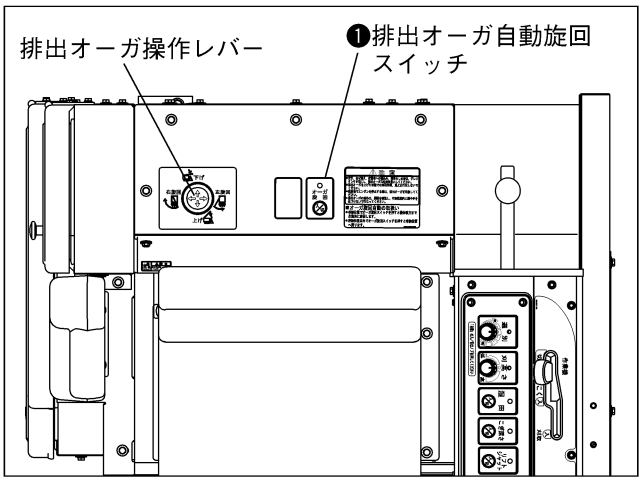
6．排出オーガ自動制御

・排出オーガ自動は，自動スイッチの操作により，排出オーガが自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで動き，排出位置から収納位置まで動きます。

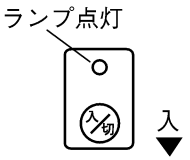
⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガの運転操作は運転席から，周囲の安全をよく確認してから行なってください。
◆排出オーガの作動範囲に，頭や手を近づけないでください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業は，行わないでください。
◆こく粒の排出作業をするときは,駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，こく粒排出スイッチを「切」にして，エンジンを停止してください。
◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，自動スイッチを使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。
◆［キャビン仕様］は，キャビンの窓から頭や体を出して排出オーガの操作をしないでください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで排出オーガを固定してから行なってください。
◆［L仕様］は水平自動スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。

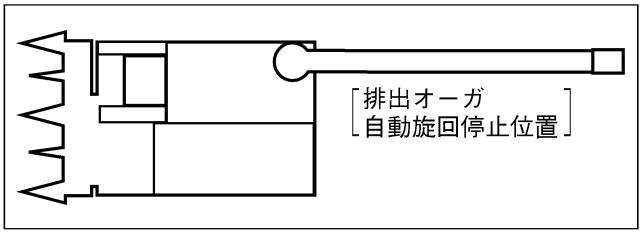
1．運転装置



❶ 排出オーガ自動旋回スイッチ

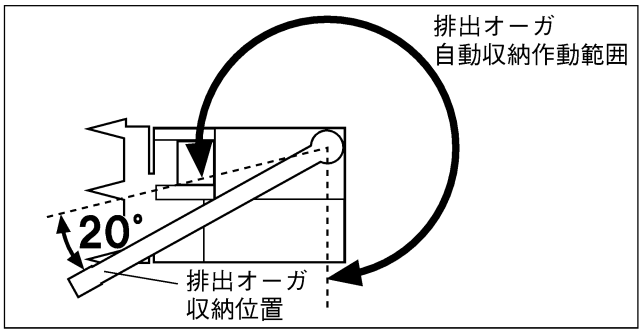


・「**入**」……押すとランプが点灯し，排出オーガは自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで旋回します。収納位置以外でスイッチを押すと，自動的に旋回収納します。自動収納後，ランプは消灯します。
・排出オーガ自動旋回中，又は自動収納途中で旋回停止を行う場合は，再度，自動スイッチを押すと停止します。



取扱いのポイント

- **自動収納は，排出オーガが下図の範囲にあるときだけ作動します。**



- **自動旋回は，排出オーガが収納位置にあるときにだけ作動します。排出オーガ自動旋回スイッチの操作は，排出オーガの固定リングを外してから行なってください。**
- **スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**
- **自動が故障のときは，排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。**

❷ ヒューズ

取扱い方は，26～29ページを参照します。

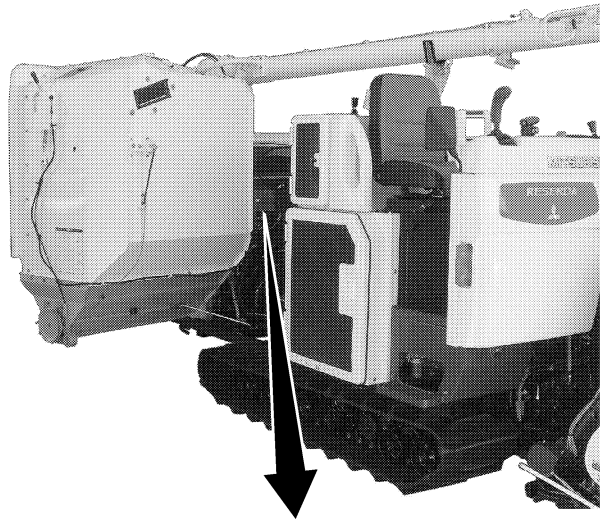
7. マイコン（マイクロコンピュータ）

高性能マイクロコンピュータが2個搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ，オペレータの作業が軽減されます。

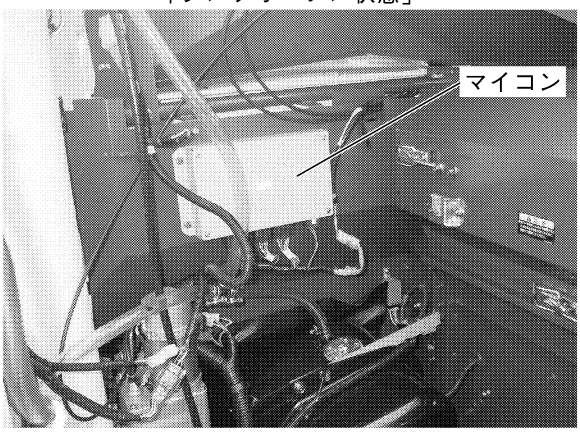
❶ **マイコンによる制御機能**

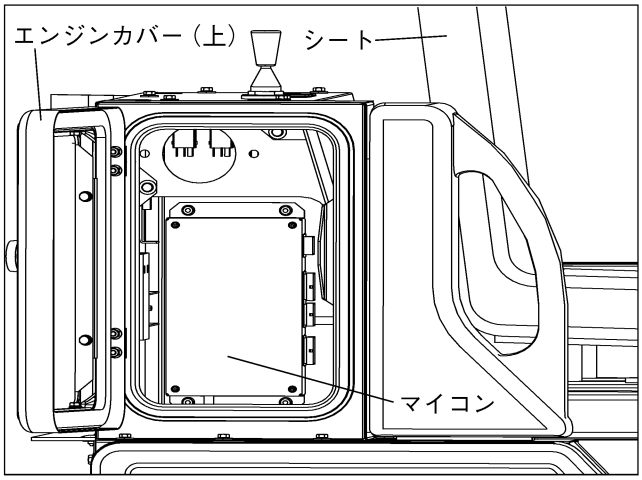
・エンジン停止制御
・マルチステアリングレバー
・方向自動制御［A仕様］
・水平自動制御［L仕様］
・リフトシャットシステム
・刈高さポジションコントロール
・こぎ深さ自動制御
・選別自動制御
・ツインハーモニーシステム
・排出オーガ自動旋回（旋回＋収納）
・ホーン・モミ警報・その他各種警報

マイコンユニットの設置場所



「タンクオープン状態」





❷ ヒューズ

「**マイコン**」の10Aヒューズが溶断しているときは，マイコンによる各制御機能が停止状態となります。（26～29ページ参照）

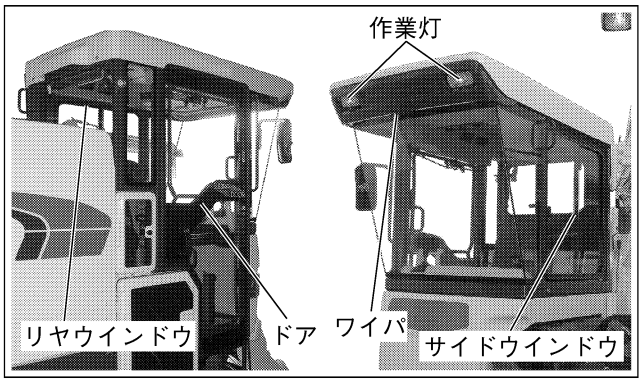
取扱いのポイント

- **マイコンユニットは，洗車時に水やスチームがかからないようにしてください。**
- **ヒューズを交換しても再発するとき，また制御不能のときは，「お買いあげ先」に相談してください。**

キャビンについて［キャビン仕様］

1．各部の取扱い

1．ドア・ウインドウの開閉のしかた



❶　ドア

ドアはスライドドアになっております。オープン時の不意のスライドを防止するために，オープン側にもロック機構が設けてあります。以下の取扱いをお読みになってご使用ください。

⚠警告　傷害事故防止のために

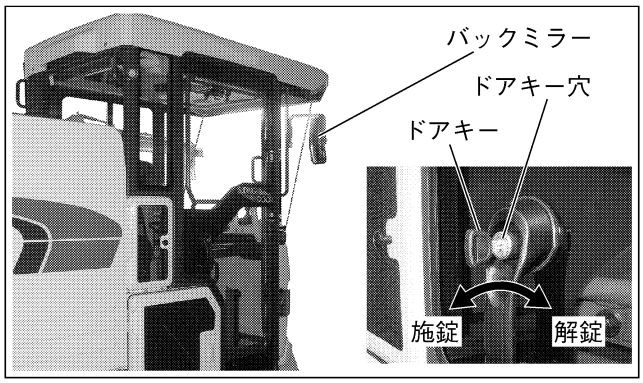
◆半ドアの状態で運転すると，急にドアが開いて事故になることがあります。
走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

⚠注意

◆ドアを開いたままで路上走行や作業をしないでください。怠ると，ドアの破損などを引き起こすおそれがあります。
◆ドアの開閉時は，周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり，ドアにあたってケガをするおそれがあります。

⑴　ドアの施錠・解錠

ドアキーを差込み，左方向に回すと施錠・右方向に回すと解錠になります。



⑵　車外から開閉のしかた

ドアハンドルのボタンを押すと，ロックが外れます。

ハンドルを握ったままドアが開く又は閉まる方向へスライドさせてください。

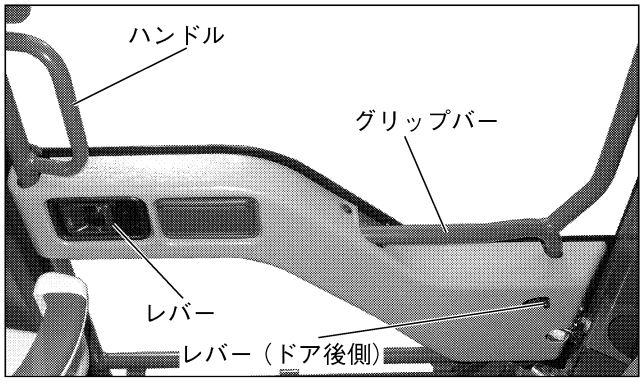
・開けるときはドアを機体後側へいっぱいスライドさせてください。自動的にオープンロックがかかります。
・閉めるときは機体前側へスライドさせ，ハンドルを握ったまま押し込んでください。

⑶　車内から開閉のしかた

内側のドアレバーを引くとロックが外れます。

ハンドルを握ってドアが開く又は閉まる方向へスライドさせてください。ドア後側のレバーでもロックを外すことができます。

・開けるときはハンドルを握ってドアを機体後側へいっぱいスライドさせてください。自動的にオープンロックがかかります。
・閉めるときはハンドルを握って機体前側にスライドさせてください。閉まりが悪いときは，グリップバーを握って機体内側へしっかり引いてください。



取扱いのポイント

- **スライド途中のドアはローラがレールに乗っているだけの不安定な状態にあります。スライドドアはいっぱいに開けるかいっぱいに閉めるかの状態で使用してください。**
- **グレンタンクの開閉はスライドドアを閉めた状態で行ってください。ガラスが破損するおそれがあります。**
- **スライドドアの開閉は，グレンタンクが閉まった状態か，又は，いっぱいに開いた状態で行ってください。**

❷ サイドウインドウ

サイドウインドウは引き戸式サッシ窓です。

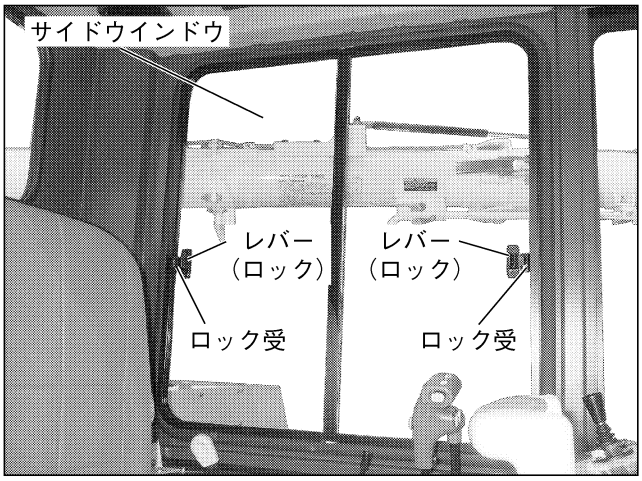
> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆ウインドウを閉めるときは，手などをはさまないよう注意してください。怠ると傷害事故を引き起こすおそれがあります。
>
> ◆ウインドウを開いたままで路上走行や作業をしないでください。怠るとウインドウの破損などを引き起こすおそれがあります。

・開けかた

開けたい側のレバー（ロック）をつまんで，ロックを外します。そのままスライドさせて開けてください。

・閉じかた

レバー（ロック）をつまんでロック位置までスライドさせます。



❸ リヤウインドウ

リヤウインドウは跳ね上げ式です。

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆ウインドウを閉めるときは，手などをはさまないよう注意してください。怠ると傷害事故を引き起こすおそれがあります。
>
> ◆レバーをロック位置のままウインドウを閉めると，レバー等の破損のおそれがあります。
>
> ◆ウインドウを開いたままで路上走行や作業をしないでください。怠るとウインドウの破損などを引き起こすおそれがあります。

・開けかた

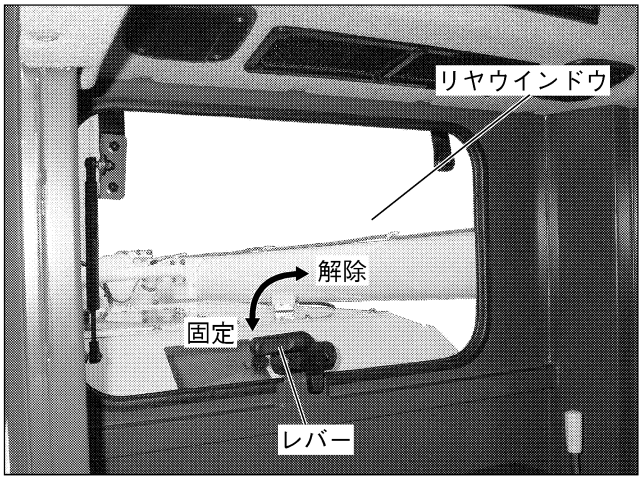
⑴ レバーを右に回します。

⑵ レバーを握ったまま押し出して，リヤウインドウを開けます。

・閉じかた

⑴ レバーを手前に引きリヤウインドウを閉じます。

⑵ レバーを手前に引きながら左に回し，確実に固定します。

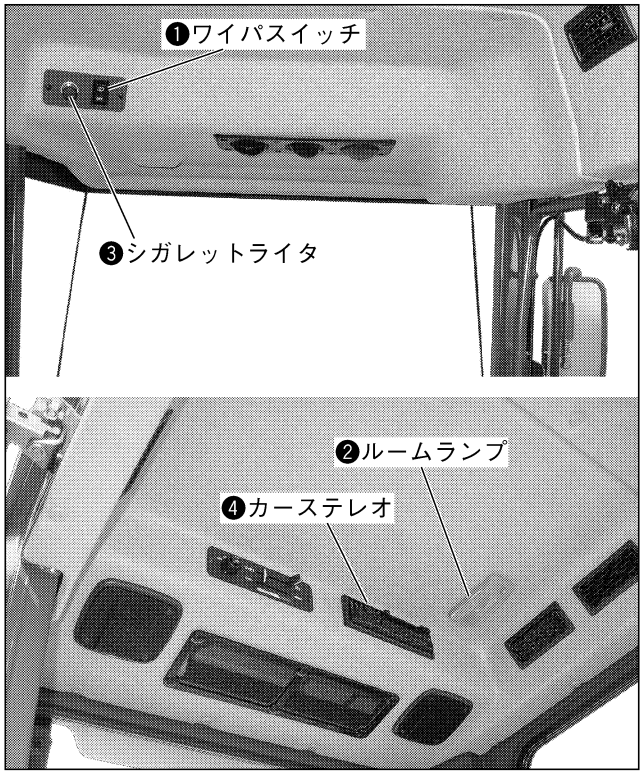


❹　バックミラー

バックミラーは上下，左右に角度調整できますので運転席に座って見やすい位置に調節してください。

狭い所へコンバインを格納する場合には，バックミラーが接触しないように前方へ倒すことができます。

2．スイッチ類の取扱い



❶　ワイパスイッチ

スタータスイッチを《 入》にして，ワイパスイッチ上側を押してワイパスイッチを「**入**」にするとワイパが作動し，さらに押すとウォッシャ液が噴出します。

ウォッシャタンクはキャビンの後側にあります。ウォッシャ液がなくなったら市販のウォッシャ液を補充してください。



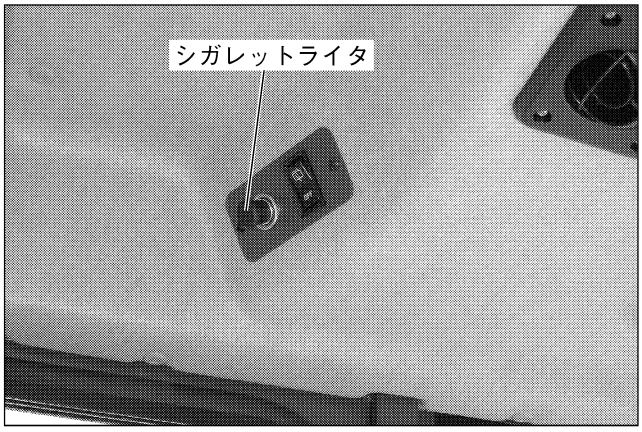
❷　ルームランプ

ルームランプのカバーがスイッチになっています。

ルームランプを《ＯＮ》側に動かすとルームランプが点灯します。

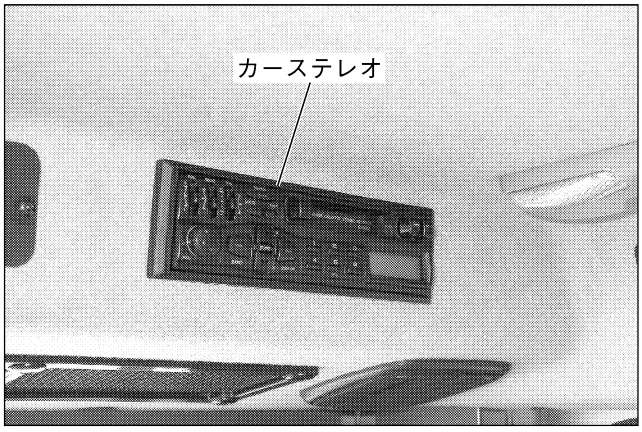
❸ シガレットライタ

スタータスイッチ《ACC》又は《入》位置でノブを押込んで手を離し，元の位置に戻るまで待ちます。ヒータ部が赤熱すると自動的に戻ります。シガレットライタ使用後は，灰皿で灰を落としてからすみやかに元の位置に戻してください。



❹ カーステレオ

別添のカーステレオ用の取扱説明書を参照してください。



3．室内装備の取扱い

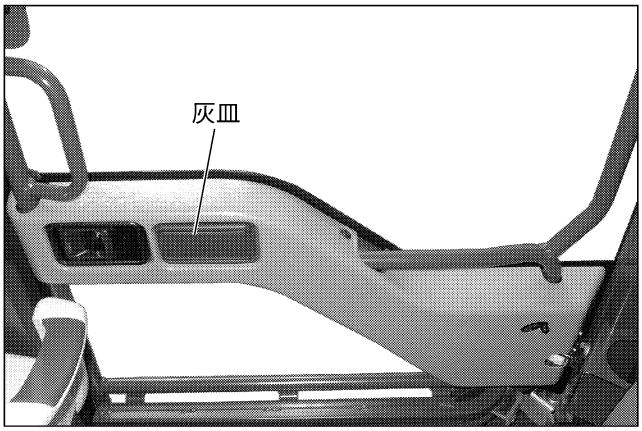
❶ 灰皿

⚠警告 傷害事故防止のために

◆タバコ，マッチの火は，完全に消してから灰皿に入れてください。
使用後，開けたままにしておくと他の吸いがらに火が燃え移ることがありますので蓋を閉めておいてください。

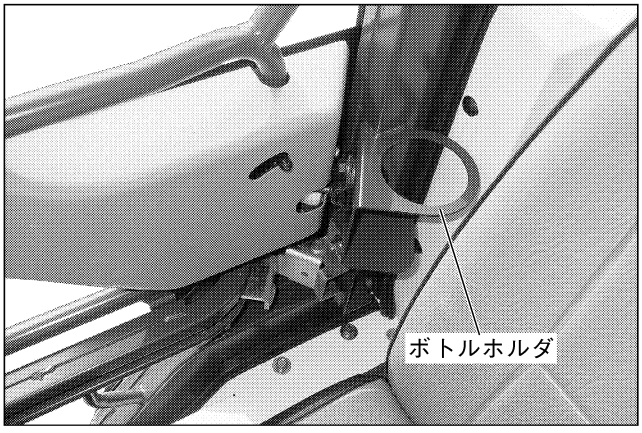
◆灰皿には，吸いがらをためすぎたり，紙クズなどの燃えやすいものを入れないでください。火災の原因となります。

ドア内側に取付けてあります。
使用する時は蓋を開けて使用します。



❷ ボトルホルダ

右側のドアフレーム後側にあります。
穴部にキャップのあるボトル等を入れて使用します。



4．エアコン

⚠警告 傷害事故防止のために

◆万一，エアコンが故障した場合はスイッチをOFFにして点検を受けてください。エアコンの回路内には高圧ガスが充填されていますので，配管部分やコンプレッサ部分をゆるめると，ガスが噴出して危険です。冷媒（ガス）の補充，その他の作業には特殊な工具と計器類が必要ですので，必ず整備の整った指定サービス工場で行ってください。

◆ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

◆次のような異常を認めたとき，修理を怠るとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

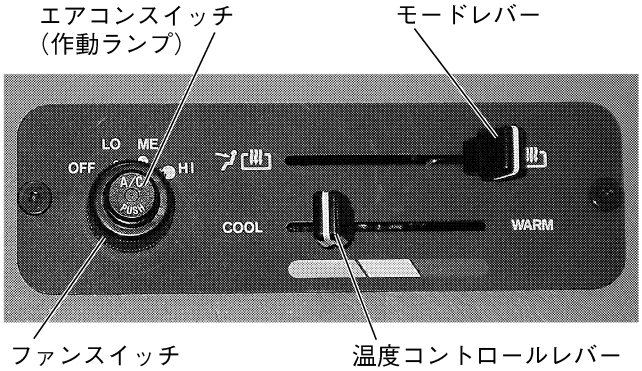
※ウォータホースの傷つき，ひびわれ，ふくらみ。

※ウォータホースジョイント部の水漏れ。

※ウォータホース保護チューブ及び縁ゴムの外れ，破損。

※本体取付ボルトの緩み，ブラケットの破損

❶操作部



(1) **エアコンスイッチ**

このスイッチを押してエアコンを「入」・「切」します。エアコン作動時は，中央のランプが点灯します。

(2) **モードレバー**

この位置のときフロントベンチレータ・サイドベンチレータ全ての吹出口より風が吹きだします。

この位置のときフロントベンチレータの吹出口より風が吹きだします。

(3) **温度コントロールレバー**

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風，左に寄せると冷風が出ます。

(4) **ファンスイッチ**

風量を調節します。

LO ME
OFF HI

《OFF》:ファンが作動しません。
《LO》：微風。
《ME》:中間風。
《HI》：強風。

❷冷房・除湿暖房

(1) モードレバーを にします。

(2) エアコンスイッチを押し「**入**」にします。

(3) ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）を作動させます。

(4) 温度コントロールレバーをＣＯＯＬ又は中間位置に調整し，快適な温度にします。

❸暖房

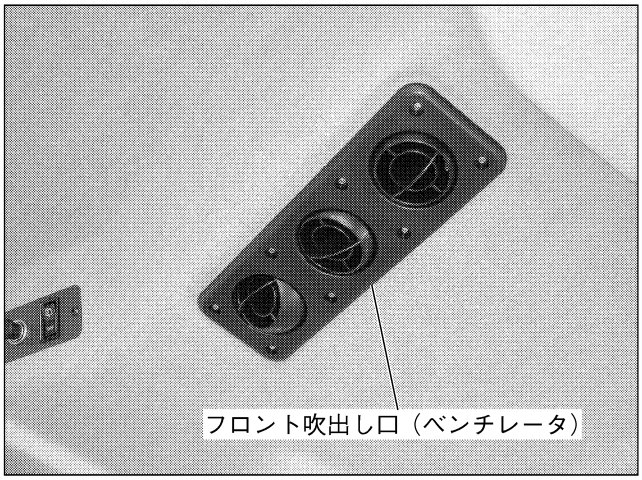
(1) モードレバーを 又は にします。

(2) ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）と温度コントロールレバーを調整し，快適な温度にします。

取扱いのポイント

- ウォータホースは 2 シーズンごとに交換を受けてください。
- ウインドウガラスが曇ると視界を妨げますので，やわらかい布で水気をふき取ってください。
- 湿度が高く窓ガラスが曇りやすいときは，レバーを中間位置にし，エアコンスイッチを押して「入」位置にして，除湿を行なってください。
- エアコンは，温度を下げるばかりでなく，湿度も同時に下げることができます。冷やしすぎると健康上良くありませんので少し涼しいと感じる温度（外気温度との差 5 ～ 6 ℃）に調節してください。冷風は身体の 1 個所に集中して当てるのはさけてください。また，冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。
- 長時間作業される時，またはタバコを吸われている時は，時々，室内の換気をしてください。
- 冷房し始めた時，一時的に吹出し口から霧が吹出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生したもので異常ではありません。
- 連続10分以上本機を前傾して冷房を使用すると，冷気吹出し口より水滴が飛散することがあります。このような運転はさけてください。
- ゴミの多い条件で使用するときは，風量調節レバーで風量を強くしてください。
- 夏期ヒータを使用しないときは，温度コントロールレバーをCOOL（左端）に寄せてください。
- エンジンの冷却水の水温が低いときに高温側にしても温風はでません。
- 外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
  また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
- エアコンスイッチ，送風量調節スイッチは，「切」の位置にしてから格納します。
- エアコンは，シーズンオフでも 1 ケ月に 1 回，10～15分間運転してください。
  エンジンは低回転にした状態で温度調整レバーは「冷」の位置，送風量調節スイッチは「弱」の位置で，エアコンスイッチを「入」にします。運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ，エアコンを常時最良の状態に保つことができます。

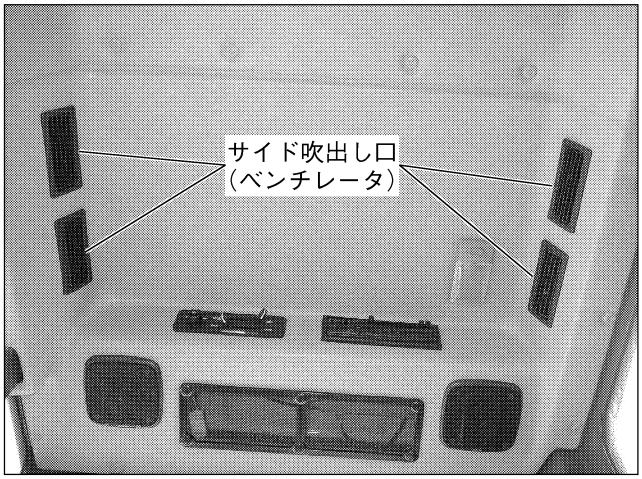
❹フロント吹出し口（ベンチレータ）



⑴ 風の方向は，吹出し口により自由に調整できます。

⑵ サイド吹出し口（ベンチレータ）からの風量を増したいときは，［閉］にしてください。

❺サイドベンチレータ



⑴ 調整つまみで任意の方向に向けてください。

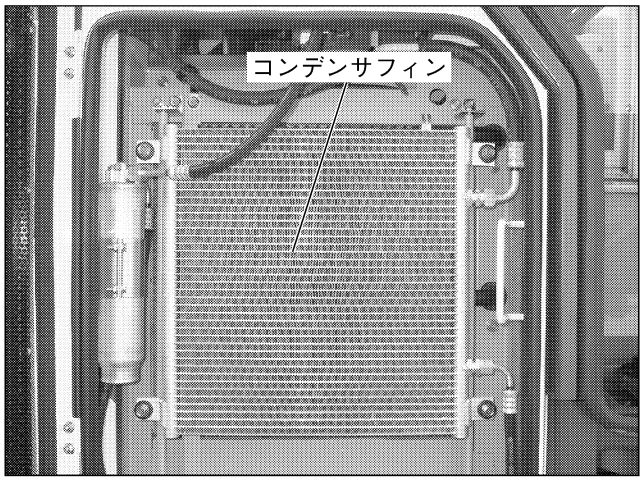
❻ コンデンサフィンの掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆スチーム洗浄はしないでください。冷媒の圧力が上昇して破裂の恐れがあります。

⑴ エンジンカバーを開きます。

⑵ コンデンサフィンの表面にほこりやごみ，異物が付着して汚れているとクーラの冷えが悪くなります。（掃除については100ページを参照します。）



5．格納のしかた

❶ クーラ・ワイパ・室内灯・作業灯などの電装品のスイッチは，「ＯＦＦ」または「切」位置にしてから格納します。

❷ コンプレッサ各部のオイルが切れないようにするため，１カ月に１度ぐらい低速回転で15～20分間運転します。クーラダイヤル，ファンダイヤルを低めに設定してコンプレッサを運転します。

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除する時は平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。
◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

使用済み廃棄物の処分について
廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
◆機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
◆地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
◆廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他有害物を廃棄，又は焼却するときは，「お買い上げ先」，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って，定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

「定期点検整備表」（点検・補給・掃除・調整・グリスアップ○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）													格納時	備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	250	350	450 (400)	500 (550)	600 (650)	700 (750)	800 (850)			
エンジン部	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●		●	●	●	●	●(550)	●(650)	●(750)	●(850)			89～90
	エンジンオイルフィルタ	交換				●		●		●		●(550)		●(750)				90
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○												●		91～92
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○	○					●			●		●(750)				100
	燃料フィルタ	点検・交換	○										●		●			101
	燃料フィルタポット部	点検・掃除（水抜き）	○	○														101
	エンジンファンベルト	点検・調整・交換	○			○				●				●				145
	コンプレッサベルト	点検・調整・交換	○			○				●				●				150
	燃料ホース	点検・交換	○	●（2年ごと）													燃料もれ点検	138
	クーラコンデンサ（キャビン仕様）	点検・掃除	○	○												○		100～101
	ウインドウォッシャ液（キャビン仕様）	点検・調整・抜取り	○	○														98
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○													抜取り		103～107
	電気配線（配線・接続部のゆるみ，損傷）	点検・修理	○	○													損傷の場合交換	103
	計器，スイッチ類	点検	○	○														7～16
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○				●				●				●			93～94
	油圧ホース	点検・交換	○												●		油もれ点検	138
	油圧オイルフィルタ	交換					●				●				●			93～94
	ＨＳＴオイルフィルタ	交換					●				●				●			93～94
	ソレノイドバルブのフィルタ	点検・掃除						○		○		○(550)		○(750)				102
	駐車ブレーキ	点検・調整	○															142
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○				●			●				●				92
	走行ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				145
	走行クラッチペダル	点検・調整	○	○		○		○	○	○	○	○(550)	○(650)	○(750)	○(850)			142
	クローラ	点検・調整	○	○														156
	水平制御リフトアーム軸受部［L仕様］	グリスアップ	○															97
	ローラ・アイドラ・転輪	点検	○	○														—
	エアコンガス	点検	○															—

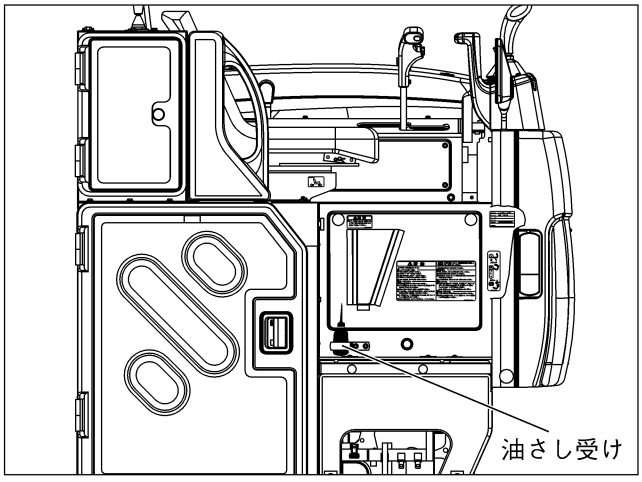
分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）												格納時	備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	250	350	450 (400)	500 (550)	600 (650)	700 (750)	800 (850)			
刈取部	こぎ深さギヤケース	点検・補給	○															94
	トルクリミッタケース（右）オイル	点検・補給	○				○											95
	トルクリミッタケース（左）オイル	点検・補給	○															95
	引起こし爪	点検・調整・交換	○	○	○					●				●				178
	かき込みベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○		○	○	●	○	○	○	●	○			146
	株元搬送チェン（右）	点検・調整・交換	○	○	○					●				●				151
	株元搬送チェン（左）	点検・調整・交換	○	○	○					●				●				151
	こぎ深さ搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○					●				●				152
	かき込み搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○					●				●				153
	穂先搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○					●				●				152
	刈刃	点検・調整・交換	○	○	○				●			●		● (750)		○		157～158
	集中注油タンク	点検・補給	○	○														97
	刈取ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				143
脱こく部	脱こくギヤケースオイル	点検・補給	○				●											95
	こぎ胴ギヤケースオイル	点検・補給	○															96
	搬送HSTギヤケースオイル	点検・補給	○															96
	搬送HSTオイルフィルタ	点検・交換	○								●			●				93～94
	搬送HST駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				177
	脱こく入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				177
	こぎ胴伝動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				146
	こぎ胴ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				147
	脱こくフィードチェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				154
	１番ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				148
	選別ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				147
	排ワラ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				148
	排ワラチェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				155
	揚こくラセンタッチ部	点検・掃除	○													○		98
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○		○													141
	ワラ切カマ	点検・交換	○						●			●		● (750)				139～140
	脱こく受網	点検・掃除・交換	○									●				○		111～112
	脱こく底板・こぎ室揺動選別部	点検・掃除	○													○		113
	２番ラセンタッチ部	点検・掃除	○													○		112
グレンタンク部	こく粒排出レバー	点検・調整	○															150
	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○															97
	グレンタンク	点検・掃除	○													○		108
	横ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				150，177
	グレン入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				149
	縦ラセン筒上・下	点検・掃除	○													○		121～122
カッタ部	カッタ排ワラ切替レバー	点検・調整	○		○													―
	カッタ刃	点検・交換	○					● (100時間ごと)										129～137
	カッタベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●				149

2. 給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検・交換は，「**運転まえの点検表**」（30～31ページ）および「**定期点検整備表**」（83～86ページ）に従って行います。
・オイルの点検・交換は，機械を平坦な場所に駐車して行います。

取扱いのポイント

- **各給油個所には，指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **コンバイン運転席に油さし受けがついていますので，いつでも注油できるように，オイルを入れた油差しを常備してください。**
- **交換したオイルを廃却するときは，「お買い上げ先」又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。**



危険 火傷や火災防止のために

◆燃料補給時は，火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは，給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは，交換してください。燃料もれがあると，火災の原因となります。
◆こぼれた燃料は，きれいに拭き取ってください。

警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときは，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。
◆エンジンカバーを開いて点検などを行なった後は，エンジンカバーを閉じて固定レバーで固定してください。

「給油・注油・給水表」

No.	個所	種類	種類 API サービス分類	種類 SAE 粘度番号	容量（L）	備考
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	－	－	42	JIS 2 号（－7.5℃まで） JIS 3 号（－20℃まで）
②	エンジンクランクケース	ディーゼルエンジンオイル	CD級以上	10W－30	9.0	
③	ラジエータ（補助タンク1.0L含む）	冷却水（不凍液40～45%含む）	－	－	キャビン無 6.6 キャビン有 8.1	北海道は，不凍液割合45～50%
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	13.8	
⑤	油圧オイルタンク	油圧作動油	GL-4以上	10W－30	L仕様以外 19.5 L仕様 20.5	
⑥	こぎ深さギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	140	1.1	
⑦	トルクリミッタケース右，左（刈取部）	ギヤオイル	GL-5以上	140	3.3	右1.6L，左1.7L
⑧	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.55	
⑨	こぎ胴ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.65	
⑩	搬送HSTギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	1.7	
⑪	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	140	0.5	
⑫	集中注油タンク	エンジンオイル	－	－	1.5	
⑬	ウォッシャタンク	ウォッシャ液	－	－	1.0	ウォッシャ液0.35L，水0.65L ［キャビン仕様］
⑭	エアコンガス	R－134a	－	－	900g	［キャビン仕様］

指定オイル

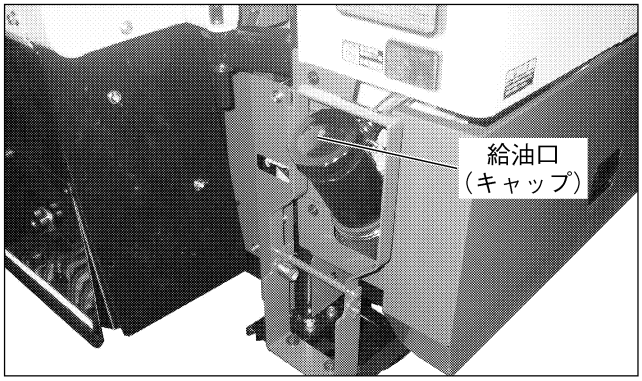
・ディーゼルエンジンオイル…… (純正油) ディーゼルエンジン用オイルAPI・CD級以上，SAE・10W－30

・油圧作動油…… (純正油) または，使用オイル表（182～183ページ）の指定オイル

取扱いのポイント

- 燃料タンク・集中注油タンク以外は，工場出荷時の容量です。
  交換時は，残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により，容量を確認してください。
  但し，レベルゲージまたは検油栓のない個所は，全量交換してください。排油栓のない個所は補充してください。
- 使用オイルの詳細は，潤滑油についての項（182～183ページ）を参照してください。

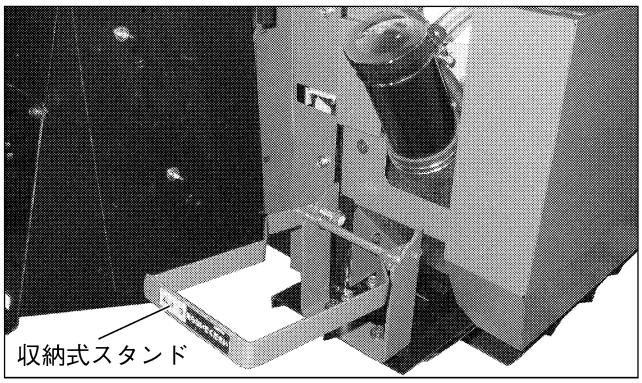
1．燃料の補給



・給油口のキャップを外して，補給します。
・燃料……ディーゼル軽油
JIS 2 号（－7.5℃まで）
JIS 3 号（－20℃まで）
・タンク容量……42 L

取扱いのポイント

- **給油口近くに備付けてある収納式スタンドを手前に引いて，その上に燃料の入った缶，ポリタンクを置いて給油します。**



- **燃料はフィルタを通して，ゴミや水が混入しないように給油してください。**
- **運転途中での燃料切れ，燃料フィルタの掃除や交換時は，燃料のエア抜きを行なってください。（101ページ参照）**
- **燃料の中に，水やゴミなどが混入しますと，エンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがあります。**
燃料タンク給油口のフィルタを通して，給油してください。
- **燃料は，雨水などがかからない場所に保管してください。**

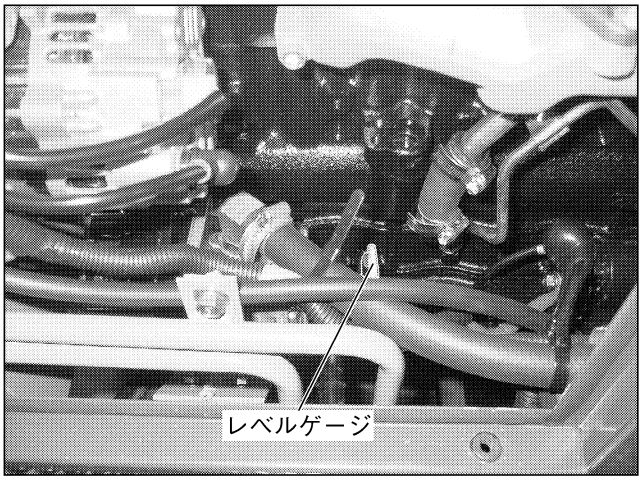
2．エンジンオイル･オイルフィルタの点検･交換

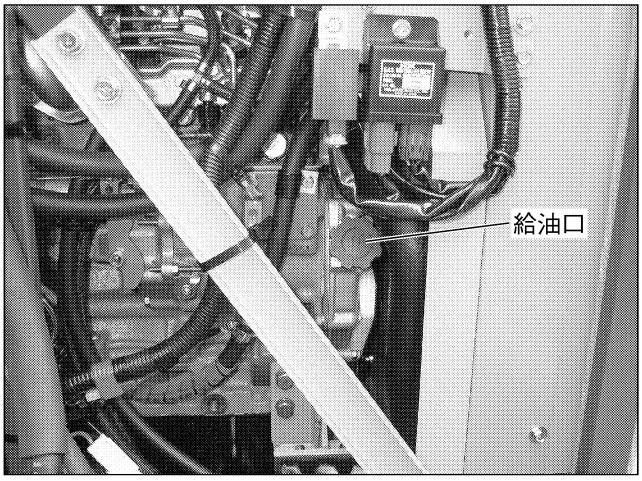
❶ エンジンオイルの点検

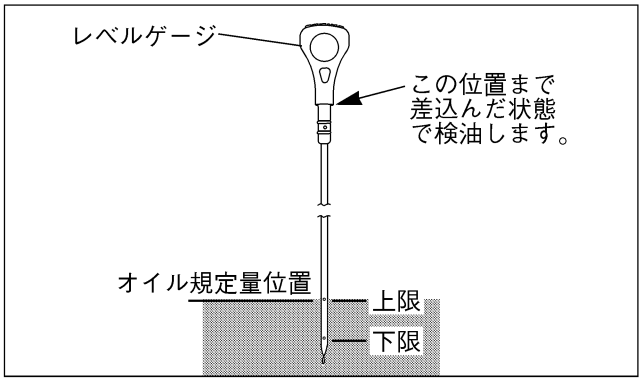
(1) 足元カバーのノブ（2 個）を外して，足元カバーを外します。

(2) レベルゲージを抜いて，先端をきれいに拭き取ります。もう一度いっぱいに差込んでから抜き出し，ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは，グレンタンクをオープンし，エンジン後カバーを外して，オイルを給油口より規定レベル位置まで入れます。さらに，油漏れのないことも確認します。

(3) 作業後に足元カバー，エンジン後カバー，グレンタンクを閉じてください。





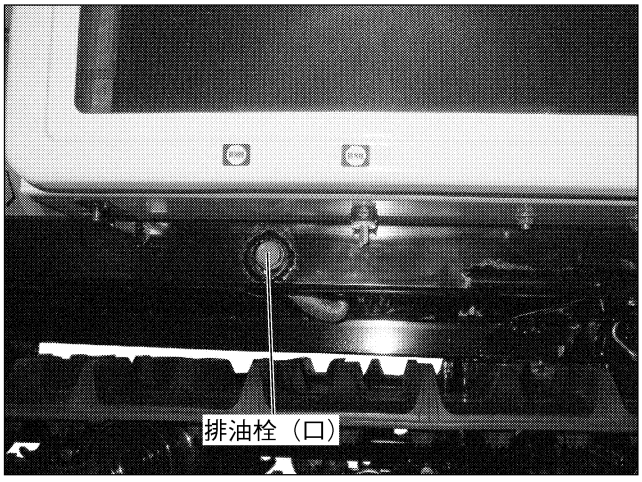


取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。**
- **給油口からワラクズなどが入らないよう，事前に周囲を掃除してください。**
- **排油栓，給油栓，レベルゲージは確実にセットされていることを確認してください。**

❷ エンジンオイルの交換

⑴ エンジンの排油栓をゆるめます。



取扱いのポイント

- **オイルを抜く時は，オイルがこぼれないようになるべく開口部の大きなオイル受けを使用してください。**
- **低温時はオイルが抜けにくい場合がありますので，あらかじめエンジンを暖機運転してから行ってください。**

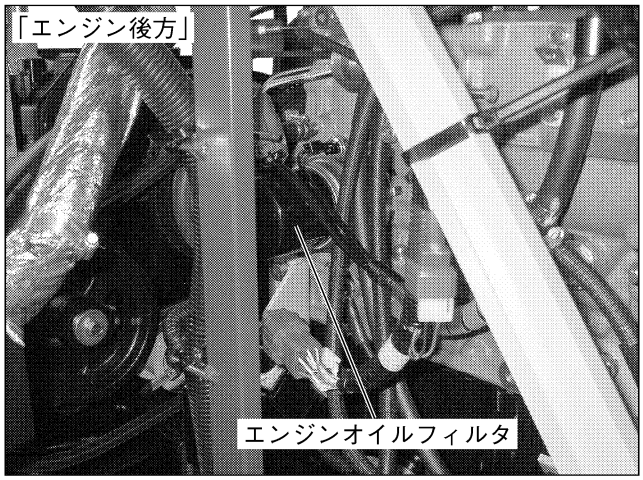
⑵ オイルを抜き終わったら排油栓を締め，取外しと逆の手順で組付けます。新しい**「純正エンジンオイル」**をレベルゲージの刻み線（上限）まで給油します。

- **ディーゼルエンジン用オイル**
  API・CD級以上，SAE・10W−30
- **オイル量……9.0 L**

⑶ 交換後，エンジンを始動して，オイルランプが消えるまで低回転で運転します。（8ページ参照）

❸ エンジンオイルフィルタの交換

オイルフィルタの交換は，**「お買いあげ先」**にて行います。



⑴ オイルフィルタは，**「カートリッジタイプ」**を使用しています。

⑵ オイルフィルタを交換したときは，オイル量が多く入るので，レベルゲージでオイル量を確認し，不足のときは，規定レベル上限までオイルを補給します。

3．ラジエータ冷却水の点検・交換

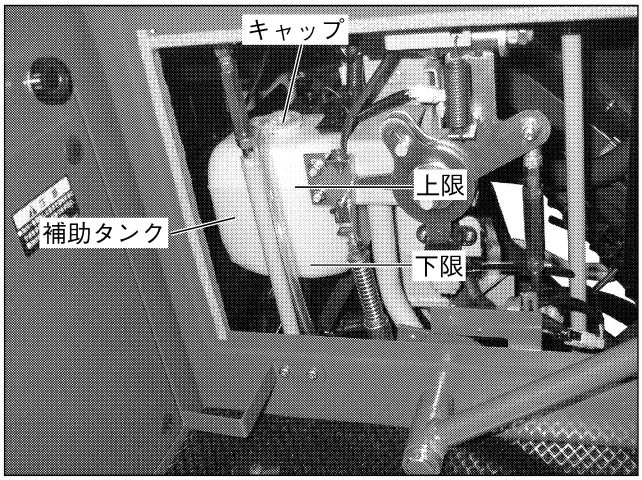
⚠警告 火傷防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後は，ラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「火傷」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。ラジエータの点検は，カバーを開けて行います。

❶ 始業前の点検

・エンジンが冷えているとき，補助タンク内の冷却水が**「給水レベルの上限と下限の間」**にあるように補助タンクに冷却水を補給します。



❷ 補助タンクの水を切らしたとき

・ラジエータキャップを外して，冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。

・補助タンクの**「上限」**位置まで給水します。

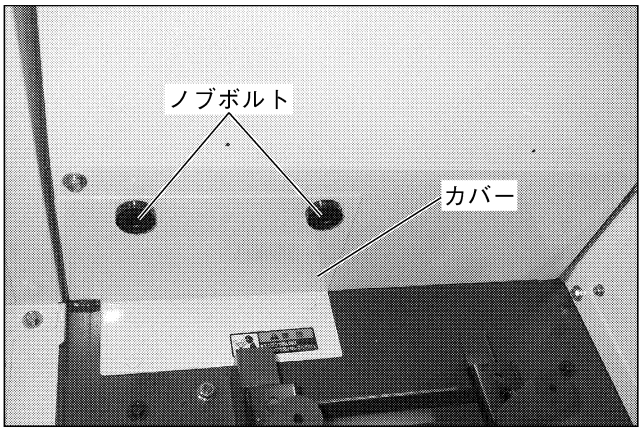
・冷却水……清水（水道水）

取扱いのポイント

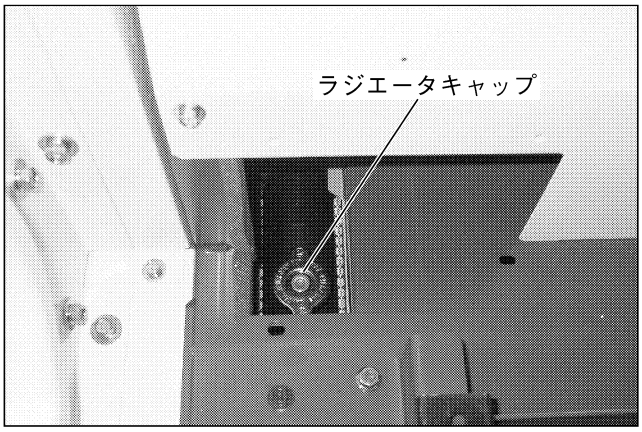
- **シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。**
- **補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，不足しているときは補給してください。**
- **補助タンクには「上限」以上入れないでください。運転中冷却水が溢れ出ます。**

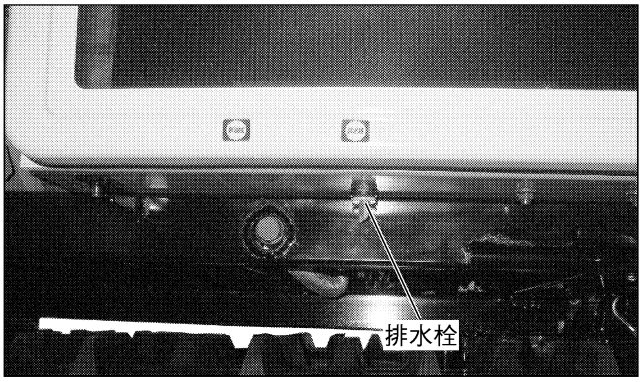
❸ ラジエータ冷却水の交換

(1) 座席右側後部のノブボルト（2個）を外してカバーを取り外します。
カバーの下にラジエータキャップがあります。



(2) ラジエータキャップを外し，次にラジエータ下部の排水栓から排水します。





(3) ラジエータ内の水が，きれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

(4) 排水が終わったら排水栓を閉めます。

⑸ **不凍液の選定**

工場出荷のときは,不凍液「**ロングライフクーラント**」(PT) が注入され「**外気温度－25℃**」の凍結を防止する濃度になっていますが，１年以上経過すると効力が低下しますので，冷却水を抜き「**不凍液濃度基準**」を参考に入替えます。

「**不凍液濃度基準**」

外気温度 ℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度 %	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

・冷却水量（補助タンク1.0L含む）

キャビン無…6.6L

キャビン有…8.1L

取扱いのポイント

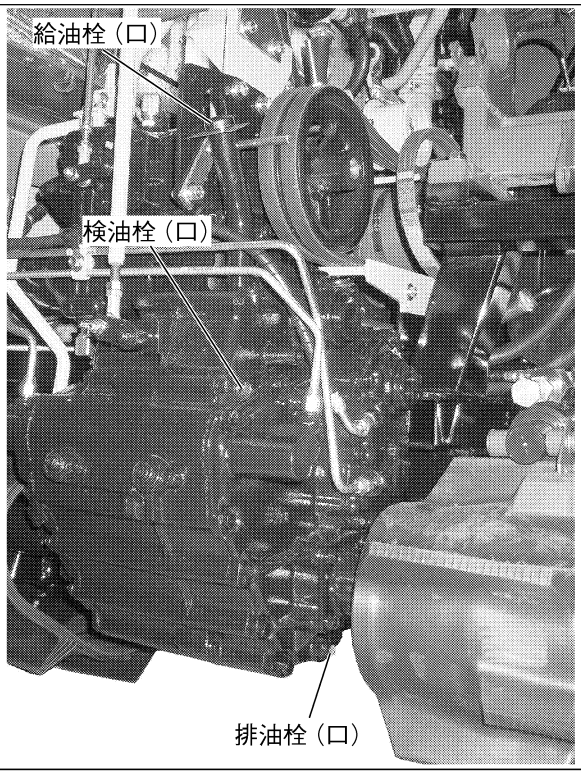
- **冷却水を交換したときは，エンジンを始動し冷却水を循環させて，再度水量をチェックしてください。**
- **不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまでエンジンを「低速で空運転」してください。**

⑹ ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を給水したのち，ラジエータキャップを閉めます。

⑺ カバーを取付けます。

4. トランスミッションケースのオイル点検･交換

オイルの点検・交換は「**お買いあげ先**」にて行います。



❶ **点検**

・刈取部をオープンします。(123～128ページ参照)

・ミッションケース横の検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。

・不足しているときは，給油口より補給します。

・刈取部を閉じます。(123～128ページ参照)

❷ **交換**

・ミッションケース下部の排油栓を外し，抜取ります。

・給油するときは，検油栓まで給油します。

・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90

・オイル量…13.8 L

5．油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HST(走行,搬送)オイルフィルタの交換

⚠警告　傷害事故防止のために

◆油圧作動油を抜くときは,刈取部・機体［L仕様］を下げ，排出オーガを収納状態にして行います。下げ（収納）状態にしないと機体が傾いたり，刈取部が下がったりして人身事故の原因になることがあります。

この機械は，多くの油圧装置を採用しており，油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。

・油圧作動油を交換する際に,油圧オイルフィルタとHSTオイルフィルタの交換を同時に行います。

・油圧作動油量の点検，およびフィルタの交換は，「**お買いあげ先**」にて行います。

❶　油圧作動油量の点検

・脱こく供給口の下方の油圧オイルタンクの検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。

・不足しているときは，給油口より補給します。

❷　油圧作動油の交換

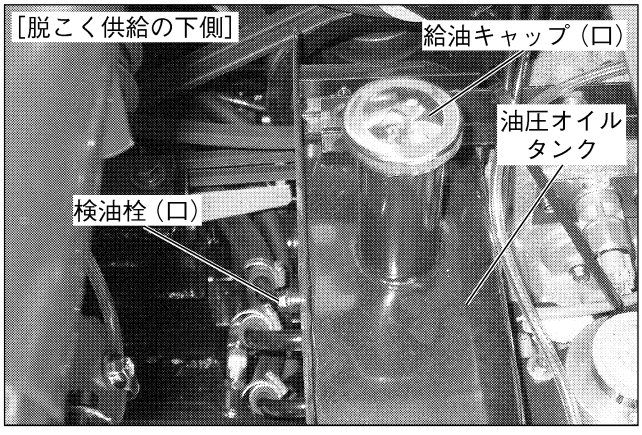
・油圧作動油の交換と同時に，油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの交換を行います。

・油圧作動油…（純正油）または，使用オイル表（182〜183ページ）の指定オイル

・オイル量　L仕様以外……19.5L

L仕様……20.5L

（10分程度運転後のオイル補充分を含む）



❸　油圧作動油の抜取り要領

(1)　エンジンを始動し，刈取部・機体［L仕様］を下げ，排出オーガを収納状態にしてエンジンを停止します。

(2)　給油口のキャップを外し，オイルタンク下側の排油栓を外して，油圧作動油を抜きます。

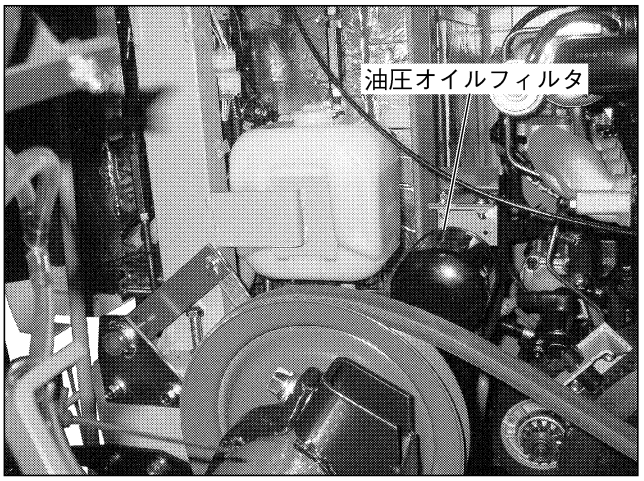
(3)　オイルを抜き終わったら，排油栓を締めます。



❹　油圧オイルフィルタの取外し要領

(1)　油圧作動油のオイルフィルタは,「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，購入のうえ交換します。

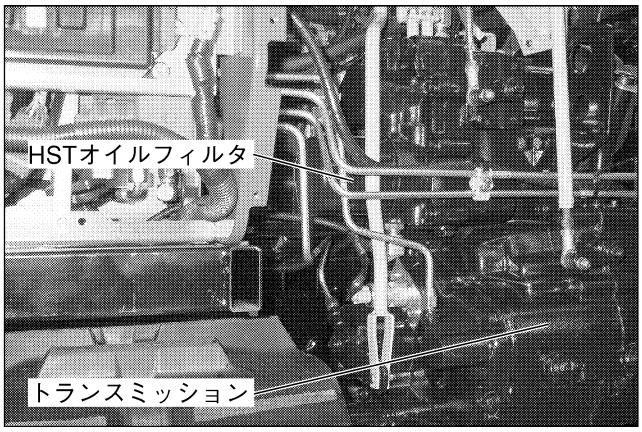
(2)　刈取部をオープンします。（123〜128ページ参照）油圧オイルフィルタは，運転席左側，刈取部との間にあります。



❺ HSTオイルフィルタの取外し要領（走行用）

⑴ HSTオイルフィルタは,「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，購入のうえ交換します。

⑵ HSTオイルフィルタは，トランスミッションの右側に装備してあります。



❻ 油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの取付け要領

⑴ フィルタ取付面をきれいに掃除をして，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

⑵ 締付けは手で行い,取付面にパッキンが当たってから2/3～3/4回転締付けます。

取扱いのポイント

- **フィルタ取付面からオイルの漏れ，にじみがないか点検してください。**
- **給油口とフィルタ周りの周辺をあらかじめ掃除をして,ゴミなどが入らないようにしてください。**

❼ 油圧作動油の給油要領

⑴ オイルタンクの給油口より，タンク中央の検油栓からオイルが出るまで給油します。

⑵ エンジンを始動し，アイドリング回転で10分間程度運転します。

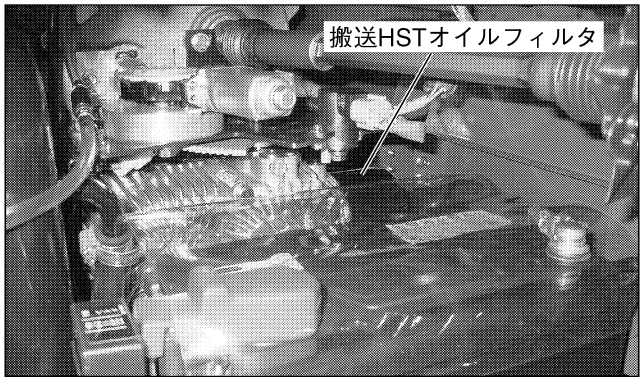
エンジンを停止して，オイル量を点検し，検油栓から出るまで補給します。

さらに，油漏れのないことも調べます。

❽ 搬送HSTオイルフィルタの取外し要領

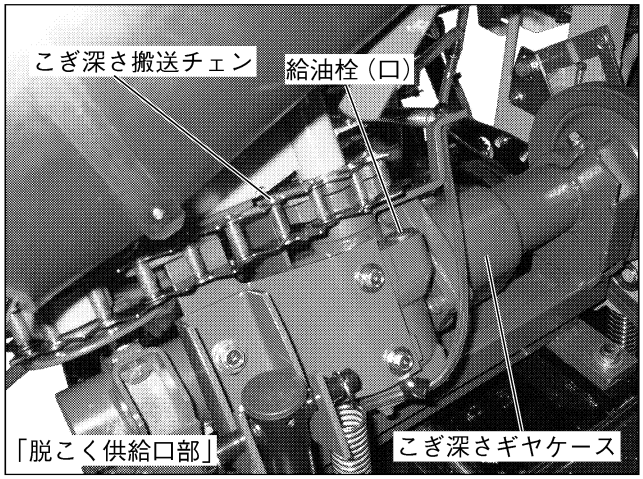
⑴ 搬送HSTオイルフィルタは，「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，購入のうえ交換します。

⑵ 搬送HSTオイルフィルタは，油圧タンク奥に装備してあります。



6．こぎ深さギヤケース

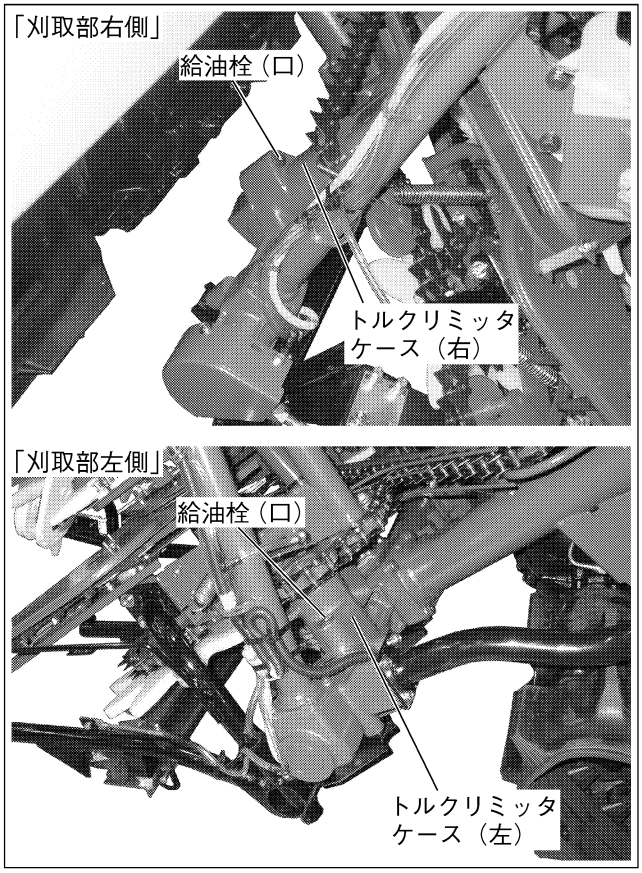
オイルの点検は「**お買いあげ先**」にて行います。



- **ギヤオイル…API・GL－5級，SAE・140**
- **オイル量……1.1 L**

7．トルクリミッタケース右・左（刈取部）

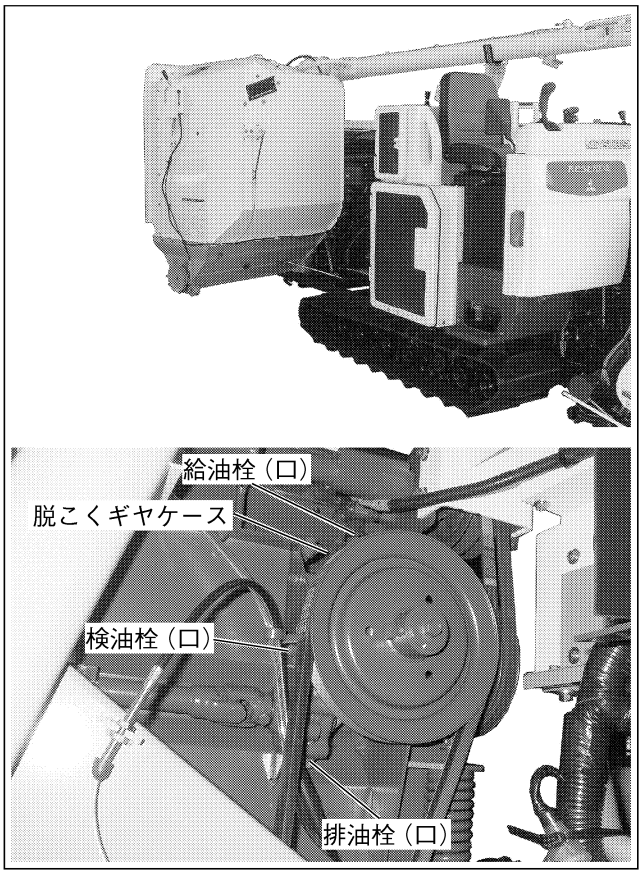
オイルの点検は「**お買いあげ先**」にて行います。



- **ギヤオイル…API・GL－5級，SAE・140**
- **オイル量……右1.6Ｌ・左1.7L**

8．脱こくギヤケースのオイル点検・交換

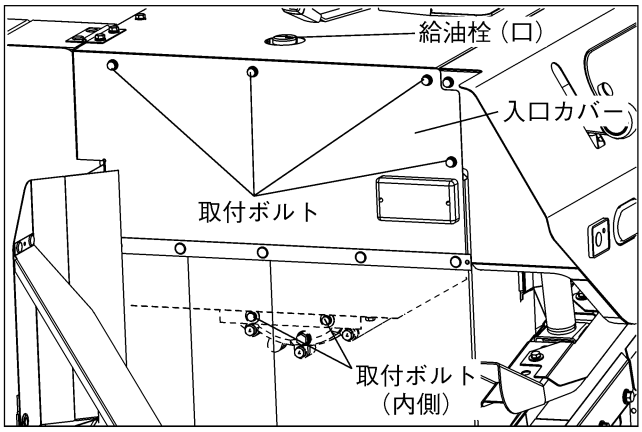
オイルの点検・交換は，「**お買いあげ先**」にて行います。



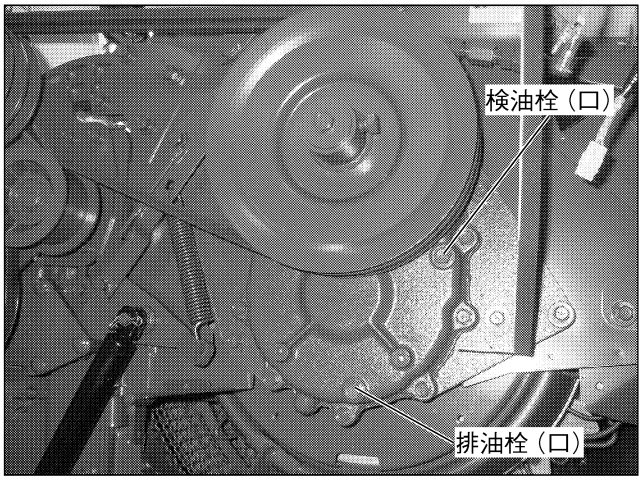
- 検油栓まで給油します。
- **ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90**
- **オイル量……0.55Ｌ**

9．こぎ胴ギヤケース

オイルの点検・交換は，「**お買いあげ先**」にて行います。



⑴　こぎ胴部の入口カバーを外します。

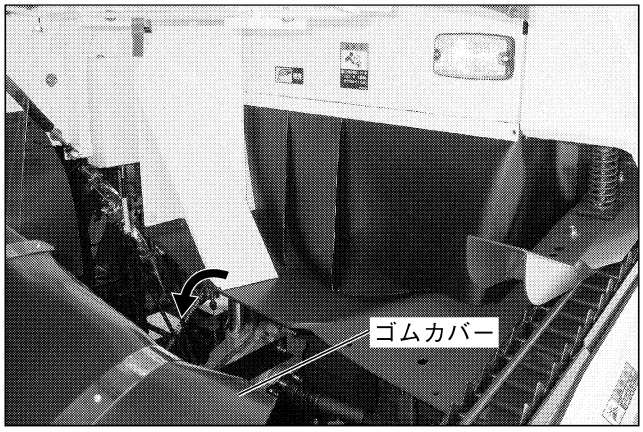


・ギヤオイル…API・GL－5以上，
SAE・90
・オイル量……0.65 L

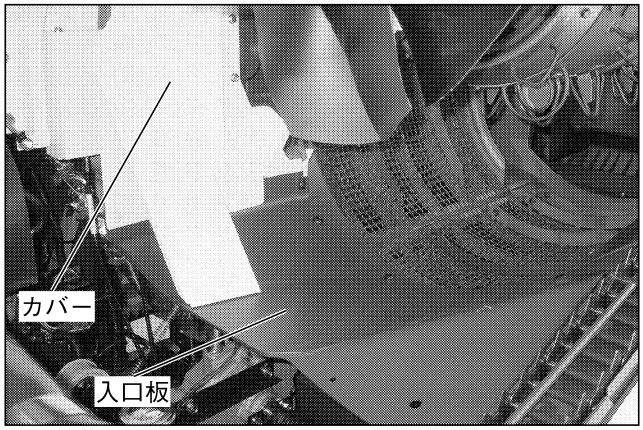
10．搬送HSTギヤケース

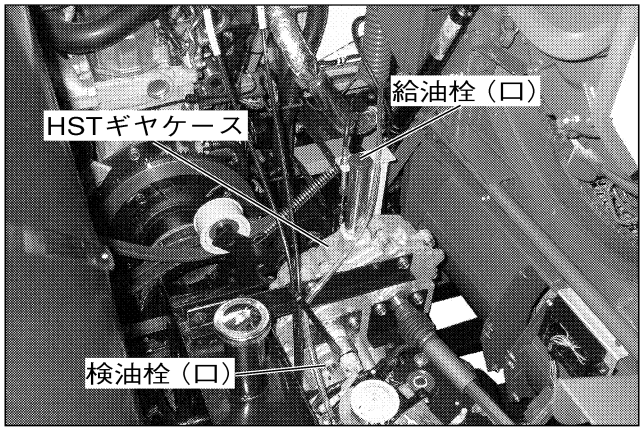
オイルの点検・交換は，「**お買いあげ先**」にて行います。

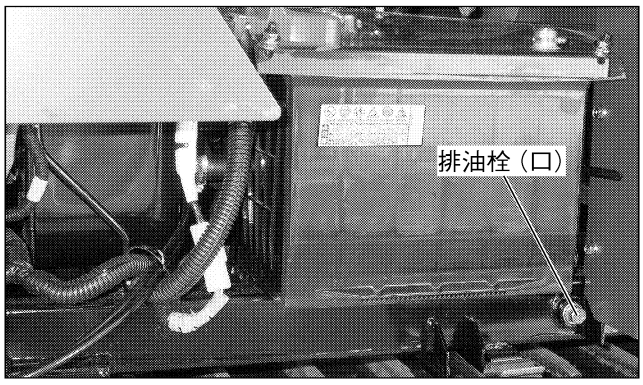
⑴　脱こく入口のゴムカバーをめくります。



⑵　入口板とカバーを外します。



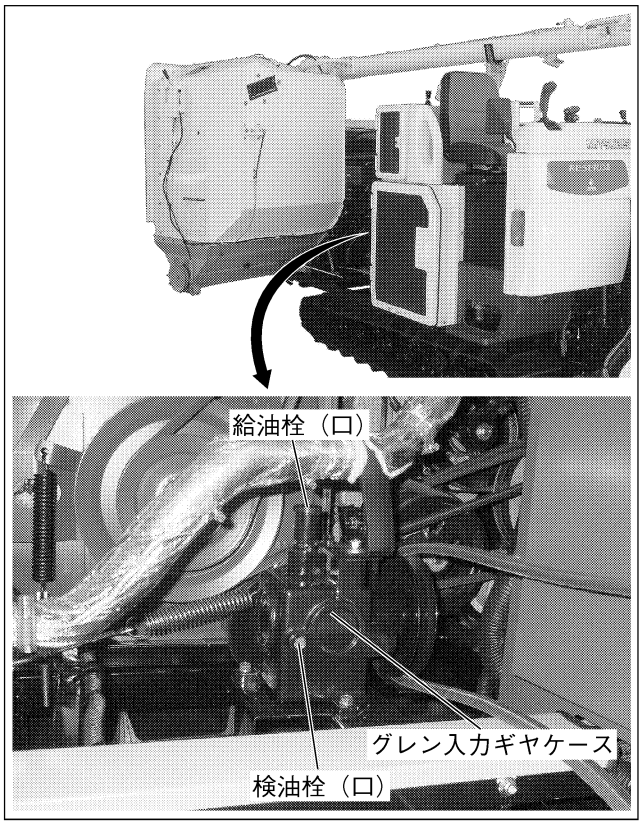




・ギヤオイル…API・GL－5以上，
SAE・90
・オイル量……1.7 L

11. グレン入力ギヤケースのオイル点検・交換

オイルの点検・交換は,「**お買いあげ先**」にて行います。

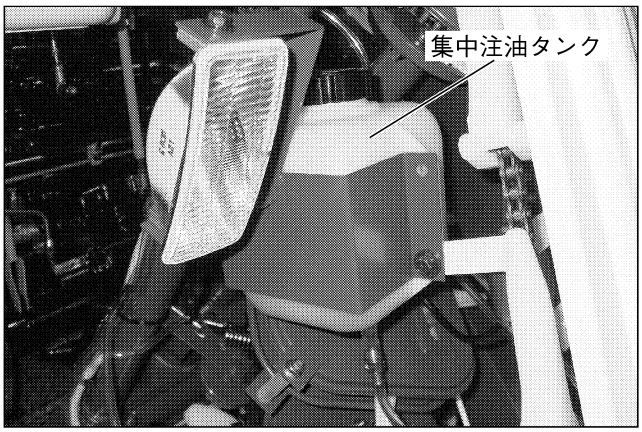


・検油栓まで給油します。

・ギヤオイル…API・GL−5以上,
SAE・140

・オイル量……0.5 L

12. 集中注油タンク



・刈取部サイドカバー（右）を外し給油します。

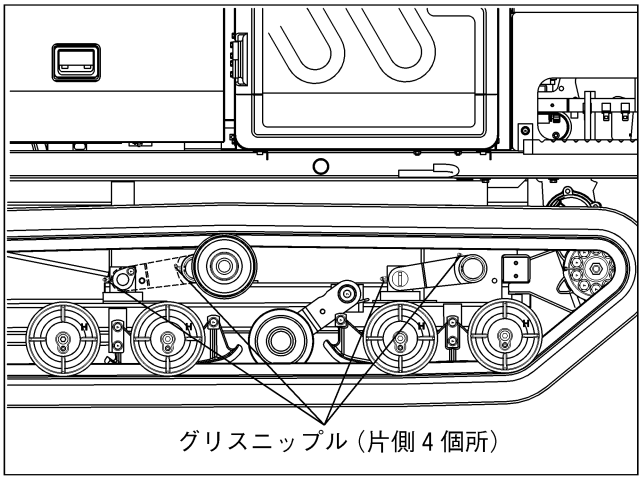
・エンジンオイル

・オイル量……1.5 L

13. 給脂個所

給脂は,「**お買いあげ先**」にて行います。

❶ 水平リンク［L 仕様］

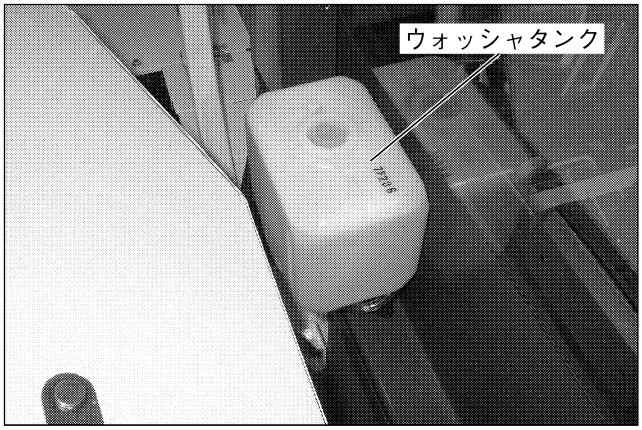


左右 8 個所グリースガンで給脂します。

・リチウムグリス

・左右…… 8 個所

14．ウォッシャタンク［キャビン仕様］



❶　点検

キャビン後側にあるウォッシャタンクのキャップを外し，ウォッシャ液量を点検します。

❷　給水

⑴　給水口よりウォッシャ液を給水します。

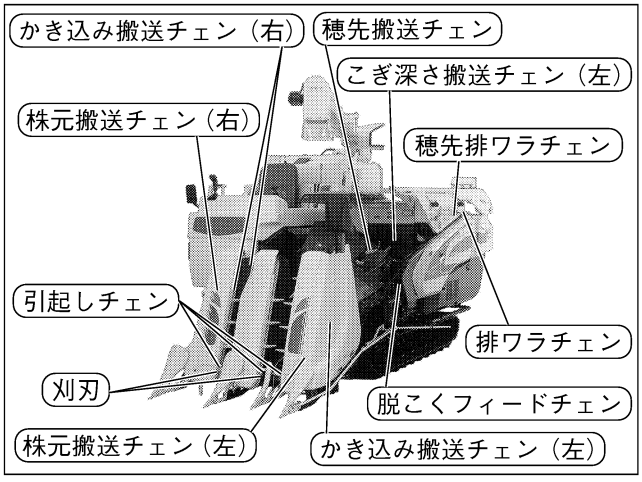
⑵　給水口よりあふれないようにします。

取扱いのポイント

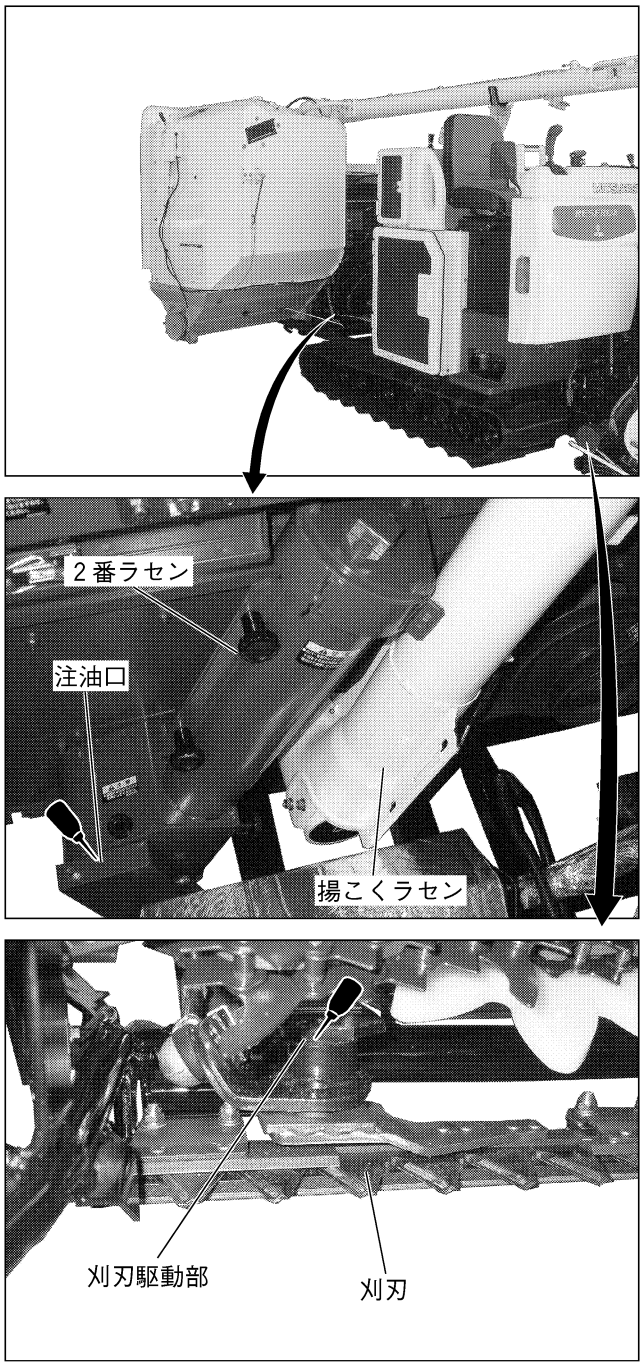
- **タンクの満量は1.0Lです。**
- **ウォッシャ液の濃度は水0.65Lに対してウォッシャ液0.35Lです。**

15．各部の注油

各部の注油は，始業前および刈取面積に応じ適宜行います。刈取部関係の注油（○個所）は集中注油装置で注油ができます。



そのほかの注油は「**油差し**」で注油します。



16．集中注油装置の使い方

⚠警告 傷害事故防止のために

◆平坦な場所に機械を置いてください。傾斜地では機械が動き出し，傷害事故の原因となります。
・クローラに歯止めをかけてください。

◆刈取部，脱こく部を作動しますので，機械の周囲に人を近づけないでください。

❶ エンジンを始動させます。

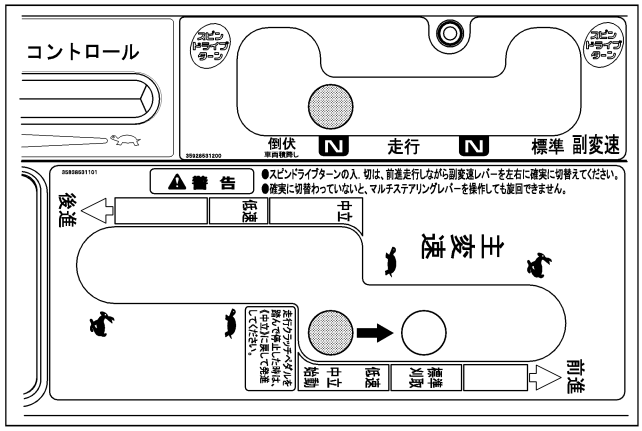
❷ 機体［L仕様］，刈取部をいっぱい下げます。

❸ 副変速レバーを《**N**》（**中立**）にします。

❹ エンジン回転を低回転にします。

❺ 作業機・刈取クラッチレバーを刈取《**入**》位置にします。

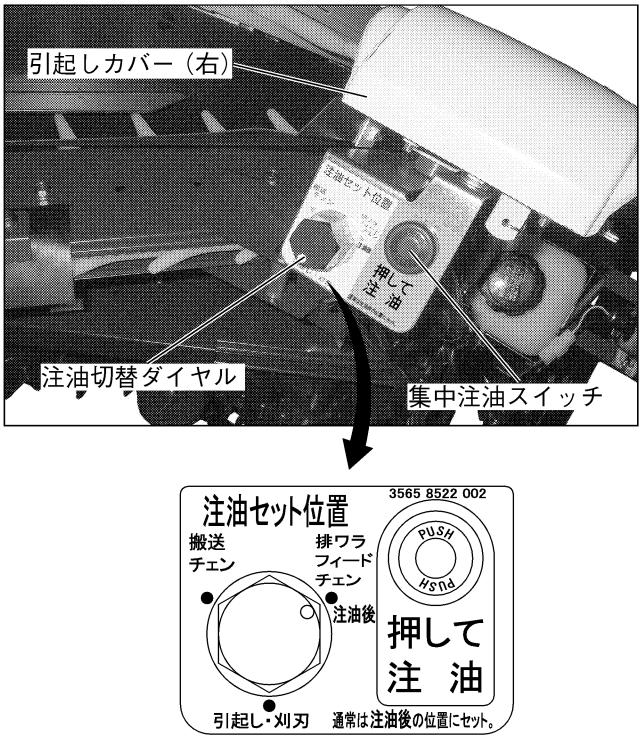
❻ 主変速レバーを《**標準刈取**》位置にして，刈取部を回転させます。



❼ 集中注油スイッチを押している間，自動的に注油されます。また，注油切替ダイヤルにより以下の注油個所の切替えができます。

注油切替ダイヤルを切替中に，集中注油スイッチを操作すると，故障の原因となりますので，スイッチを押さないでください。

・搬送チェン部（株元搬送左右，かき込み搬送左，こぎ深さ搬送，穂先搬送）
・引起しチェン，刈刃部
・排ワラフィードチェン，注油後



❽ 注油作業終了時には，オイル漏れ防止のため注油切替ダイヤルを《**注油後**》位置にしてください。

取扱いのポイント

- **注油中にオイルが流れ落ちることがありますので，注油場所を選んで行い，こぼれたオイルは，拭き取ってください。**
- **注油ホースの継ぎ部からオイル漏れがないか，点検確認してください。**
- **注油切替ダイヤルは，注油位置マークの指示位置に確実に切替えてください。**
- **《こぎ深さ・注油》ヒューズ（20A）が切れると，注油はされません。（26～29ページ参照）**
- **湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除するときに，ノズル・ノズル取付プレート・注油ホースを鎌などで損傷しないようにしてください。**
- **ノズルが詰まると，注油の妨げとなりますので，針などで詰まりを除去してください。このとき，刈取部を上げて作業する場合は，油圧を固定し，刈取部を固定脚に乗せてから行なってください。また，エンジンは停止してください。**

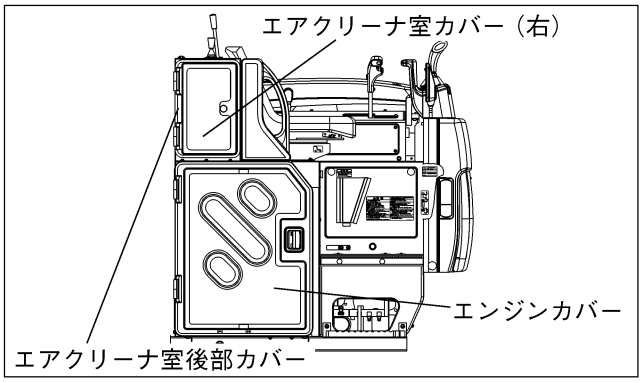
3．各部の点検と掃除のしかた

1．ラジエータ吸気部の掃除

⚠警告　障害事故防止のために

◆エンジン周辺を掃除するときは，エンジンを停止し，エンジンが冷えたことを確認してから行います。

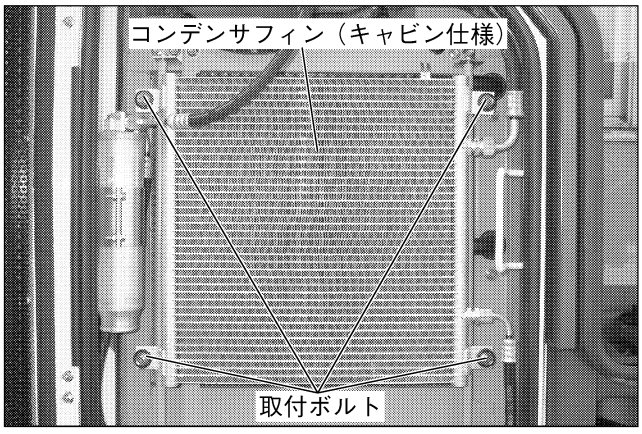
エンジンカバーおよび金網，エアクリーナ室カバー，ラジエータフィン，オイルクーラフィンにゴミなどが目詰まりすると，冷却風の通りが悪くなり，エンジンが「**オーバーヒート**」する原因となります。



❶　エンジンカバーおよびエアクリーナ室カバー（右）の表面のゴミを取除きます。

❷　グレンタンクを回動し，エアクリーナ室後部カバー表面のゴミを取除きグレンタンクを閉じます。

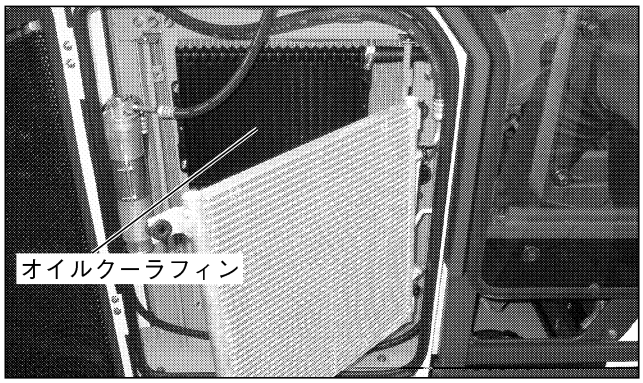
❸　エンジンカバーを開き，ゴミを取除きエンジンカバーを閉じます。



❹　ラジエータフィン部，オイルクーラフィン部，コンデンサフィン部［**キャビン仕様**］に「**ゴミ詰まり**」を生じたときは，次の方法で取除きます。

各々の取付ボルト（4ヶ）を外してオープンします。

電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸い取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押当てないでください。強く押当てると，フィンが変形する恐れがあります。



❺　ボルトを取付けエンジンカバーを閉じます。

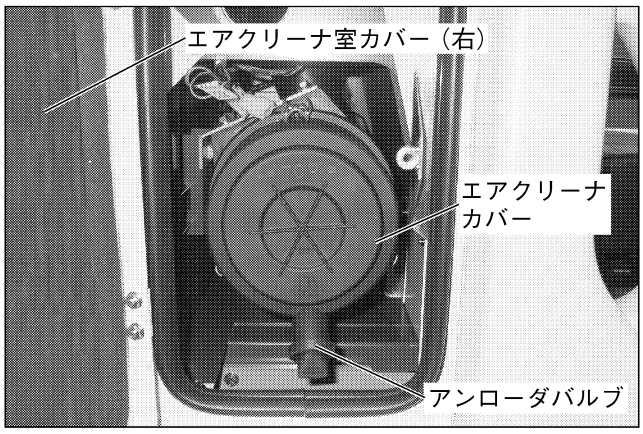
2．エアクリーナの掃除

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下を招きます。

❶　エアクリーナ室カバー（右）を開けます。

❷　エアクリーナカバーのフック（3個所）を外し，エレメントを取出します。

❸　エレメントは軽く叩くか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。



❹　取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付けます。

❺ エアクリーナ室カバー（右）を閉じます。

取扱いのポイント

●コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「588kPa（6kgf／㎠）以下」で行なってください。

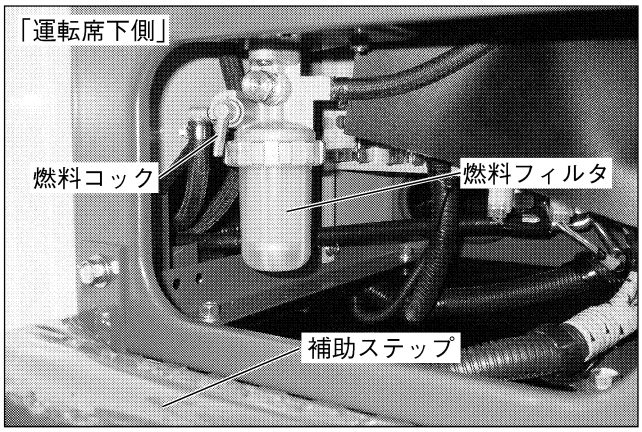
3．燃料フィルタの掃除・交換

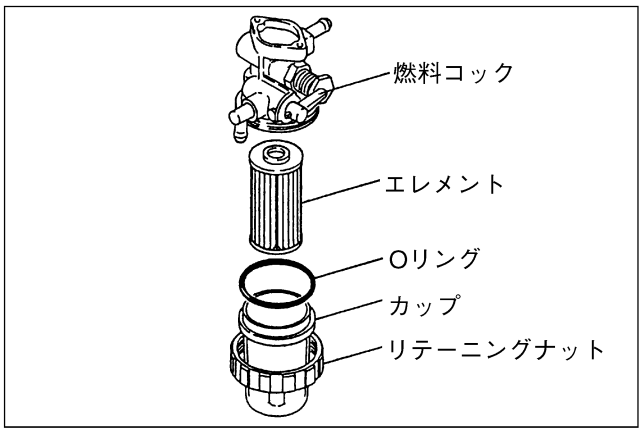
⚠危険 火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料がもれている場合は，火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタは燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。

掃除はシーズン前に行います。交換は「**お買いあげ先**」にて200時間毎にエレメントとOリングを換えます。





❶ 燃料コックを「**閉**」の位置にしてリテーニングナットを外します。

❷ フィルタカップを外し，きれいな軽油で洗浄します。

❸ エレメントを取外し，洗浄または交換します。

❹ Oリングに注意しながらエレメントとカップを取付け，リテーニングナットを締付けます。

❺ 燃料コックを「**開**」の位置にして，エア抜き要領に従ってエア抜きを行います。

4．燃料のエア抜きのしかた

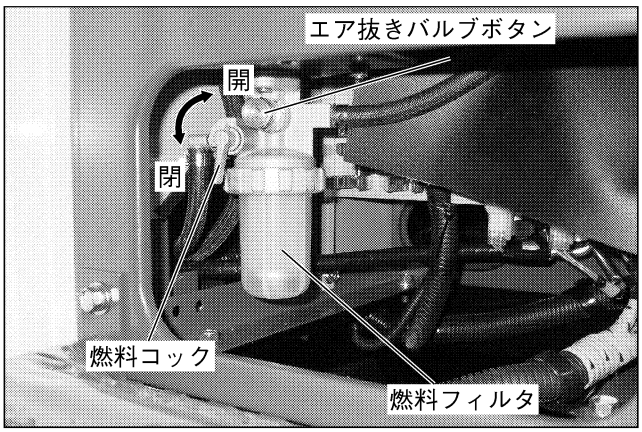
運転途中での燃料切れや，燃料フィルタの掃除や交換時はつぎの手順でエア抜きを行います。

❶ 燃料タンク給油口のフィルタを通して燃料を給油します。

・燃料はディーゼル軽油

JIS 2 号（−7.5℃まで）

JIS 3 号（−20℃まで）



❷ 燃料フィルタの燃料コックを「**開**」位置にします。

❸ スタータスイッチを《 **入**》位置にします。

❹ 燃料フィルタのエア抜きバルブボタンを「**約30〜40秒間**」押し続けます。

❺ エンジンコントロールレバーを《 》（**高速**）位置にして，スタータスイッチを回してエンジンを始動します。

・始動しない場合は，もう一度❹項からの操作を行います。

取扱いのポイント

●燃料の中に，水やゴミ等が混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，給油口のフィルタを通して給油してください。

5. ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除

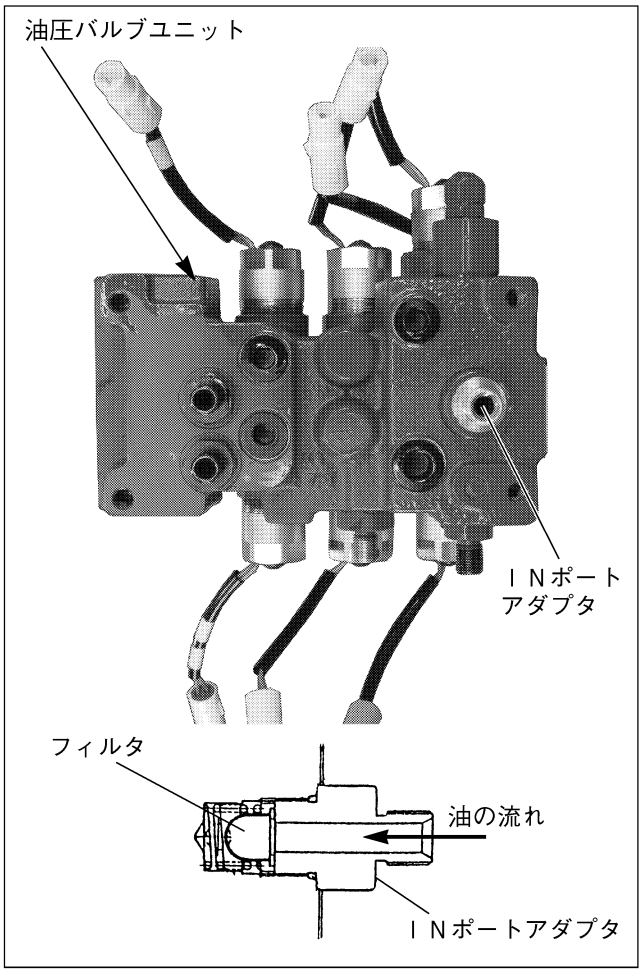
油圧作動油の劣化や，汚れによる作動不良などを防止するため，ソレノイドバルブユニット内部にフィルタが設けてあります。

・掃除は，83～86ページの「**定期点検整備表**」に従って「**お買いあげ先**」にて行います。

❶ フィルタの清掃

(1) 刈取部をオープンします。(123～128ページ参照)

(2) デリベリホースを外してからＩＮポートアダプタ（六角対辺30）を外し，フィルタを取外します。



(3) フィルタの外側よりエアを吹付けて，きれいに掃除します。

(4) 清掃したフィルタを，方向を間違えないように組込みます。

(5) ＩＮポートアダプタを取り付けます。

(6) 刈取部を閉じます。(123～128ページ参照)

❷ 組付け後の操作確認

(1) エンジンを始動し,マルチステアリングレバーにて刈取部を３～４回上下させて，カバーの取付部およびホースの継ぎ部の油漏れがないか確認します。

(2) エンジンを停止して，オイルタンクのオイル量を点検し，不足していれば検油栓まで補給します。

6．電気配線の点検と掃除

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《 STOP 切》位置にし，バッテリコードのアース側㊀端子を外してください。
◆電気配線およびバッテリ㊉コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので，交換してください。
◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると，電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」することがあります。

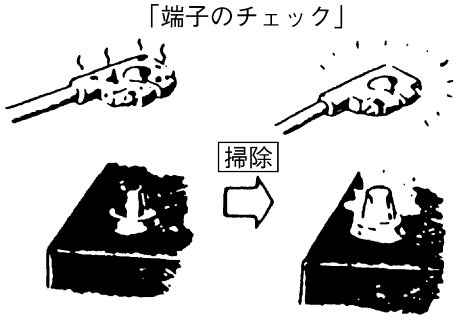
傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

(1) エンジン，バッテリ，電気配線部に溜まっている「**ワラやゴミ**」などは，「**火災**」の原因になりますので取除きます。

(2) バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐蝕**」することがあります。バッテリ端子が腐蝕すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐蝕を，サンドペーパやブラシで取除きます。

腐蝕防止のために，グリースを塗ります。



7．バッテリの点検と充電

バッテリの残存容量と液量を確認します。

指定バッテリ……80D26R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

◆ブースタケーブルを使用するときは，接続前にエンジンを停止してください。
◆ブースタケーブルは，100Ａ以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。
◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ってください。
◆㊉端子と㊀端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。
◆㊉端子が機械に，接触しないようにしてください。
◆バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。
◆バッテリは充電するとき，引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり，「スパーク」による電気火花が，発生しないようにしてください。
◆㊀端子を取付けたままで充電すると，発電器や電気配線を焼損することがあります。
◆バッテリの液量が，側面に表示されている「下限」(LOWER LEVEL) 以下になった状態で使用したり充電すると，バッテリの破裂（爆発）の原因となることがあります。
◆「水素ガス」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をしてください。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇物ですので，こぼさないようにしてください。火傷をすることがあります。
◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがありますので，眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。
◆衣服についたときは，水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

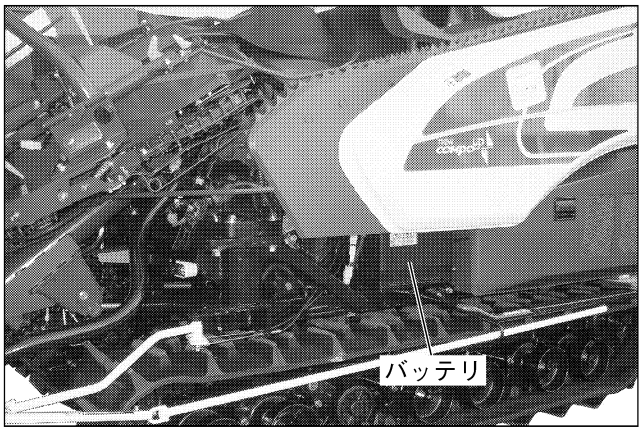
❶ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと，バッテリが上下左右に動き，振動で電解槽やフタなどが摩耗したり，亀裂を起こすことがあります。

取付金具で，しっかり固定します。

取付金具等が腐蝕していれば，修理または取替えます。

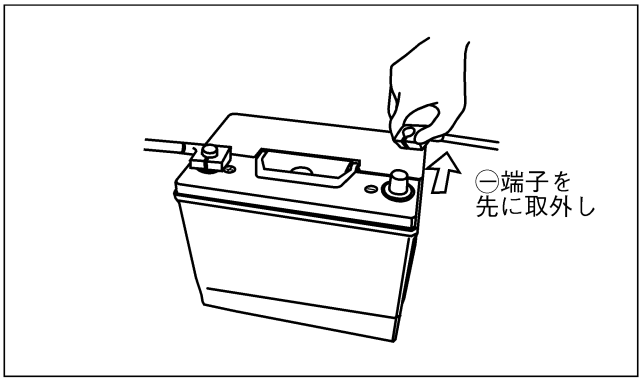
バッテリは車体左側，脱こく部の前側にあります。



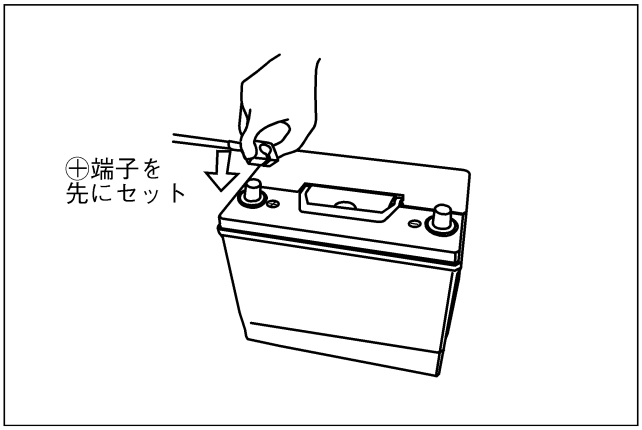
❷ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」するときは,エンジンを停止し,スタータスイッチ（始動キー）を抜取り，すべての制御スイッチを《**切**》にします。

(2) バッテリコードを端子から取外すときは，「**アース側㊀端子**」を先に外します。



(3) バッテリコードを端子にセットするときは，「**プラス側㊉端子**」を先に取付けます。



❸ 残存容量の確認（補水不要バッテリ）

⚠警告

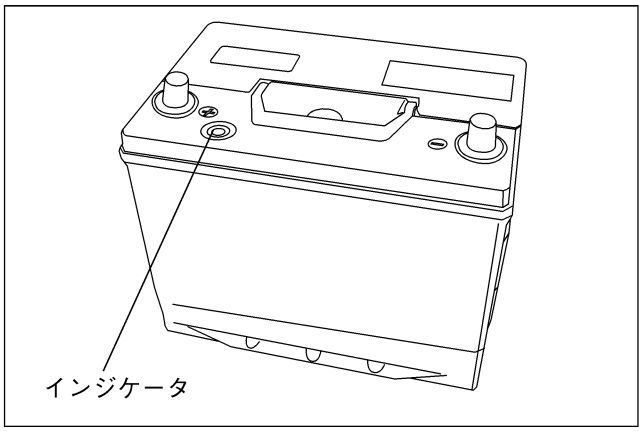
◆バッテリを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発するおそれがあります。
◆この12Vバッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
◆急速充電は厳禁です。
◆開封は厳禁です。（補水不要バッテリ）

(1) バッテリは上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

取扱いのポイント

- この機械は出荷時には補水不要バッテリが装備されています。
- インジケータは真上から確認してください。



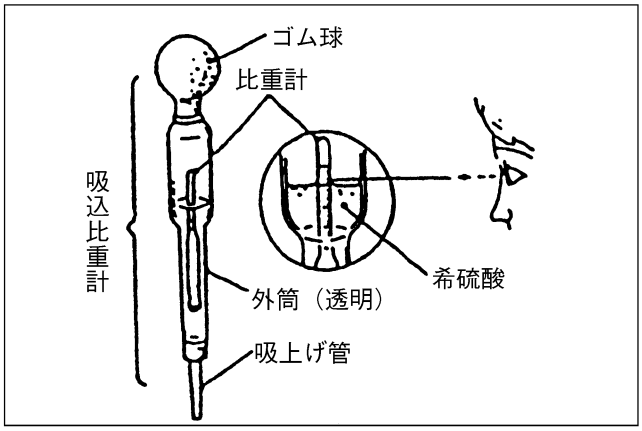
- 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

❹ 残存容量の確認（補水が必要なバッテリ）

⑴ バッテリ液の「**比重**」を測定する方法と，「**バッテリテスタ**」で測定する方法があります。

⑵ 残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

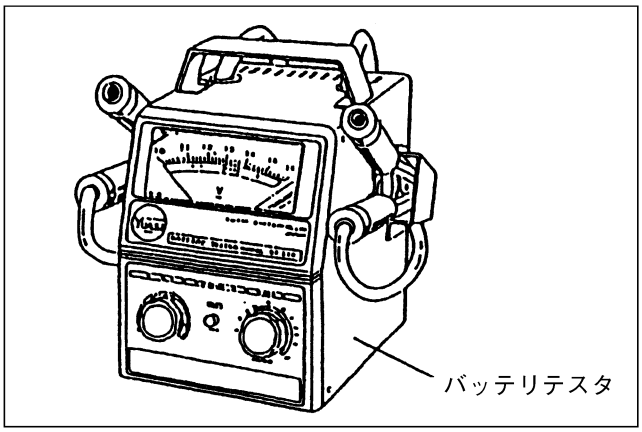
⑶ バッテリ液の比重が「**1.220（20℃）**」以下であれば補充電をします。



比重（20℃）	放電電気量（%）	残存容量（%）
1.280	0	100
1.235	25	75
1.190	50	50
1.145	75	25
1.100	100	0

⑷ バッテリテスタで測定し，メータの指示範囲が黄ゾーン以下であれば補充電をします。

緑ゾーン……正常
黄ゾーン……やや放電
赤ゾーン……かなり放電



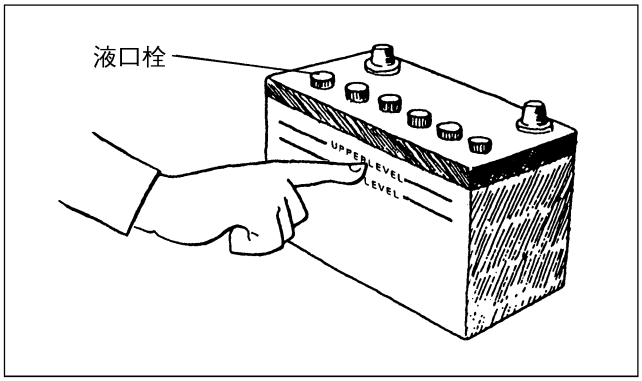
❺ バッテリ液量の確認（補水が必要なバッテリ）

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限《LOWER　LEVEL》以下になったまま使用，または充電するとバッテリの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
《LOWER　LEVEL》と《UPPER　LEVEL》の間になるまで補水してください。

⑴ 使用状態での充電電流によりバッテリ液が電気分解され，しだいに液面が低下します。バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

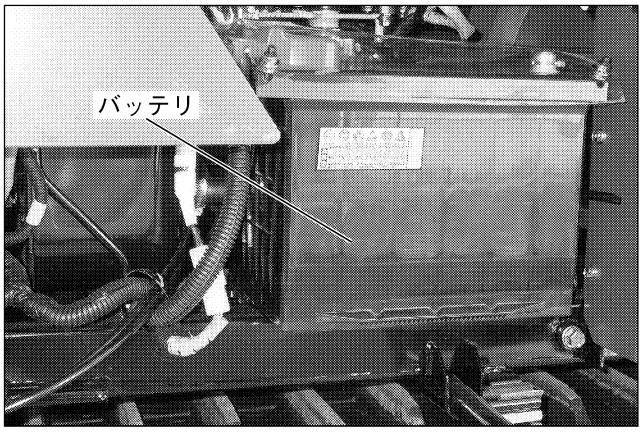
⑵ 減っていれば，バッテリ補充液を《**UPPER LEVEL**》まで注水補給します。



❻ ブースタケーブルによるエンジン始動

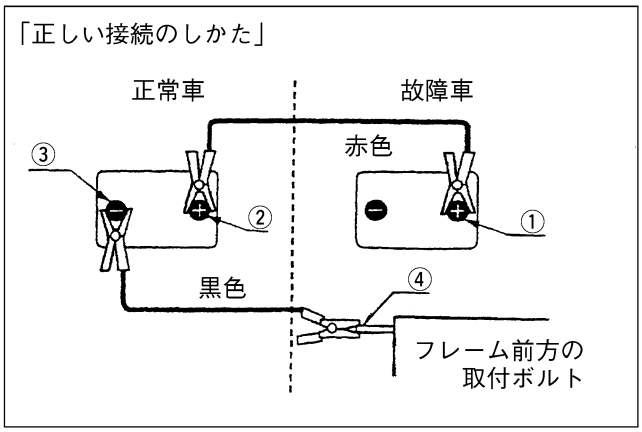
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動するため，ブースタケーブルを使用します。

このときは，次の手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

⑴ 正常車のエンジンを停止して，①～④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。

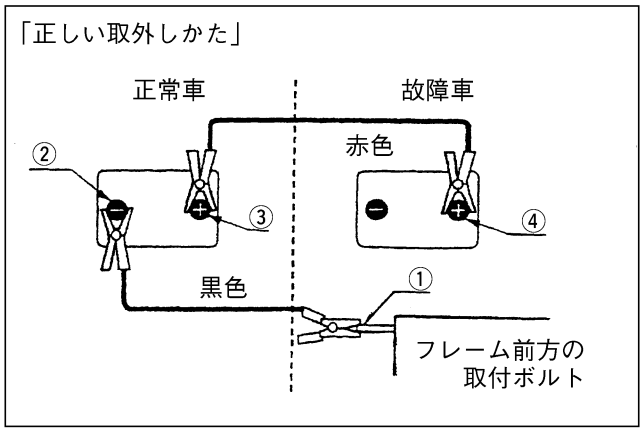


接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のフレーム前方の取付ボルトに接続します。

⑵ 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときは，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。

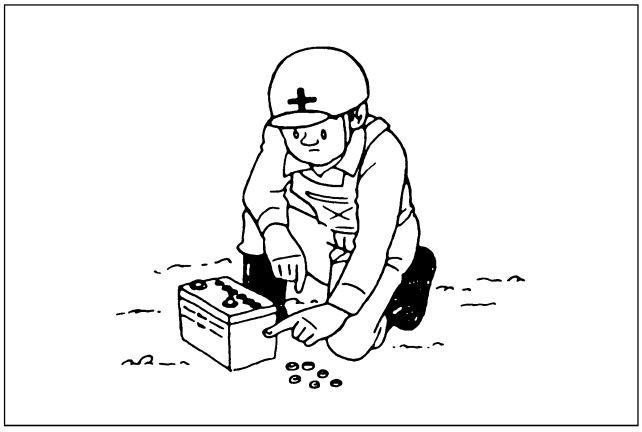


❼ バッテリ単体での充電

(1) 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ります。

(2) 機械からバッテリを取外します。

(3) 「**液口栓**」をすべて取外します。(補水が必要なバッテリ)

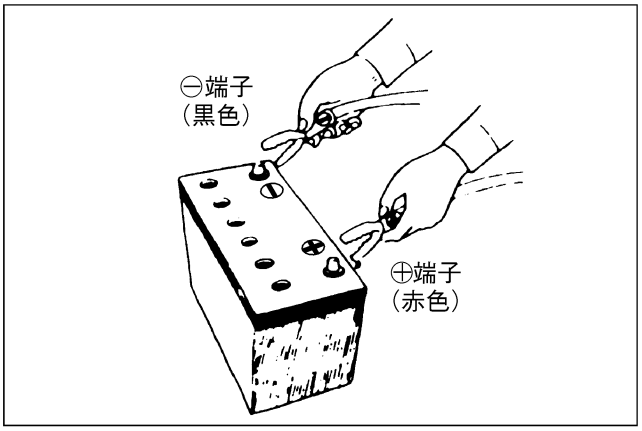


(4) 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が「**45℃**」を超えないようにします。

(5) 「**水素ガス**」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をします。

(6) 「**火気**」を近づけたり「**スパーク（短絡）**」による電気火花が発生しないようにします。

(7) 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを「**切**」にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。



取扱いのポイント

- **各端子は，「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けのとき，バッテリ端子部は布で油などを拭き取っておきます。取付け後バッテリ端子部には，腐蝕防止のためグリースを塗布してください。**
- **バッテリ⊕端子のゴムブーツを，取付けておきます。**
- **厳寒時は，機械を格納するときに，バッテリを取外して暖かい所に保管してください。**
- **亀裂や変形のあるバッテリは，新品と取替えてください。汚れていれば，清水で洗浄してください。洗浄後は，水分を拭き取ってください。**
- **化学繊維製布による拭取りは，静電気が発生する恐れがありますので避けてください。**

8．グレンタンクの回動のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆グレンタンクを回動するときは，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行なってください。

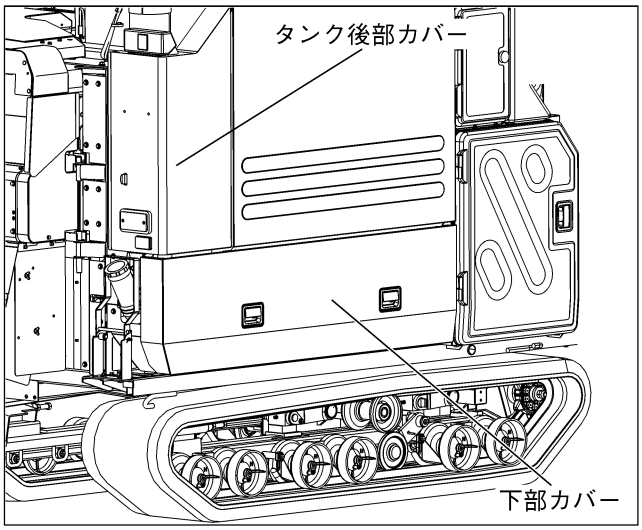
◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを，確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態で回動させると，故障の原因となります。

◆グレンタンクを回動したら，ストッパをかけて，作業を行なってください。

エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときは，グレンタンクを回動して，ストッパをかけて行います。

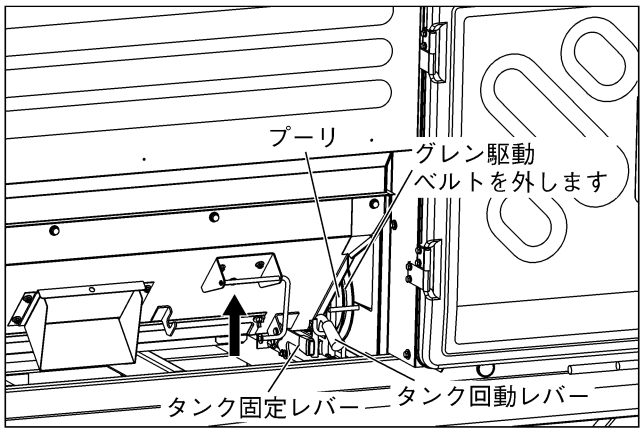
❶ タンク下部カバーを取外します。

❷ タンク後部のカバーを開きます。

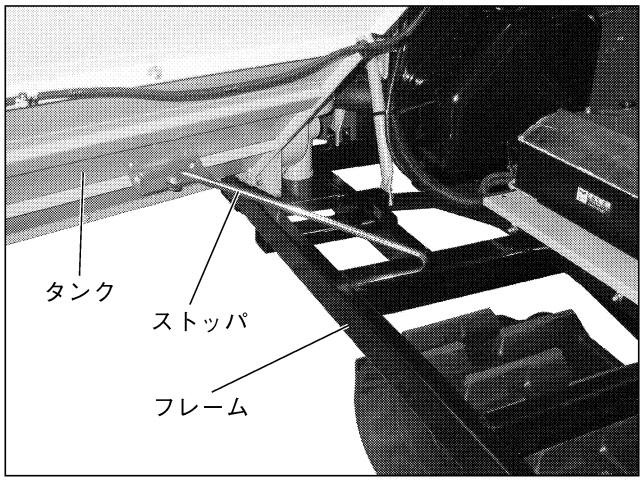


❸ グレン駆動ベルトを，プーリより外します。

❹ タンク回動レバーとタンク固定レバーを持ち上げながら，手前に引きタンクを回動します。



❺ タンクのストッパをフレームにかけます。



❼ 収納は逆の手順で行います。

❽ タンクを収納する途中で，タンク回動レバーのピンがフレームに当たり，回動しなくなります。この場合は，タンク回動レバーを持ち上げながら，タンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るまで，タンクを押し込みます。

取扱いのポイント

- **収納後は，ベルトの掛け方が間違っていないか，再度確認してください。(177ページ参照)**
- **タンク回動は，タンク回動レバー，タンク固定レバーの順で解除して操作をしてください。**
- **タンクの回動は，タンク回動レバーを持って行なってください。**

9．こぎ胴部の開閉のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

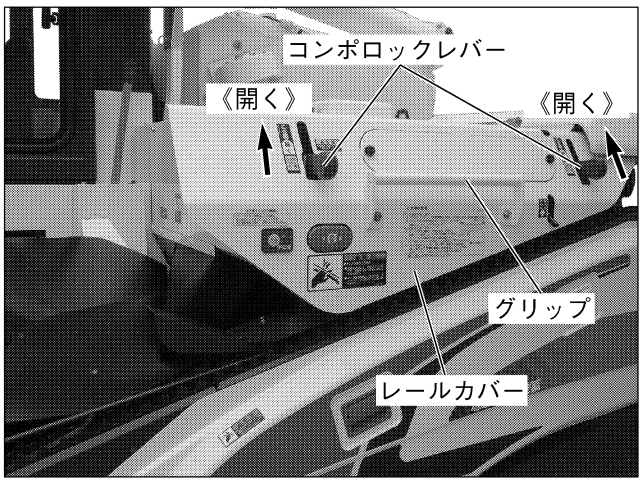
◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴を持ち上げ，「カチッ」という自動ロックの作動音を確認してからゆっくりと手を離してください。
◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。この時，回動範囲内には，手や体を入れないでください。
◆サイドステップは2人以上乗らないでください。また足元がすべらないために，ぬれたり，泥のついた靴では乗らないでください。

❶ サイドステップを引出し，乗った状態でこぎ胴の開閉を行うと容易に行えます。

❷ こぎ胴部を開く時は

(1) ２本のコンポロックレバーを左右同時に《**開く**》の方向に上げ，固定を解除します。

(2) レールカバーの端部を持ってこぎ胴を持ち上げ『**カチッ**』という音を確認して，ゆっくり手をはなします。

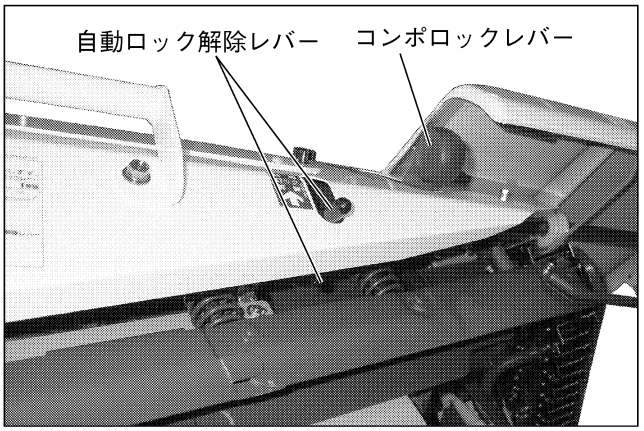


［こぎ胴部開（コンポアップ）状態］

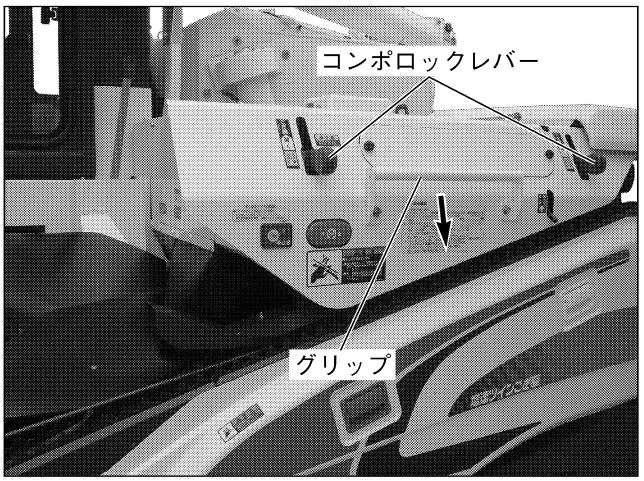


❸ こぎ胴部を閉める時は

(1) レールカバーの端部を持ってこぎ胴を一杯持ち上げ，自動ロック解除レバーを（ロックが解除される位置）押し上げたままこぎ胴を下げます。

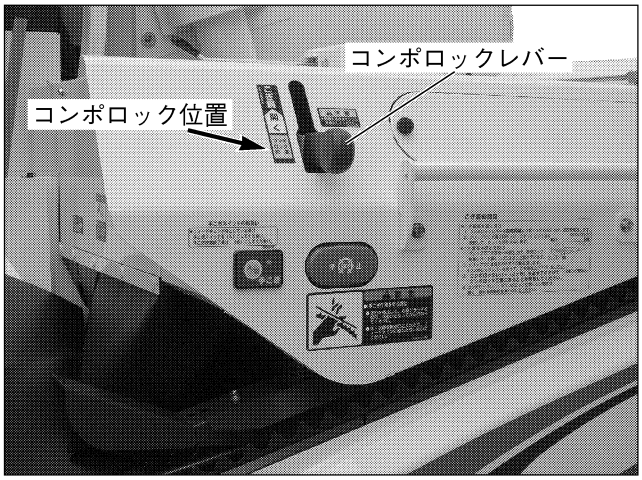


(2) グリップでこぎ胴をおろすと自動固定します。（コンポロックレバーを持って，こぎ胴を上げ下げしないでください。）

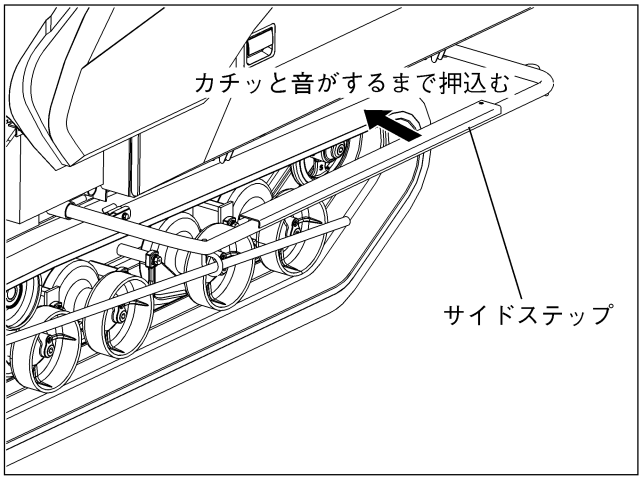


⑶ コンポロックレバーがコンポロック位置にあることを確認します。
最後まで下がっていない場合は，コンポロック位置までコンポロックレバー（２ヶ所）を下げます。

⑷ コンポロックレバーがコンポロック位置にない場合は開く・閉める動作を繰り返して，コンポロック位置にレバーを下げる様にします。



❹ サイドステップを使用した場合は収納します。



10．脱こく内部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆脱こく部の各部を掃除するときは，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行なってください。
◆２人以上で作業する場合，特に回転部を動かすときは，互いに声をかけあい，安全を確認してから行なってください。
◆こぎ胴部は，自動ロック位置まで確実に持上げてください。
◆マフラカバーに触れないでください。
◆作業後はカバー類を確実に取付けてください。

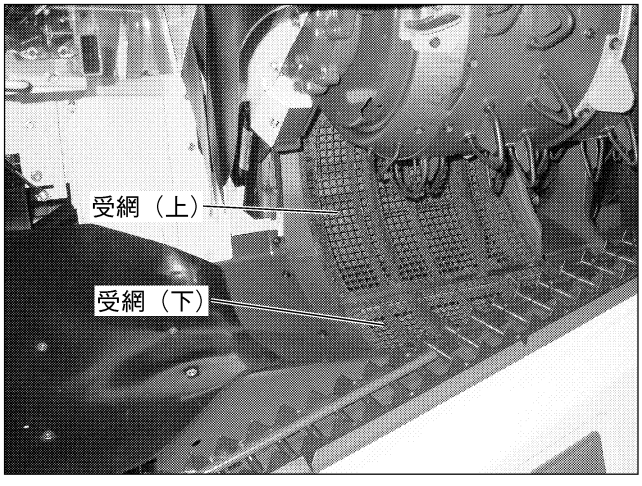
品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

取扱いのポイント

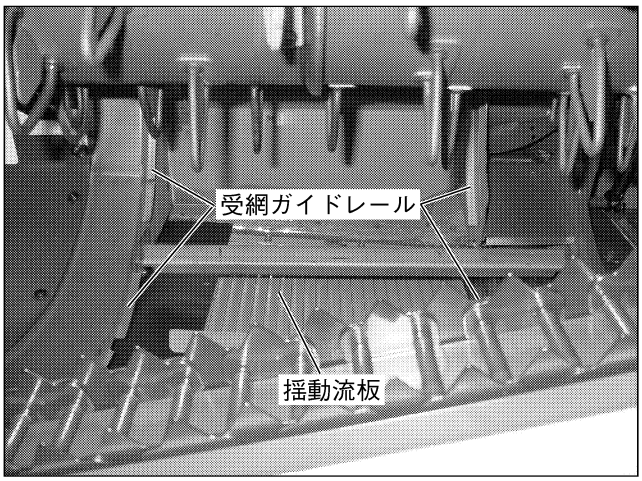
●脱こく内部などの掃除にはブロアを使用すると容易にできます。

❶ 「脱こく受網（上）・（下）の着脱」

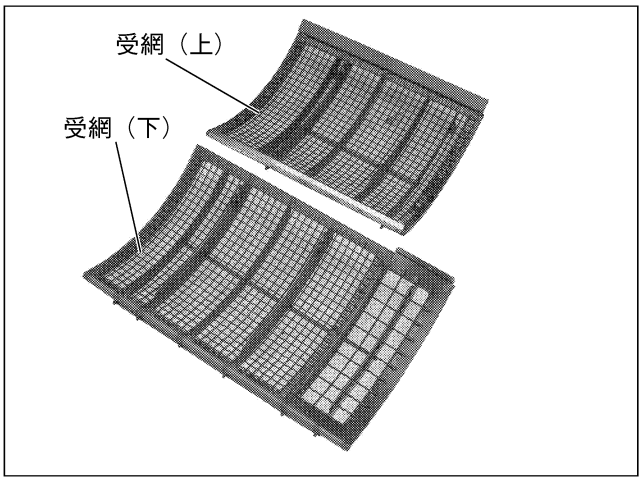
⑴ こぎ胴部をいっぱい持ち上げると受網を固定しているロック装置は自動的に解除されます。
⑵ 受網（上）を外します。
⑶ 受網（下）を外します。



⑷ 受網（上）・（下）を取付ける時は受網ガイドレール（４個所）のクズを取除きます。



⑸ 脱こく受網の取付けは逆の手順で取付けます。



⑹ こぎ胴を閉めると受網は自動的にロックされますが，受網が完全に入っていないときはロックできませんので受網が完全に入っていることを確認します。

取扱いのポイント

●長期格納前には，受網（上），（下）は取外して掃除をしてください。
●受網ガイドレール（４個所）にこく粒やクズがたまったまま受網をセットするとこぎ歯に当たる場合がありますので掃除してください。

❷ 第２こぎ室の掃除

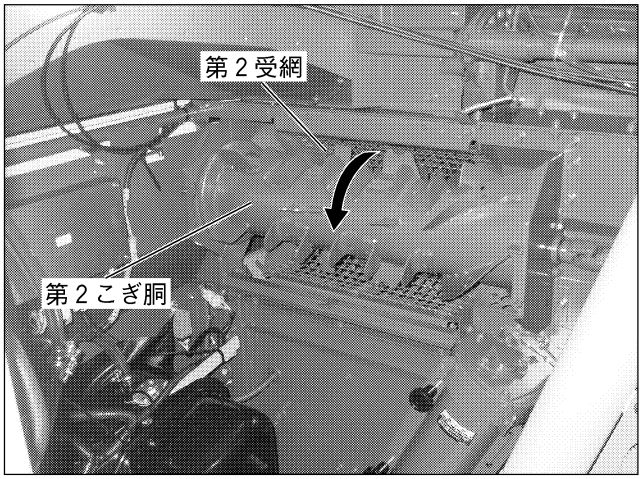
⑴ グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。（108ページ参照）

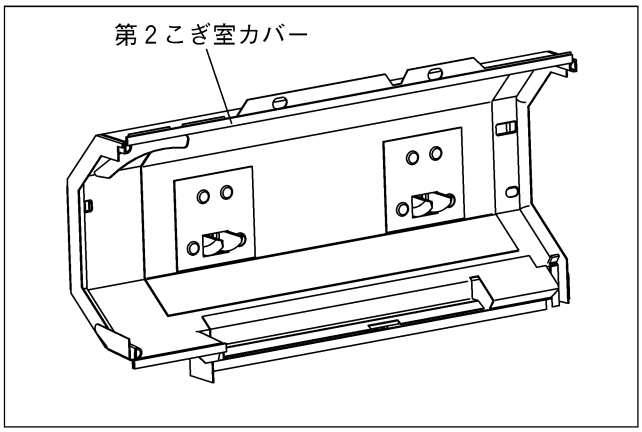
⑵ ３個のクランプを外し，第２こぎ室カバーを取外し，内部に残ったクズを掃除します。

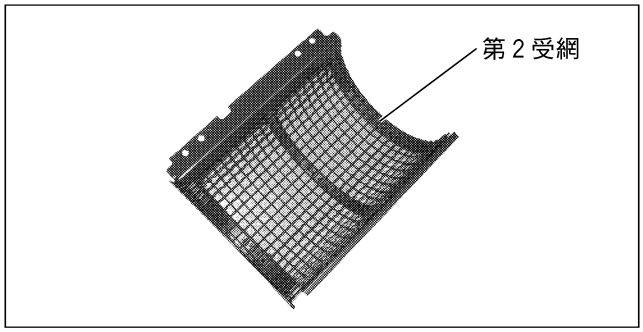


⑶ 第２受網は，受網の上側から第２こぎ胴を回すようにして，取外します。

⑷ 取付けは，逆の手順で取付けます。







取扱いのポイント

- **長期格納前には，第２受網を取外して掃除をしてください。**

❸ 揚こくラセン部の掃除

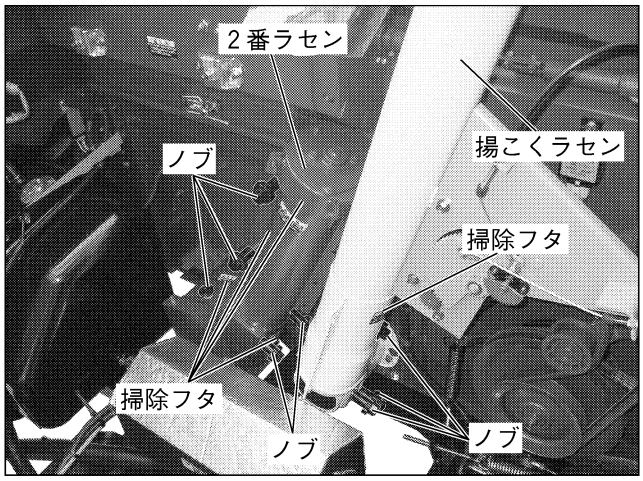
⑴ グレンタンクを回動し，ストッパを掛けて行います。（108ページ参照）

⑵ ノブを外し，掃除フタを取外し，内部にたまっているこく粒を掃除し，掃除フタをノブで取付けます。

❹ ２番ラセン部の掃除

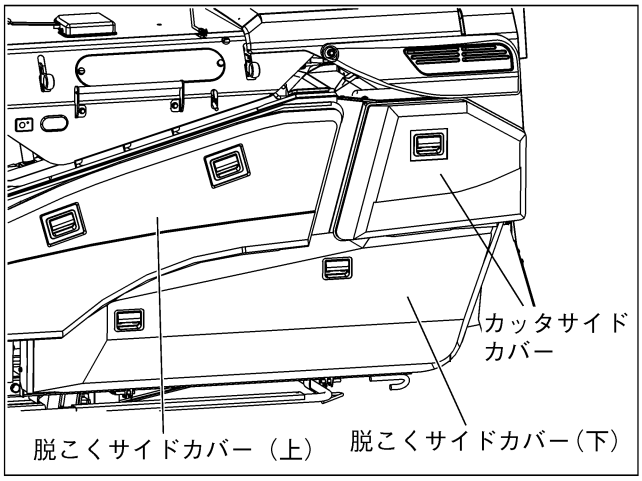
掃除は４個所からできます。

掃除フタを取外し，内部に溜まっているこく粒を掃除し，掃除フタをノブで取付けます。



❺ 1番ラセン底板，2番ラセン底板の掃除

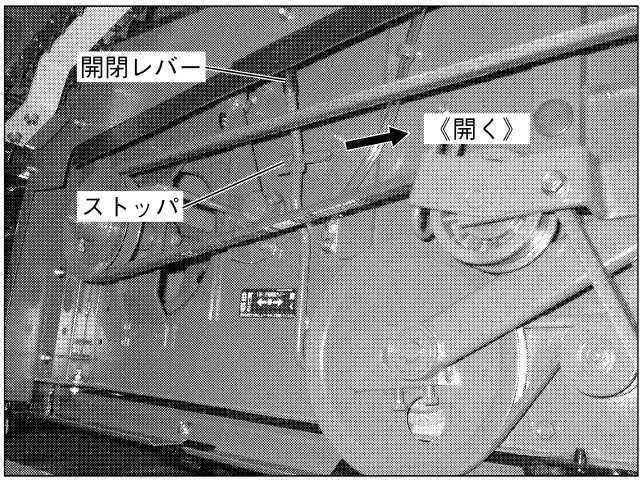
(1) 脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーを取外します。



(2) 開閉レバーのストッパを外し，レバーを《開く》方向に操作すると底板が開き，機械の後方下側から掃除ができます。

・ストッパは開閉レバーを右手で支えてから外します。

(3) 脱こくサイドカバー(上),(下),カッタサイドカバーを取付けます。



取扱いのポイント

●掃除後は，底板の合せ面が確実に閉じていることを確認してください。開いていると，こく粒が漏れます。

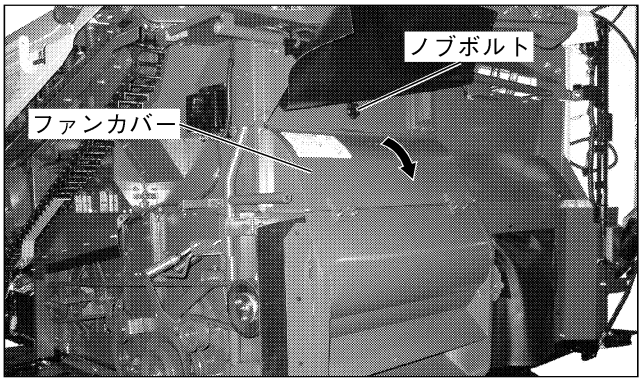
❻ 排じん室の掃除

(1) 脱こくサイドカバー(上),(下),カッタサイドカバーを取外します。

(2) カッタをストッパがかかるまでいっぱい開きます。(122～123ページ参照)

(3) ノブボルトをゆるめて外し，ファンカバーを開き，排じん室のワラクズ等を掃除します。(115ページ参照)

(4) 作業後ファンカバー，カッタを閉じ脱こくサイドカバー（上),(下)，カッタサイドカバーを取付けます。



❼ ワラ切カマの掃除

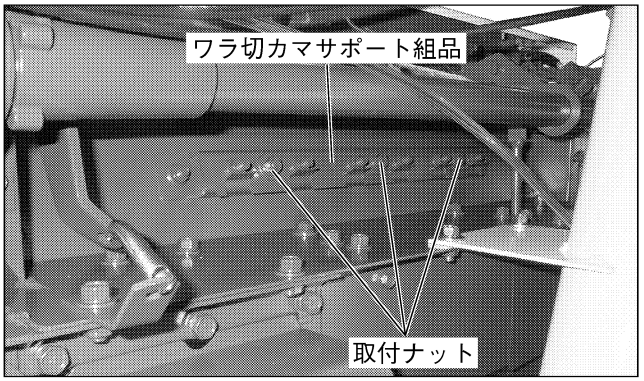
⚠注意

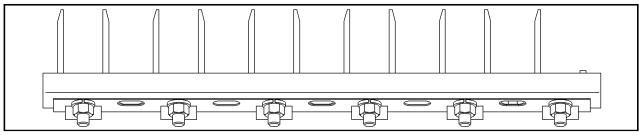
◆ワラ切カマの脱着作業は手袋をして行なってください。

◆刃部に手をかけないでください。

3個所のワラ切カマサポート組品を取外し，ワラ切カマに付着しているワラクズ等を掃除します。(ワラ切カマの取外しは139～140ページを参照)

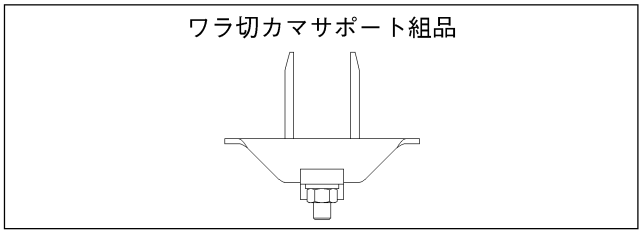
(1) 1個所は脱こく右側の天板とグレンタンク部の境界部にあります。(運転席から後を見ると，見付けることができます。)



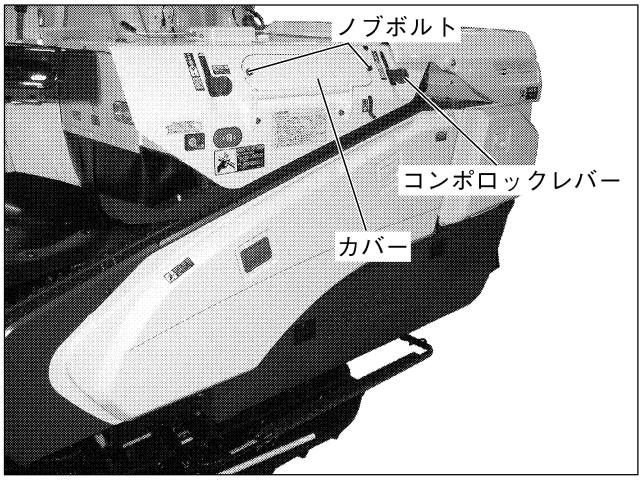


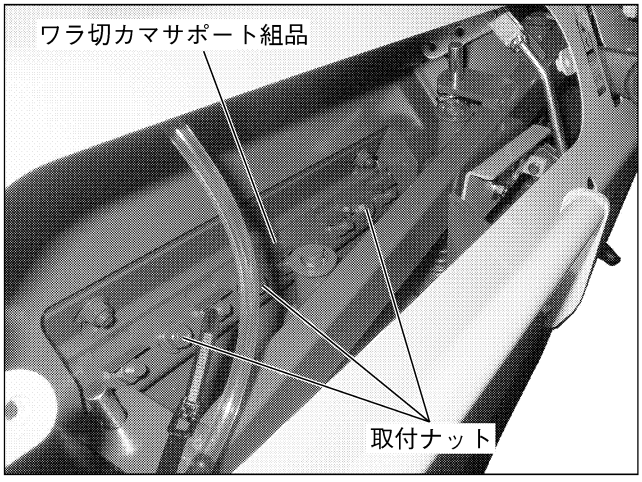
(2)　2個所目は第2こぎ室カバーにあります。

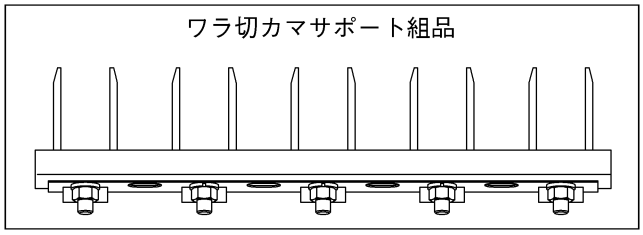




(3)　3個所目は，脱こく左側のコンポロックレバー近くのノブボルト（2個）を外してカバーを外すと見ることができます。







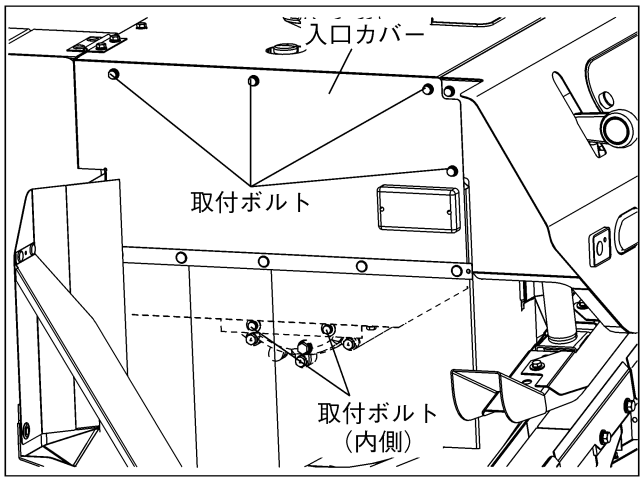
(4)　グレンタンクを閉じ，カバー類を取付けます。

取扱いのポイント

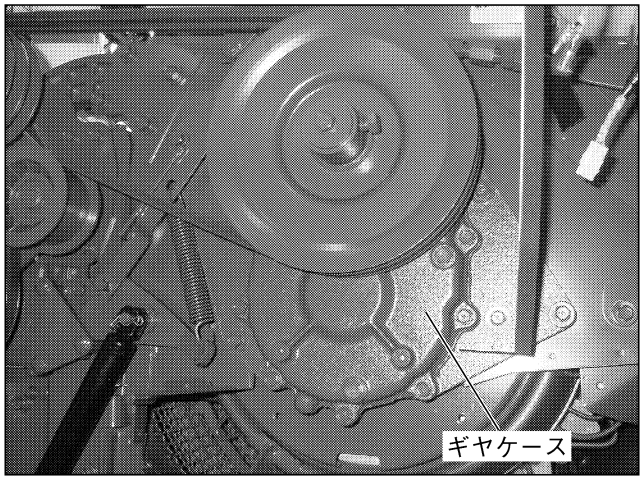
- **組付け時はワラ切カマの組付け方向をまちがえないでください。**

❽　こぎ胴ギヤケース部の掃除

(1)　入口カバーを外します。



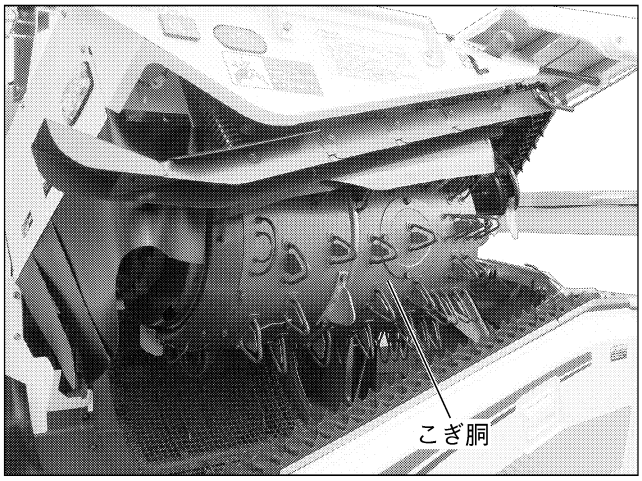
(2)　カバー内の掃除とギヤケース下部の掃除を行いカバー類を取付けます。



❾ 脱こくこぎ室の掃除

こぎ胴をオープンします。

こぎ室を掃除し，こぎ胴を閉じます。



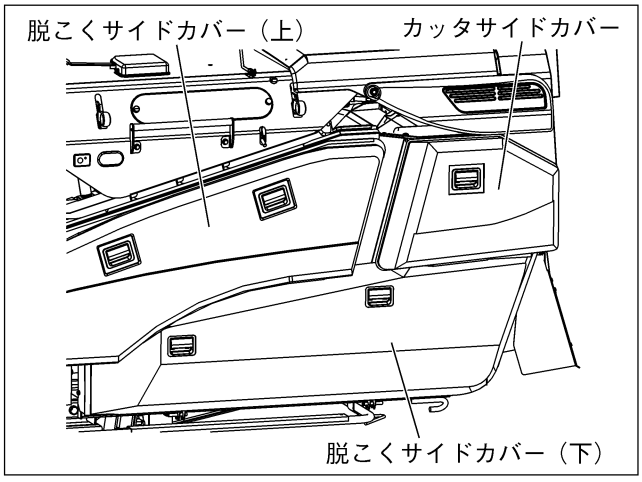
11. 脱こくファンケースの取外し・取付け

⚠警告 傷害事故防止のために

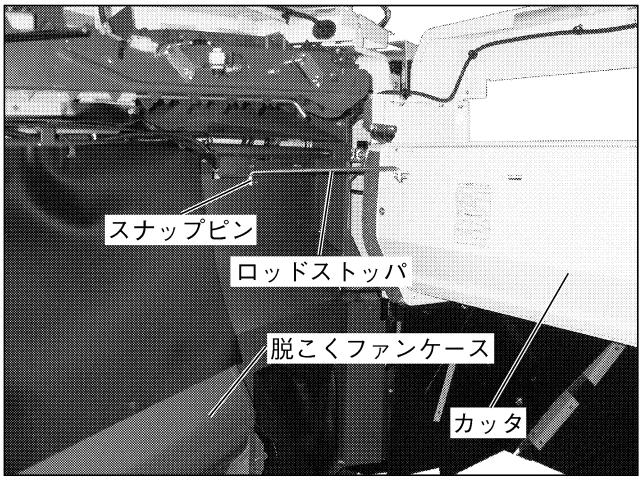
◆脱こくファンケースを取外す時は，平坦な場所でエンジンを停止して行なってください。

◆カッタはいっぱい開いて，ストッパをかけてください。

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）およびカッタサイドカバーを外します。

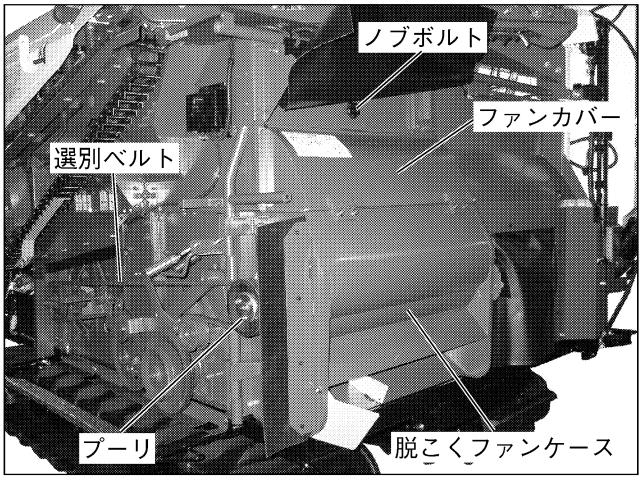


(2) カッタをいっぱいに開きロッドストッパをかけ，スナップピンで固定します。(122～123ページ参照)

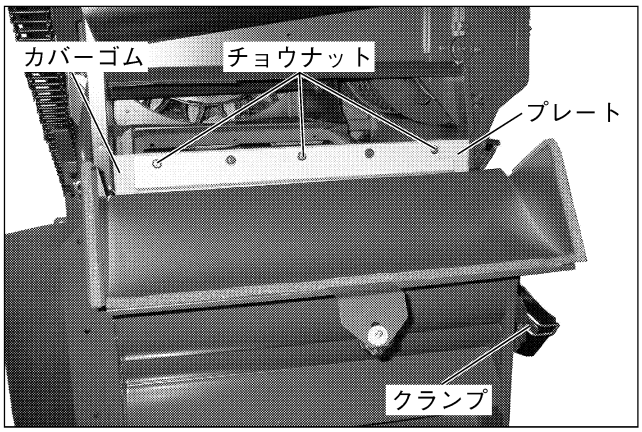


(3) 脱こくファンケースのプーリから選別ベルトを外します。

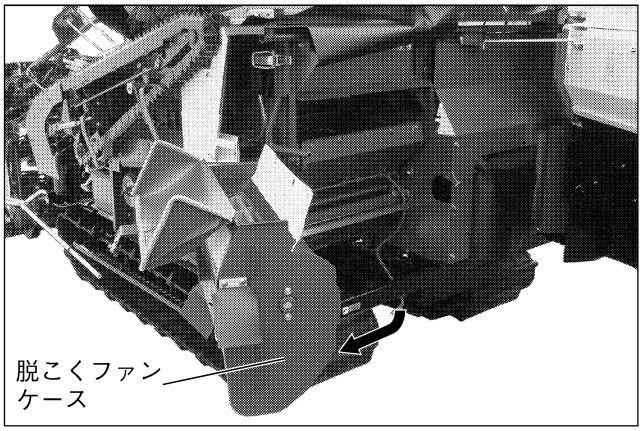
(4) ファンカバーのノブボルト（上側１個）を外し，ファンカバーを開きます。



(5) 揺動流板終端のチョウナット（3ヶ）およびプレートを外して，カバーゴムを外します。



(6) 脱こくファンケース右側のクランプを外し，ファンカバーを開いたまま，脱こくファンケースを回動させます。

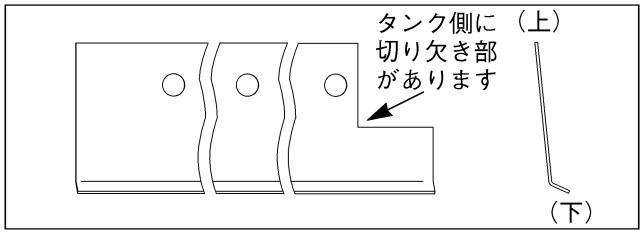


(6) 脱こくファンケースを閉じる時は，開く時の逆の手順で行います。

(8) 外した脱こくサイドカバー（上），（下）およびカッタサイドカバーを取付けます。

取扱いのポイント

- 脱こくファンケースを収納した時，揺動流板先端カバーゴムの取付ナットの締め忘れがないか確認してください。
- カバーゴムがセットされていないとファンが詰まり，刈取り作業ができません。
  またファン破損の原因となります。
- 脱こく内部などの掃除にはブロアを使用すると容易にできます。
- プレートは，組付ける方向を確認して取付けてください。



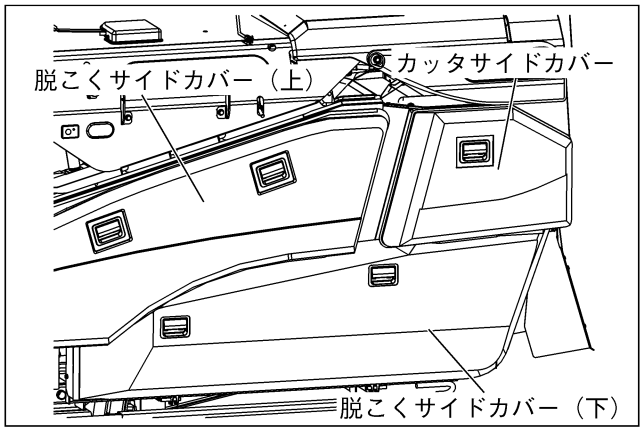
12．揺動流板の掃除

⚠注意 傷害事故防止のために

◆揺動流板の脱着作業は，2人作業で合図を掛け合って行ってください。

❶ 揺動流板の取外しかた

(1) 脱こくサイドカバー（上，下）・カッタサイドカバーを外します。



(2) カッタをいっぱい開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。（122～123ページ参照）

(3) 脱こくファンケースをオープンします。（115～116ページ参照）

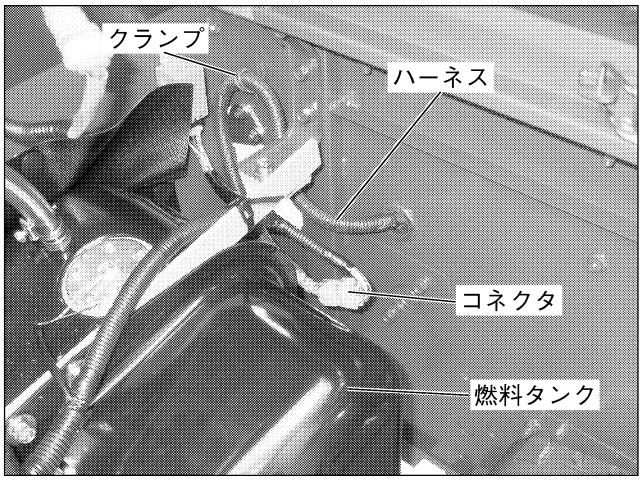
取扱いのポイント

- 脱こくファンケースは揺動流板先端部をプレートとカバーゴムで止めてありますので，ファンカバーを外し，取外してください。

⑷　揺動流板を取外します。

①　グレンタンクをオープンします。

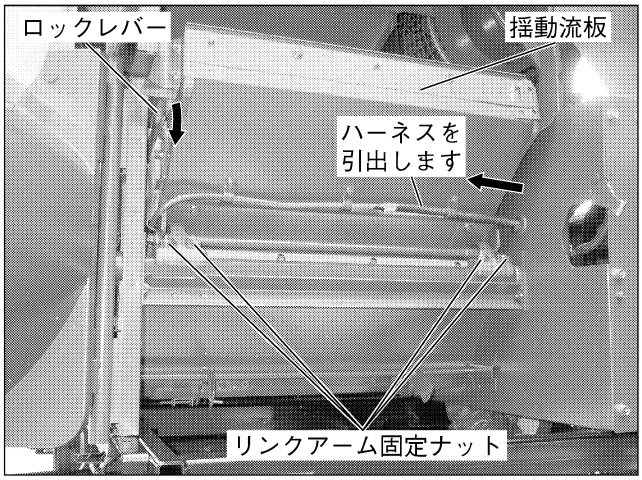
②　燃料タンク上のコネクタとクランプを外します。



③　ハーネスを揺動流板側へ引出します。

④　２番ラセンプーリを手で回して，揺動流板を後方いっぱいに引き出した後，揺動流板後部のリンクアーム固定ナット左右各２本を外します。

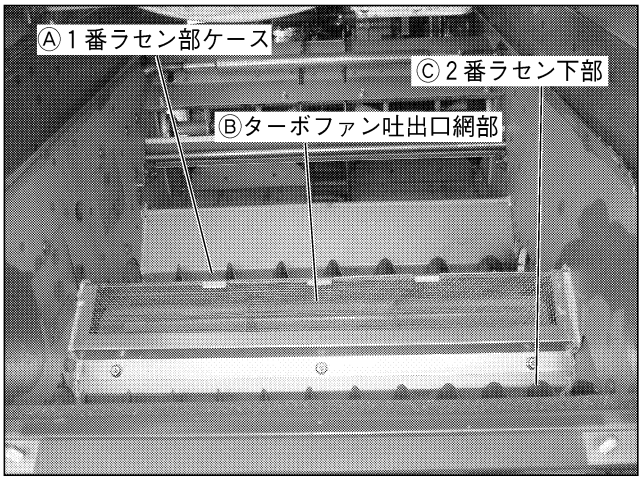
⑤　揺動流板後方左側のロックレバーを矢印の方向へ回動させます。

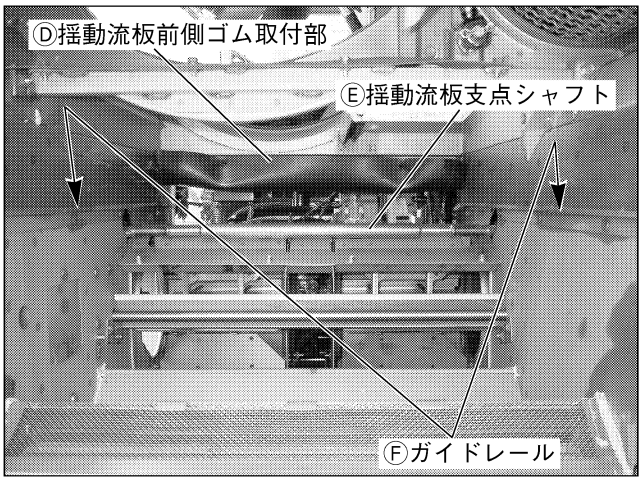


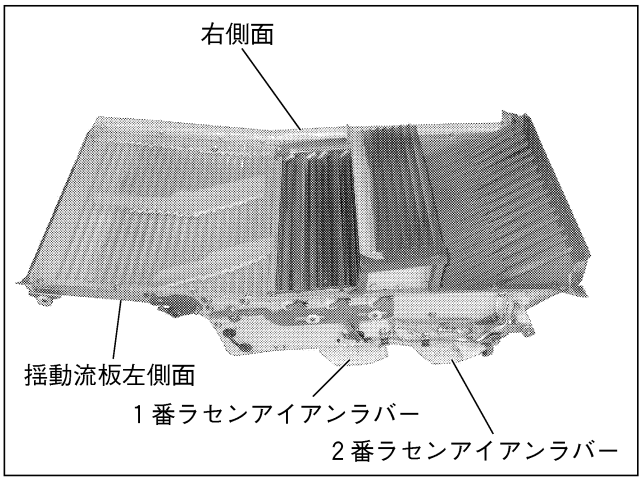
⑥　揺動流板の左右を支えながら少し浮かせた状態で後方へゆっくりと抜出します。（**２人作業**）

❷　揺動流板の掃除のしかた

揺動流板を外した後の脱こく内部Ⓐ～Ⓕと揺動流板上面及び左右側面を掃除します。

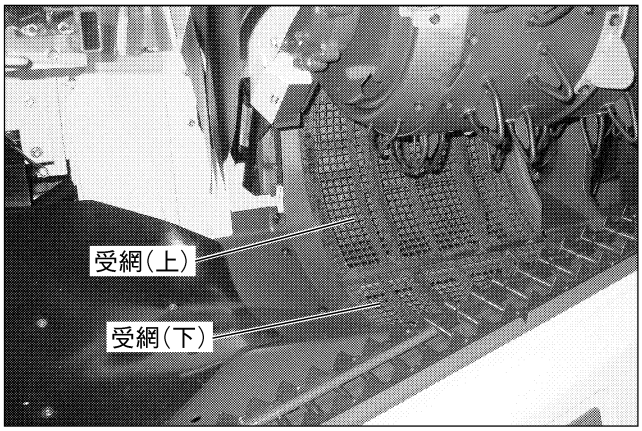




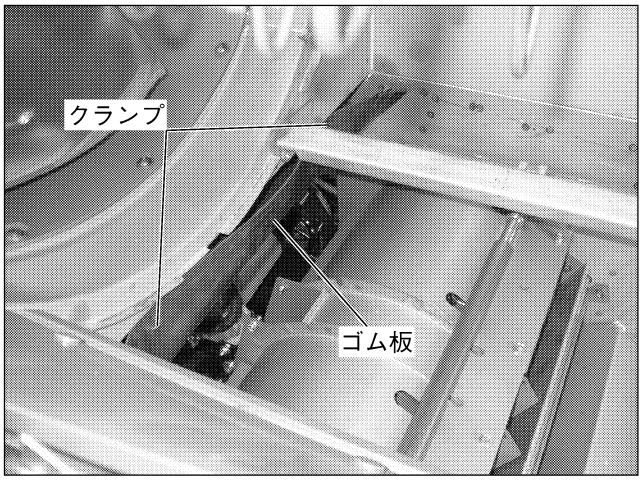


❸ 揺動流板の取付けかた

⑴ こぎ胴部を開いた状態にし，受網（上）（下）を外します。

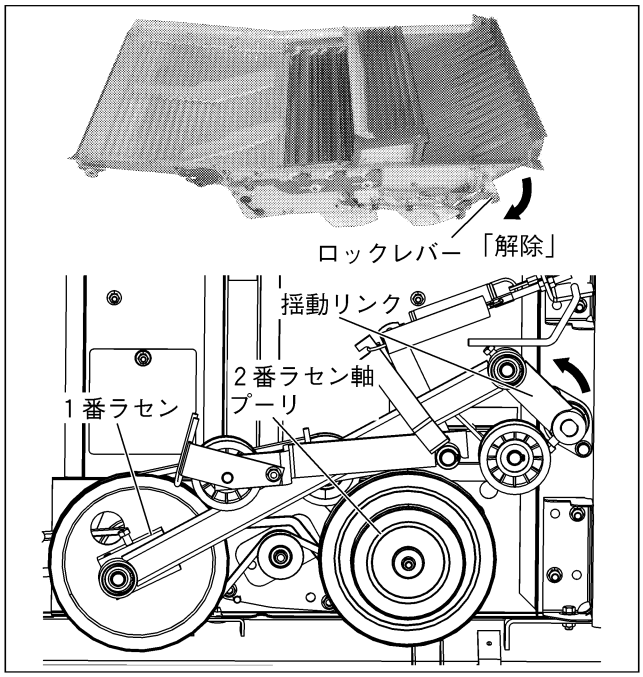


⑵ 揺動流板先端のゴム板を持上げてゴム板の穴にクランプを通して固定します。(揺動流板のかみ込みを防ぐため)

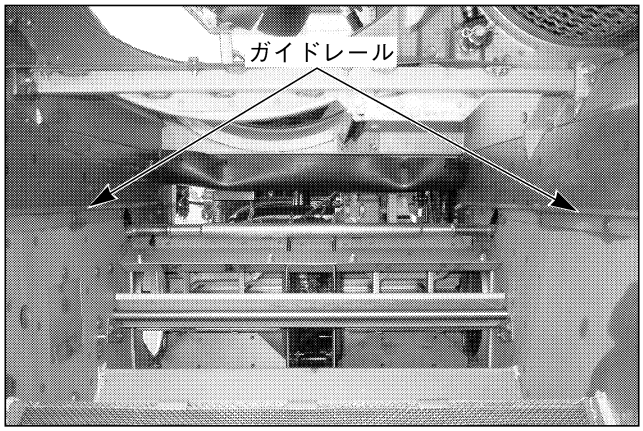


⑶ 揺動流板を組付けます。

① 揺動流板後方左側のロックレバーを「**解除**」位置にし，揺動リンクが矢印方向になるよう２番ラセン軸のプーリを回します。



② 脱こく内部側面の左右のガイドレールに揺動流板先端のローラをのせ，少しずつ押込んでいきます。（**２人作業**）



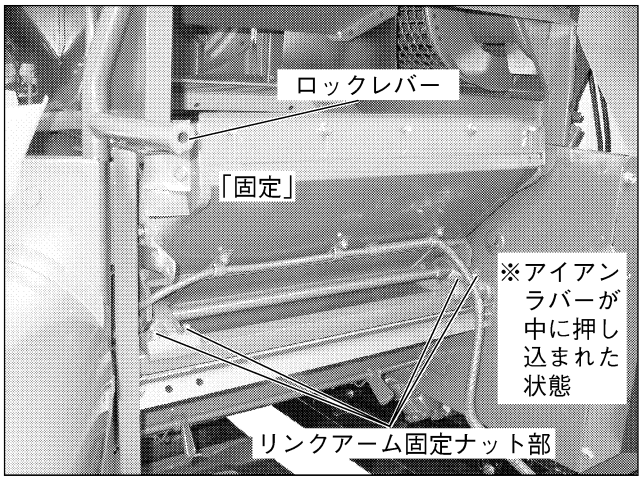
取扱いのポイント

- 揺動流板はロックレバーを「解除」方向に押さえながら押込んでください。(ロックレバーは揺動流板側面のストッパに当たるまで押付けてください)
- 揺動流板を押込む時に2番ラセンアイアンラバーも確実に押込まれているか，確認してください。はさみ込むと，揺動流板をセットできません。



③　リンクアーム固定ナット部をボルトにはめ込み，ナットをゆるく締付けます。

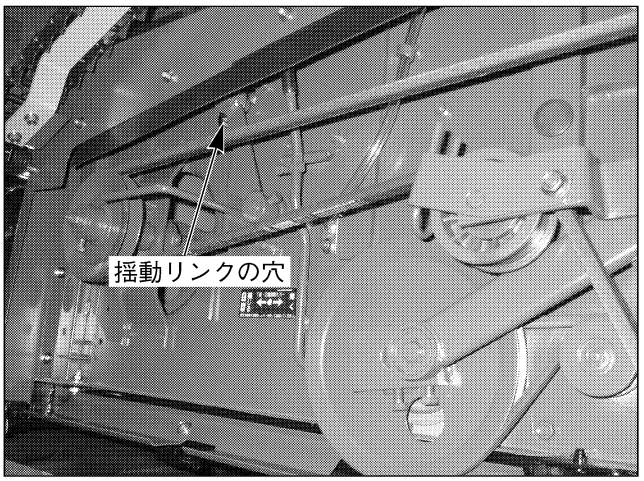
④　ロックレバーを「**固定**」位置にします。



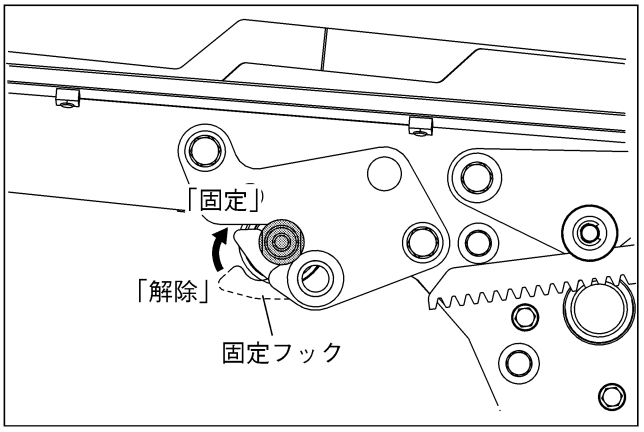
取扱いのポイント

- 揺動流板が確実に入っていない時は，ロックレバーを「固定」位置にしても，レバーにあそびがあり，ロックできません。この状態の時は再度セットし直してください。(①から)

⑤　揺動リンクの穴から内部をのぞきます。
(揺動流板のロック部が見えます)



⑥　固定アームがピンにかかっていること（固定状態）を確認します。

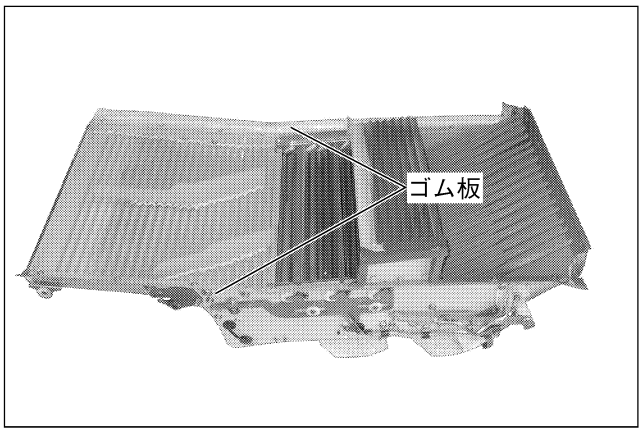


⑦　右側面についても同様に固定アームがピンにかかっていることを確認します。(グレンタンクをオープンし，確認します)

取扱いのポイント

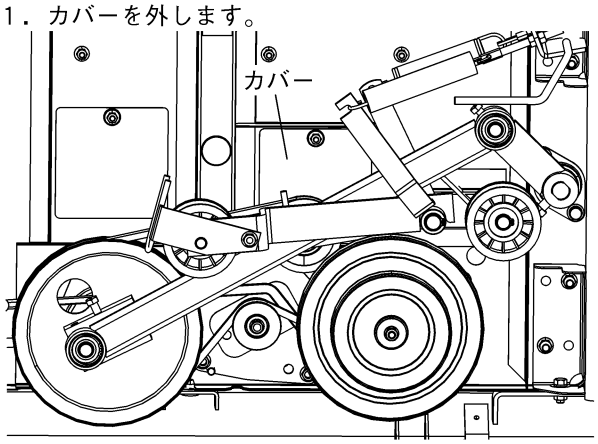
- 固定アームがピンから外れている場合又は確実に固定されていない場合は再度セットし直してください。(①から)
- 揺動流板が正常にセットされていないと機械の破損の原因となります。揺動流板は確実に奥まで押込んでロックレバーを確実に「固定」してください。

⑧　揺動流板両面のゴム板がかみこんで折曲がっていないことを確認します。

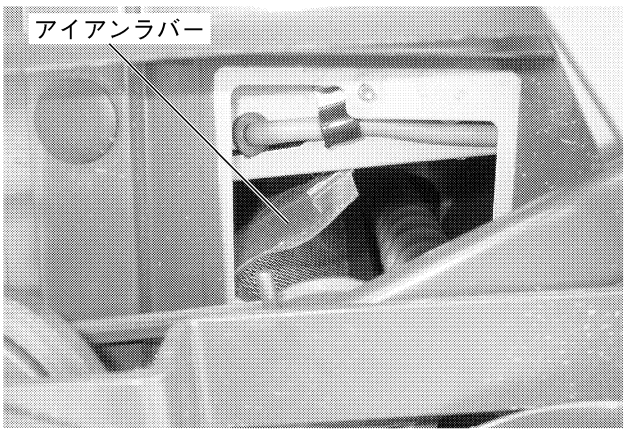


⑨　揺動流板下部の１番ラセンアイアンラバーが折曲がっていないことを確認します。

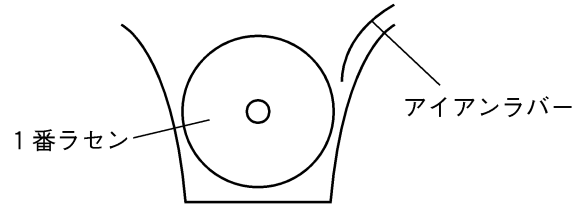
１．カバーを外します。



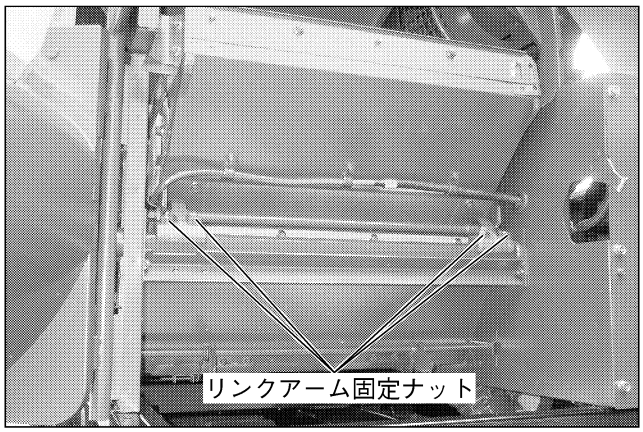
２．目視でアイアンラバーが曲がっていないか確認し，曲がっていたらドライバなどで直します。



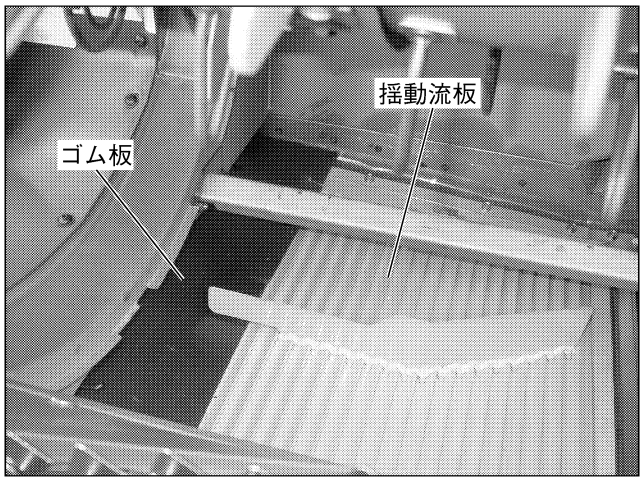
３．１番ラセンの斜面部分に収まっているか確認します。



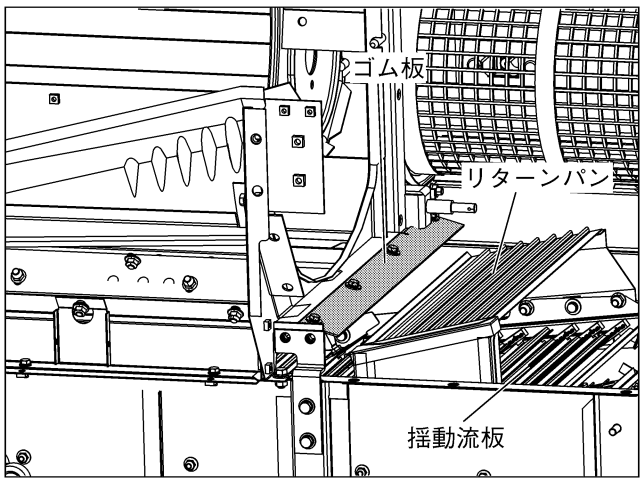
⑩　揺動流板後部のリンクアーム固定ナット左右各２ケを取付け確実に締付けます。



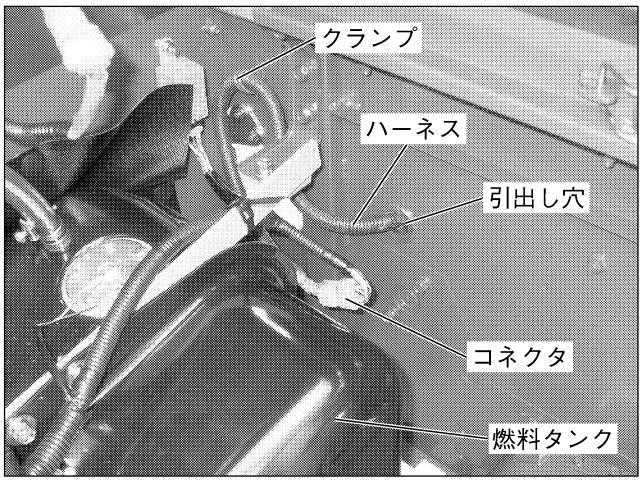
⑪　(2)で固定したゴム板をクランプから外し，揺動流板の上にたらします。



⑫　こぎ室後側板のゴムが揺動流板のリターンパンにはさみ込まれていないことを確認します。



⑬　コネクタを引出し穴に通しハーネスと接続，ハーネスをクランプで固定します。

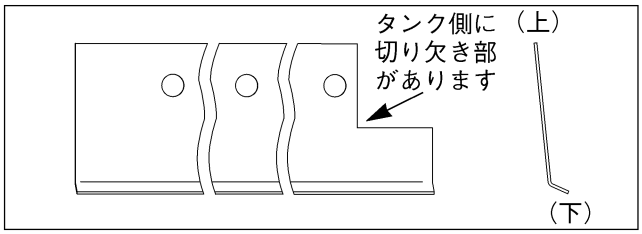


⑭　グレンタンクを閉じます。

⑮　脱こくファンケースを取付け，カッタを閉じます。

取扱いのポイント

- **カバーゴムがセットされていないとファンが詰まり，刈取り作業ができません。またファン破損の原因となります。**
- **プレートは，組付ける方向を確認して取付けてください。**



⑯　受網（上，下）を取付けます。

⑰　外したベルトを取付け，脱こくサイドカバー（上，下），カッタサイドカバーを取付けます。

⑱　こぎ胴部を閉じます。（コンポアップ収納）

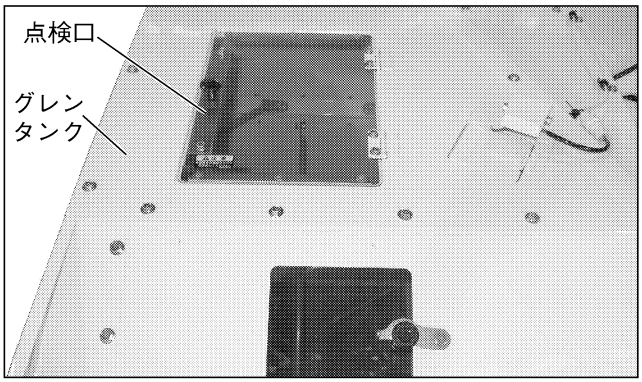
13．グレンタンク部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

◆グレンタンクの掃除をする時は平坦な場所でエンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ各部の動きが止まってから行なってください。

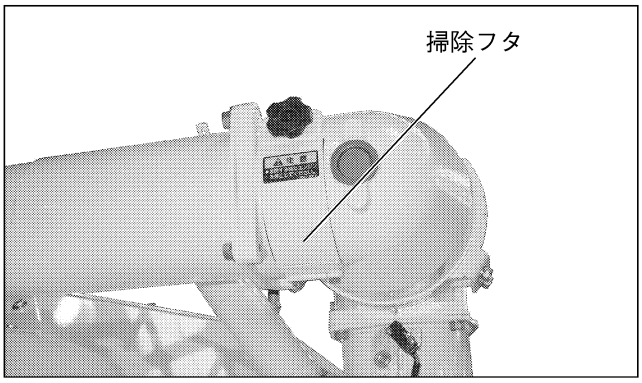
❶　グレンタンク内の掃除

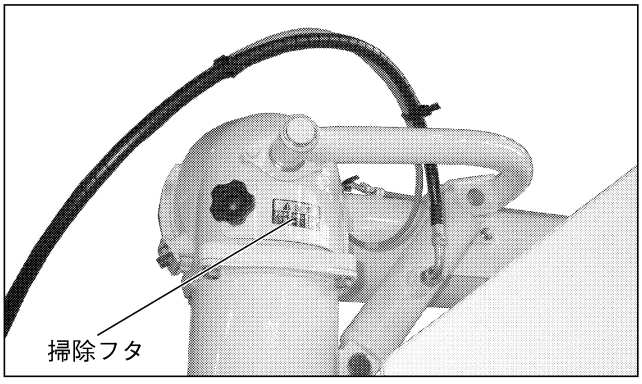
グレンタンク上部の点検口より確認し，必要によりホウキ等でホコリを払います。落としたホコリはタンク下部ラセンカバーを開いて取出します。



❷　縦ラセン筒上部の掃除

排出オーガを上げ，上部ラセン掃除フタを開いて掃除をします。



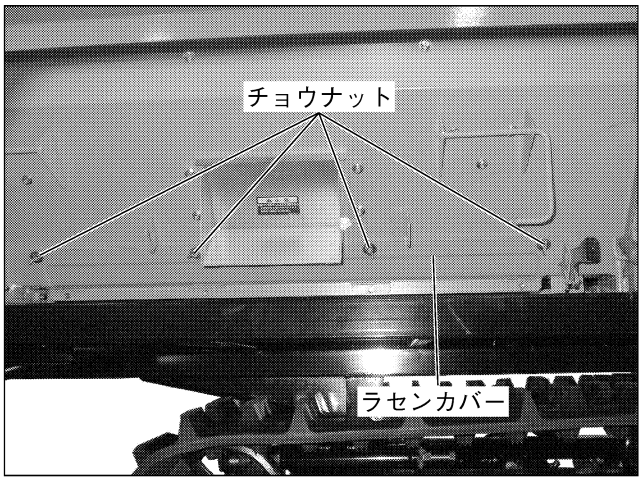


❸ 横ラセン部の掃除

⑴ グレンタンクの下部カバーを取外します。

⑵ ラセンカバーを開いて，掃除します。

⑶ 作業後，グレンタンク下部カバーを取付けます。

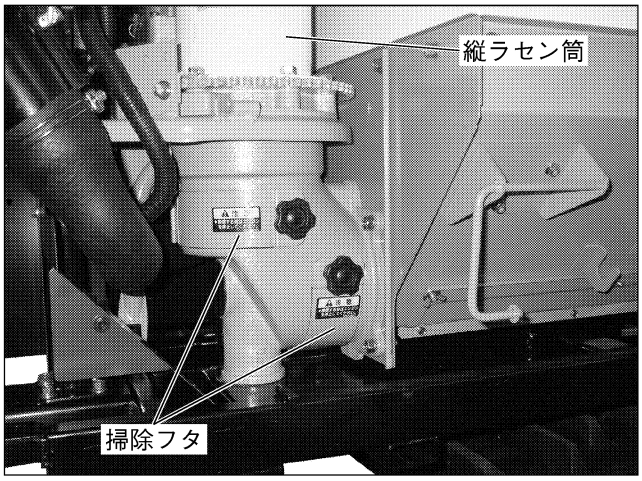


❹ 縦ラセン筒下部の掃除

⑴ グレンタンクの下部カバーを取外します。

⑵ 縦ラセン下部の掃除フタを開いて，掃除します。

⑶ 作業後，グレンタンク下部カバーを取付けます。



取扱いのポイント

- **各掃除フタ（カバー）はモミかみ等によるスキマがないことを確認して，確実に締めてください。**

14．カッタオープンのしかた

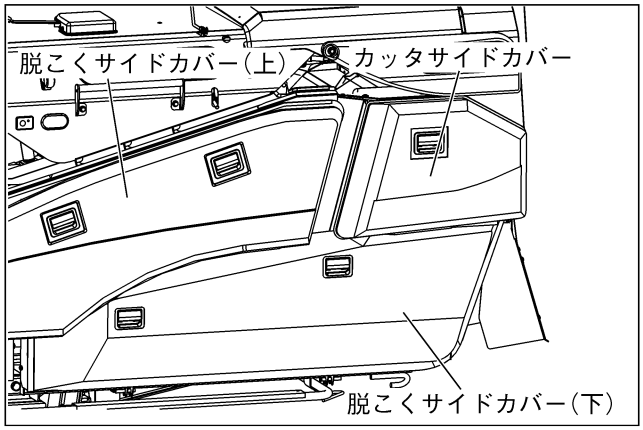
⚠警告 傷害事故防止のために

◆カッタをオープンするときは，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。

◆カッタをオープンして点検作業等をするときは，ストッパをかけてスナップピンで固定してください。
ストッパをロック状態にしないとカッタが回動して傷害事故を起こすことがあります。

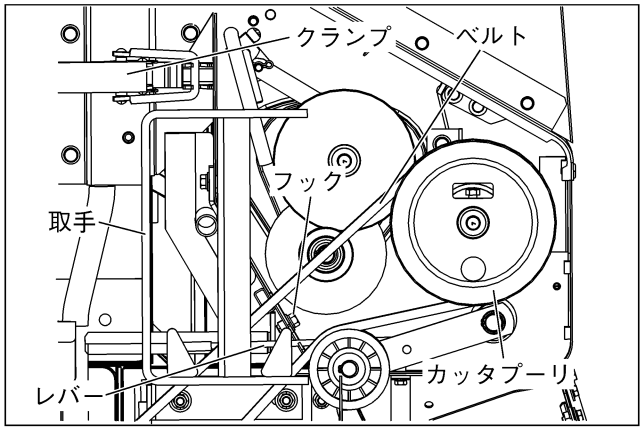
◆カッタをオープンしたときはカッタ刃に触れないようにしてください。

❶ 脱こくサイドカバー（上）・（下）およびカッタサイドカバーを取外します。



❷ レバーをフックより外し，ベルトの張りを解除します。

❸ ベルトをカッタプーリより外します。



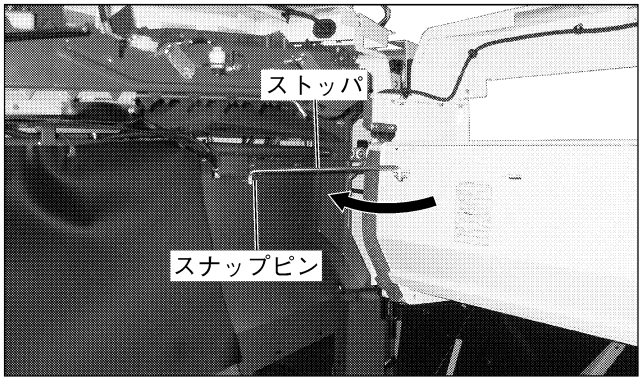
❹　外したレバーは元のフックに引っ掛けておきます。

❺　クランプを手前に引き，ロックを解除します。

❻　取手を持ってカッタを少し上方へ持ち上げながら，後方へオープンします。

❼　カッタのストッパ先端についているスナップピンを抜き，ストッパを上方へ持ち上げ，矢印の方向へ回動させます。

❽　ストッパをブラケットの穴に入れ，スナップピンを差込み固定（ロック）状態にします。



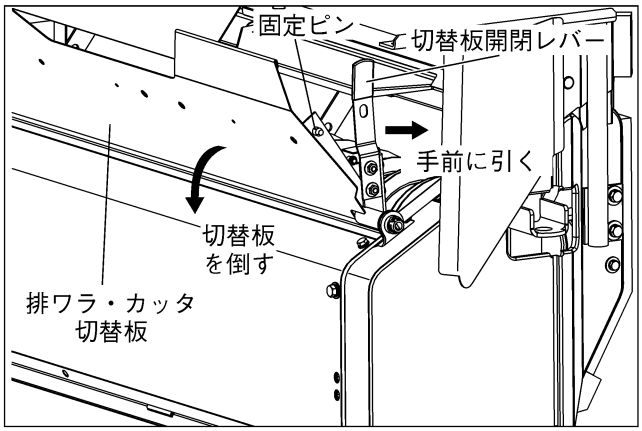
❾　カッタを閉じる時は，逆の手順で行います。（❽→❶の手順）

15．切替板の開閉のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆切替板開閉レバーを操作するときは必ずエンジンを停止してください。

カッタ作業のとき，切替板開閉レバーを手前に引いて固定ピンから外し，切替板を倒すことができます。カッタ刃部，排ワラチェン終端部を後面から確認できます。



16．刈取部の開閉のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆刈取部をオープンするときは，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。

◆刈取部をオープンしたまま，走行しないでください。

◆枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。

◆取外したカバー類は,必ず取付けてください。

◆刈取部をオープンしたまま機体をジャッキアップしないでください。

◆機体をジャッキアップしたまま刈取部をオープンしないでください。

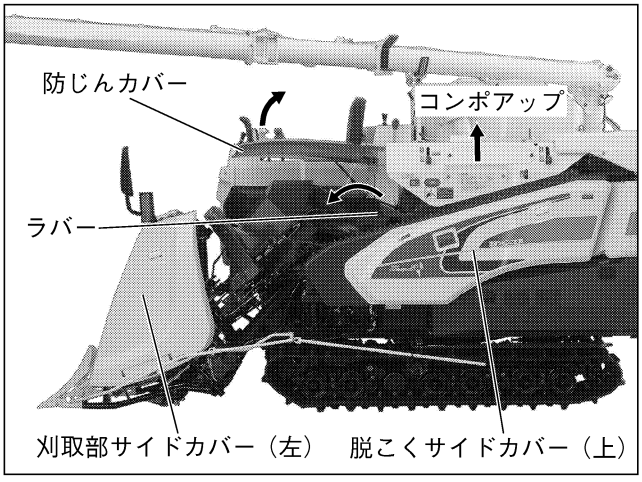
取扱いの手順書は刈取部サイドカバー（左）の内側に貼ってあります。

❶　刈取部の開き方

⑴　［L仕様］は機体を下げます。水平操作レバーで機体を最下降位置にします。

⑵　刈取部を床面まで降ろしたあと，エンジンを停止します。

⑶　脱こくサイドカバー（上）を取外しコンポアップをします。次にこぎ深さ搬送部のラバーを前方に折りたたみ，穂先搬送部のガイド下にはさみ込みます。

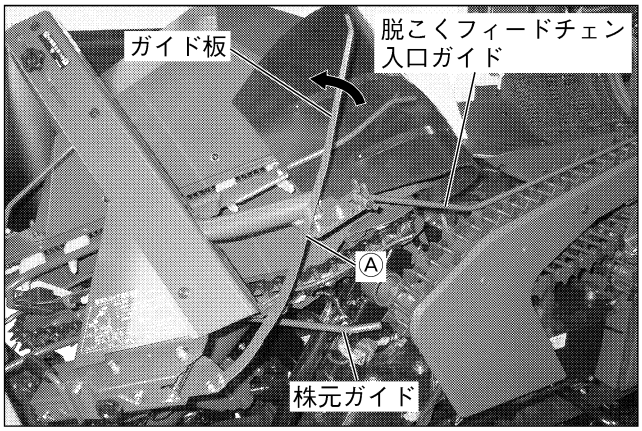


⑷　［C仕様を除くA仕様］は防じんカバーを開いておきます。

⑸　ナローガイド左前と後を取外します。
（ボルト２本，スナップピン１ヶ）
次にナローガイド回動部の内側ワイヤを外し（スナップピン１ヶ）矢印方向に回します。

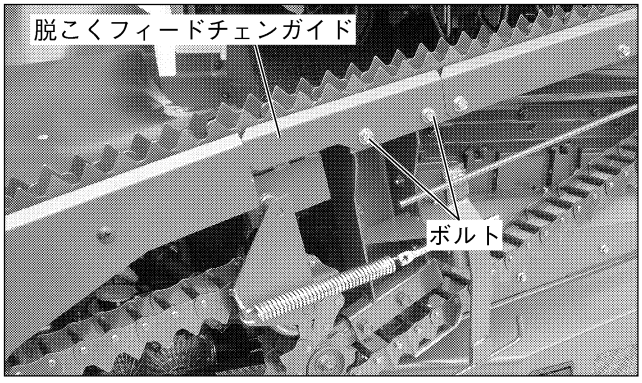


⑹　株元ガイドを外します。（ナット２ヶ）脱こくフィードチェン入口ガイドを外し，ガイド板は矢印方向に持ち上げⒶ部に引っかけます。



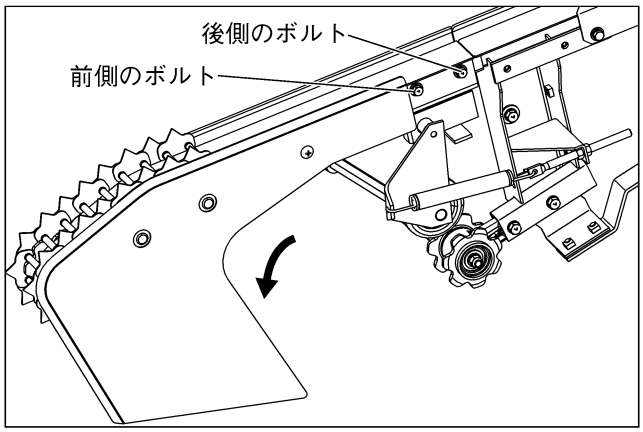
⑺　脱こくフィードチェン先端部を下方へ回します。

①　脱こくフィードチェンガイドのボルト２本を外して脱こくフィードチェンガイドを取外します。

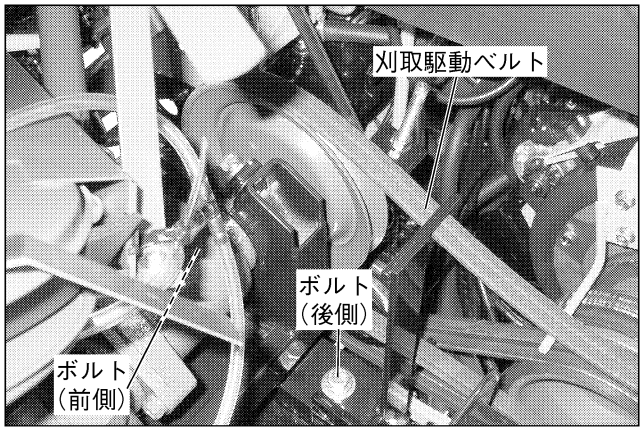


②　脱こくフィードチェンガイドを外すと脱こくフィードチェン固定ボルトが２本あります。後側のボルトは外し，前側のボルトはゆるめます。

③　脱こくフィードチェン先端部を矢印方向に回します。

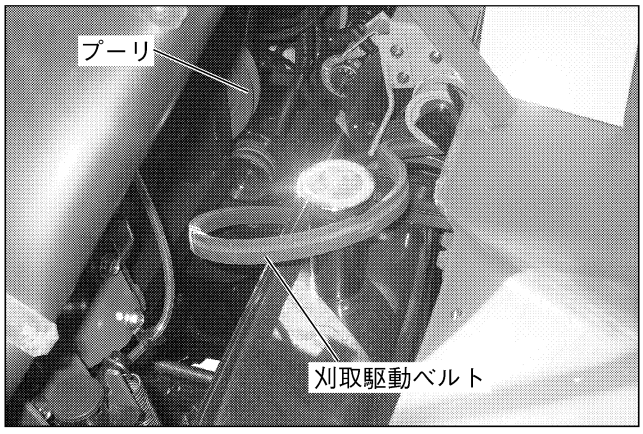


⑻　刈取駆動ベルトをプーリから外し，刈取部の右側（前）のボルトは外し，右側（後）のボルトは２～３回転分ゆるめておきます。

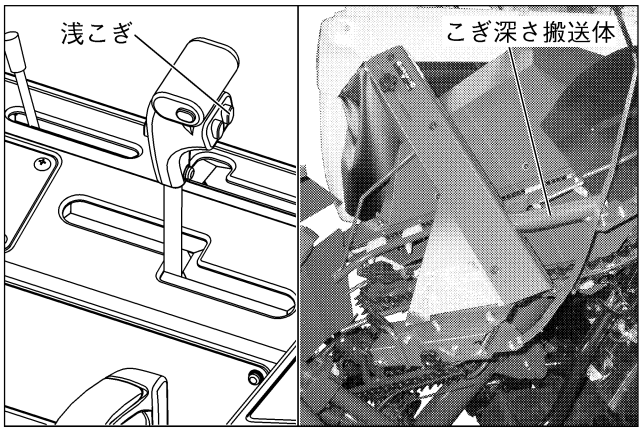


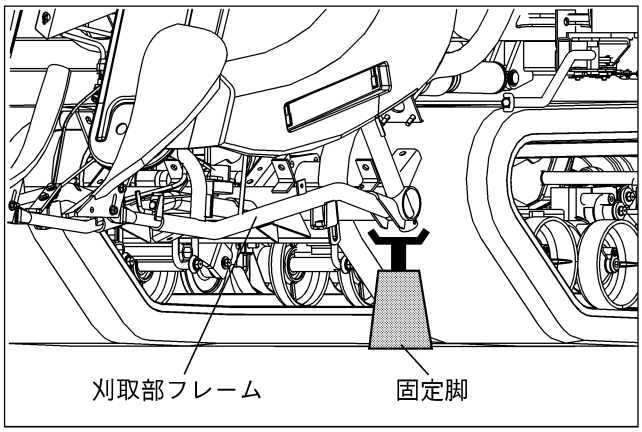
取扱いのポイント

●外した刈取駆動ベルトをそのままの状態ですと刈取部オープン時にプーリに引っ掛ることがありますので刈取駆動ベルトを脱こく側におき，プーリ位置を外すと，容易に刈取部がオープンできます。

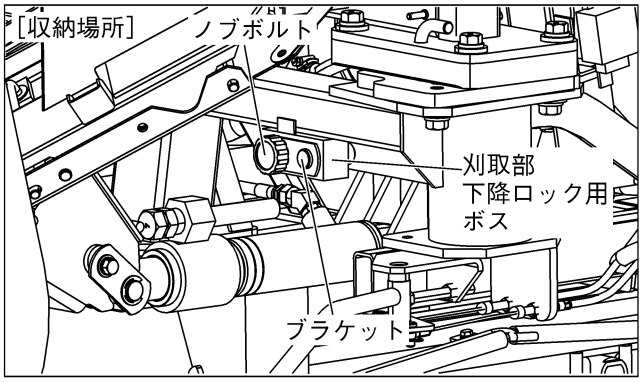


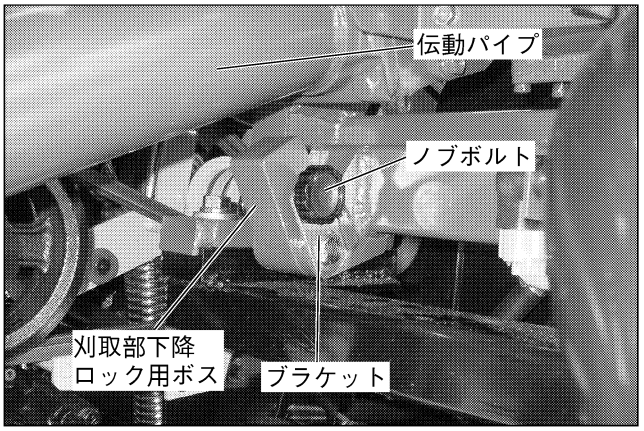
(9) エンジンを始動したあと，刈取部を最上昇位置にし，こぎ深さ搬送チェンを最浅位置にしてエンジンを停止させます。安全のため固定脚を刈取部フレームの下に置きます。





(10) ノブボルトをゆるめ刈取部下降ロック用のボス，ブラケットを外して伝動パイプ後方に付け替えてノブボルトで固定します。

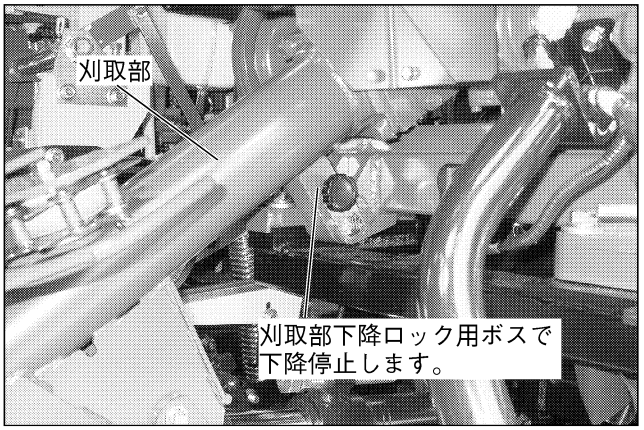




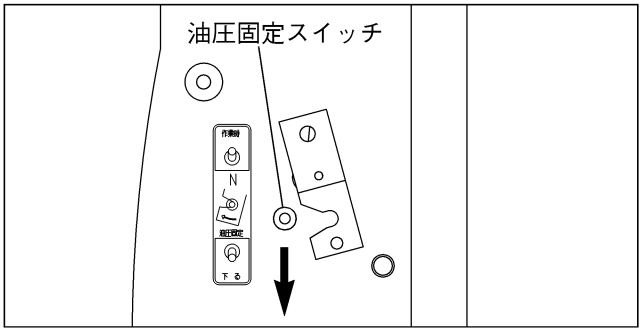
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取部下降ロック用ボスが作用していることを確認します。作用していないと刈取部が下がる恐れがあります。

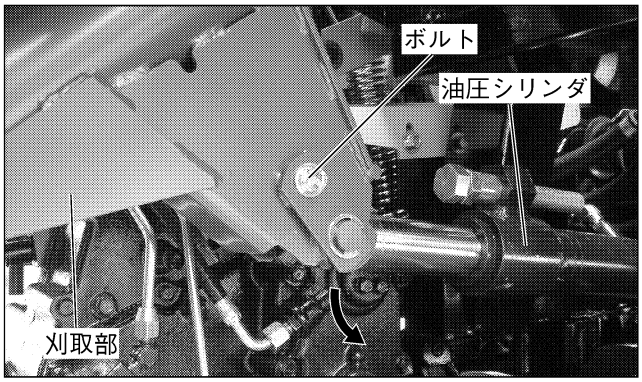
(11) 固定脚を外し，スタータスイッチを《**入**》位置にし，マルチステアリングレバーで刈取部の下降が停止するまで下げます。



(12) 油圧固定スイッチを《**下げ**》位置にします。
（スタータスイッチは《**入**》の状態）



⑬　刈取部と油圧シリンダを固定しているボルトを外し，油圧シリンダを下方へ外します。
スタータスイッチを《**切**》位置にします。

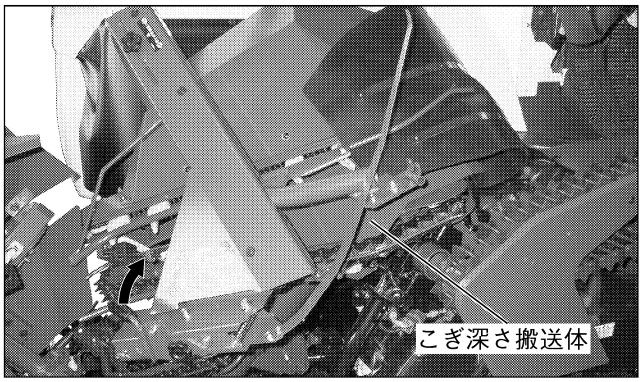


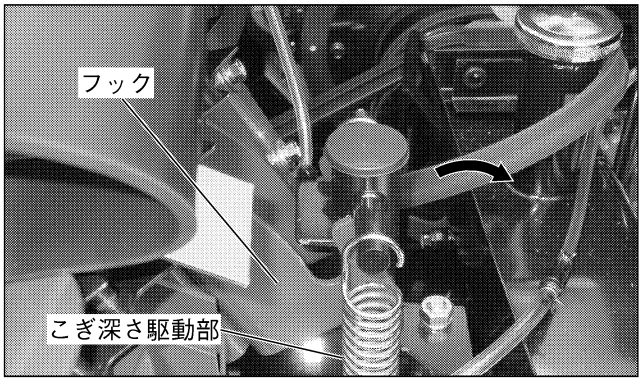
取扱いのポイント

- **油圧シリンダが外しにくい場合はシリンダ先端部を押さえながら下げてください。**

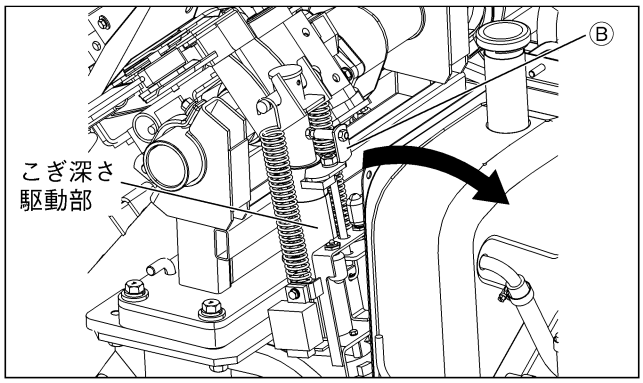
⑭　スタータスイッチを《**入**》位置にし，こぎ深さ手動スイッチ《**深**》でこぎ深さ駆動部を最伸び位置にしてスタータスイッチを《**切**》にし，⑧でゆるめた刈取部の右側（後）のボルトを外します。

⑮　こぎ深さ搬送体の先端を持ち上げ，こぎ深さ駆動部を矢印方向に倒し，フックから外してこぎ深さ搬送体をゆっくり下げます。





⑯　こぎ深さ駆動部を再度矢印方向に倒し，Ⓑ部フックを回してオイルタンクのフチへ引っかけます。

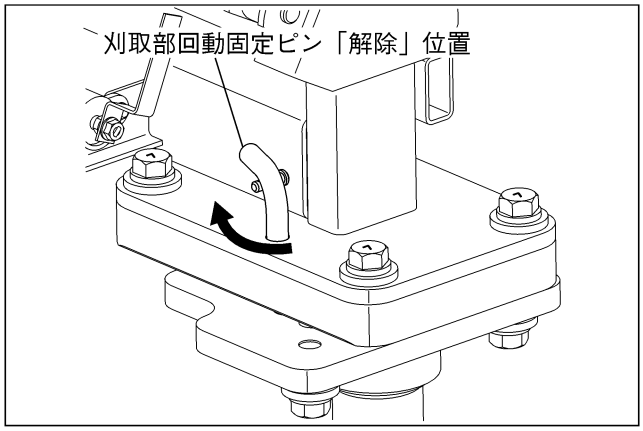


取扱いのポイント

- **こぎ深さ駆動部がオイルタンクのフチに確実に固定されているか確認してからオープンしてください。フック部の変形の恐れがあります。**

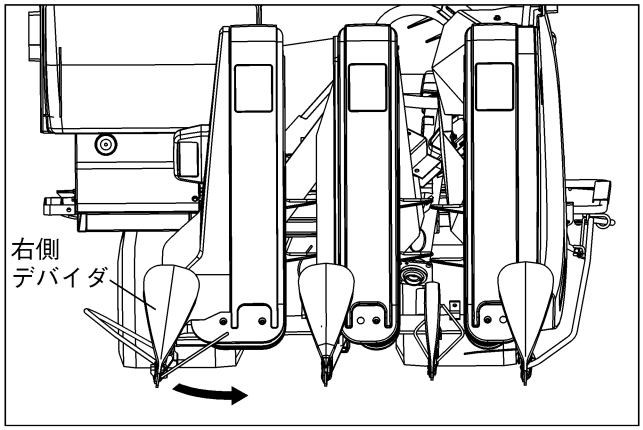
⑰　刈取部をオープンします。

①　刈取部回動固定ピンを引き上げ解除位置にします。

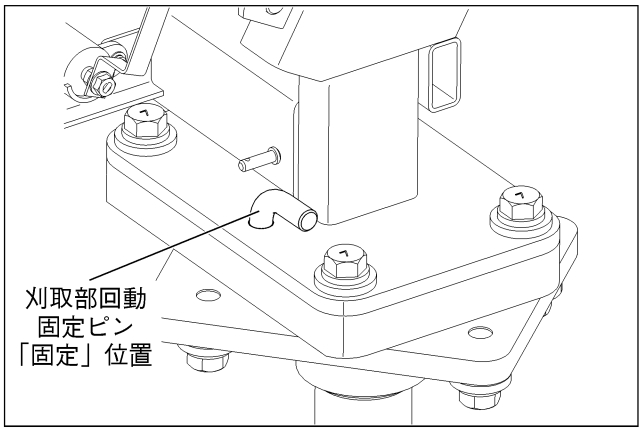


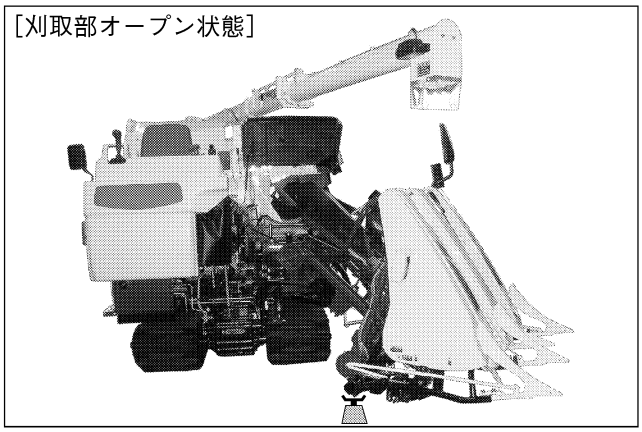
②　刈取部を持ち上げ少し開き，刈取部回動固定ピンを「**解除**」位置から外します。

③　右側のデバイダを持ち機体左側へ回動します。



④　刈取部を回動すると刈取回動固定ピンが固定穴に落ちて自動的にロックされます。
固定穴は「**オープン**」位置と「**半開き**」位置と「**クローズ（作業位置）**」の 3 箇所があります。

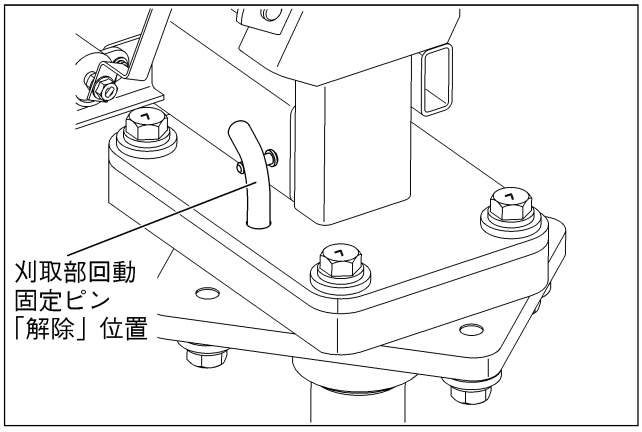




❷　刈取部の閉じかた

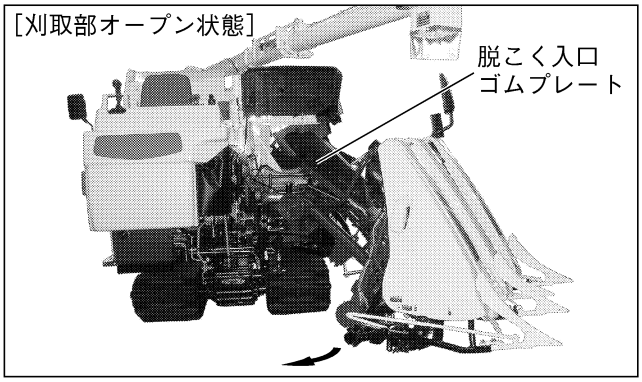
(1)　刈取部を閉じます。

①　回動固定ピンを「**解除**」位置にします。



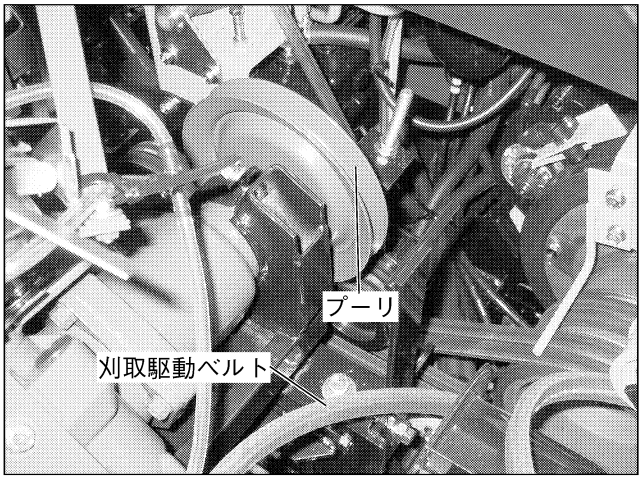
②　脱こく入口ゴムプレートを穂先ガイドで固定（はさんだ状態）してください。

③　刈取部を機体右側へ回動します。

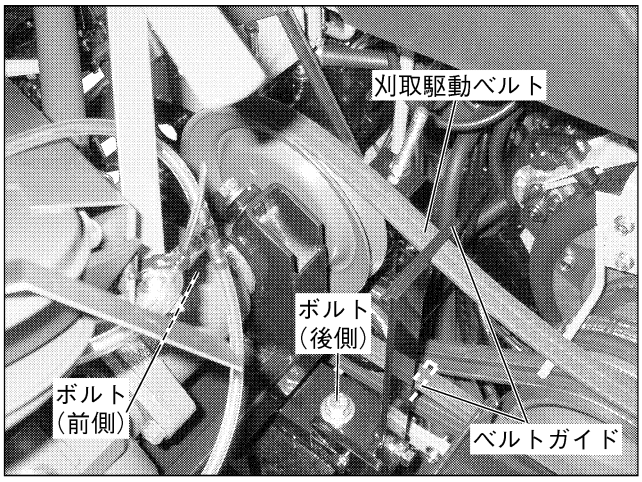


取扱いのポイント

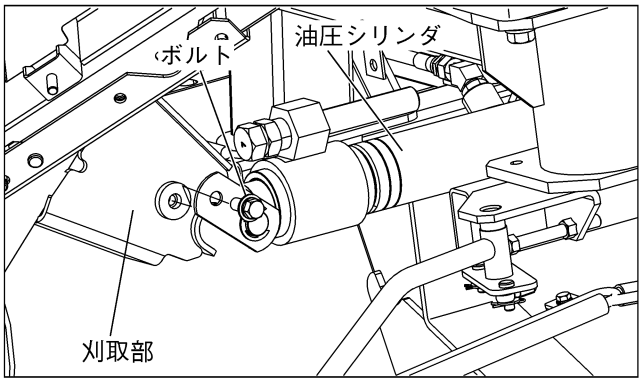
- **刈取駆動ベルトがプーリの左側（内側）に入っているときは，刈取部を少し開いて刈取駆動ベルトをプーリ右側（外側）又は，脱こく部側の位置にしてください。**
- **走行テンションプーリが当ってベルトが掛けにくいときは駐車ブレーキを解除してください。**



(2) 回動固定ピンを「**解除**」位置から外してロック状態にしてから，刈取部右側（前），（後）のボルトを仮締して刈取駆動ベルトをプーリに掛けます。この時，ベルトがベルトガイドの内側に入っていることを確認してください。



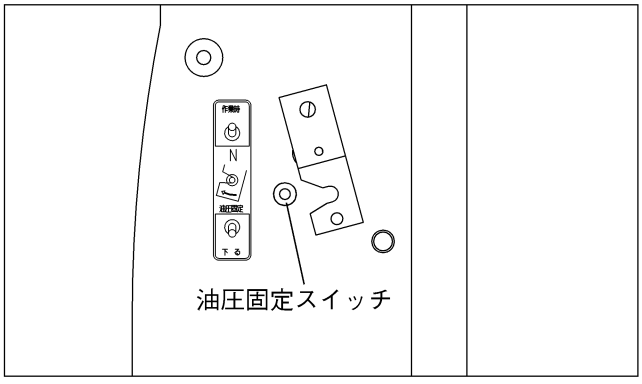
(3) 刈取部と油圧シリンダをボルトで固定します。



取扱いのポイント

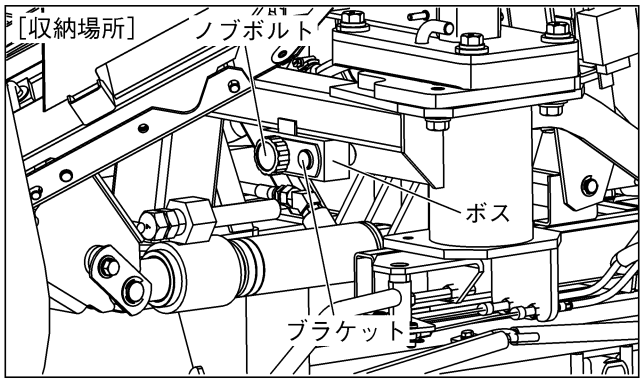
- **油圧シリンダが穴位置に合わないときは，油圧シリンダの長さを調整して行なってください。**

(4) 油圧固定スイッチを《**作業時**》位置にします。

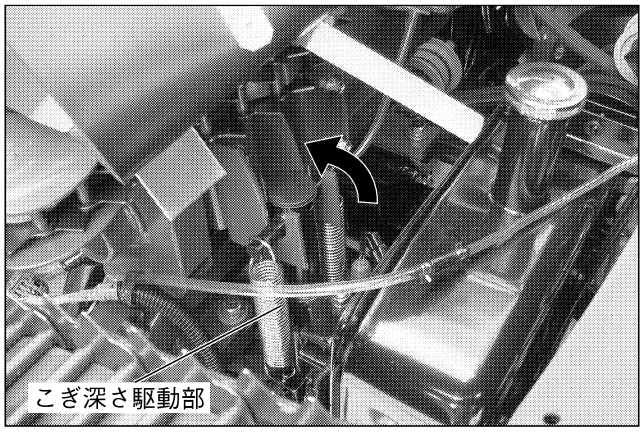


(5) エンジンを始動したあと，刈取部を最上昇位置にし，エンジンを停止させます。
固定脚を刈取部に当てます。

(6) 刈取部下降ロック用のボス，ブラケットをノブボルトで外したあと収納場所へ取付けます。

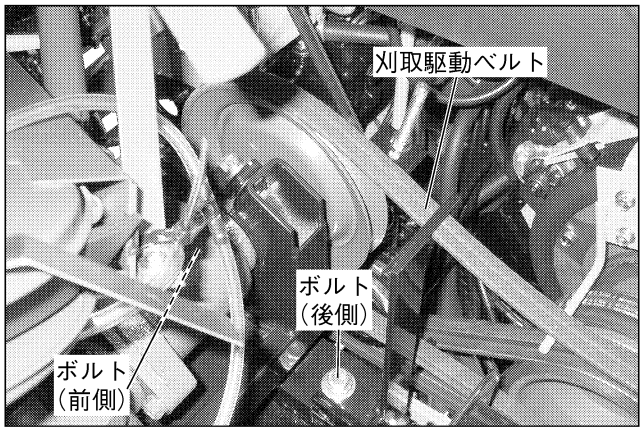


(7) こぎ深さ搬送体の先端を持ち上げ，こぎ深さ駆動部を矢印方向に倒し，フックを掛けます。



(8) 固定脚を外したあと，スタータスイッチを《**入**》位置に刈取部を床面まで降ろしスタータスイッチを《**切**》位置にします。

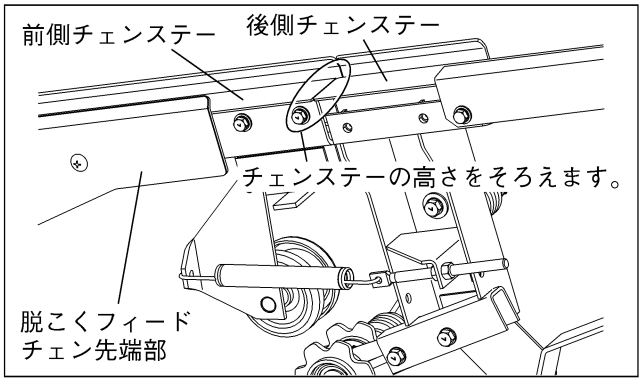
(9) 手順(2)で仮締した刈取部右側（前），（後）のボルトを締付けます。



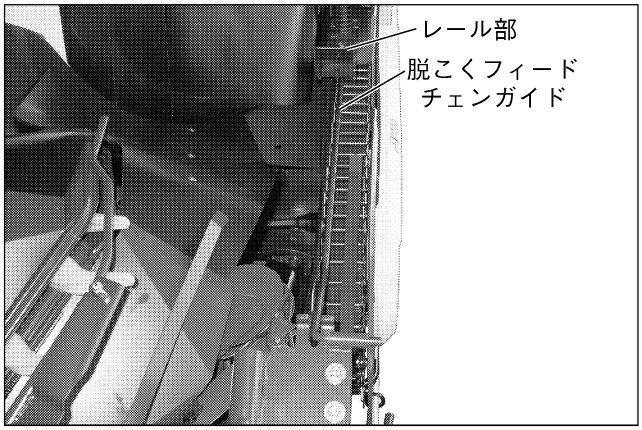
⑽　開き方の手順⑶～⑺と逆の手順で各部品を取付けます。

取扱いのポイント

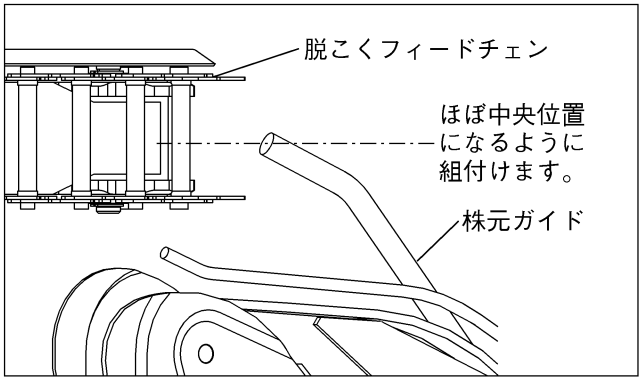
●脱こくフィードチェン先端部を組付けるとき前後のチェンステー高さがそろうように組付けます。



●脱こくフィードチェンガイド（入口ガイド）がレール部の内部にあることを確認します。



●株元ガイドを取付けるときは下図の位置になるように組付けます。



4．各部の点検と部品交換のしかた

・各部の点検および部品交換は「**お買いあげ先**」にて行います。

1．カッタ刃組品の取外しと分解

⚠警告 傷害事故防止のために

◆カッタをオープンしてカッタ刃組品の取外し，分解をする時はエンジンを停止し，平坦な場所に機械を静置してください。

◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用し２人作業で合図をし合って行なってください。

◆ノコ刃軸取外し作業の時はカッタベルトを外さないでください。又止めボルトを上面に向けた状態で取外してください。

⚠注意

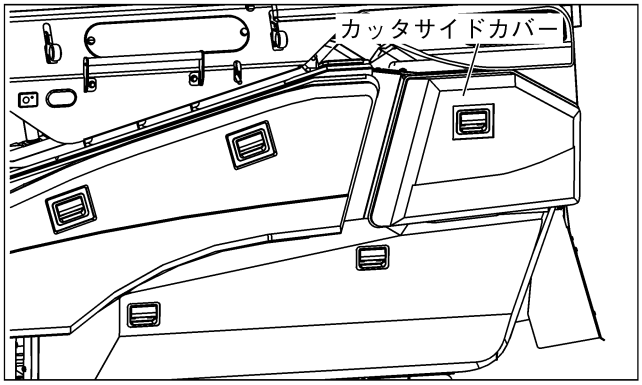
◆各部の点検と調整で外したカバー類は，全て元の位置に取付けてください。

カッタ刃組品（ノコ刃，スターホイル刃）の交換方法

- **ノコ刃軸はカッタをオープンせず後側より取外します。**
- **スターホイル軸はカッタをオープンして前側より取外します。**

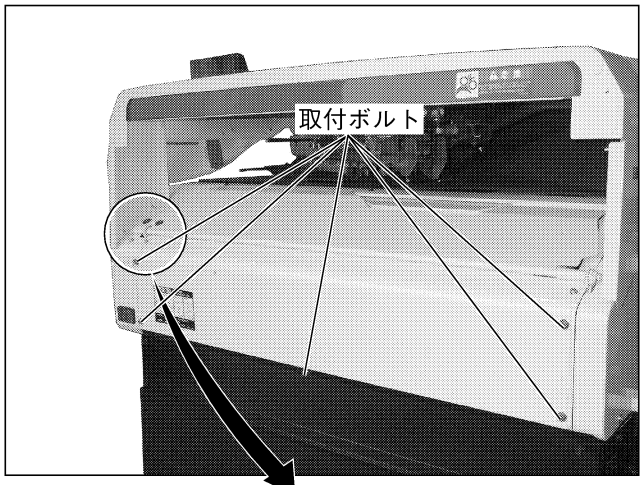
❶ ノコ刃軸の交換

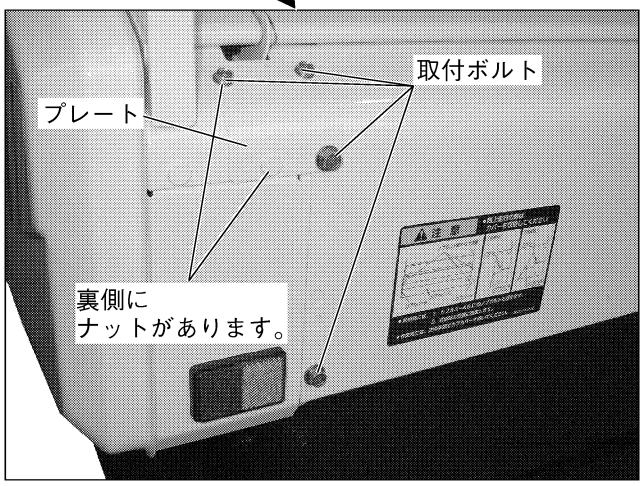
⑴ カッタサイドカバーを取外します。



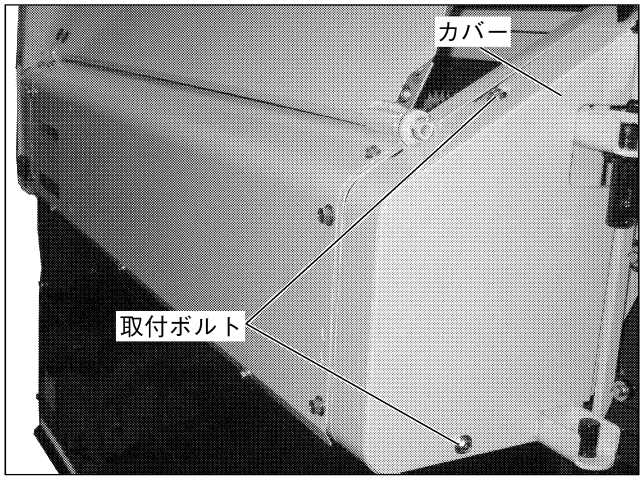
⑵ カッタ後面カバーを外します。

・カバーの取付ボルトの場所は下記の位置です。このボルトを外してカバーを取外します。

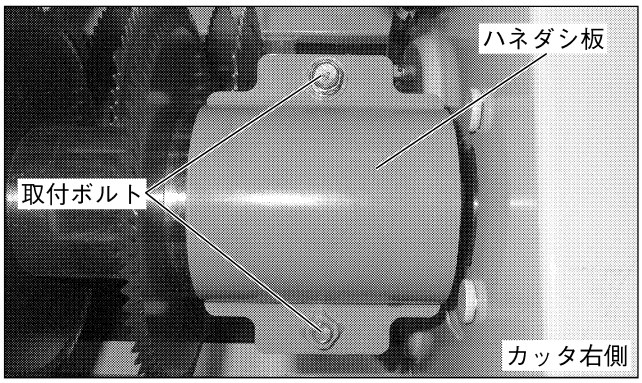




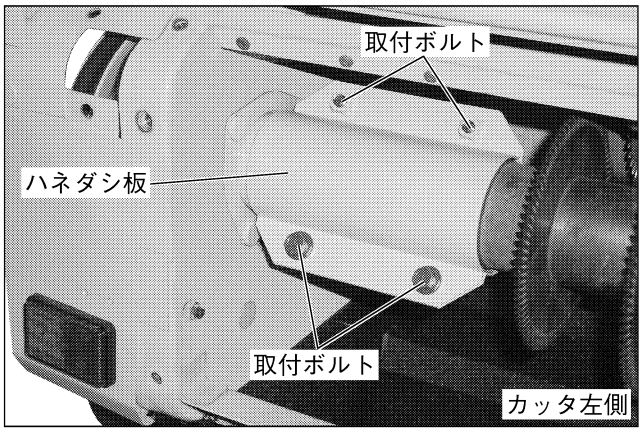
⑶ 右側のカバーを外します。



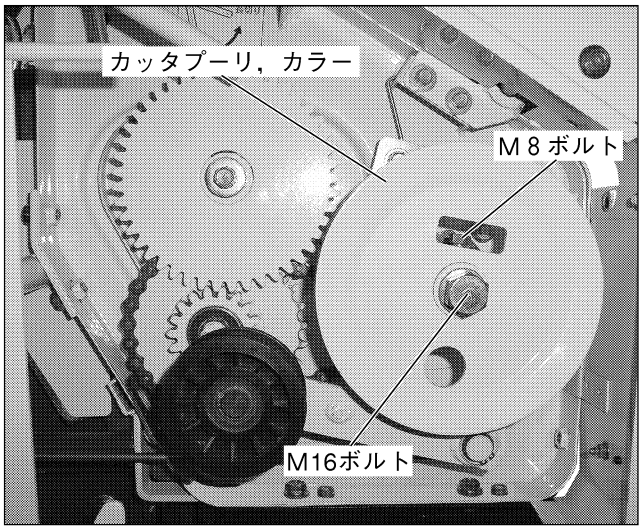
(4) ハネダシ板の取付ボルト（２個）を外して，ハネダシ板を取外します。



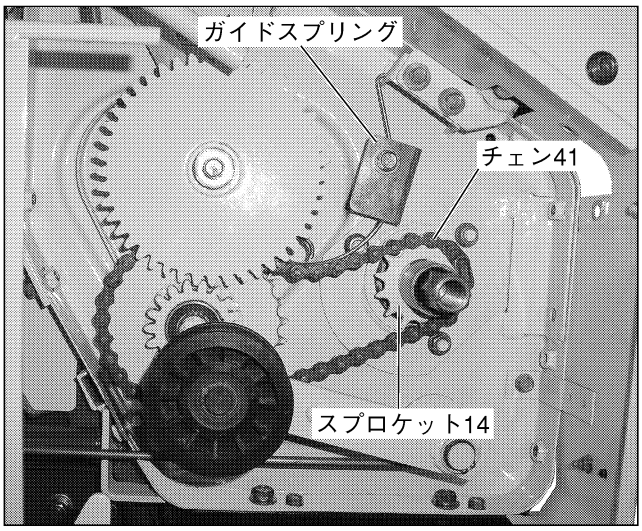
(5) ハネダシ板の取付ボルト（４個）を外して，ハネダシ板を取外します。



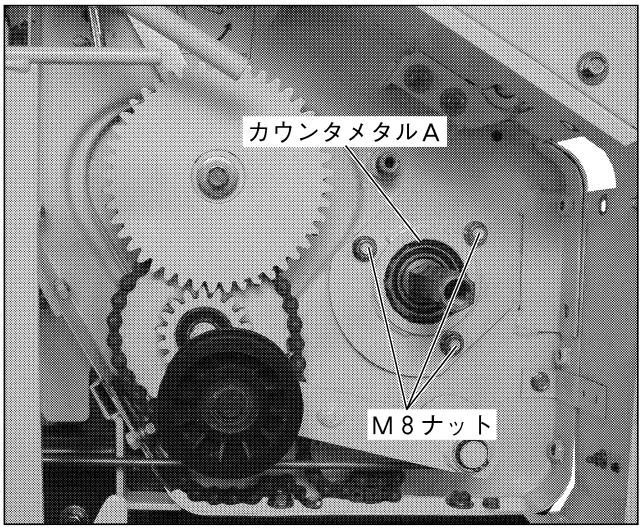
(6) Ｍ８ボルト，M16ボルトをゆるめカッタプーリ，カラーを取外します。



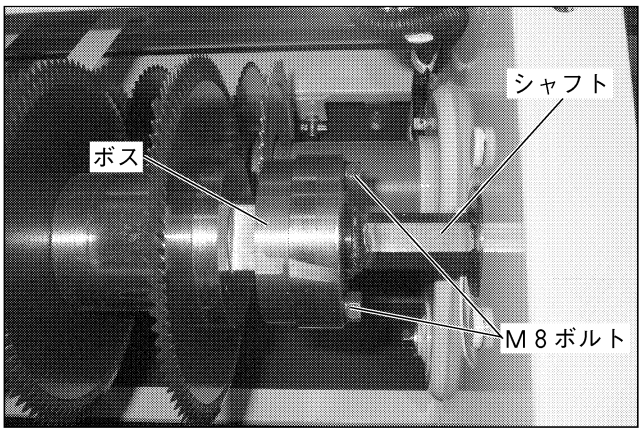
(7) ガイドスプリングを外し，チェン41を継ぎ部で取外します。スプロケット14を取外します。



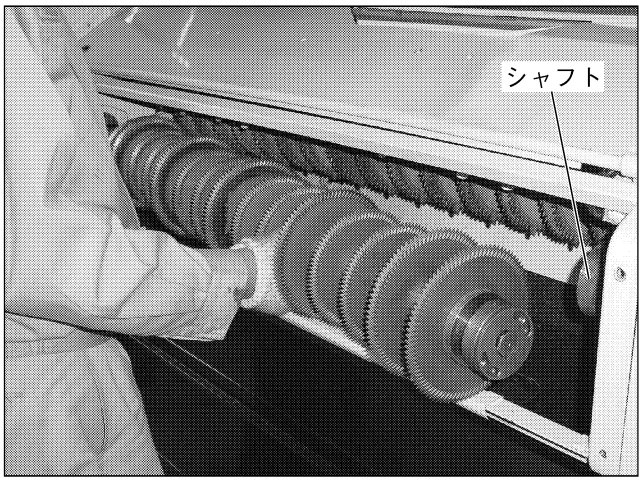
(8) カウンタメタルＡを取付けているＭ８ナット（３個)を外してカウンタメタルＡを取外します。



(9) シャフトとボスを固定しているＭ８ボルト（２個）を外して，シャフトとボスを分離しま



⑽　ノコ刃軸組品を外します。

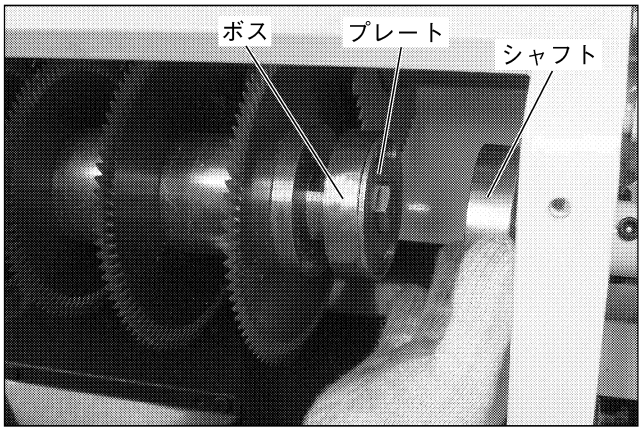


・ノコ刃軸組品が外れない場合は，シャフトをずらします。

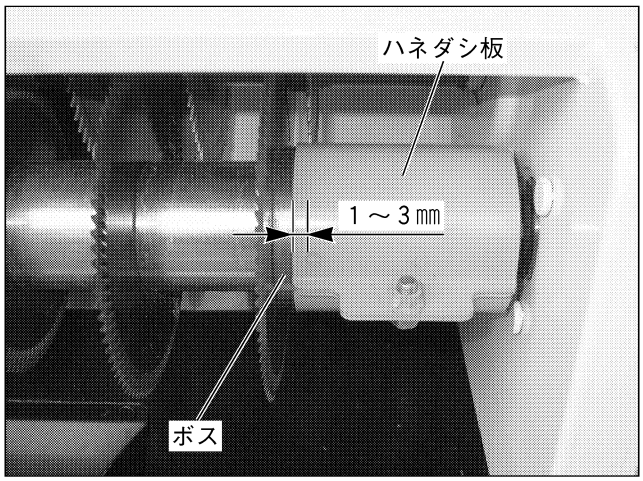
⑾　ノコ刃軸組品を組付ける時は取外しの逆の手順で行なってください。

取扱いのポイント

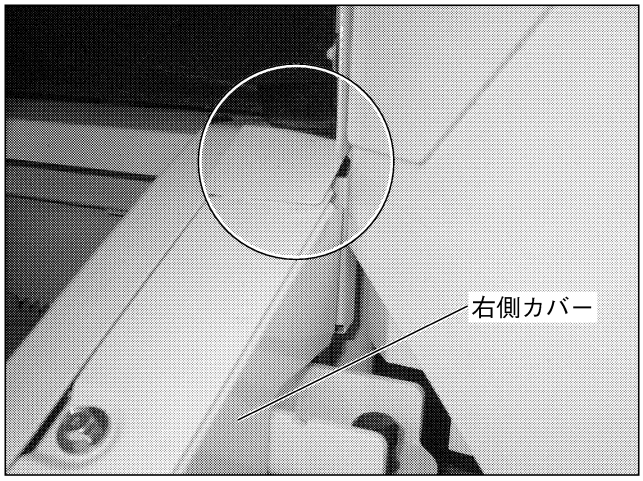
●ボスとシャフトの間にプレートが入っています。落とさないよう注意してください。又，組立時に忘れずに取付けてください。



●ハネダシ板を組付ける時はボスとハネダシ板が1～3㎜重なるように組付けます。



●右側のカバーを取付る時は○印部カバーが本体フレームの下側に入っていることを確認します。

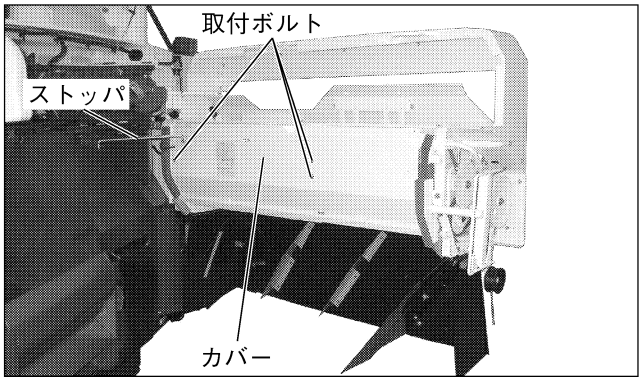


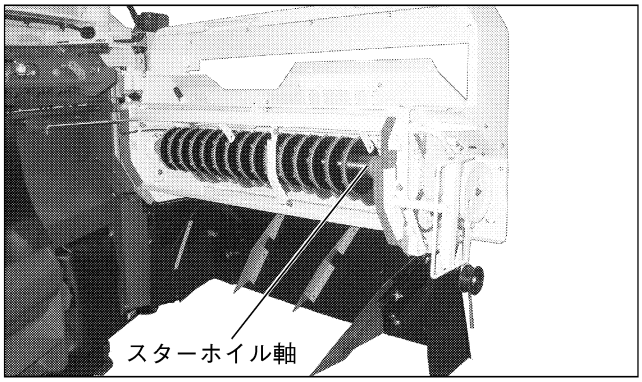
❷ スターホイル軸の取外し

・スターホイル軸取外しは，ノコ刃軸を取外してから行います。

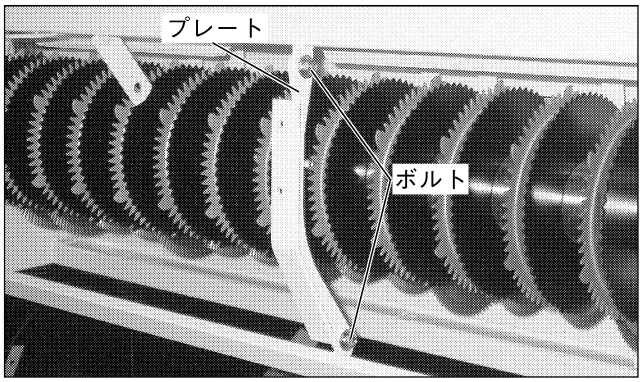
(1) カッタサイドカバーを取外し，カッタをオープンしストッパを掛けます。

(2) カバーを取外します。

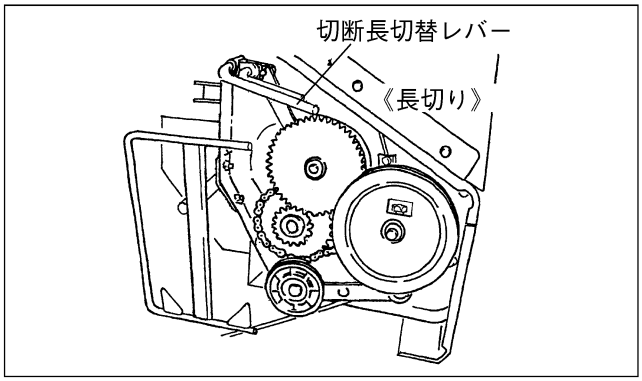




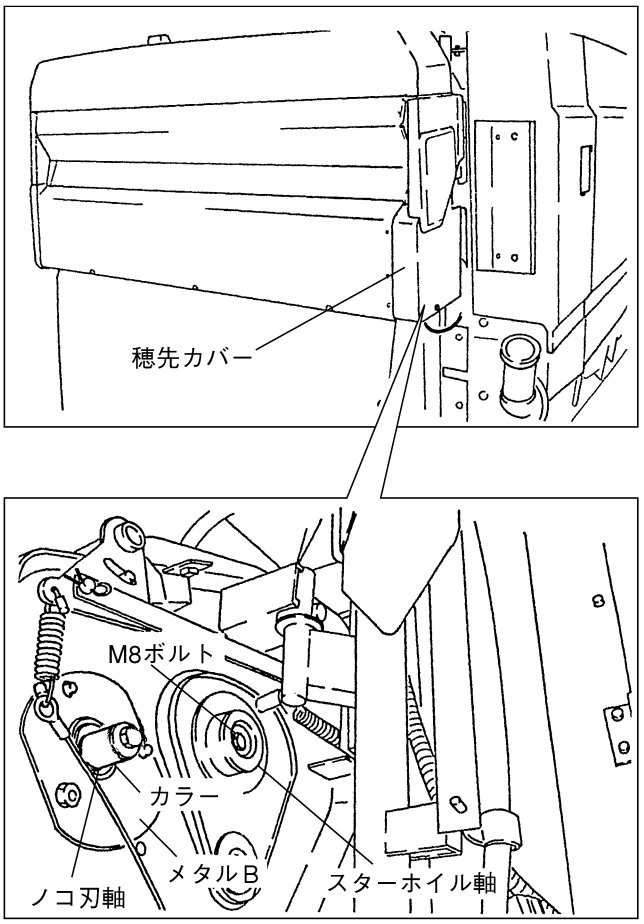
(3) プレートを取外します。



(4) 切断長切替レバーを《**長切り**》位置にします。

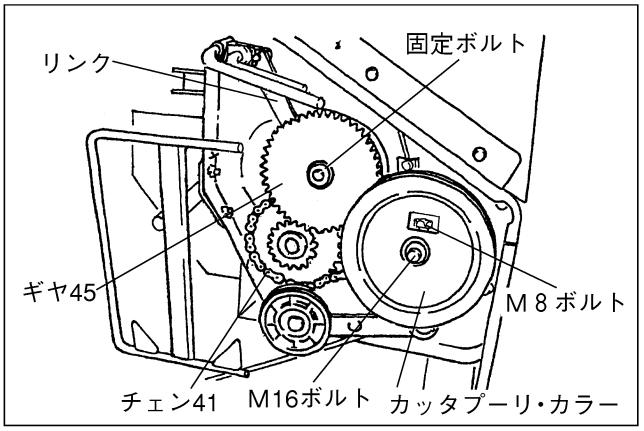


(5) 穂先カバーを取外し，スターホイル軸のＭ８ボルトをゆるめます。(ボルトは後で外します)



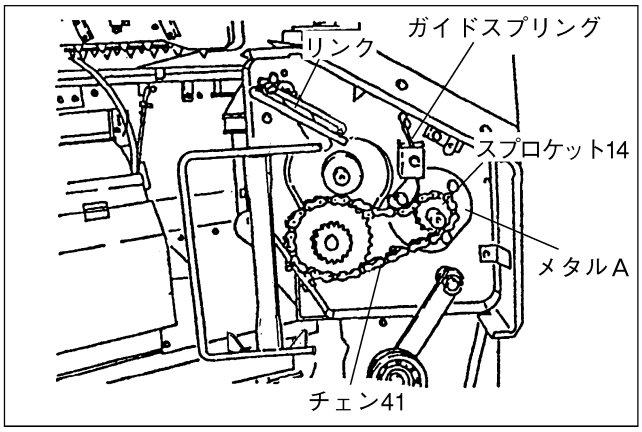
(6) Ｍ８ボルト，M16ボルトをゆるめカッタプーリ，カラーを取外します。

(7) 固定ボルトを外し，ギヤ45を取外します。

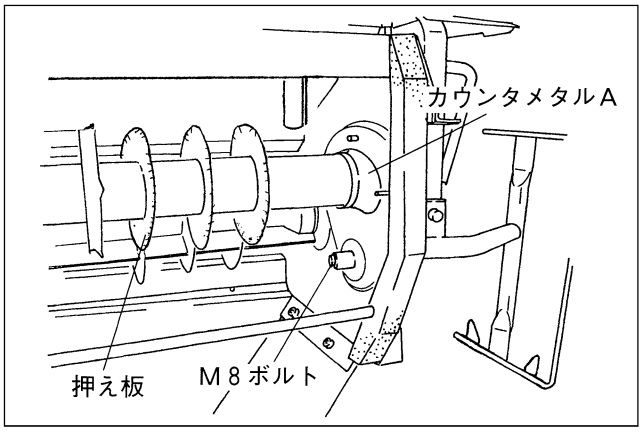


⑻　ガイドスプリングを外し，チェン41を継ぎ部で取外します。スプロケット14を取外します。

⑼　リンクを取外します。

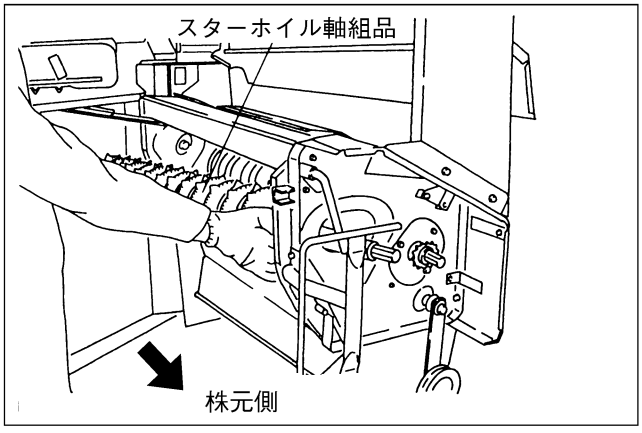


⑽　カウンタメタルAを取付けているM８ボルトを外します。



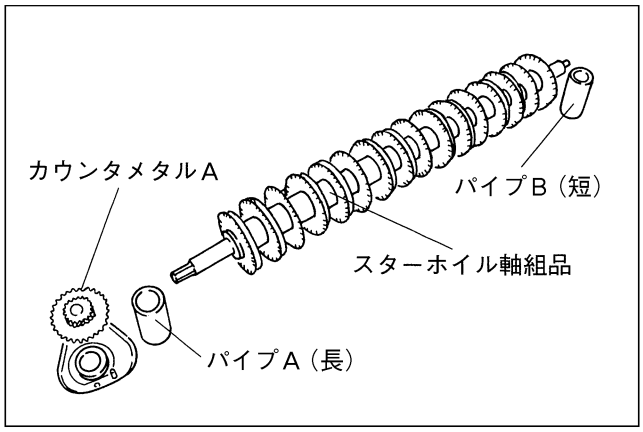
⑾　スターホイル軸の右側（穂先側）の前ページの⑸でゆるめたM８ボルトを外します。

⑿　２人で両側を持って左側方向（株元側）にずらし，カウンタメタルAを外すと共に，スターホイル軸組品を取外します。

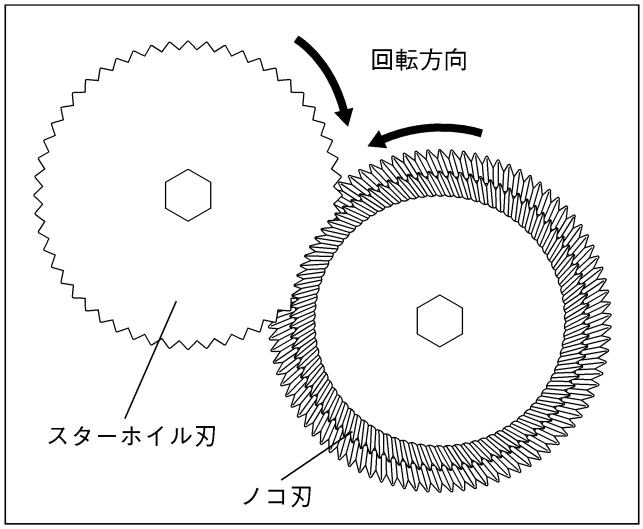


取扱いのポイント

- **パイプA（長）とパイプB（短）は長さが違います。**



- **カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，スターホイル刃とノコ刃の接触がないことを，確かめてください。刃のスキマは２～４㎜が最適です。**
- **ノコ刃の取付けのときは刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。**



⒀　スターホイル軸の取付けは，取外しの逆の手順で行なってください。

DMS38型マルチカッタ ノコ刃軸，スターホイル軸 組　み　立　て　要　領

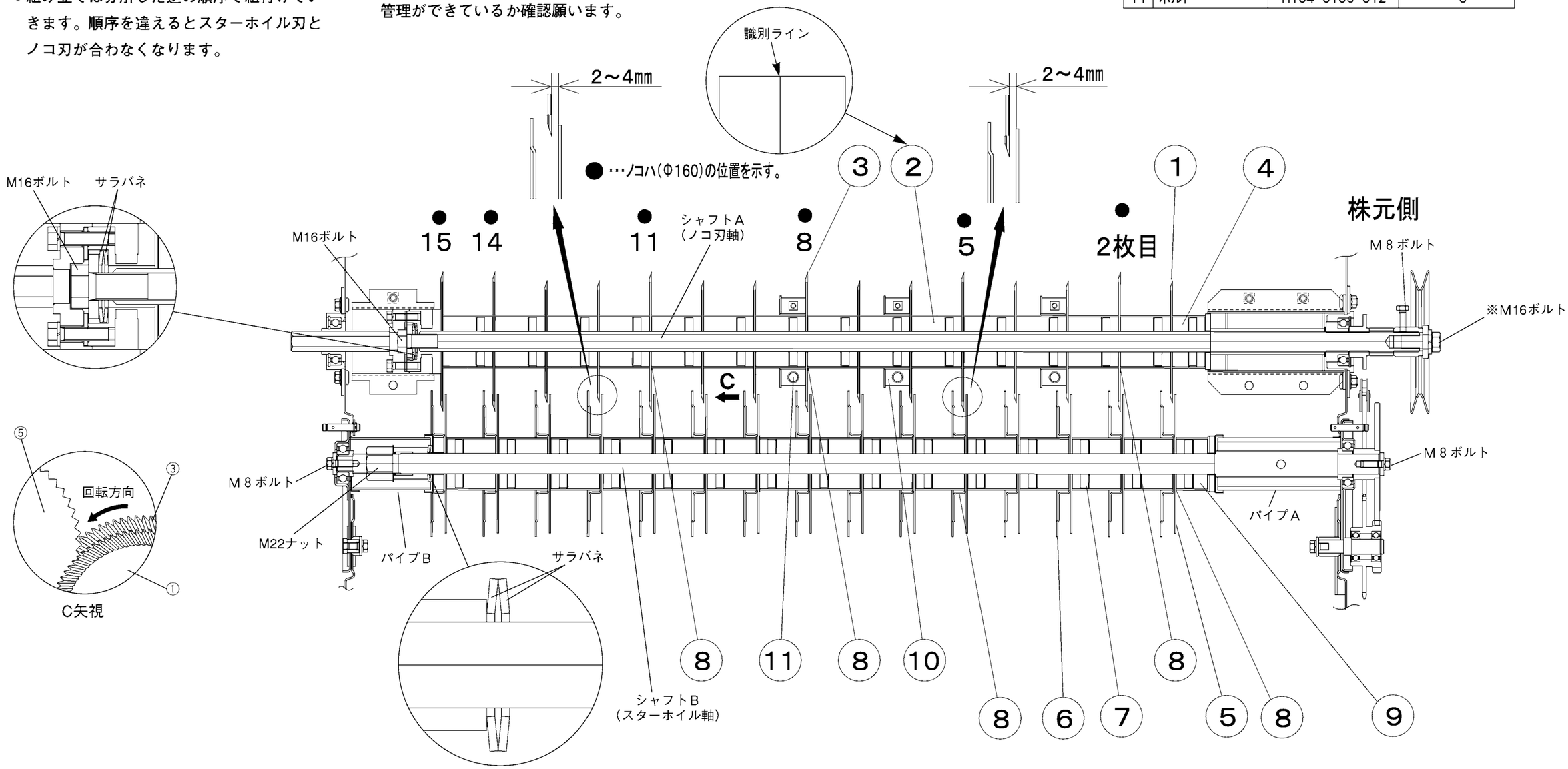
取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- ⑧ライナは株元側より2，8，11枚目の箇所に入れてください。
- 組み立ては分解した逆の順序で組付けていきます。順序を違えるとスターホイル刃とノコ刃が合わなくなります。

取付要領

1．《カッタのオープンのしかた》を参照し，カッタをオープンします。
2．《カッタ刃組品の取外しと分解》を参照し，組付けてください。
3．刃の組付け方向に，注意してください。(C矢視参照)
4．シャフトA，シャフトBを組み立てる際にはシャフトを垂直に立てて組付け，各部品がシャフトに対し垂直になるように組み立てます。
識別ライン付きをシャフトA（ノコハジク）側に取付けます。
5．サラバネの組付け方向は，下図の通りとします。
6．M22ナット，M16ボルトの締付けトルクは，64～74N・m {650～750kgf・cm} とし締付けます。
7．M8ボルト(3箇所)にはスリーボンド1344Nを塗布し，締付けトルクは，25～29N・m {250～300kgf・cm）とし締付けます。
8．※印　M16ボルトにはスリーボンド1344Nを塗布し，締付けトルクは，64～74N・m {650～750kgf・cm} とし締付けます。
9．組み換え終了後，手（厚手の手袋をする）でゆっくり正規回転し，ノコ刃とスターホイル刃のスキマの管理ができているか確認願います。

番号	部品名称	部品番号	15枚刃の総個数
1	ノコハ(φ140)	3830 0408 000	9
2	パイプ A アッシ	3574 8786 000	14
3	ノコハ(φ160)	3829 0409 000	6
4	パイプ C アッシ	3574 8784 000	1
5	スターホイルバ	3574 8808 000	15
6	オサエバン	3574 8813 000	15
7	パイプ B アッシ	3574 8816 000	14
8	ライナ	3829 0518 000	6
9	パイプ D アッシ	3574 8817 000	1
10	プレート	3592 8805 000	6
11	ボルト	H104 0106 012	6



DMS38S型マルチカッタ ノコ刃軸，スターホイル軸 組　み　立　て　要　領

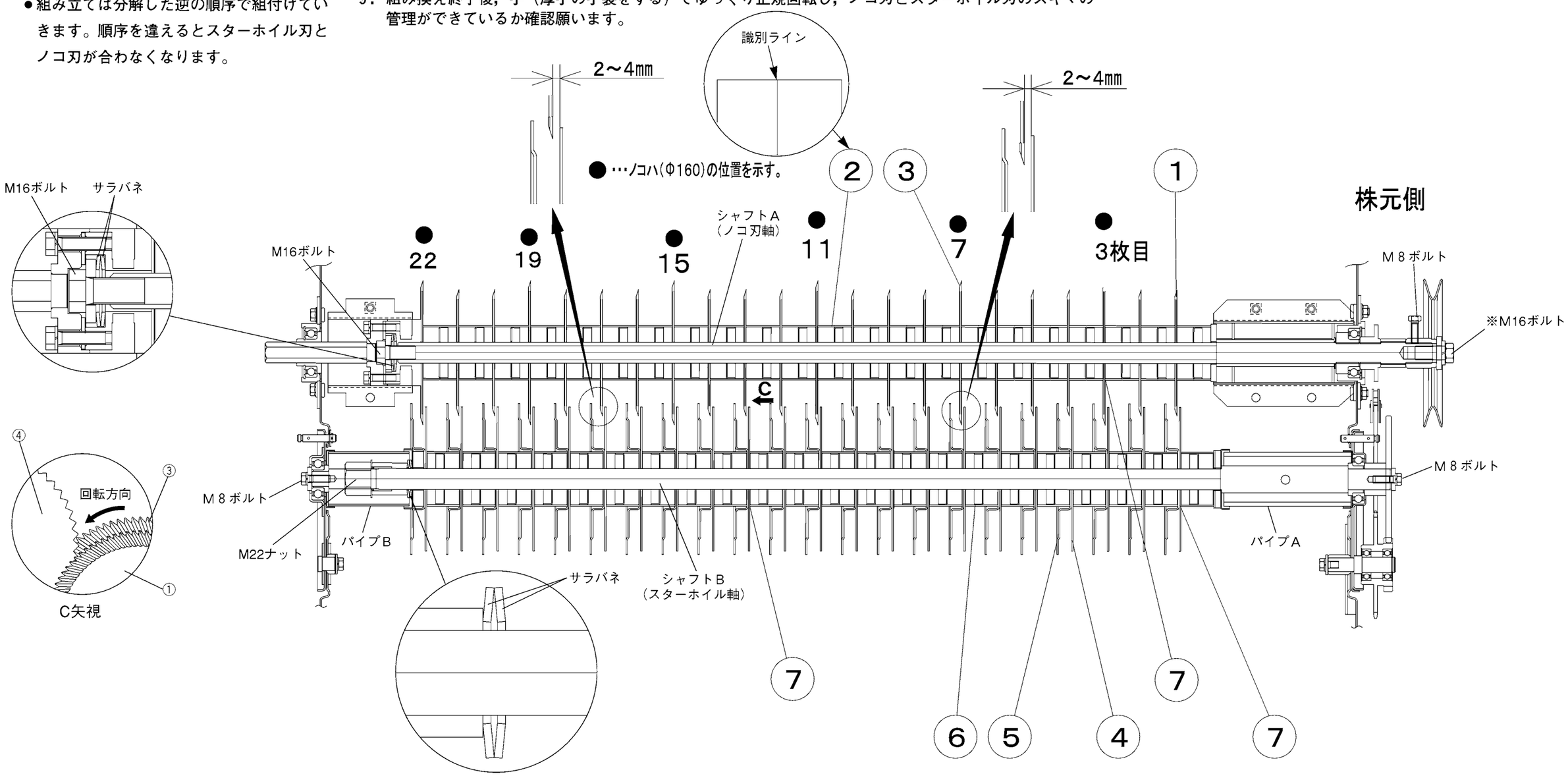
取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- ⑦ライナはスキマが２～４㎜になるように適切な位置に入れて組付けます。
- 組み立ては分解した逆の順序で組付けていきます。順序を違えるとスターホイル刃とノコ刃が合わなくなります。

取付要領

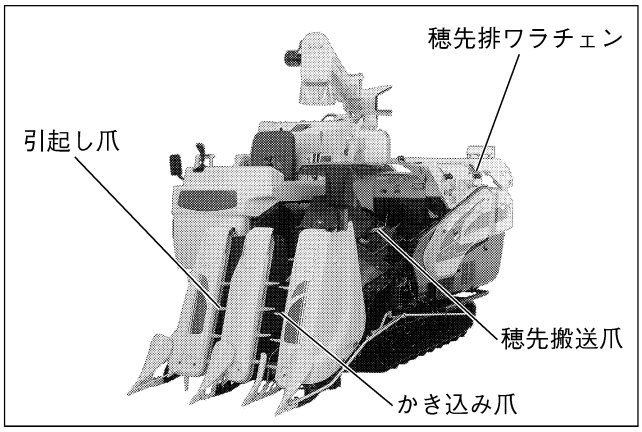
1．《カッタのオープンのしかた》を参照し，カッタをオープンします。
2．《カッタ刃組品の取外しと分解》を参照し，組付けてください。
3．刃の組付け方向に，注意してください。（C矢視参照）
4．シャフトＡ，シャフトＢを組み立てる際にはシャフトを垂直に立てて組付け，各部品がシャフトに対し垂直になるように組み立てます。
識別ライン付きをシャフトＡ（ノコハジク）側に取付けます。
5．サラバネの組付け方向は，下図の通りとします。
6．M22ナット，M16ボルトの締付けトルクは，64～74Ｎ・m｛650～750kgf・cm｝とし締付けます。
7．Ｍ８ボルト（３箇所）にはスリーボンド1344Ｎを塗布し，締付けトルクは，25～29Ｎ・m｛250～300kgf・cm）とし締付けます。
8．※印　M16ボルトにはスリーボンド1344Ｎを塗布し，締付けトルクは，64～74Ｎ・m｛650～750kgf・cm｝とし締付けます。
9．組み換え終了後，手（厚手の手袋をする）でゆっくり正規回転し，ノコ刃とスターホイル刃のスキマの管理ができているか確認願います。

番号	部品名称	部品番号	22枚刃の総個数
1	ノコハ（φ140）	3830 0408 000	16
2	パイプ C アッシ	3574 8784 000	22
3	ノコハ（φ160）	3829 0409 000	6
4	スターホイルバ	3574 8808 000	22
5	オサエバン	3574 8813 000	22
6	パイプ D アッシ	3574 8817 000	22
7	ライナ	3829 0518 000	6



2．爪の交換のしかた

引起し爪，穂先搬送爪，かき込み爪，穂先排ワラチェン

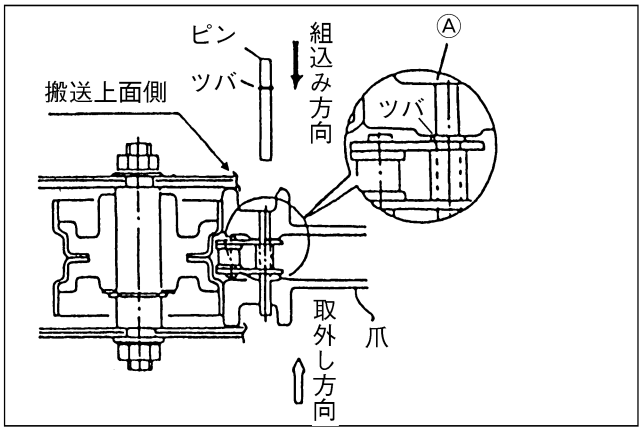


❶　爪の取外し

爪を取付けているピンを，突き出ている側から叩いて抜取り，爪を取外します。(ピンは，強く叩かなくても抜けます)

❷　爪の組込み

ピンは，ツバがある側を搬送上面側にし，ピンの端面と爪が同じ高さになるまで打込みます。(図示Ⓐ部参照)



3．ホース類の点検と交換

⚠警告　火傷や火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮の剥れおよび継ぎ部より燃料が漏れてないか確認し，損傷したり漏れている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出し火傷をする場合があります。

燃料ホース，ラジエータホースなどの燃料漏れ，水漏れがないかを点検します。また，締付けているバンドや油圧ホースの継ぎ部が，ゆるんでいないか点検をします。

取扱いのポイント

- **燃料ホースは，定期交換部品ですので，2年ごとに「お買いあげ先」にて交換してください。**
- **燃料ホースを交換したときは，燃料のエア抜きをしてください。(101ページ参照)**

4．ワラ切カマの手入れ

⚠警告 傷害事故防止のために

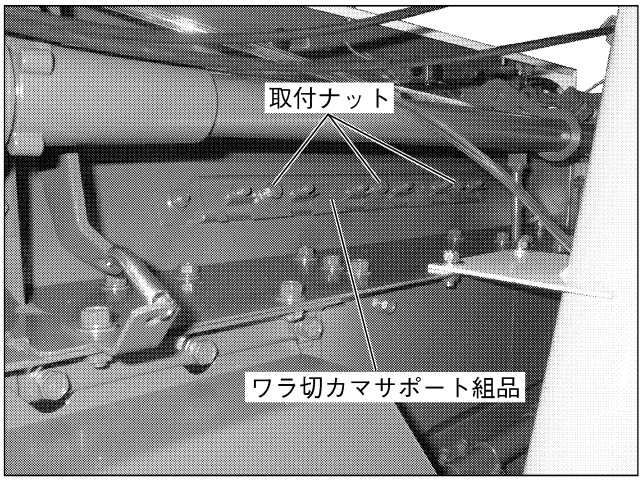
◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆こぎ胴部を開く時は，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持ち上げ，ゆっくりと手を離します。
◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームを支えて行なってください。この時は，回動範囲内には手や体を入れないでください。
◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行なってください。
◆刃部に手をかけないでください。

❷ ワラ切カマの取外し

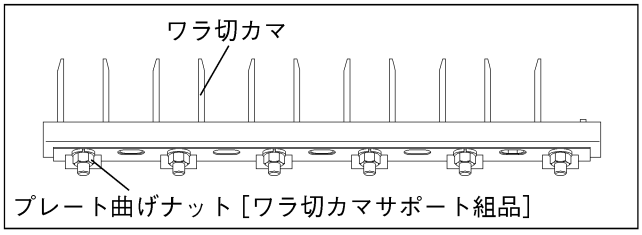
⑴ 脱こく右側天板とグレンタンク部の境界部にあるワラ切カマ

1．グレンタンクを開きストッパを掛けます。
（108ページ参照）

2．ワラ切カマサポート組品で取外します。



3．ワラ切カマをサポートから取外します。



取扱いのポイント

●ワラ切カマサポート取付ナットは３個（Ｍ８）です。プレート曲げナット（６個）は外さないでください。ワラ切カマが落下します。

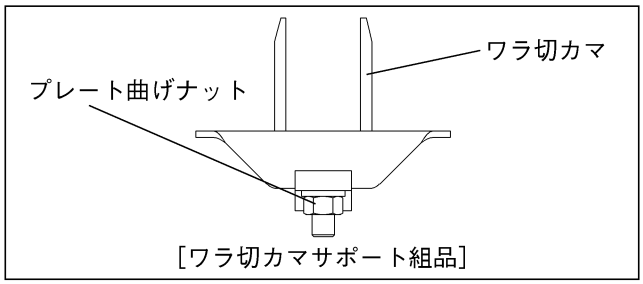
⑵ 第２こぎ室部にあるワラ切カマ

1．グレンタンクを開きストッパを掛けます。
（122～123ページ参照）

2．ワラ切カマサポート組品で取外します。



3．ワラ切カマをサポートから取外します。

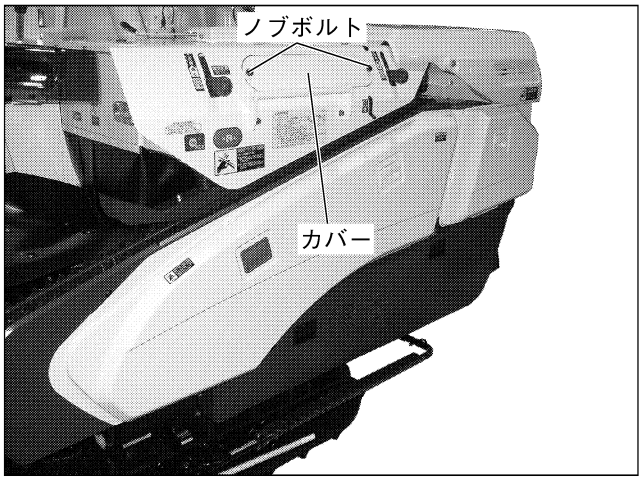


取扱いのポイント

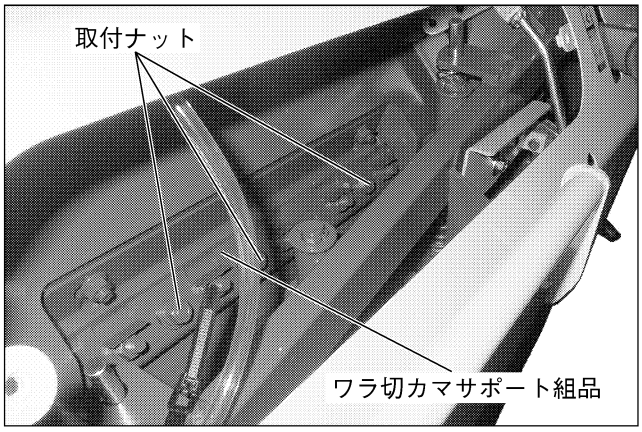
●ワラ切カマサポート取付ナットは２個（Ｍ８）です。プレート曲げナット（１個）は外さないでください。ワラ切カマが落下します。

(3) 脱こく左側コンポロックレバー付近のワラ切カマ

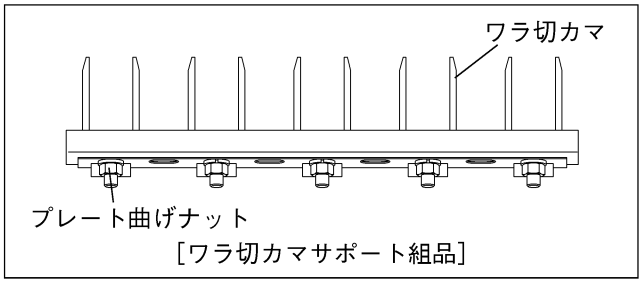
1．カバーを外します。



2．ワラ切カマサポート組品で取外します。



3．ワラ切カマをサポートから取外します。

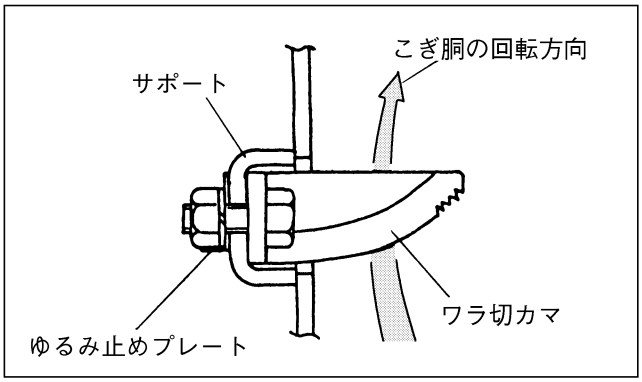


取扱いのポイント

- **ワラ切カマサポート取付ナットは3個（M8）です。プレート曲げナット（5個）は外さないでください。ワラ切カマが落下します。**

❷ ワラ切カマの取付け

(1) ワラ切カマの組付け方向を確認して真っ直ぐに締付けます。



取扱いのポイント

- **ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下し又，性能も悪くなります。ワラ切カマを交換してください。**
- **こぎ歯の中央にワラ切カマがくるように取付けてください。**

(2) 作業後，グレンタンクを閉じ，カバー類を取付けます。

4．こぎ歯の点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆こぎ胴部を開く時は，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持ち上げ，ゆっくりと手を離します。
◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴をもちあげ，「カチッ」という音を確認して，ゆっくり手を離してください。
◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームを支えて行なってください。この時は，回動範囲内には手や体を入れないでください。

❶ こぎ胴部を開きます。



❷ こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいものは交換します。こぎ歯の締付けが緩んでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換および取付ナットの締込みは，点検穴プレートを外して行います。

取扱いのポイント

- こぎ胴の点検穴プレートの取付ボルトの頭が摩耗すると外せなくなりますので取付ボルトが摩耗し始めた時も取付ボルトの交換が必要です。

❸ 作業後こぎ胴部を閉じます。

5. 各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

⚠注意

◆各部の点検と調整で外したカバー類は全て，元の位置に取付けてください。

「レバー・ペダルの点検・調整」

1. 走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいと，クラッチの切れやブレーキの効きが悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

(1) 走行クラッチペダル先端の遊びが 60～70㎜ になっていますか。

(2) 走行クラッチペダルを踏まない状態で，スプリング長さが 274～276㎜ になっていますか。(145ページ参照)

(3) 坂道（12°）で，駐車ブレーキをかけたときに，機械が停止していますか。

❷ 調整

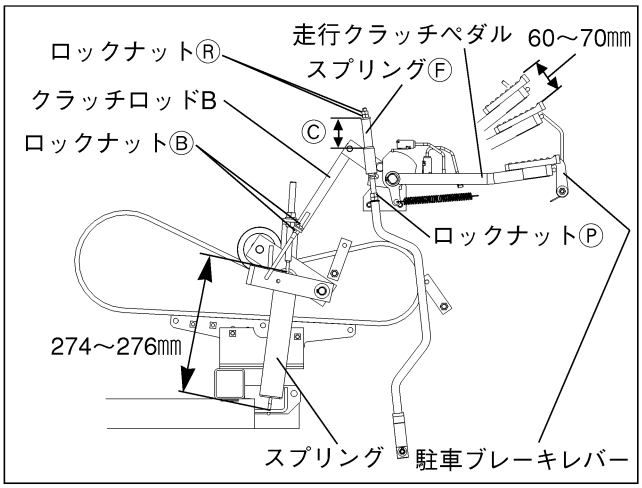
・運転席左下足元のカバーをノブをゆるめて取外します。

(1) クラッチロッドBのロックナットⒷをゆるめて，ペダル先端の遊びを 60～70㎜ に調整します。調整後，ロックナットⒷを締付けます。

(2) 1）駐車ブレーキの調整は，走行クラッチペダルがフリーの状態でスプリングⒻ長さⒸを 59～61㎜ にロックナットⓇで調整します。

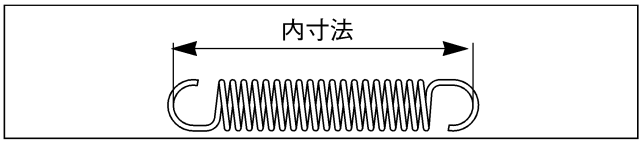
2）次に，走行クラッチペダルを踏んで，駐車ブレーキレバーでフックをかけた状態でスプリングⒻ長さⒸを 55～56㎜ にブレーキロッドのロックナットⓅをゆるめて調整します。

3）調整後，ロックナットⓇ，Ⓟを確実に締付けます。



取扱いのポイント

- **クラッチペダルの遊びがなくなると走行ベルトが伸びきってベルトのスベリが発生します。ペダルの遊びが10㎜以下になりましたら「お買い上げ先」で点検・調整を受けてください。**
- **スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。**



2．作業機クラッチレバー

❶ 点検

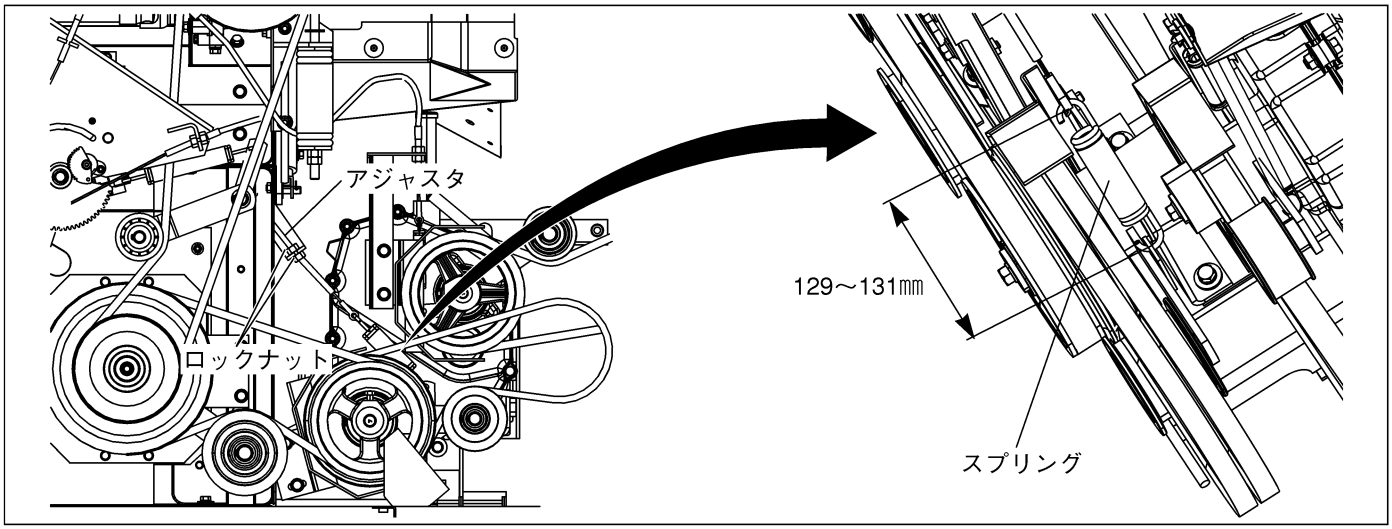
エンジンを始動させ作業機・刈取クラッチレバーを脱こく《**入**》位置にし，エンジンを停止させます。スプリング寸法が **129～131㎜** になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクをオープンしストッパを掛けます。(108ページ参照)

(2) ロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整し測定用プレート先端からアイエンドとの長さを調整します。

(3) グレンタンクを閉じます。(108ページ参照)



3．刈取クラッチレバー

❶ 点検

エンジンを始動させ作業機・刈取クラッチレバーを刈取《**入**》位置にし，エンジンを停止させます。このときスプリング寸法が **105～107㎜** になっていますか。

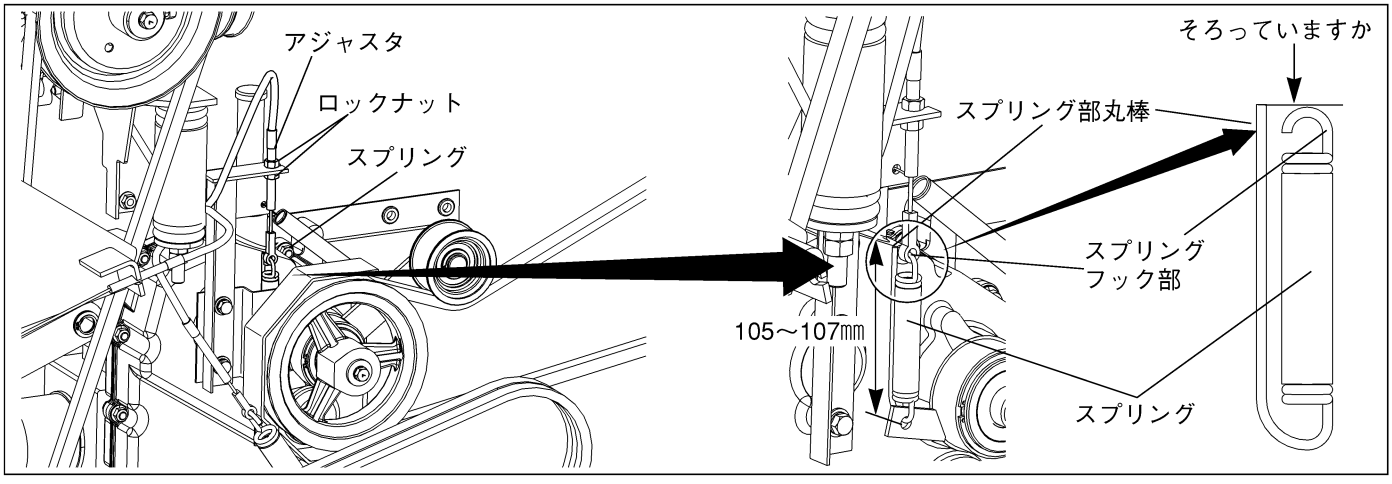
又はスプリング部丸棒のフックの高さがそろっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクをオープンしストッパを掛けます。(108ページ参照)

(2) ロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整しスプリング長さを調整します。

(3) グレンタンクを閉じます。(108ページ参照)



4．カッタ・排ワラ切替レバー

❶ 点検

(1) 切替レバーが《**カッタ**》にしたとき，レールの寸法Ⓐが 20〜30㎜ になっていますか。

(2) ブラケット㋑が垂直の状態でワイヤに遊びがなく切替レバーが重くなっていませんか。

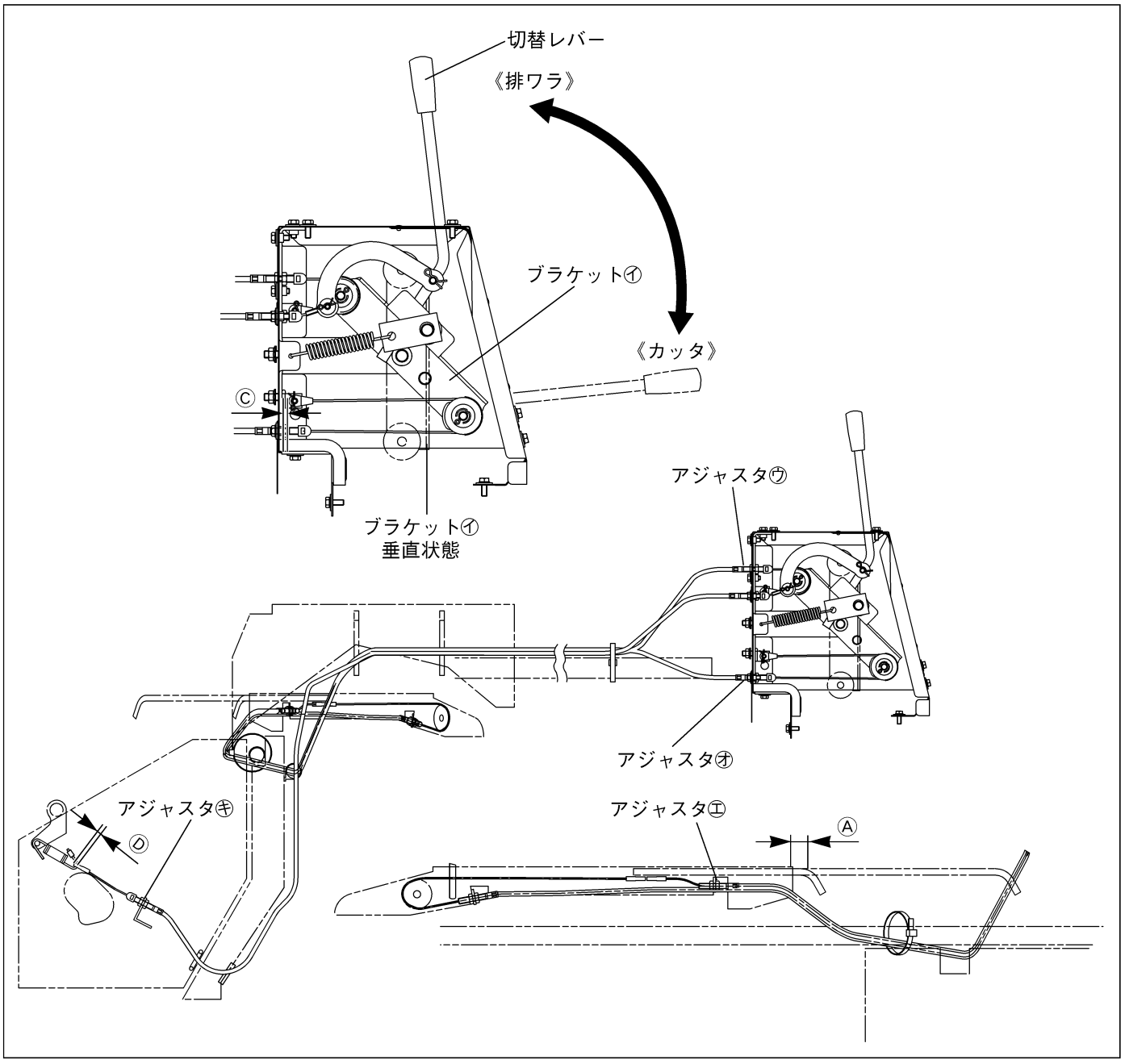
(3) 切替レバーが《**排ワラ**》の時，ワイヤがⒹ部で 2〜3㎜ 遊んでいますか。(カッタ切替板が確実に閉状態になっていますか。)

❷ 調整

(1) Ⓐ寸法が 20㎜〜30㎜ になる様にアジャスタ㋒，㋓，㋔で調整します。

(2) Ⓒ寸法が 3㎜〜4㎜ になる様にアジャスタ㋔で調整します。

(3) Ⓓ寸法が 2㎜〜3㎜ になる様にアジャスタ㋕で調整します。



「ベルトの点検・調整」

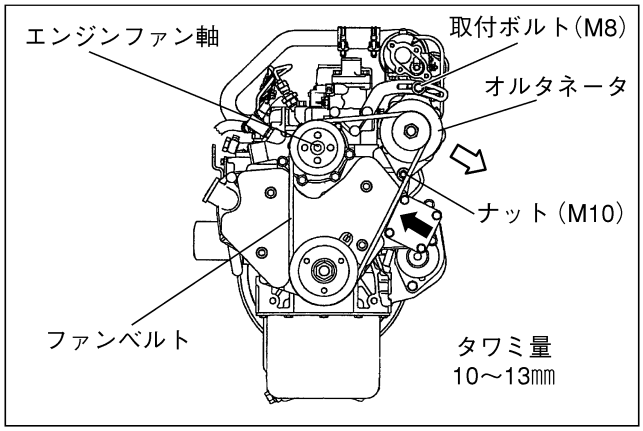
取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは，各スプリングの寸法や，ベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。

5．エンジンファンベルト

⚠警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調節は，エンジンが冷えてから行なってください。



❶ 点検

ファンベルトの長い方の中央部を指で押し，タワミ量が 10～13㎜ となっていますか。

❷ 調整

・足元カバーのノブボルト（２個）を外して足元カバーを取外します。

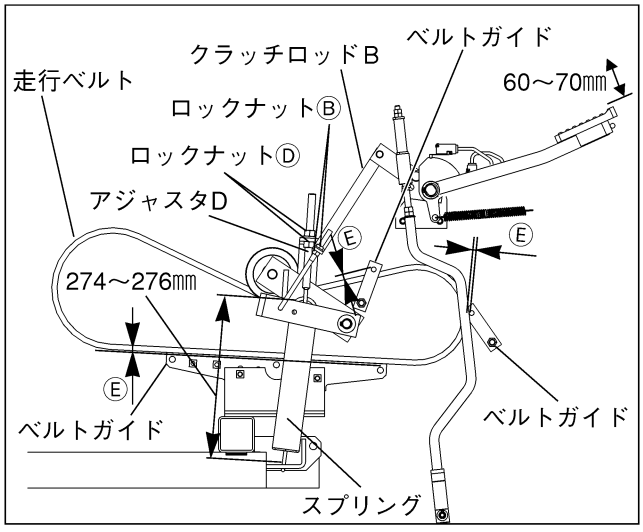
オルタネータ取付ボルト，ナット（各１個）をゆるめ，オルタネータを矢印（⇨）側に倒し，ベルトが張ります。

調整後，取付ボルトナットを締付けます。

作業後に足元カバーを取付けます。

6．走行ベルト

走行ベルトの点検・調整は,「**お買いあげ先**」にて行います。



❶ 点検

(1) 走行クラッチペダル遊びが 60～70㎜ になっていますか。

(2) 走行クラッチペダルを踏まない状態で，スプリング長さが 274～276㎜ になっていますか。

❷ 調整

・運転席左側の足元カバーを，ノブをゆるめて取外します。

(1) クラッチロッドBのロックナットⒷをゆるめてペダルの遊びを 60～70㎜ に調整します。

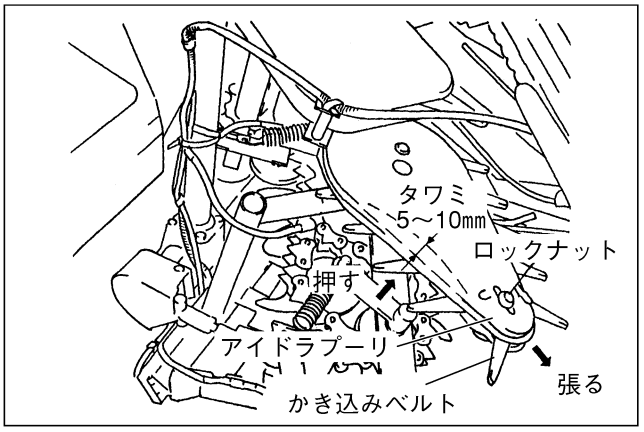
調整後ロックナットⒷを締付けます。

(2) アジャスタDのロックナットⒹをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) ４個所のベルトガイドとベルトの隙間Ⓔを 3～5㎜ に調整します。

(4) 作業後足元カバーを取付けます。

7．かき込みベルト（刈取部）



❶ 点検

ベルトの搬送中央部を押さえ，ベルトのタワミが 5～10mm になっていますか。3個所（右，左，中央）

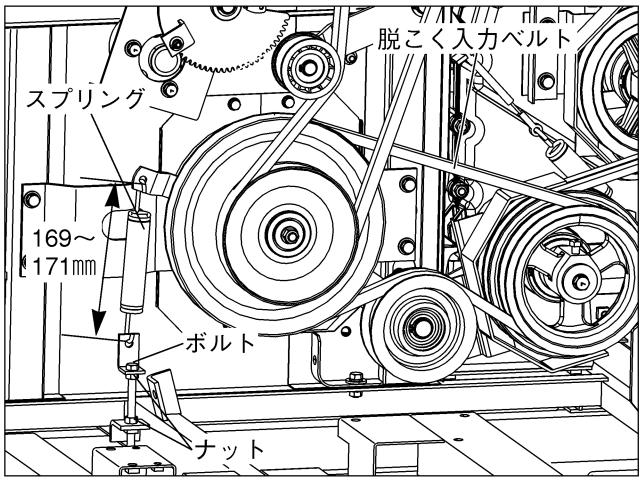
❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー（右），（左）を外します。

(2) アイドラプーリのロックナット（表・裏）をゆるめてアイドラプーリで調整します。

(3) 作業後刈取部サイドカバー（右），（左）を取付けます。

8．脱こく入力ベルト



❶ 点検

スプリング長さが 169～171mm になっていますか。

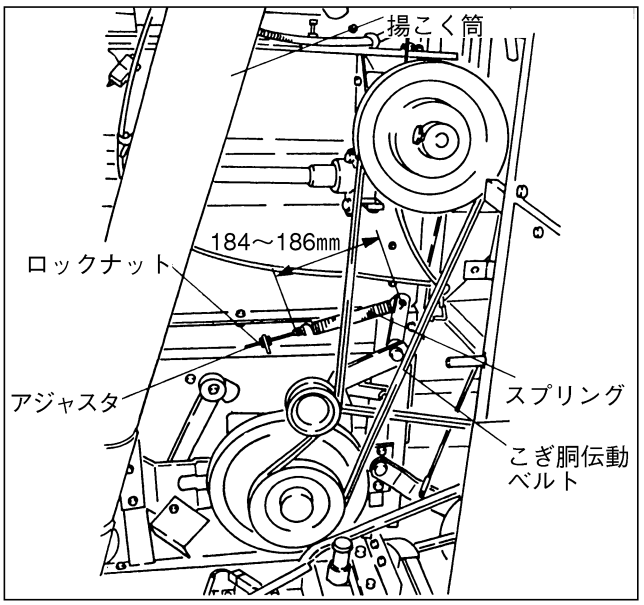
❷ 調整

(1) グレンタンクをオープンしストッパを掛けます。（108ページ参照）

(2) ボルトのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) グレンタンクを閉じます。

9．こぎ胴伝動ベルト



❶ 点検

スプリング長さが 184～186mm になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクをオープンしストッパを掛けます。（108ページ参照）

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) グレンタンクを閉じます。（108ページ参照）

10．こぎ胴ベルト

❶ 点検

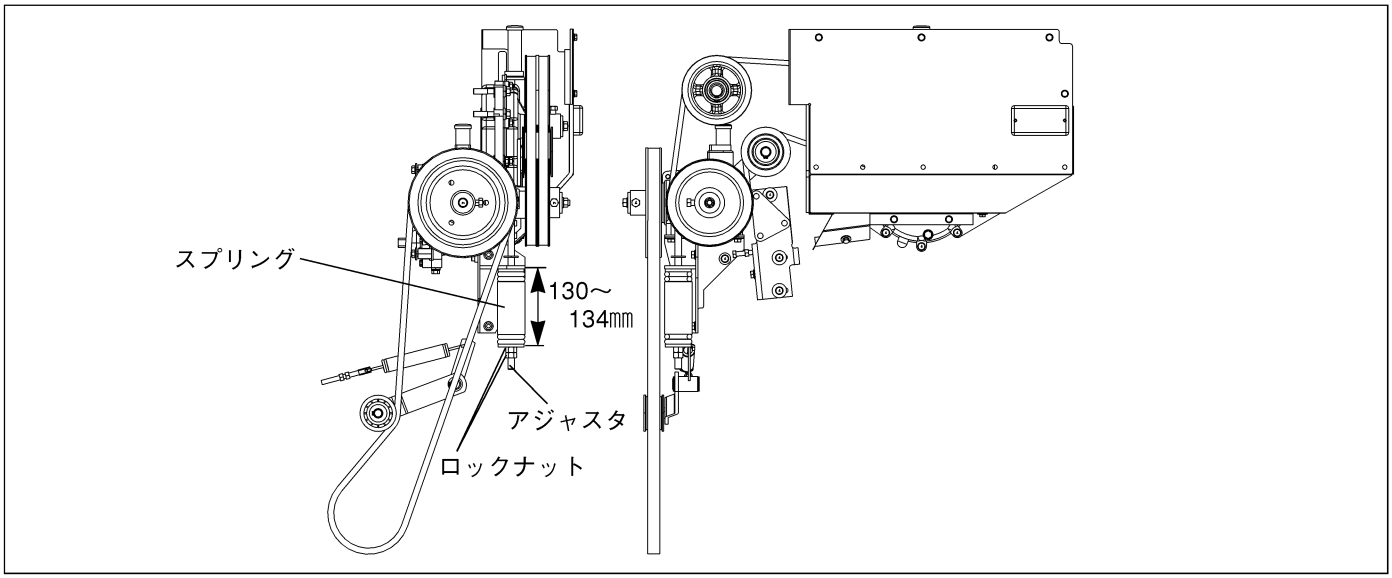
スプリングのセット寸法が **130～134㎜** になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。（108ページ参照）

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。

(3) グレンタンクを閉じます。（108ページ参照）



11．選別ベルト

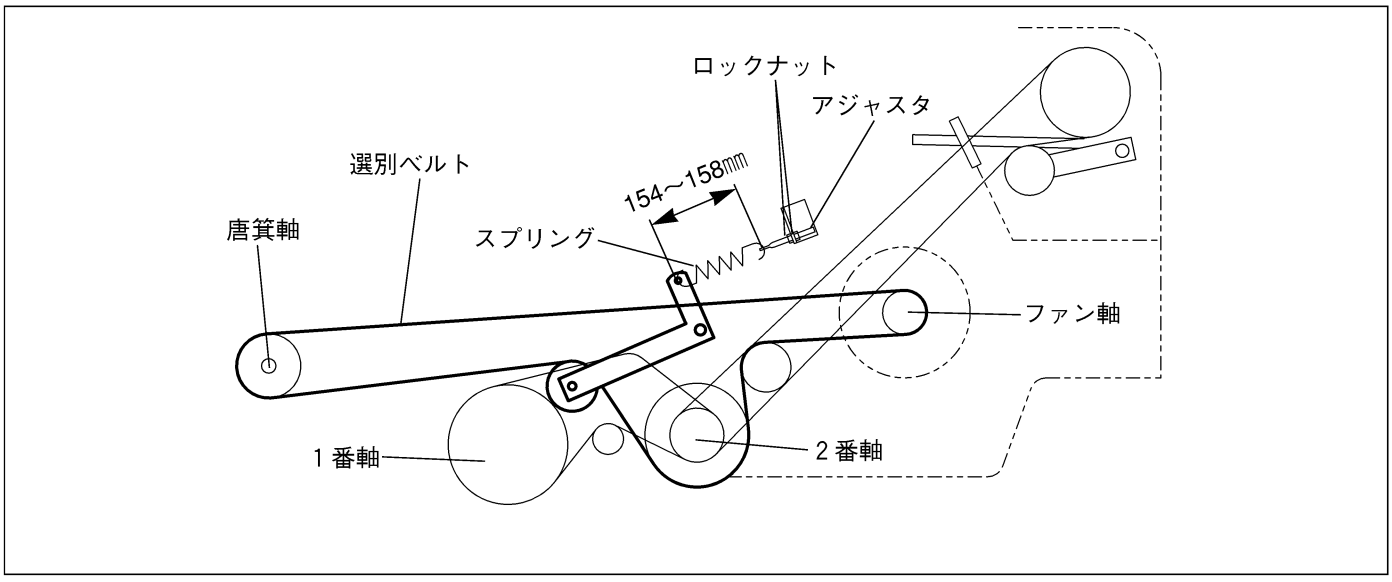
❶ 点検

スプリング長さが **154～158㎜** になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

(2) 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を取付けます。



12．1番ラセン駆動ベルト

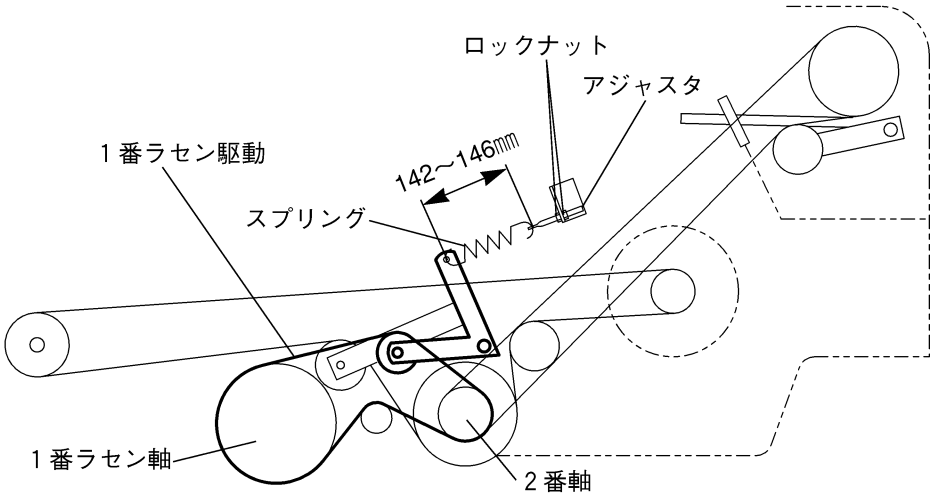
❶ 点検

スプリング長さが **142～146mm** になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

(2) 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を取付けます。



13．排ワラ駆動ベルト

❶ 点検

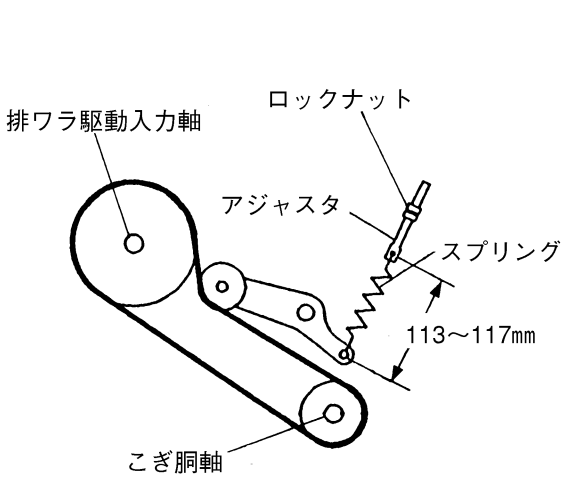
スプリング長さが **113～117mm** になっていますか。

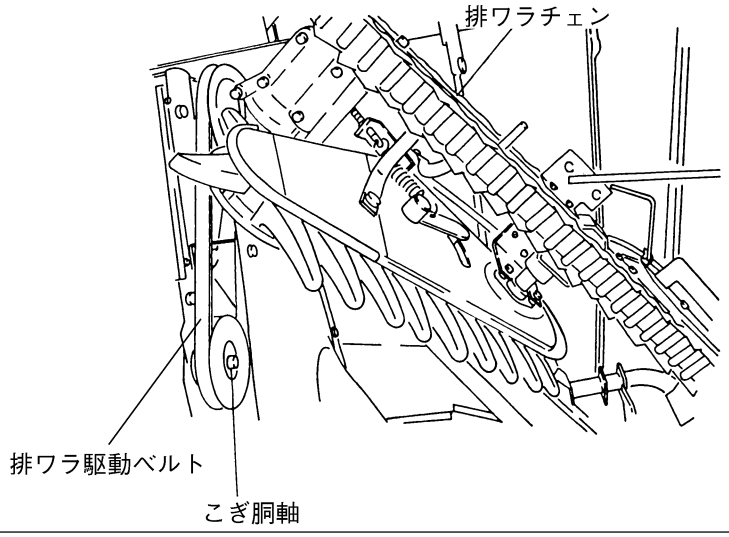
❷ 調整

(1) こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。（109ページ参照）

(2) アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

(3) 作業後，こぎ胴部を閉じます。





14．カッタベルト

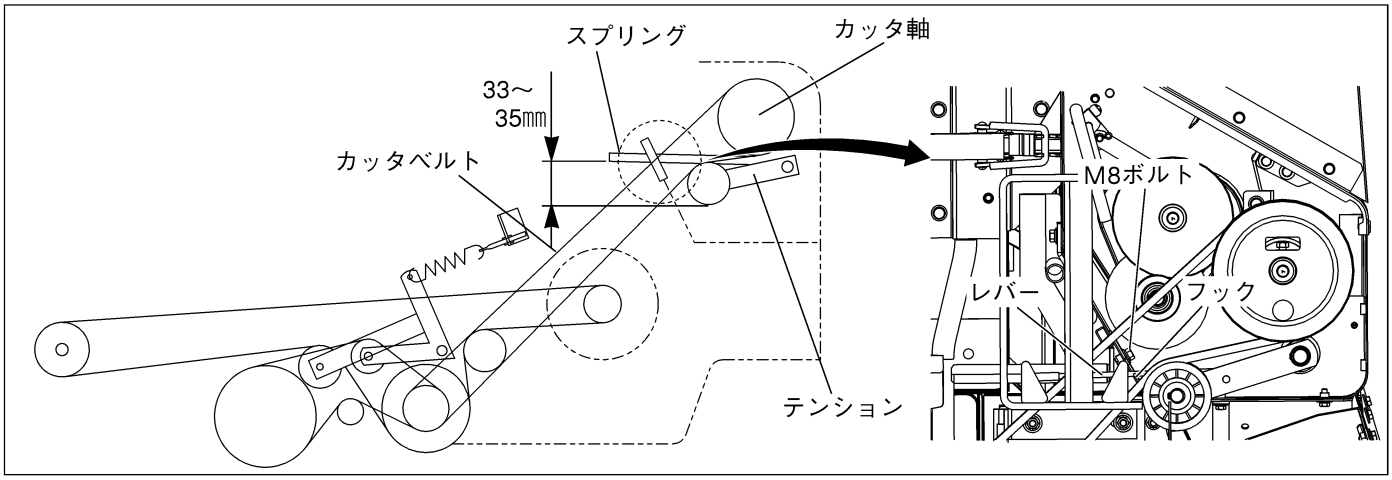
❶ 点検

図示位置のスプリングとテンションプレートの寸法が 33～35㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) カッタサイドカバーを外しフック部の金具のＭ８ボルトをゆるめて調整します。

(2) 作業後，カッタサイドカバーを取付けます。



15．グレン入力ベルト

❶ 点検

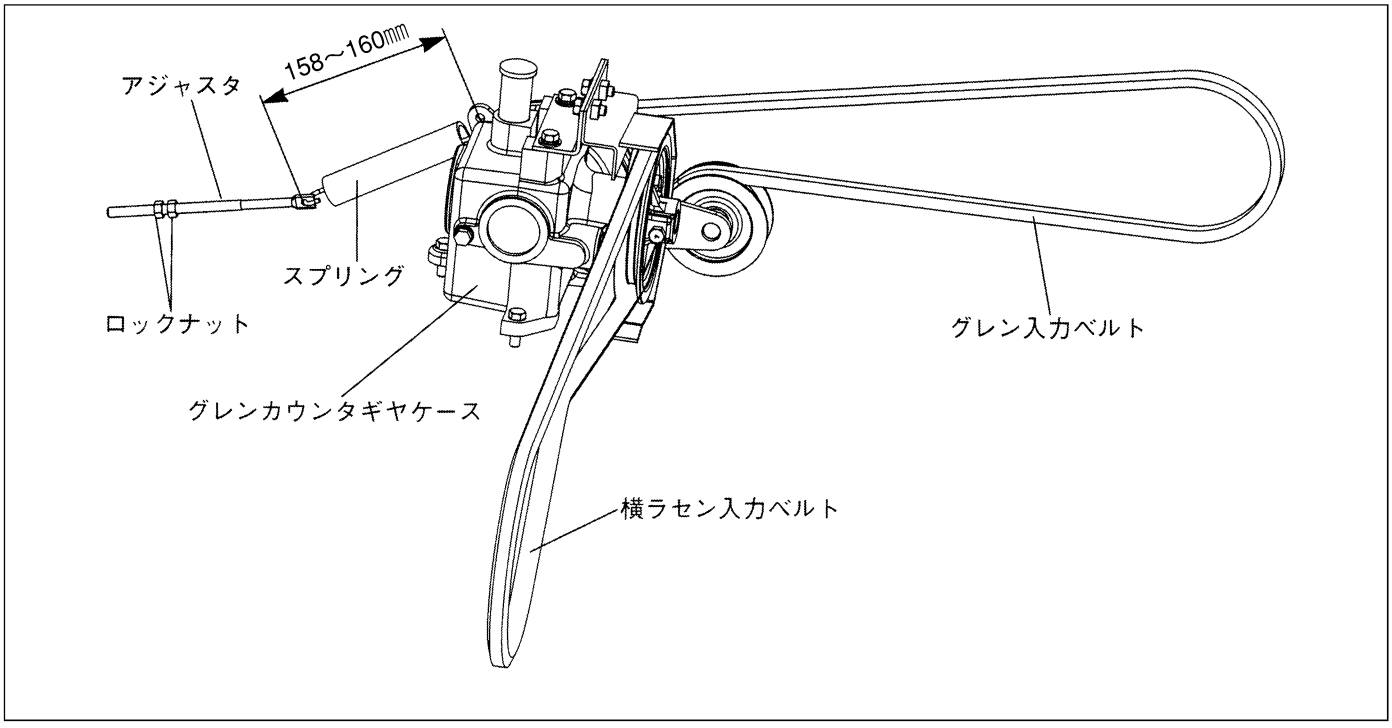
※グレン入力ベルトはグレンタンクを回動（オープン）すると見ることができます。(108ページ参照)

スプリングの長さが 158～160㎜ になっていますか。

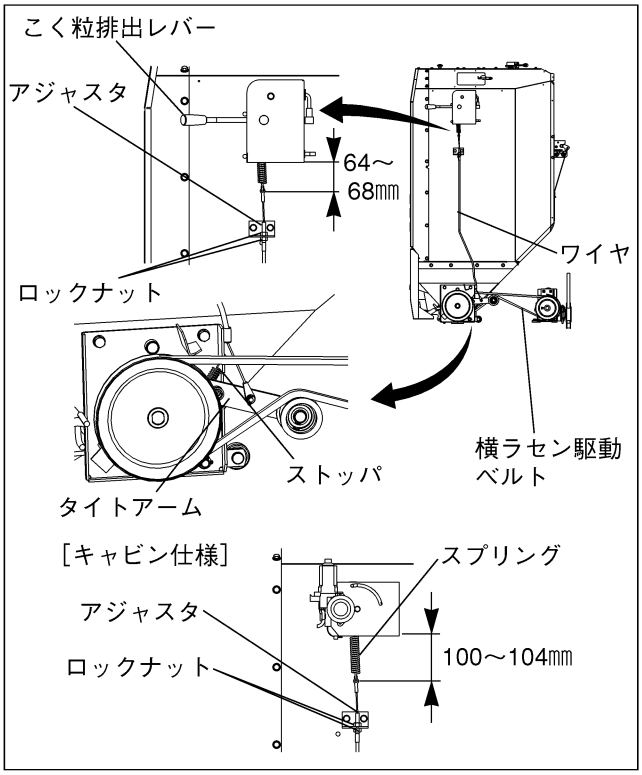
❷ 調整

(1) ナットをゆるめて，アジャスタを調整します。

(2) グレンタンクを閉じます。(108ページ参照)



16．横ラセン駆動ベルト



❶ 点検

［キャビン仕様以外］

こく粒排出レバー《**入**》のときカバー下端面よりスプリングフックまでの長さが **64～68㎜** となっていますか。

［キャビン仕様］

(1) カバーを外します。

(2) こく粒排出スイッチ《**入**》のとき，スプリングの長さが **100～104㎜** となっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動しストッパを掛けます。（108ページ参照）

(2) ワイヤのアジャスタのロックナットをゆるめて，ワイヤのアジャスタ部で調整します。

(3) グレンタンクを閉じます。（108ページ参照）

17．コンプレッサ［キャビン仕様］

❶ 点検

コンプレッサベルトの下側の中央部を［**10kg**］で押して，タワミ量が **7～10㎜** となっていますか。

❷ 調整

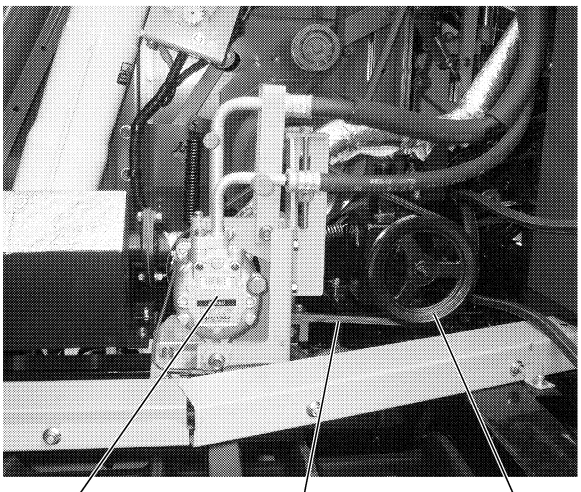
(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。（108ページ参照）

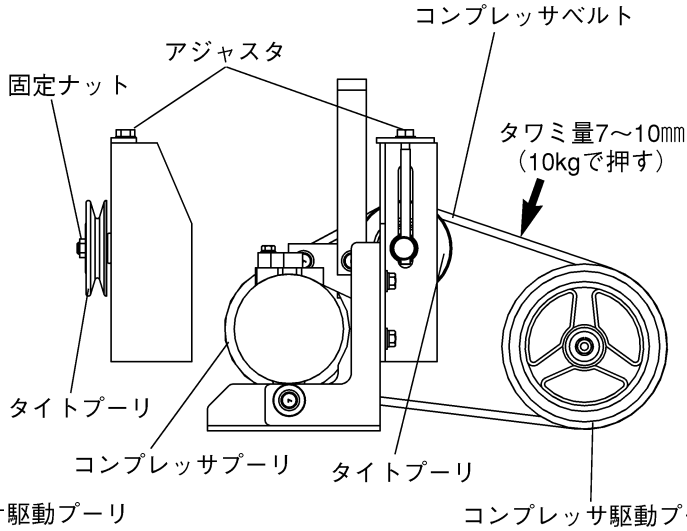
(2) タイトプーリの固定ナットをゆるめます。

(3) アジャスタボルトを締込みコンプレッサベルトの張り調整をします。

(4) 調整後固定ナットを締付けます。

(5) グレンタンクを閉じます。（108ページ参照）





「チェンの点検・調整」

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら新しいチェンに交換してください。チェンを新しいものに交換した場合はスプリングの寸法を正規な寸法に調整してください。

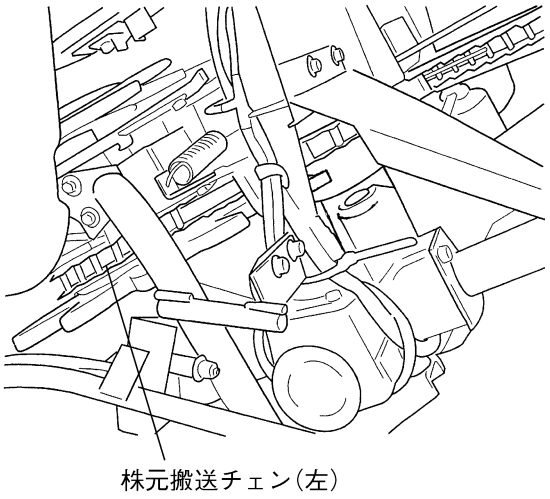
18．株元搬送チェン（左）

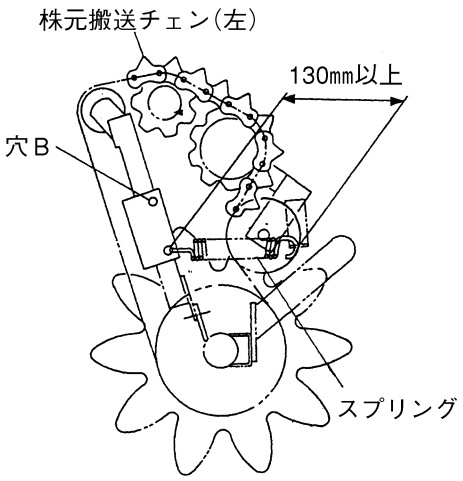
❶ 点検

スプリング長さが 130㎜以上 になっていますか。

❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー（左）を外します。
(2) 130㎜以下のときは，穴Bに掛け替えます。
(3) 作業後,刈取部サイドカバー(左)を取付けます。





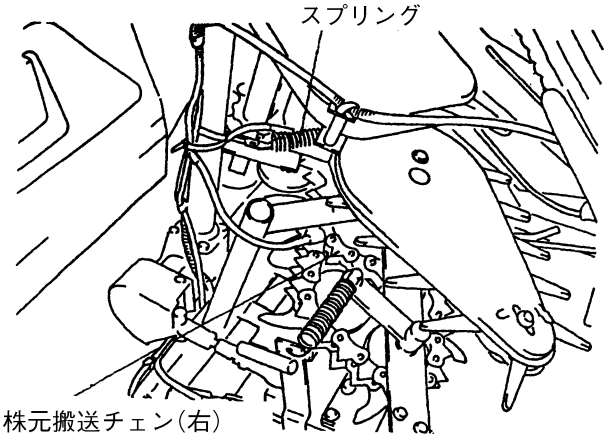
19．株元搬送チェン（右）

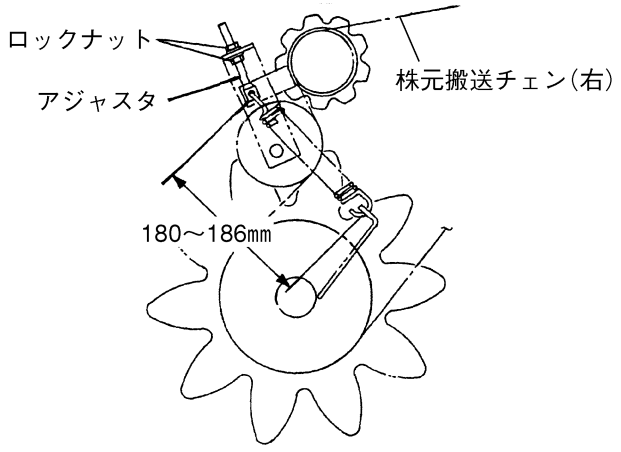
❶ 点検

スプリング長さが 180～186㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー（右）を外します。
(2) アジャスタのロックナットをゆるめ，スプリングの長さを調整します。
(3) 作業後,刈取部サイドカバー(右)を取付けます。





20. こぎ深さ搬送チェン

❶ 点検

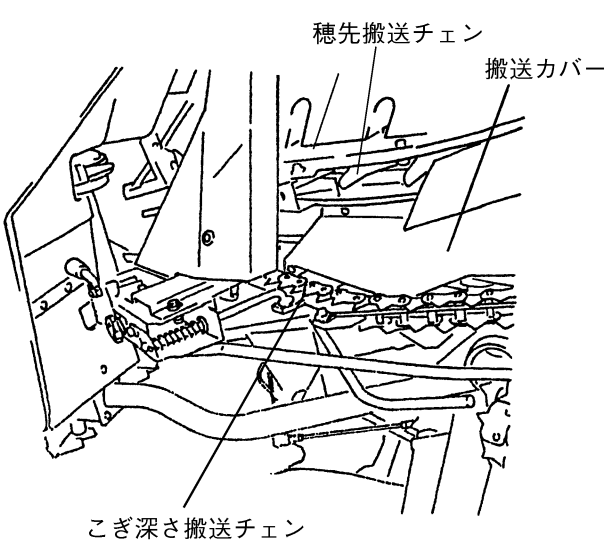
スプリング長さが 327～333mm になっていますか。

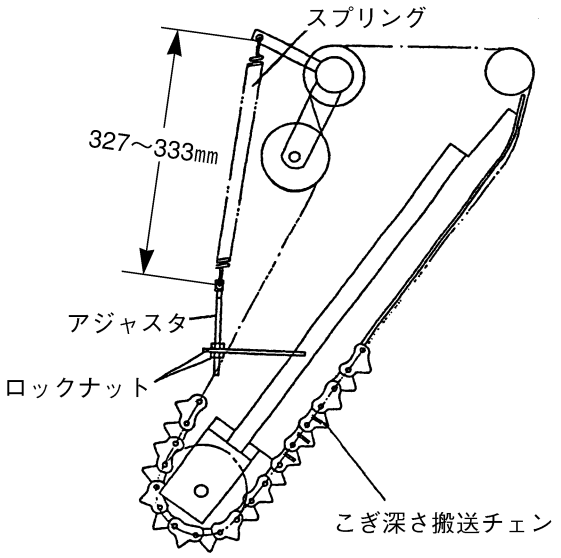
❷ 調整

(1) 搬送カバーを外します。(ボルト３本)

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) 作業後，搬送カバーを取付けます。





21. 穂先搬送チェン

❶ 点検

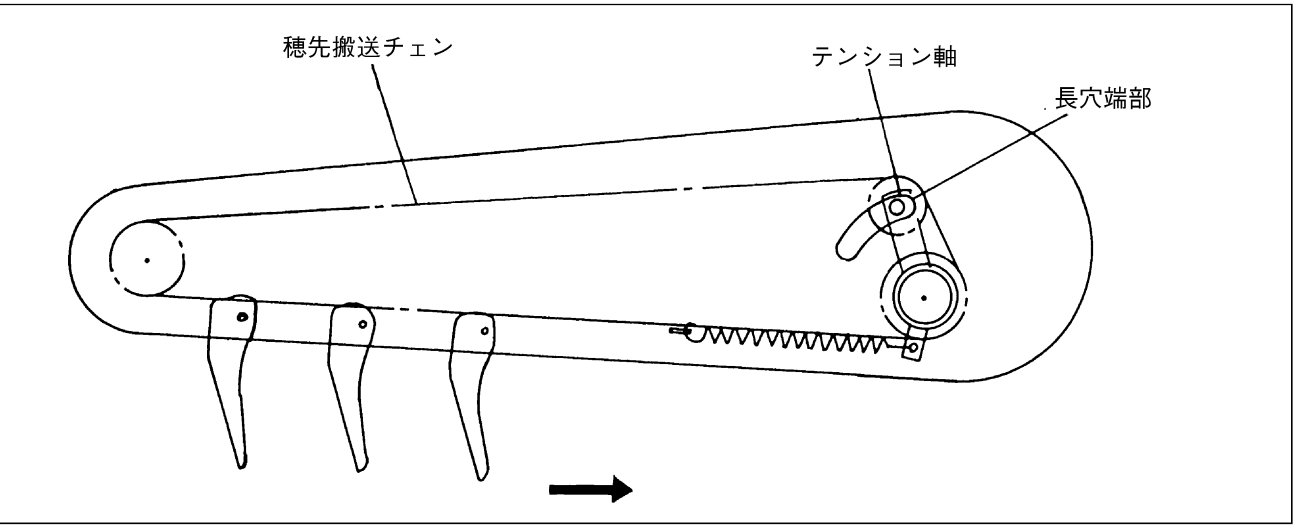
テンションが長穴端部に当たっていませんか。

❷ 調整

(1) 搬送カバーを外します。(上図参照)

(2) 下側から点検し，テンション軸が長穴端部に当たっていればチェンを交換します。

(3) 作業後搬送カバーを取付けます。



22．かき込み搬送チェン

❶ 点検

「右下」

テンション軸が長穴端部に当っていませんか。

「右上，左下，左上」

チェンのⒶ，Ⓑ，Ⓒ部を手で軽く引き，タワミ量が 3～5㎜ になっていますか。

❷ 調整「右下」

(1) 刈取部サイドカバー（右）を外します。

(2) テンションが長穴端部に当っていればチェンを交換します。

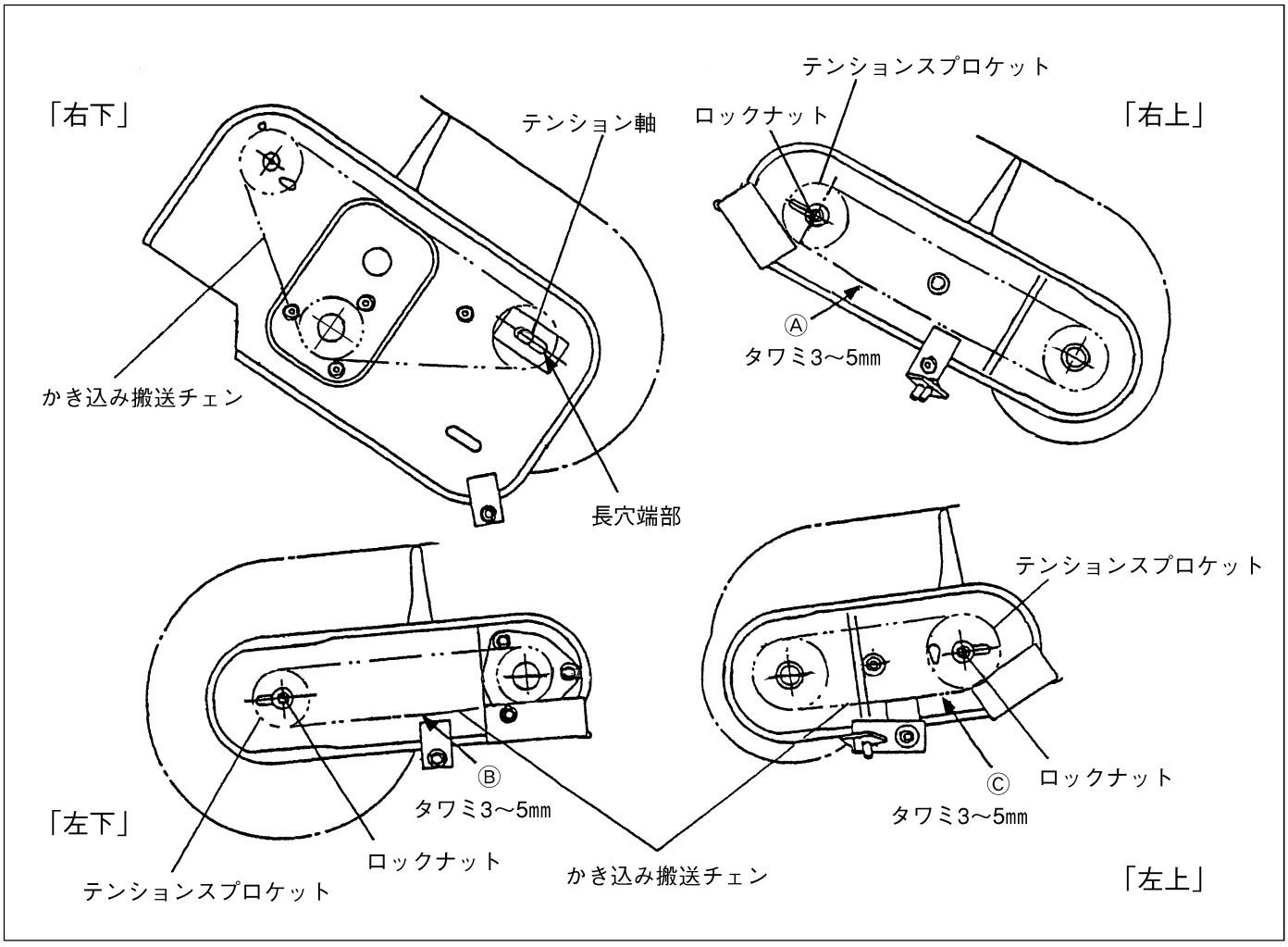
(3) 作業後刈取部サイドカバーを取付けます。

調整「右上，左下，左上」

(1) 刈取部サイドカバー（右），（左）を外します。

(2) テンションスプロケットのロックナット（表・裏）をゆるめてテンションスプロケットで調整します。

(3) 作業後，刈取部サイドカバー（右），（左）を取付けます。



23. 脱こくフィードチェン

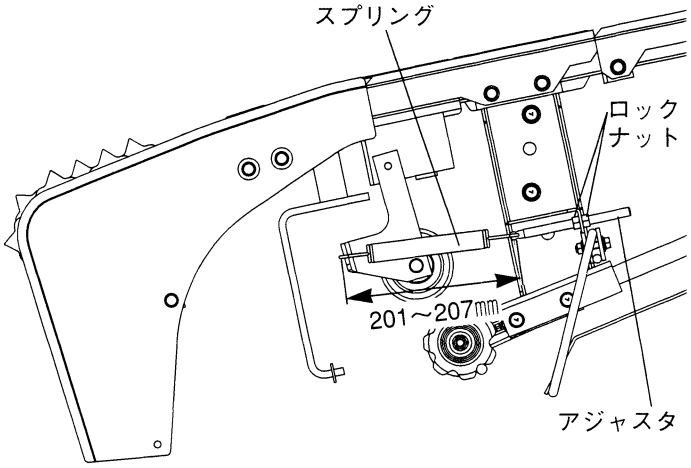
❶ 点検

スプリング長さが 201～207㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上),（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

(2) 作業後脱こくサイドカバー（上),（下）を取付けます。



24. 穂先排ワラチェン

❶ 点検

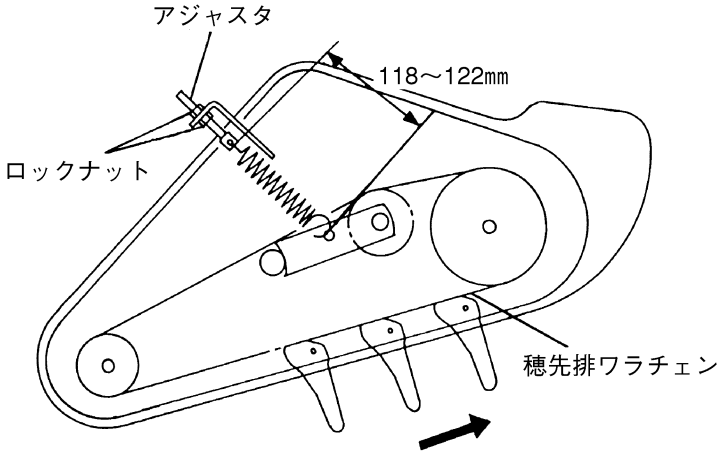
スプリング長さが 118～122㎜ になっていますか。

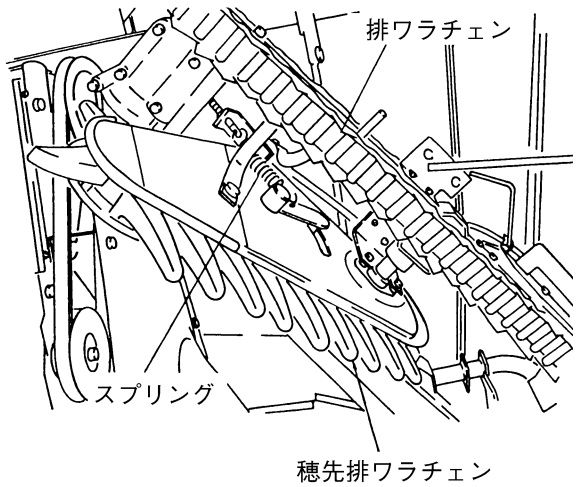
❷ 調整

(1) こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。（109ページ参照）

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) 作業後こぎ胴部を閉じます。





25. 排ワラチェン

❶ 点検

(1) こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。（109ページ参照）

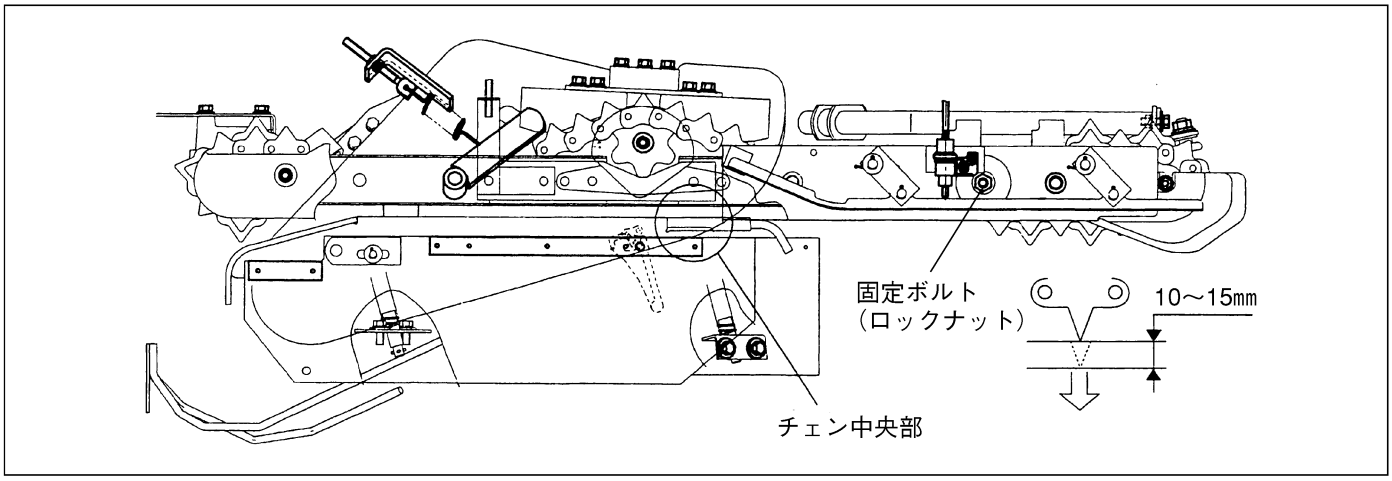
(2) チェンの中央部のタワミ量が **10〜15mm** になっていますか。

❷ 調整

(1) カッタサイドカバーを取外し，カッタをオープンし，ストッパを掛けます。（122〜123ページ参照）

(2) ロックナットをゆるめた後，固定ボルトをゆるめると自動的にチェンの張り調整ができます。調整後，固定ボルトを締付けロックナットで固定します。なお調整ができなくなったときは，**「お買いあげ先」**でチェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。

(3) 作業後カッタを閉じ，カッタサイドカバーを取付けます。



「クローラの点検・調整」

26．クローラ

クローラの点検・調整は「**お買いあげ先**」にて行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ガレージジャッキがめり込んだり，移動したりしない，平坦な場所で行なってください。
◆ガレージジャッキは，２ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は，機体のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚または安全ブロックを噛ませて，落下・転倒防止をしてください。
◆ジャッキアップされた機械の下に，入らないでください。
◆刈取部をオープンした状態でジャッキアップしないでください。

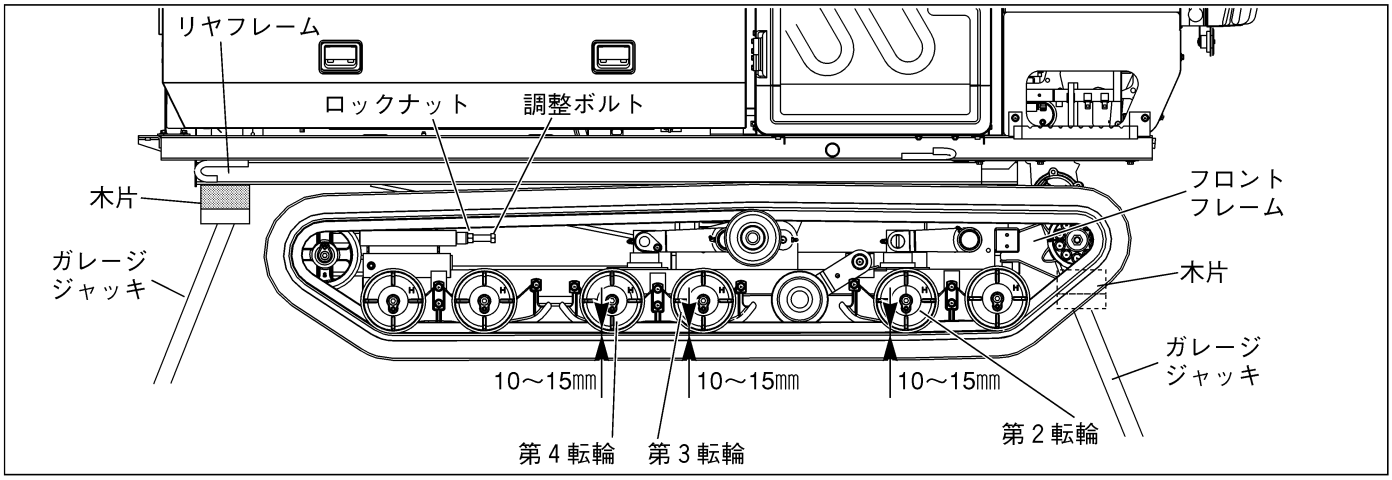
❶ 点検

(1) 図示のように，トランスミッション部とリヤフレーム部の右または左側に木片を介し，ガレージジャッキでジャッキアップし，片方のクローラを浮かせます。

(2) クローラ下面を地面から浮かせた状態で，Ｌ仕様は，第３転輪および第４転輪，Ｌ仕様以外は，第２転輪および第３転輪とクローラのタワミ量が **10～15㎜** になっていますか。

❷ 調整

(1) 調整ボルトのロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込んで，Ｌ仕様は，第３転輪および第４転輪，Ｌ仕様以外は，第２転輪および第３転輪とクローラの隙間が **10～15㎜** になるまで張ります。



取扱いのポイント

- クローラの張り調整を行う前に，ガレージジャッキを掛ける部分や，クローラ回りに付着しているワラ泥などを取除いてください。
- トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けると，ケースが破損する恐れがありますので，木片を噛ませて行なってください。

「刈刃の上下調節」

27．刈刃

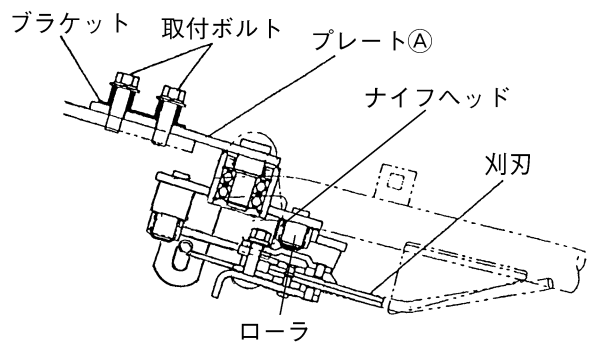
⚠警告 傷害事故防止のために

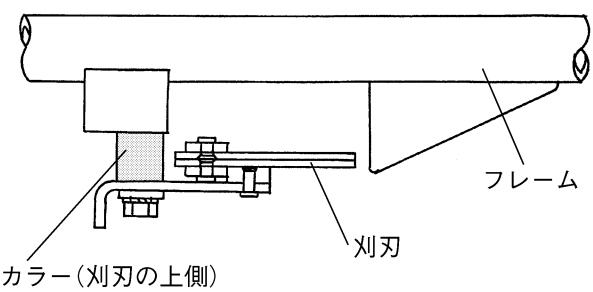
◆刈刃を取外す前に刈刃受プレートにピンが入っていることを確認してください。
◆刈刃の着脱作業をするときは，厚手の手袋をして行なってください。刈刃は内側のボルトを外してから外側のボルトを外してください。
◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いてけがをすることがあります。
◆刈刃の点検調整するときは，刈取部を上げ，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして，フックをかけ，刈取部の下に固定脚等を入れて作業してください。

❶ 刈刃の上下調節

・出荷のときは「下セット」になっています。

「刈刃下セット状態」

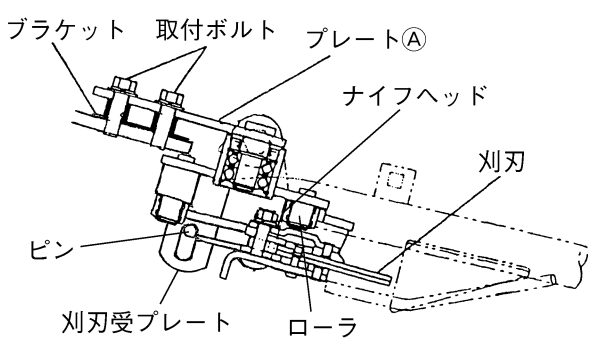




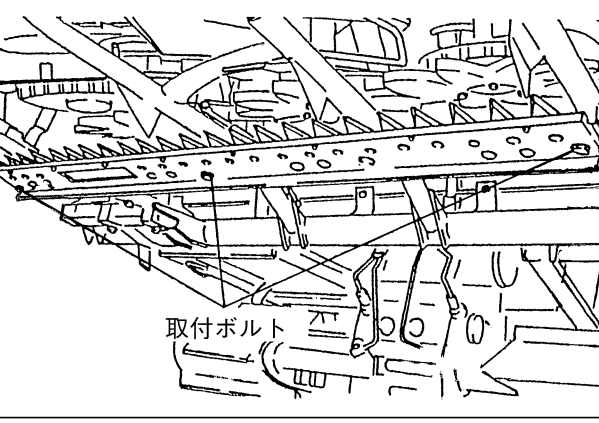
うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は，カラーを入替えて刈刃を「上セット」にします。

(1) 刈刃の両側の刈刃受プレートにピンが入っていることを確認します。

「刈刃上セット状態」



(2) 刈刃取付ボルト 3 個所のうち，内側のボルト 1 本及びカラー 1 個所を外します。外側 2 個所のボルト 2 本を緩めて，刈刃を手でささえながら外側のボルトを外すと，両側の刈刃受プレートで刈刃が支持されます。



(3) 組付けるときは，ナイフヘッドとローラを合わせながらブラケットをプレートⒶの上から下へ入れ替えます。

(4) 右（または左側）のカラーを刈刃の下側にし，取付ボルトで仮締めします。

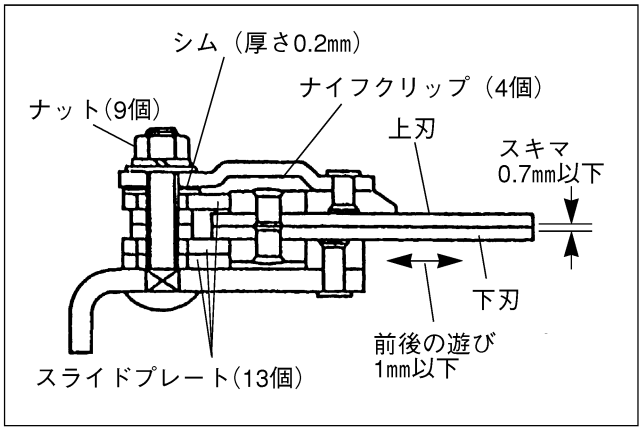
(5) 内側のカラーも同じように取付け，3 個の取付ボルトを増締めします。

❷ 刈刃の調整

調整は「**お買いあげ先**」にて行います。

(1) 刈刃に付着している泥やワラクズを取除きます。

(2) ナット（9個）を緩め，ナイフクリップ（4個）の下側のシム（厚さ0.2㎜）で上刃と下刃のスキマが0.7㎜以下になるように調整します。



(3) 上刃，下刃の前後の遊びが1㎜以下になるようにナイフクリップとスライドプレートの位置を調整しナットを締付けます。

(4) 上刃，下刃共スムーズ（147N {15kgf} 程度）に作動することを確認します。

取扱いのポイント

- **1日の作業終了後には刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。**
- **刈跡が揃わなくなったりした場合は刈刃に注油をし，刈刃の調整，または交換してください。**

長期格納のしかた

・シーズンが終わったら，次の作業をして格納します。

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。



◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火傷や損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホースの老化や，傷による燃料漏れがあると火災の原因になります。作業前後に点検し，損傷したり漏れている場合は，交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆機械にシートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときに，シートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で拭き取ります。

❷ 脱こく内部およびグレンタンクのゴミ・残留こく粒などを，掃除口よりきれいに取除きます。
（111～122ページ脱こく内部の掃除の項を参照）

2．錆止めと注油

❶ 刈刃は掃除したのち，全面にグリースを塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆ないようにします。

❸ 塗装が剥げた個所は，補修塗装を行います。

3．エンジンの手入れ

❶ エンジンコントロールレバーは，いっぱいに戻しておきます。

❷ 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満タンにしておきます。

❸ 冬期気温が0℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（91～92ページ参照）

4．点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に，該当する項目について点検・整備します。
（83～86ページ参照）

取扱いのポイント

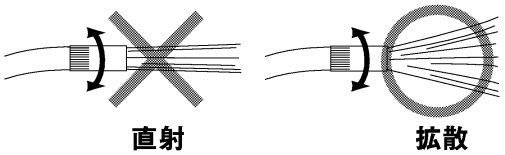
- エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には，水をかけないでください。
- 高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

⚠注意 洗浄時の注意

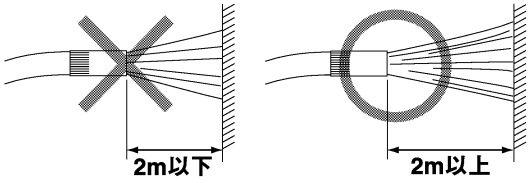
◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2ｍ以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。
2．ホースの破損により，油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3．機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）（1）シール・ラベルの剥がれ
（2）電装部品，エンジン，ラジエータキャビン内等への侵入による故障
（3）クローラ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
（4）塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁

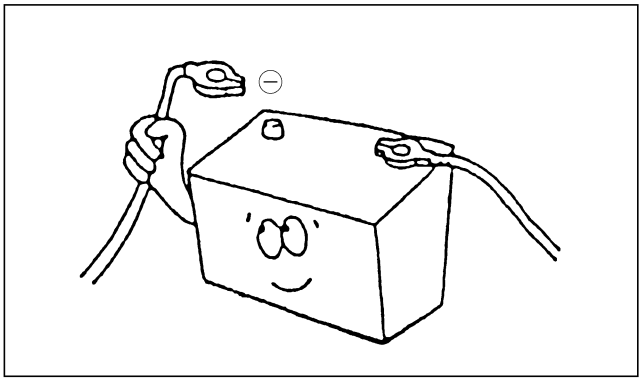


近距離洗車厳禁



❻ クローラに「**歯止め**」をします。

❼ 「**バッテリ**」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか、㊀側のコードを外しておきます。１ケ月に１回，バッテリ補充電のため，エンジンを約10分間回します。



5．格　　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら，風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

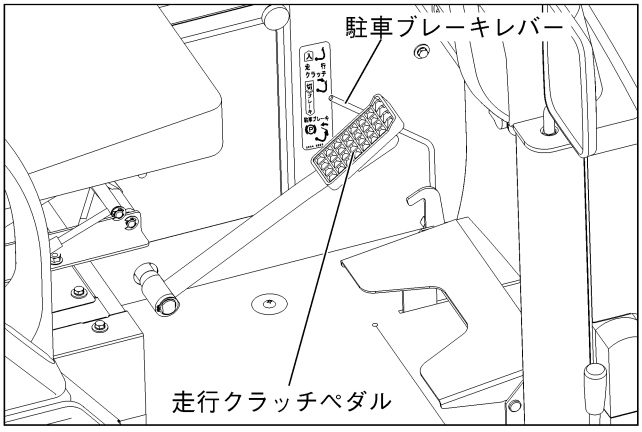
❶ 「**クローラ**」の下には板などを敷いておきます。

❷ 各レバーは《**切**》・《**N**》（**中立**）の位置にします。

❸ 「**ナローガイド（左右）**」を収納し，デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けておきます。

❹ 刈取部を下げて，スタータスイッチの「**始動キー**」を抜取ります。

❺ 走行クラッチペダルに駐車ブレーキレバーをかけます。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料と，同じ場所に格納するのは避けてください。**

6．再使用にあたって

格納後，初めて使用するときには，各部の点検を入念に行なった後に運転します。

❶ エンジンを回す前に，バッテリーターミナルなど保管するときに，処置した項目を正しく復元します。

❷ 始業点検，注油を確実に行います。

取扱いのポイント

- **エンジンを回す前に，バッテリーターミナルなど保管するときに，処置した項目を正しく復元してください。**

不調時の処理

・不調が発生したら，直ぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは，「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは，「**型式名**」，「**機械番号（製造番号）**」，「**エンジン番号**」を合わせてお知らせください。

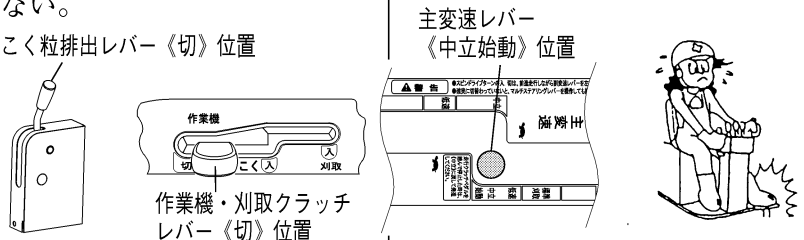
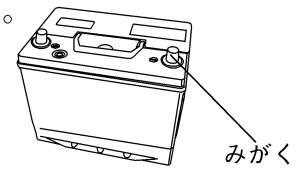
⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。点検処置は，参照ページの安全上の項目をよく読んでから行なってください。
◆ソレノイドバルブの操作をするときは，機械の周囲に人がいないことを確認してから行なってください。
◆調整を必要とするバルブ以外は，操作しないでください。他のバルブを操作すると，不意に他の装置が動いて事故になることがあります。

⚠注意

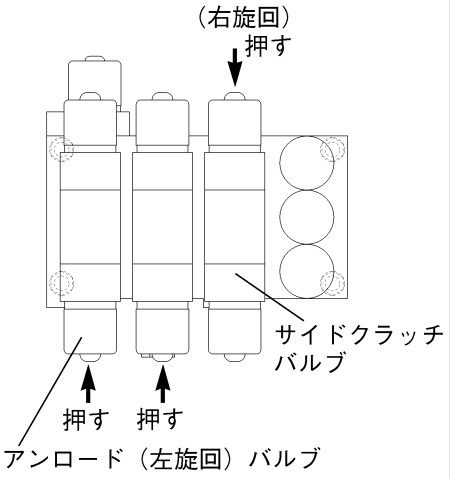
◆外したカバー類は全て元の位置に取付けてください。

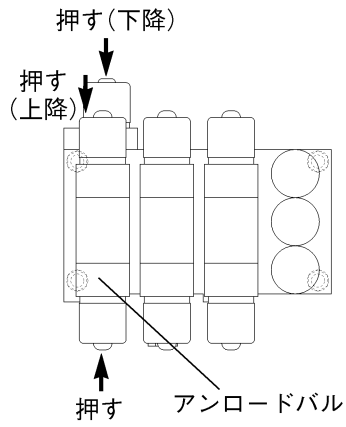
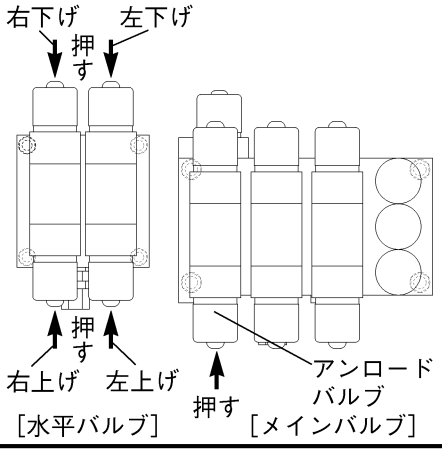
1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶ 主変速レバーを《**中立始動**》位置にしていない。作業機・刈取クラッチレバーを《**切**》位置にしていない。[**キャビン仕様以外**]は更にこく粒排出レバーを《**切**》位置にしていない。 クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。 	●主変速レバーを《**中立始動**》位置にし，作業機・刈取クラッチレバーを《**切**》位置にし，[**キャビン仕様以外**]は更にこく粒排出レバーを《**切**》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。	32
	❷ バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けます。 	103
	❸ メインヒューズが切れている。	●配線の短絡個所を点検し，修正後，メインヒューズ（60A）を交換します。	26～29
	❹ バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	103～107
	❺ 《**スタータスイッチ**》ヒューズが切れている。	●スタータヒューズ（10A）を交換します。	26～29

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶　燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し,エア抜きをします。（ディーゼル軽油……42L）	89 101
	❷・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアが溜まっている。	●エア抜きをします。	101
	❸　《ランプ・計器》ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ランプ・計器ヒューズ（20A）を交換します。	26～29
	❹　《キー切り》ヒューズが切れている。	●キー切りヒューズ（10A）を交換します。	26～29
	❺　燃料コックが「閉」のままになっている。	●燃料コックを開ける。	101
エンジンの馬力が出ない，または自然に止まる	❶　燃料系統に水・ゴミの混入	●燃料系統の点検・掃除をします。 ●燃料フィルタを交換します。	101
	❷　エアクリーナの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換します。	100～101
	❸　エンジンオイルの不良（汚れ）または不足	●指定のオイルを補給または交換します。	89～90
	❹　冷却水の不足	●冷却水を補給します。	91～92
	❺　エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整します。	145
	❻　《ランプ・計器》ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ランプ・計器ヒューズ（20A）を交換します。	26～29
	❼　《キー切り》ヒューズが切れている。	●キー切りヒューズ（10A）を交換します。	26～29
刈取走行するとエンジンが停止すると同時に倒伏刈ランプ点滅し，ホーン吹鳴	《搬送》ヒューズが切れている。	●搬送ヒューズ（20A）を交換します。	26～29

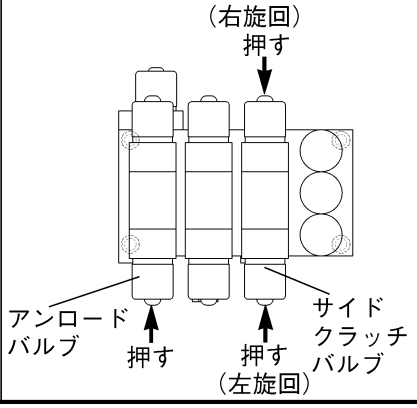
2．走行・運転操作部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
主変速レバーを操作しても走行しない	❶　副変速レバーが《N》（中立）位置になっている。	●条件に合わせ《倒伏》，または《標準》，《走行》位置にセットします。	18
	❷　油圧オイルタンクのオイル不足	●規定量まで油圧作動油を補給します。	89
マルチステアリングレバーを操作しても旋回しない	❶　《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 リフト・操向ヒューズ……15A マイコン･リレーヒューズ…10A	26〜29
	❷　油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《N》《中立》にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチバルブの《右旋回》および《左旋回》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	ー
	❸　副変速レバーのスピンドライブターンが確実に切替っていない。	●確実に切替えます。	18

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
マルチステアリングレバーを操作しても刈取部が上昇または下降しない	❶ 《**リフト・操向**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 リフト・操向ヒューズ……10A マイコン･リレーヒューズ…10A	**26～29**
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**N**》《**中立**》にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押したり，刈取部リフトバルブの《**上昇**》および《**下降**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―
	❸ 油圧固定スイッチが《**油圧固定**》位置か《**下る**》位置になっている。	●油圧固定スイッチを《**作業時**》位置にします。	**11**
水平操作レバーを操作しても作動しない 水平自動制御が作動しない［L仕様］	❶ 《**水平制御**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズまたは《**リフト・操向**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 水平制御ヒューズ……10A マイコン･リレーヒューズ…10A リフト・操向ヒューズ……10A	**26～29**
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**N**》《**中立**》にしてエンジンを始動します。メインバルブユニットのアンロードバルブを押しながら，水平制御用バルブユニットの手動押しボタンを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下側にあります。）	―

3．電気・自動制御部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
モニタランプ・前照灯・作業灯・バックブザー・ホーンが点灯または作動しない	❶ 《前照灯･フラッシュ》ヒューズ,《作業灯》ヒューズ,《マイコン》ヒューズ,《ランプ・計器》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 前照灯・フラッシュヒューズ…15Ａ 作業灯ヒューズ……20Ａ マイコンヒューズ……10Ａ ランプ・計器ヒューズ……15Ａ	26〜29
	❷ バッテリの放電。	●バッテリを充電します。	103〜107
方向指示器が点灯しない	《前照灯・フラッシュ》ヒューズ，《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 前照灯・フラッシュヒューズ…15Ａ マイコンヒューズ……10Ａ	26〜29
こぎ深さ自動制御が作動しない	❶ 《こぎ深さ・注油》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 こぎ深さ・注油ヒューズ…20Ａ マイコン……10Ａ	26〜29
	❷ 刈取部のこぎ深センサにワラクズが溜まっている。	●ワラクズを取除きます。	—
刈高さポジションコントロールが作動しない	《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン・リレー》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 リフト・操向ヒューズ……10Ａ マイコン……10Ａ	26〜29
選別自動制御が作動しない	❶ 《選別制御》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 選別制御ヒューズ……20Ａ マイコンヒューズ……10Ａ	26〜29
	❷ スイングシーブ部にワラクズが溜まっている。	●ワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部の空運転をします。	111〜112
方向自動制御が作動しない ［Ａ仕様］	❶ 《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 リフト・操向ヒューズ……10Ａ マイコンヒューズ……10Ａ	26〜29
	❷ 刈取部の方向センサに草・泥・ワラクズなどが溜まっている。	●草・泥・ワラクズなどを取除きます。	—

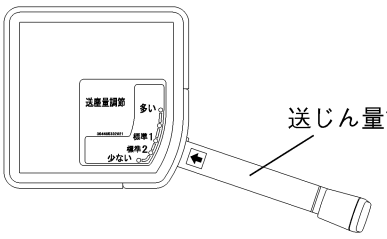
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
方向自動制御が作動しない **［A仕様］**	❸ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチバルブの《**右旋回**》および《**左旋回**》の手動プッシュを数回押すとゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―

4. 刈　取　部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	❶ 搬送経路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置します。 ①作業機・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。 ②エンジンを停止します。 ③刈取搬送部の詰まり個所を取除きます。 ④エンジンを始動します。 ⑤作業機・刈取クラッチレバーを刈取《**入**》位置にして確認します。 ※副変速《**中立・N**》で主変速を《**前進・低速**》にします。 **取扱いのポイント** **●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	**18，21**
	❷ 刈取クラッチワイヤの調整不良（ベルトがスリップしている）	●刈取クラッチワイヤの調整をします。	**143**
刈株の長さにムラがある	❶ 刈刃の注油不足	●刈刃に十分注油します。	**98**
	❷ 刈刃の調整不良（刈刃の隙間が広い）	●調整ライナで隙間を調整します。	**158**
	❸ 刈刃の摩耗	●刈刃を交換します。	**157～158**
	❹ マルチステアリングレバーの操作不良。	●刈取り条に沿って運転するときは，急激な操作は避ける。	**20，47**

5．脱こく部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	⑴脱こくフィードチェン部に詰まりがある。 （脱こくフィードチェンエンジン停止スイッチ作動） ⑵排ワラチェン部に詰まりがある。 （排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動）	●つぎの手順により処置します。 ①作業機・刈取クラッチレバーを《**切**》にする。 ②脱こく排ワラ関係の詰まり個所を取除く。 ③排ワラフィードチェンの張りを点検・調整する。 ④エンジンを始動する。 ⑤作業機・刈取クラッチレバーを脱こく《**入**》位置にして確認する。 **取扱いのポイント** **●処置後，脱こく部の空運転をし，脱こく内部に溜まったワラクズをきれいに排出してから，刈取りを開始してください。**	**111～112**
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❶　こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《**稲・麦，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	**9，10**
	❷　ベルトがスリップしている。	●脱こく入力ベルトを張ります。 ●１番ラセン駆動ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。	**―** **148** **147**
	❸　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」に合わせます。	**45** **66～67**
	❹　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除	**111～112**
	❺　刈取り時期が早く，青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	**17～18**

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❻　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	**72**
	❼　１番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除口が開いている。	●開閉レバーを《**閉じる**》位置にし，ストッパをかけます。	**113**
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	**111～112**
	❷　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	**66**
	❸　こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《**イネ・ムギ，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	**9，10**
	❹　刈取り速度が早すぎる。	●主変速レバーで速度を下げます。	**17～18**
	❺　送じんがスムースでない。	●送じん量調節レバーを《**多い**》側の位置にします。 	**22**
	❻　ワラ切カマが切れない。	●ワラ切カマの交換をします。 **取扱いのポイント** **●ワラ切カマは，こぎ歯に当たらないように取付けてください。** **●ワラ切カマの取付け方向を確認して，取付けてください**	**139～140**
	❼　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	**72**

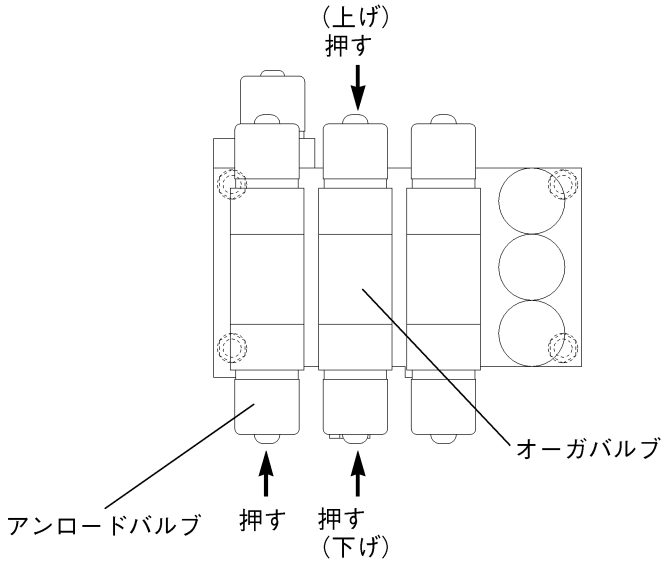
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
三番ロスが多い	❶　こぎ深さが「深こぎ」のため，こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを「穂先マーク」位置に合わせます。	45 66〜67
	❷　能率の上げ過ぎにより，揺動流板にワラクズなどが停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，作業速度を下げて作業をします。	17〜18
	❸　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	111〜112
	❹　刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	17〜18
	❺　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	72
こぎ残しが多い	❶　こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを「穂先マーク」位置にあわせます。	66
	❷　こぎ胴の回転が低い。	●こぎ胴回転を規定回転に合わせて，マークの範囲内になるようにして作業をします。	9，10
	❸　デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーを小刻みに操作する。（強く操作すると，「ブレーキ」が効き，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	44〜50

6．ワラ処理部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
巻きつきが発生し馬力をとる	❶　刃の摩耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換します。	129〜137 179
	❷　排ワラの搬送姿勢が悪い。	●こぎ深さ位置を適正にします。	66〜67
	❸　排ワラ量の増加	●作業速度を適正にします。	47
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）	❶　排ワラチェンの張り不良	●チェンを張ります。	155
	❷　こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	66〜67

7．グレンタンク部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
排出オーガ操作レバーを操作しても，動かない	❶　《**オーガ排出クラッチ**》ヒューズ,《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 オーガ排出クラッチヒューズ…20Ａ マイコンヒューズ……10Ａ	**26～29**
	❷　油圧バルブへのゴミ噛み。	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，オーガバルブの《**上げ**》および《**下げ**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。 （下図のバルブユニットは，運転席ステップの下にあります。）	―
こく粒排出スイッチを操作してもこく粒が出ない	❶　ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整します。	―
	❷　《**オーガ排出クラッチ**》,《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 オーガ排出クラッチヒューズ…20Ａ マイコンヒューズ……10Ａ	**26～29**



取扱いのポイント

- **各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。**
- **ヒューズの溶断が再発するときは，点検を受けてください。**

8．キャビン部［キャビン仕様］

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
ワイパが作動しない	❶ 《エアコン・ワイパ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換する。 エアコン・ワイパヒューズ…15A	26〜29
ウォッシャ液が出ない	❶ ウォッシャ液が不足している。	●ウォッシャ液を補給する。	98
	❷ 《エアコン・ワイパ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換する。 エアコン・ワイパヒューズ…15A	26〜29
クーラが作動しない	❶ 《エアコン・ワイパ》ヒューズ，《エアコン・ファン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換する。 エアコン・ワイパヒューズ…15A エアコン・ファンヒューズ…20A	26〜29
クーラの風量が少ない	❶ 吸気口のフィルタが目詰まりしている。	●フィルタを掃除する。	—
室内灯が点灯しない	❶ 電球（バルブ）が切れている。	●電球（バルブ）を交換する。	—
	❷ 《室内灯・時計》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換する。 室内灯・時計ヒューズ……10A	26〜29
作業灯が点灯しない	❶ 電球（バルブ）が切れている。	●電球（バルブ）を交換する。	—
	❷ 《作業灯》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換する。 作業灯ヒューズ……20A	26〜29
	❸ 作業灯リレーが破損している。	●作業灯リレーを交換する。 （「お買いあげ先」で点検を受けてください）	—
カーステレオが作動しない	❶ 《カーステ・シガライター》ヒューズが切れている。	●運転席下のヒューズを交換する。 カーステ・シガライター ヒューズ……20A	26〜29
シガライタが作動しない	❶ 《カーステ・シガライター》ヒューズが切れている。	●運転席下のヒューズを交換する。 カーステ・シガライター ヒューズ……20A	26〜29
クーラが冷えない	❶ ガスがない。	「お買いあげ先」で点検を受けてください	—

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

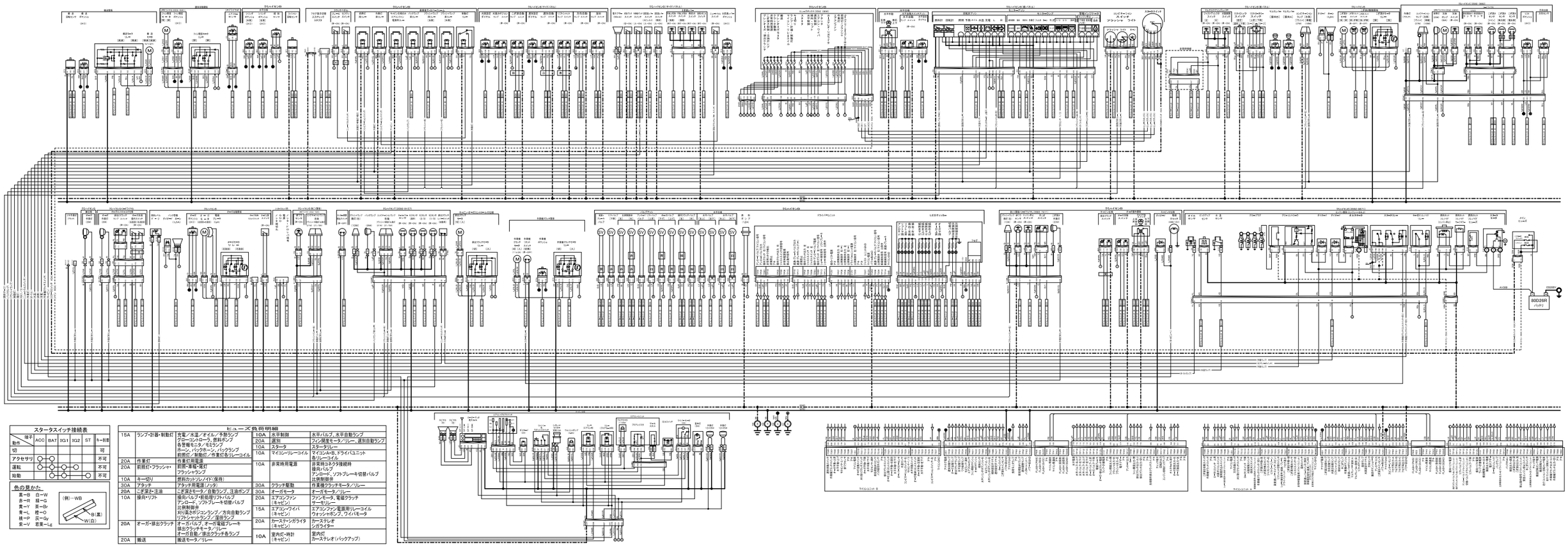
付　　表

1．主要諸元

名称			コンバイン		
型式名			三菱VS38		
区分			AM	LAM	CLAM
機体寸法（格納時）	全長	(mm)	3,940		
	全幅	(mm)	1,850	1,850	1,910
	全高	(mm)	2,140		2,540
機体質量（重量）		(kg)	2,080	2,260	2,410
エンジン	型式		三菱Ｓ４Ｌ２－Ｔ11Ｃ		
	種類		水冷４サイクル４気筒ディーゼルターボ		
	総排気量	(L{cc})	1.758 {1,758}		
	出力／回転速度	(kW{PS}/rpm)	28.7{39}／2700		
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量	(L)	42		
	始動方式		セルモータ式		
	バッテリ	(V･Ah)	12・55		
走行部	クローラ 幅×接地長	(mm)	400×1,390	400×1,490	
	クローラ 中心距離	(mm)	920		
	クローラ 平均接地圧	(kPa{kgf/cm²})	18.3{0.187}	18.6{0.190}	19.8{0.202}
	変速方式		油圧モータ式（HST）		
	変速段数	(段)	前進無段，後進無段（副変速３段）		
	走行速度（ ）はエンジン最高回転速度時 前進	(m/s)	低速０～0.82，中速０～1.40，高速０～2.54(2.73)		
	走行速度（ ）はエンジン最高回転速度時 後進	(m/s)	低速０～0.82，中速０～1.40，高速０～2.54(2.73)		
刈取部	刈取り条数	(条)	3		
	デバイダ先端間隔	(mm)	1,180～1,230		
	刈取装置形式		往復動刃式		
	刃幅	(mm)	1,150		
	変速段数	(段)	2（車速連動式）		
	刈高さ範囲	(mm)	40～150		
	こぎ深さ調節方式		電動式（自動，手動併用）		
脱こく部	脱こく方式		複胴下こぎ軸流式（増速ツインこぎ胴）		
	こぎ胴 径×幅	(mm)	410×620		
	こぎ胴 回転速度	(rpm)	前455・後560		
	処理胴 径×幅	(mm)	140×610		
	処理胴 回転速度	(rpm)	1,538		
こく粒処理部	こく粒処理方式		グレンタンク式（オーガ排出）		
	タンク容量	(L)	1,050		
排ワラ処理装置			ディスク形マルチカッタ		
適応作物全長		(mm)	550～1,300		
倒伏適応性		(度)	追刈：80°以下・向刈：70°以下		
作業能率		(分/10a)	14～67		

・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

2. 電気配線図



スタータスイッチ接続表

端子 / 動作	ACC	BAT	IG1	IG2	ST	キー抜き
切						可
アクセサリ	○	○				不可
運転	○	○	○	○		不可
始動	○	○	○	○	○	不可

色の見かた

黒—B	白—W		
赤—R	緑—G		
黄—Y	茶—Br		
青—L	橙—O		
桃—P	灰—Gy		
紫—V	若葉—Lg		

（例）—WB

B（黒）

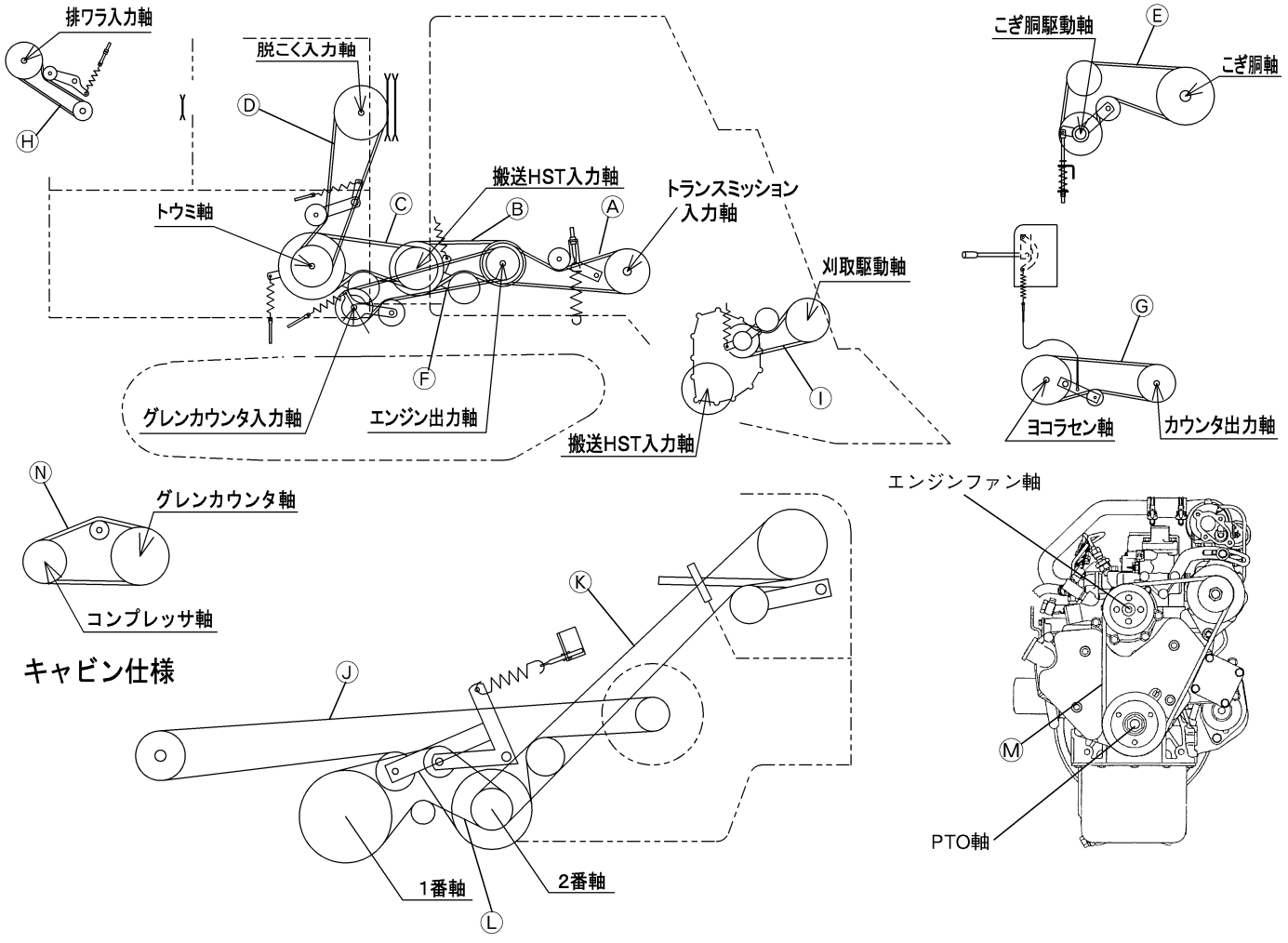
W（白）

ヒューズ容量明細

15A	ランプ・計器・制動灯	充電／水温／オイル／予熱ランプ クルーズコントロール、燃料ポンプ 各警報ビミラ／モモランプ ホーン、バックホーン、バックランプ 前照灯／制動灯／作業灯各リレーコイル
20A	作業灯	作業灯用電源
20A	前照灯・フラッシャ・	前照灯・車幅・尾灯 フラッシャランプ
10A	キー切り	燃料カットソレノイド（保持）
30A	アタッチ	アタッチ用電源（ハッタ）
20A	ヒ更油ポ・注油	ヒ更油モータ／自動ランプ、注油ポンプ
10A	操向・リフト	操向バルブ・前処理リフトバルブ アンロード、ソフトブレーキ切替バルブ 比例制御弁 刈り高さポジションランプ／方向自動ランプ リフトシャットランプ／湿田ランプ
20A	オーガ・排出クラッチ	オーガバルブ、オーガ電磁ブレーキ 排出クラッチモータ／リレー オーガ自動／排出クラッチ各ランプ
20A	搬送	搬送モータ／リレー
10A	水平制御	水平バルブ、水平自動ランプ
20A	扇形	ファン扇形モータ／リレー、選別自動ランプ
10A	スタータ	スタータリレー
10A	マイコン・リレーコイル	マイコンA・B、ドライバユニット 各リレーコイル
10A	非常時用電源	非常時ヨセクタ接続時 操向バルブ アンロード、ソフトブレーキ切替バルブ 比例制御弁
30A	クラッチ駆動	作業機クラッチモータ／リレー
30A	オーガモータ	オーガモータ／リレー
20A	エアコンファン（キャビン）	ファンモータ、電磁クラッチ サーモリレー
15A	エアコン・ワイパ（キャビン）	エアコンファン電源用リレーコイル ウォッシャポンプ、ワイパモータ
20A	カーステ・シガライタ（キャビン）	カーステレオ シガライター
10A	室内灯・時計（キャビン）	室内灯 カーステレオ（バックアップ）

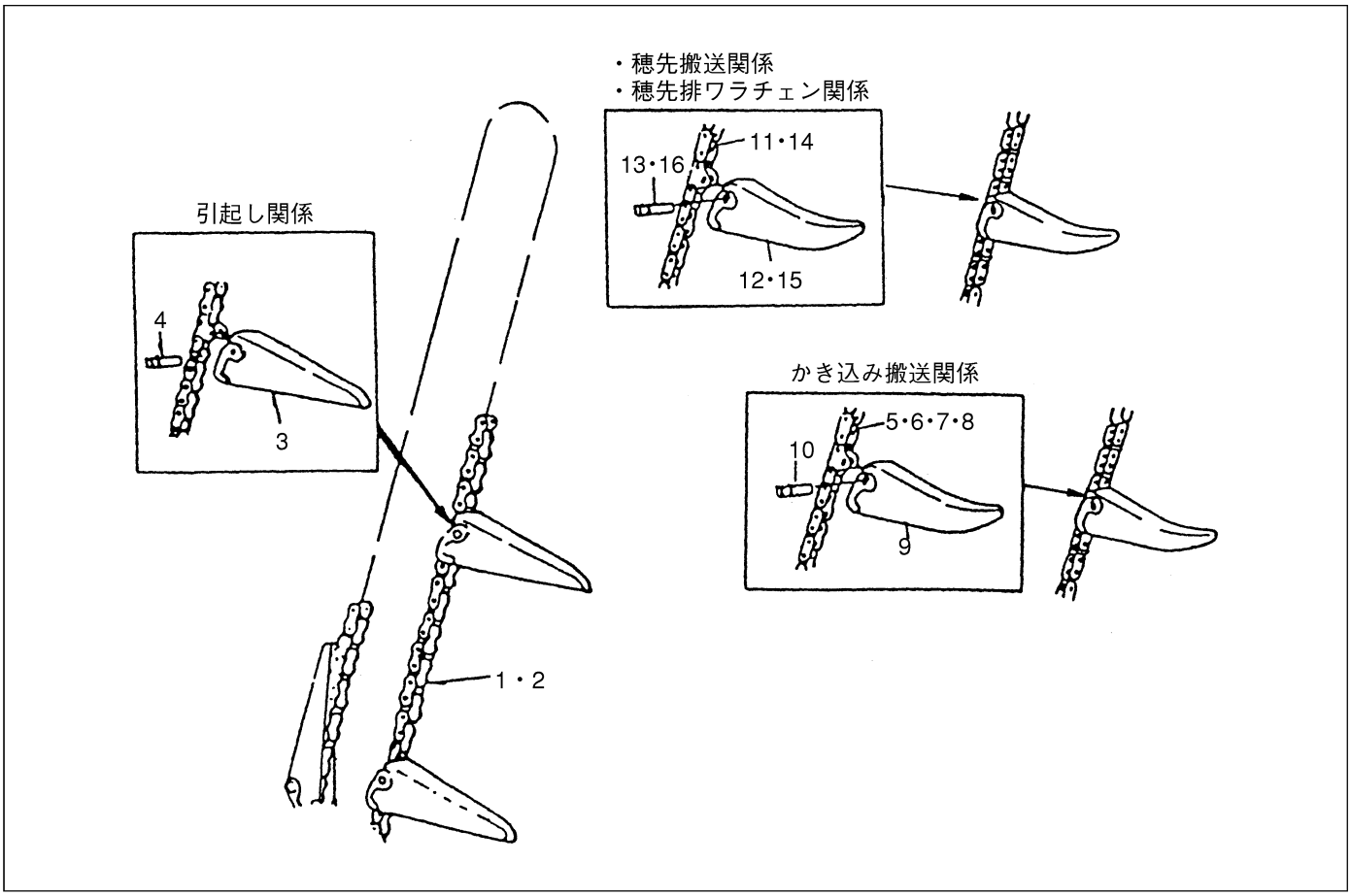
3. ベルト一覧表

記号	伝動系統	本数	部品番号	仕様	
A	エンジン出力軸～トランスミッション入力軸	2	3583 1961 001	SB60	走行ベルト
B	エンジン出力軸～搬送ＨＳＴ入力軸	2	3592 6218 500	LB43	搬送HST駆動ベルト
C	搬送ＨＳＴ入力軸～トウミ軸	1	3592 6537 001	LC51	脱こく入力ベルト
D	トウミ軸～脱こく入力軸	1	3592 6107 001	LC67	こぎ胴伝動ベルト
E	こぎ胴駆動軸～こぎ胴軸	2	3553 6161 000	SB66	こぎ胴ベルト
F	エンジン出力軸～グレンカウンタ入力軸	1	0852 1500 057	SB57	グレン入力ベルト
G	カウンタ出力軸～横ラセン軸	1	3592 9027 000	SB61	横ラセン駆動ベルト
H	こぎ胴軸～排ワラ入力軸	1	0852 1500 036	SB36	排ワラ駆動ベルト
I	搬送ＨＳＴ入力軸～刈取駆動軸	1	3592 4012 000	SC58	刈取ベルト
J	トウミ軸～ファン軸	1	3592 6544 001	SB105	選別ベルト
K	2番軸～カッタ軸	1	0852 1200 082	SB82	カッタベルト
L	1番軸～2番軸	1	3551 6615 000	SA45	１番ラセン駆動ベルト
M	エンジンＰＴＯ軸～エンジンファン軸	1	MD041704	970㎜	ファンベルト
N	コンプレッサ	1	3583 3959 000	FM37	コンプレッサベルト



4. 主な消耗部品

1. 爪関係

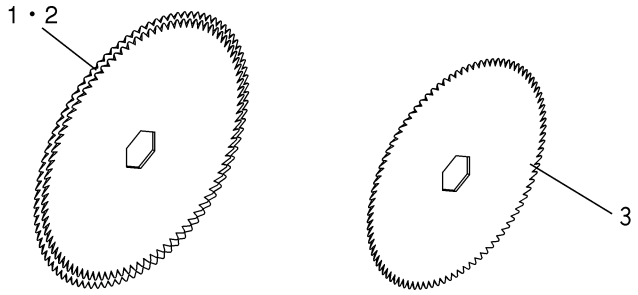


No.	部品名称	部品番号	備考
1	チェン（1本）	3578 4478 000	右
2	チェン（2本）	3520 4438 000	中，左
3	ツメ（31本）	3578 4419 002	
4	ピン（31本）	3523 4428 000	
5	チェン（1本）	3523 4778 000	右下
6	チェン（1本）	3523 4789 000	右上
7	チェン（1本）	3523 4716 001	左下
8	チェン（1本）	3523 4744 001	左上
9	ツメ（25本）	3523 4742 000	
10	ピン（25本）	3523 4428 000	
11	チェン（1本）	3523 5252 000	穂先搬送
12	ツメ（15本）	3704 5239 000	
13	ピン（15本）	3523 4428 000	
14	チェン（1本）	3544 7881 001	穂先排ワラ
15	ツメ（21本）	3543 7765 001	
16	ピン（21本）	3523 4428 000	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

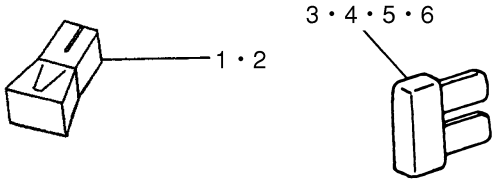
・爪を交換する場合は，138ページを参照し行なってください。

2. カッタ関係



No.	部品名称	部品番号	個数（1セット分）	
			DMS－38	DMS－38S
1	ノコ刃（φ140）	3830 0408 000	9	16
2	ノコ刃（φ160）	3829 0409 000	6	6
3	スターホイル刃	3574 8808 000	15	22

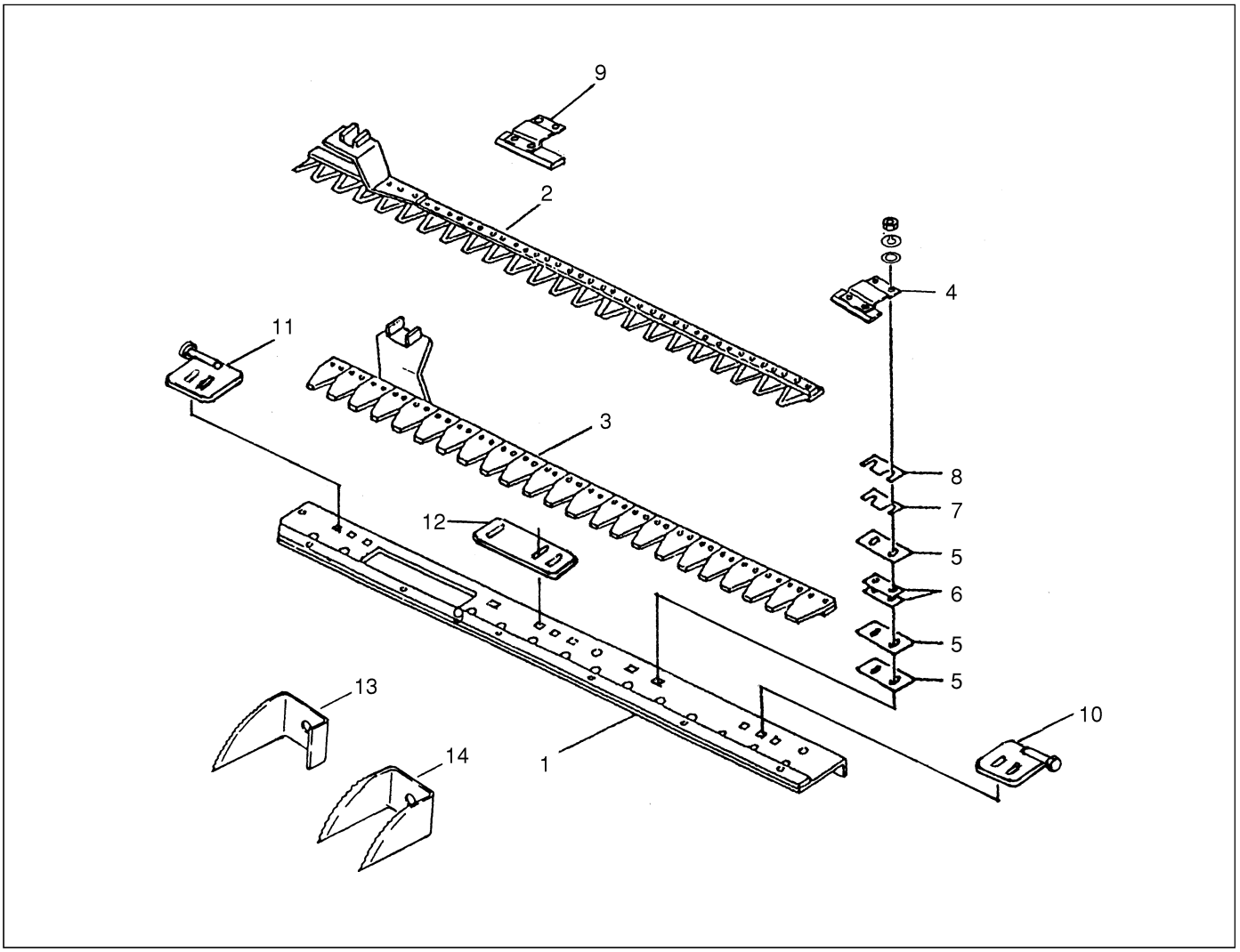
3. ヒューズ



No.	部品名称	部品番号	備考
1	ヒューズ	3559 0861 200	40A（スタータ用・グレンオーガ旋回モータ用）
2	ヒューズ	1037 5502 200	60A（メイン）
3	ヒューズ	0980 1001 006	10A
4	ヒューズ	0980 1001 506	15A
5	ヒューズ	0980 1002 006	20A
6	ヒューズ	0980 1003 006	30A

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

2. 刈刃・カマ関係



No.	部品名称	部品番号	備考
1~10	カリハアッセンブリ	3565 4351 000	
1	ウケハダイ	3565 4352 000	
2	ウエバアッシ	3565 4358 000	
3	シタバアッシ	3565 4354 000	
4	ナイフクリップ（3個）	3532 4364 001	
5	スライドプレート（8個）	3532 4365 200	
6	ライナ（8個）	3532 4365 300	
7	シム（8個）	3532 4365 400	t＝0.8㎜
8	シム	3532 4365 500	t＝0.2㎜
9	ナイフクリップB	3555 4365 500	
10	ブラケットL	3565 4367 000	
11	ブラケットR	3565 4367 500	
12	スライドプレート（2個）	3565 4365 600	
13	ワラキリカマ（1個）	3544 7223 000	
14	ワラキリカマ（5個）	3735 7321 001	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

5．付属工具一覧表

No	品　　名	個　数	備　　考
1	油差し	1	
2	漏斗	1	
3	ビニールパイプ	1	
4	工具袋	1	

6．アタッチメント（別売り）

No	型　　式	品　　名	備　　考
基本作業機・部品	KN－Y43	スライドノッタ	株元・穂先結束両用，大玉バスケット付
	R－KSY60	スタンド装置	
	S－S38D	カッタ用ドロッパ	
	D－KNVY1	ノッタ用ドロッパ	
	SP－S38W	スーパーデバイダ	2連
	SP－S38TQ	スーパーデバイダ	3連化キット
	VS38－VY43A	オーガ先端操作キット　A	［キャビン仕様］はAキットのみで装着可
	VS38－VY43B	オーガ先端操作キット　B	［キャビンなし仕様］はAキット,Bキット共必要です。
	CH43	スーパーフード	

7．潤滑油について

オイルは，三菱純正オイルをお奨めします。

1．エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD/CD/GL－4） スーパーマルチGDオイル（SAE・10W－30，SL/CF）
全農	クミアイディーゼルオイルCFマルチ（SAE・10W－30）
新日本石油	HDS－3 ファームユニバーサルオイル

・やむをえず他メーカのオイルを使用される場合は，APIサービス分類CD級オイルをお使いください。

2．油圧作動油

メーカ	商品名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD／CD／GL－4）
新日本石油	スーパーハイランド46

3．ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	スーパーマルチSHPギヤオイル（SAE90，GL－5）
新日本石油	スーパーハイポイドギヤ（SAE90，GL－5　SAE140，GL－5）

取扱いのポイント

● トランスミッションケースのオイルは，ギヤオイルAPI・GL－5，SAE・90を使用してください。

4. 三菱農機 (純正油) マルチオイル

・スーパーマルチＳＴＯＵ（ストー）オイルは１種類でエンジンオイル又はギヤオイルとして１年中ご使用いただけるオールシーズンタイプです。
・スーパーマルチＧＤオイルはエンジン専用オイルです。
・スーパーマルチＧＢオイルはギヤおよび湿式ブレーキの特性を考えて開発された，ギヤ（Ｇ）と湿式ブレーキ（Ｂ）専用オイルです。
・マルチSHPギヤオイルは，ギヤ専用オイルです。
・スーパーディーゼルＣＦ－４オイルはディーゼルエンジン用の耐久性に優れたエンジンオイルです。
・お買い求めは，弊社販売店で取扱っていますのでご相談ください。



性状 ＼ 品名		スーパーマルチ STOUオイル	スーパーマルチ GDオイル	スーパーマルチ GBオイル	マルチSHP ギヤオイル	スーパーディーゼル CF－4オイル
密度	15℃ g／cm³	0.883	0.880	0.884	0.900	0.871
引火点	℃	230	232	236	230	232
流動点	℃	－37.5	－32.5	－40	－22.5	－32.5
動粘度cSt	@ 40℃	67.0	65.2	57.7	188.5	65.6
	@ 100℃	10.5	10.1	8.6	17.5	10.3
粘度指数		144	140	117	100	144
ＡＰＩサービス分類		SD/CD/GL－4	SL/CF	GL－4	GL－５	CF－４
ＳＡＥ粘度番号		10W－30	10W－30	80W	90	10W－30
荷姿		ドラム・20L缶 ４Ｌ×６缶	ドラム・20L缶 ４Ｌ×６缶	ドラム・20L缶	ドラム・20L缶	ドラム・20L缶

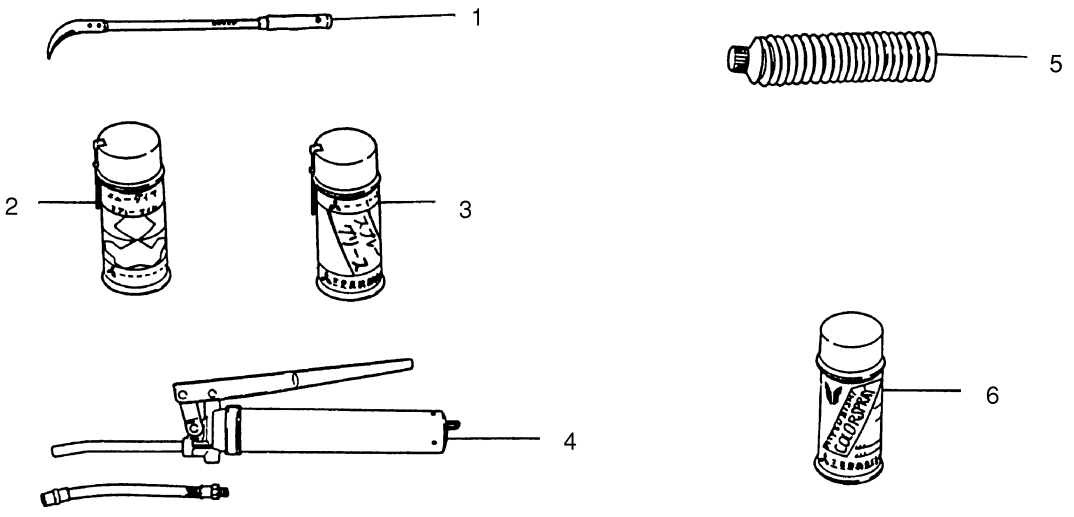
取扱いのポイント

● スーパーマルチGBオイル，マルチSHPギヤオイルはエンジンオイルとしては使用できません。

8．コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商　品　番　号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	金属部品の防錆，潤滑
4	グリースポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリース	NMP400	グリースポンプ詰替え用
6	カラースプレー（ダークグレー）	0975　0000　690	補修用塗料
	〃　（白）	0975　0000　650	
	〃　（黒）	0975　0000　470	



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

9．用語解説

取扱説明書に使用している用語の意味は，次の通りです。

ア行

アタッチメント……コンバイン購入後に取付ける装置です。

アワメータ……作業時間の集計を表示します。

インジケータランプ……機械の状態を知らせるランプです。

エアクリーナエレメント……空気清浄器用のフィルタです。

ＨＳＴ……無段階で変速できる油圧装置です。

カ行

カーステレオ……ＡＭ／ＦＭ電子チューナー付カセットカーステレオのことをいいます。

コンビネーションスイッチ……メータ類ランプ，前照灯，作業灯などのライトと方向指示灯の操作機能を１つにまとめたスイッチです。

サ行

増速ツインこぎ胴……こぎ胴部を前後に分割し，前後のこぎ胴に回転差をつけた機構です。

タ行

デバイダ……分草板のことをいいます。

トルクリミッタ……作業中にワラなどが巻付き異常な力が発生したとき，機械の破損を未然に防ぐ安全装置です。

ナ行

ナローガイド……刈取る作物を分ける刈取誘導程です。

ハ行

バンパ……デバイダ先端に取付ける，危険防止用の保護板です。

マ行

マルチカッタ……レバーの切換で，排ワラの切断長を変えることができるカッタです。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

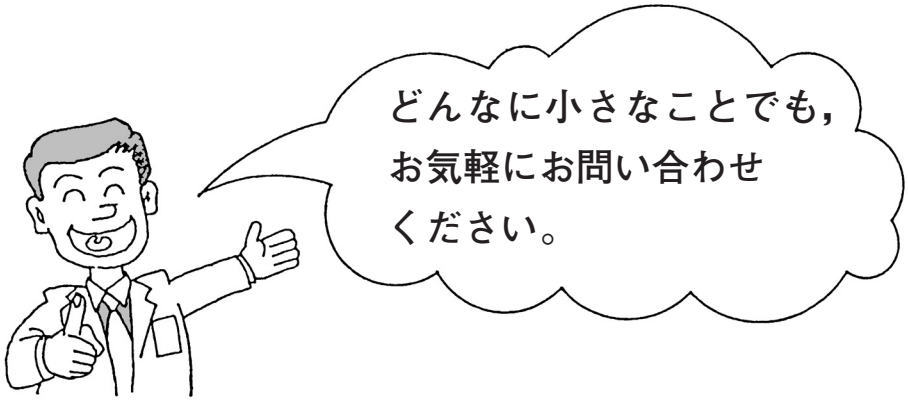
●ご使用状況は…？

(どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)